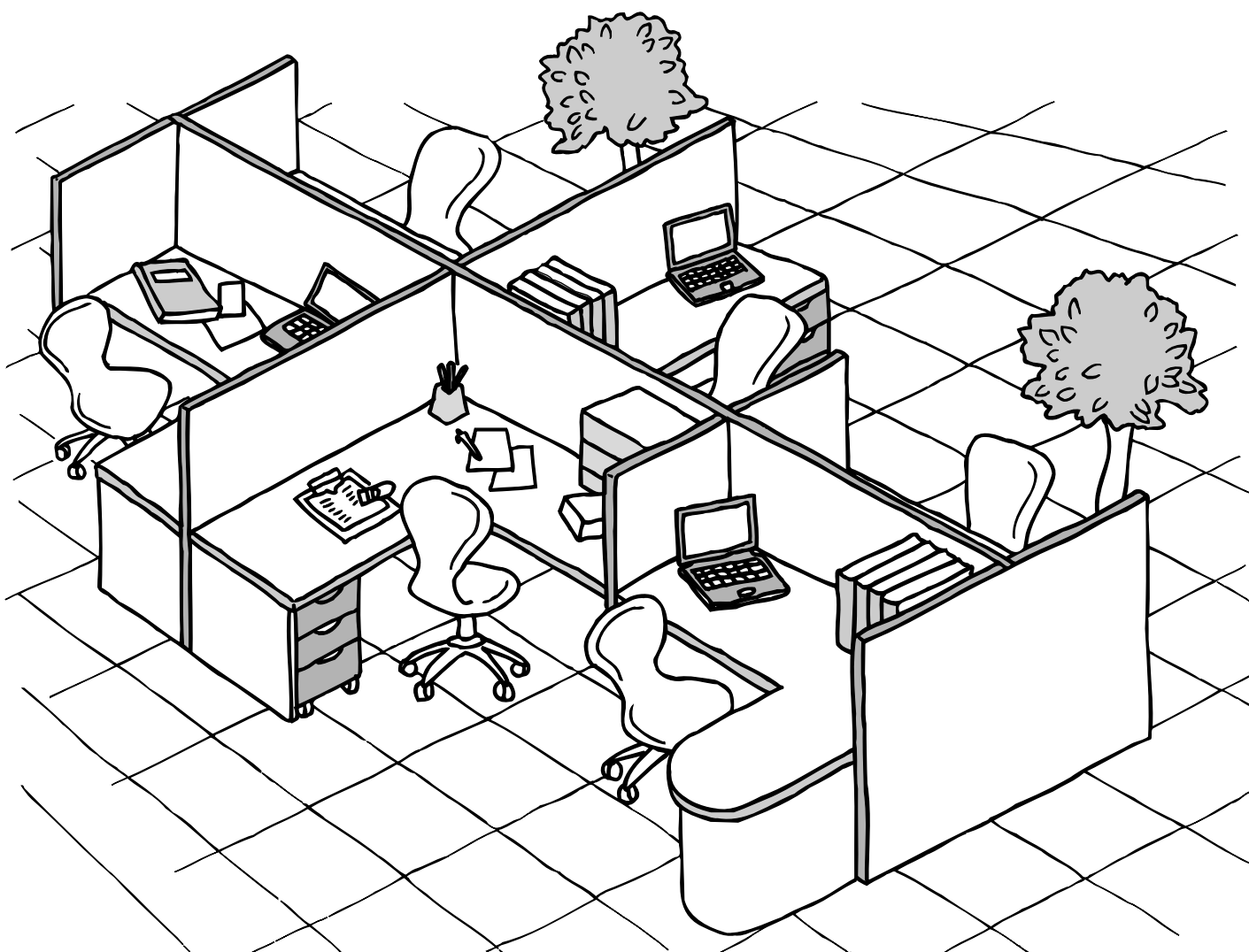
本機を使用するための準備
お使いになる前に
ファクスの操作
インターネットFAXの操作
コピーの操作
スキャナーの操作
プリントの操作
登録と設定
リスト/レポート
必要なとき

Panasonic®

取扱説明書（本体編）

ファクシミリ

品番 UF-5500

Panafax

このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、
まことにありがとうございます。

■ 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。

■ **ご使用前に「安全上のご注意」（12 ～ 15 ページ）を、必ずお読みください。**

■ この取扱説明書は大切に保管してください。

ネットワークとの接続について

ネットワークとの接続および使用に際しては、本製品以外にソフトウェアおよび LAN 伝送路用品が必要です。

各サービスについて

発信者番号通知、ダイヤルインサービスは、あらかじめ NTT との契約が必要です。本サービスの詳細につきましては NTT にお問い合わせください。
NCC 回線をご利用の場合は、NCC 各社でサービス内容が異なります。発信者番号通知、ダイヤルインサービスの詳細につきましては、ご契約の NCC にお問い合わせください。

キャッチホンサービスをご契約になっている場合

ファクスの送信や受信中に、他の方から電話やファクスがかかってくると、ファクス受信画像に線が入ったり、通信が中断してしまうことがあります。
上記の場合は、キャッチホンや機器の異常ではありませんのでご了承ください。
なお、キャッチホンサービスをご利用になり、割り込み音の回数を「0」回に設定していただくと、ファクス通信中にキャッチホンが入っても異常なく通信できます。

目次

■ 目次 3
■ **安全上のご注意**　必ずお守りください 12
■ 管理責任者へのお願い 16
■ 取り扱い上のお願い 17
■ レーザーの安全性について 17
■ 注意ラベルについて 17
設置上のお願い 18
操作時のお願い 18
お知らせ 18
用紙 / ドラムカートリッジ / トナーカートリッジに関するお願い 19
その他 19
■ かんたんな操作　ファクスを送る 20
■ かんたんな操作　インターネット FAX を送る 21
■ かんたんな操作　コピーする 22
■ かんたんな操作　スキャンする 23
■ かんたんな操作　プリントする 24

1 章 本機を使用するための準備　26

本体 / 付属品 / 添付品を確認する 26
本体・付属品 26
添付品 26
各部の名前と働き 27
本体 27
コントロールパネル 28
ファンクション番号一覧 30
回線コード、ケーブル、電源コードを接続する 31
接続図 31
回線種別を設定する 32
回線種別を設定する 32
回線種別を見分ける 33
ファクス通信に必要な設定について 34
自局登録について 34
日付と時刻を登録する 34
発信元を登録する 35
文字 ID を登録する 36
数字 ID（ファクス番号）を登録する 37
インターネット FAX 通信に必要な設定について 38
自局登録（インターネットパラメーター）を設定する 38
自局登録（インターネットパラメーター）の項目一覧 40
キーオペレーターコード（管理者パスワード）を設定する 42

音量を設定する 43
モニター音量を設定する 43
呼び出し音量を設定する 44

2 章 お使いになる前に 45

原稿について 45
セットできる原稿 45
セットできない原稿 46
原稿のセットのしかた 47
インターネットに接続するには 48
SMTP 転送として設定するには 49
POP クライアントとして設定するには 50
事前準備表 51
記載内容の説明 52
インターネット FAX 通信について 54
インターネット FAX 通信とは 54
インターネット FAX 送達確認通知 (MDN) 54
ダイレクト SMTP とは 55
インターネットからのメール受信 56
ルーティングとは 57
メモリー転送とは 58
ネットワークスキャナーとは 59
ネットワークプリンターとは 60
LAN 中継同報とは 61
DHCP(Dynamic Host Configuration Protocol) とは 62
SMTP 認証とは 62
インターネット FAX 通信の注意点 63
インターネット FAX と通常のファクスの相異点について 63
正常に送信されましたか？ 63
ネットワーク 経由の電話について 63
デュアルポート通信について 63
文字サイズについて 64
インターネットメール受信について 64
LAN 中継通信時のセキュリティについて 64

3 章 ファクスの操作 66

ファクスを送る 66
直接ダイヤルで送る 66
記号を使ったダイヤル方法 67
ワンタッチダイヤルで送る 68

短縮ダイヤルで送る 69
電話帳で送る 70
複数宛先に送る（順次同報送信） 72
濃度や文字サイズを設定する 74
　濃度を設定する 74
　文字サイズを設定する 74
メモリー送信について 75
　ファイル番号とメモリー割合について 75
　メモリーオーバー時の動作について 75
　エラーコードについて 76
　送信を停止したいときは 76
　通信結果レポートについて 76
　蓄積できる予約ファイル数について 76
誤送信防止の機能を使う 77
　複数宛先指定を禁止する（複数宛先指定） 77
　宛先を確認してから送る（宛先確認） 77
　直接ダイヤルを制限する（直接ダイヤル制限） 78
　直接ダイヤル時に再入力する（直接ダイヤル再入力） 78
メモリーを使わずに送る（ダイレクト送信） 79
相手を確認してから送る（手動送信） 81
次の送信を予約する（メモリー送信予約） 82
同じ相手にもう一度送る（再ダイヤル） 84
　自動再ダイヤル 84
　手動再ダイヤル 84
敬称を付ける 87
通信結果レポートをプリントする 88

ファクスを受ける 89
受信モードについて 89
受信モードを設定する 90
FAX 専用に設定しているとき 91
手動受信に設定しているとき 91
　ファクス本体で受信する 91
　外部電話機で受信する（リモート受信） 92
F/T 切り替えに設定しているとき 93
留守録接続に設定しているとき 94
縮小受信について 95
規定サイズ以外の原稿を受信したとき 96
メモリー代行受信について 97
マルチ受信プリントについて 97

迷惑ファクスを防止する 98
迷惑ファクス防止とは 98
数字 ID を利用した迷惑ファクス防止 98
　数字 ID 拒否 99
　ID なし時受信 99

ID 受信時刻印字 99
迷惑ファクス防止を設定する（数字 ID を利用） 100
発信者番号を利用した迷惑ファクス防止 102
非通知拒否 102
公衆電話拒否 103
通知不可能拒否 103
指定番号拒否 103
迷惑ファクス防止を設定する（発信者番号を利用） 104
時刻を指定して通信する（タイマー通信） 107
時刻を指定して送る（タイマー送信） 107
時刻を指定してポーリング受信する（タイマーポーリング受信） 109
ポーリングする 111
ポーリング通信とは 111
ポーリングパスワードを設定する 112
ポーリング送信原稿を蓄積する（ポーリング送信） 112
ポーリング受信 114
プログラムダイヤルを呼び出す 116
通信予約ファイルを確認する 117
通信予約レポートをプリントする 117
予約レポートの見かた 118
ディスプレイ上で通信予約ファイルを確認する 119
通信予約ファイルを変更する 120
通信予約ファイルを消去する 122
通信予約ファイルをプリントする 123
通信予約ファイルに原稿を追加する 124
未通信ファイルを再送信する（未達宛先再通信） 125
利用者を制限する（アクセスコード） 126
アクセスコードを設定する 126
アクセスコードを変更 / 解除する 127
アクセスコードを入力する 127
メモリーに受信する（メモリー受信） 128
メモリー受信のパスワードを設定する 128
パスワードを変更 / 解除するには 129
メモリー受信を設定する 130
メモリー受信文書をプリントする 130
表紙をつけて送る（カバーシート） 131
カバーシートを設定する 131
カバーシート例 133
受信文書を転送する（メモリー転送） 134
迷惑ファクスを防止する（セレクト受信） 136

パスワード通信を利用する（パスワード送信 / パスワード受信）.................... 137
パスワード送信とは 137
パスワード受信とは 138
パスワード送信を設定する 139
パスワード受信を設定する 140
通信ごとにパスワード送信を設定する 141
親展ボックスを利用する（親展通信）........ 143
メールボックス機能について 143
親展文書を送信する 144
親展文書をポーリング受信する 145
親展文書を受信すると 147
ディスプレイに表示されるメッセージ 147
親展受付レポート 147
親展文書を蓄積する 148
親展文書をプリントする 149
親展文書を消去する 150
親展番号を使って消去する 150
一括して消去する 150
IP 電話サービスを使って送る........ 152
IP 電話サービス利用上の注意 152
IP 電話サービスを利用して送信する 154
リルート機能 154
プレフィクス機能 154
送信の流れ 155
リルート機能 / プレフィクス機能を設定する 156
IP 電話番号を登録する 157

4 章 インターネット FAX の操作 160

インターネット FAX を送る........ 160
直接メールアドレスを指定して送る 160
ワンタッチダイヤルで送る 162
サーバーを介してインターネット FAX を送る 162
サーバーを介さずに直接インターネット FAX へ送る（ダイレクト SMTP 送信）........ 163
短縮ダイヤルで送る 164
サーバーを介してインターネット FAX を送る 164
サーバーを介さずに直接インターネット FAX へ送る（ダイレクト SMTP 送信）........ 165
電話帳で送る 166
複数宛先に送る（順次同報送信）........ 168
誤送信防止の機能を使う 170
複数宛先指定を禁止する（複数宛先指定）........ 170
宛先を確認してから送る（宛先確認）........ 170
直接ダイヤルを制限する（直接ダイヤル制限）........ 171

メールアドレスの直接入力時に再入力する（直接ダイヤル再入力） 171
次の送信を予約する（メモリー送信予約） 172
メモリー送信予約の操作 172
自動再ダイヤルについて 173
ドメインリストを利用する（セレクトドメイン） 174
受信確認メールを要求する（送達確認要求（MDN）） 176
ファイルタイプを設定する（送信ファイルタイプ） 178
送信エラーが発生したときは（エラーメール） 180
メーリングリストを使う 180
インターネット FAX を受ける 181
POP サーバーからメールを受信する 182
システム登録の項目 182
POP 受信を設定する 182
POP サーバーからの自動受信について 185
POP サーバーから手動で受信する 185
ワンタッチボタンで POP サーバーから手動で受信する 186
FROM 欄を利用する（FROM 選択） 187
FROM 選択を設定する 187
FROM を選択して送信する 188
FROM 選択リストをプリントする 190
システム登録リスト（FROM 欄選択リスト） 190
FROM 欄選択リストの見かた 190
件名欄を利用する（サブジェクト） 191
件名欄を設定する 191
件名を設定して送信する 192
受信した文書を転送する（受信ルーティング） 194
受信ルーティングの設定について 195
転送先を登録する 196
受信確認メールを送る（送達確認） 199
中継局を利用する（LAN 中継同報） 200
LAN 中継同報とは 200
中継ネットワークについて 202
LAN 中継局として設定する 205
LAN 中継指示を設定する 206
LAN 中継送信を指示する 208
中継局が登録されている宛先へ送信する場合 208
中継局が登録されていない宛先へ送信する場合 210
コンピューターから LAN 中継同報を指示する 212
LAN 中継同報の通信結果 213
中継送信レポート（通信結果レポート） 213
送信ジャーナル（管理者宛メール） 214

5 章 コピーの操作 216

コピーする........ 216

6 章 スキャナーの操作 218

スキャンする........ 218
スキャンする 218
濃度や文字サイズを設定する 219
濃度を設定する 219
文字サイズを設定する 219
ファイルタイプ / ファイル名を設定する 220
圧縮形式を設定する 221
グレースケールを設定する 222
カラー読み取りを設定する 223
スキャナー機能を設定する 224
スキャナー機能（一般設定）を設定する 224
スキャナー機能（管理者設定）を設定する 225
スキャン設定一覧（一般設定）........ 226
スキャン設定（管理者設定）........ 226
スキャナー機能設定リストをプリントする 227

7 章 プリントの操作 228

プリントする........ 228

8 章 登録と設定 230

ワンタッチダイヤル / 短縮ダイヤルを登録する........ 230
ワンタッチダイヤルを登録する 230
短縮ダイヤルを登録する 233
ワンタッチダイヤル / 短縮ダイヤルを変更する 236
ワンタッチダイヤル / 短縮ダイヤルを消去する 239
プログラムダイヤルを登録する........ 240
グループダイヤルを登録する 240
プログラムダイヤルを登録する 242
タイマー送信を登録するとき 242
タイマーポーリング受信を登録するとき 244
ポーリング受信を登録するとき 246
POP 手動受信を登録する 248
グループダイヤル / プログラムダイヤルを変更する 250
グループダイヤル / プログラムダイヤルを消去する 250
文字入力のしかた........ 251

文字種別を切り替えるには 251
カタカナを入力する 252
アルファベットを入力する 252
数字を入力する 253
記号を入力する 253
誤って入力したとき 253

宛先シートをプリントする 254

システム登録 255
システム登録の基本操作 255
システム登録一覧 257

9章 レポート / リスト 268

通信管理レポート 268
通信管理レポートを手動でプリントする 268
通信管理レポートの見かた 268
ディスプレイ上で通信結果を確認する 271

送信レポート 272
送信レポートをプリントする 272
送信レポートの見かた 272

通信結果レポート 274
通信結果レポートの見かた 274

ダイヤルリスト 276
ダイヤルリストをプリントする 276
ダイヤルリストの見かた 276

プログラムリスト 278
プログラムリストをプリントする 278
プログラムリストの見かた 278

システム登録リスト 279
システム登録リストをプリントする 279
システム登録リストの見かた 279

10章 必要なとき 281

トナーカートリッジを交換する 281

ドラムカートリッジを交換する 284

用紙を補給する 287

こんなときには 289
故障かな？と思ったら 289
エラーコードが表示されたら 291

エラーコード一覧 291
リモート登録時のエラーメッセージ 297
送信元へ送られるエラーメッセージ 297
リモート登録失敗時のエラーメッセージ 297
用紙がつまった 299
エラーコード 0001 が表示されている場合 299
エラーコード 0007 が表示されている場合 299
原稿がつまった 300
読み取り部のお手入れ 301
接続状態を確認する 302
停電が発生したら 303
アフターサービスについて 304
仕様 305
消耗品について 307
トナーカートリッジ、ドラムカートリッジ 307
用紙 307
用語集 308
著作権及びライセンスに関する情報 312
ITU-T No.1 テストチャート 319
■ 索引 320

安全上のご注意 （必ずお守りください）

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

⚠ 警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
⚠ 注意	「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。（次は図記号の例です）

	してはいけない内容です。
	実行しなければならない内容です。
	気をつけていただく内容です。

■コンセントや配線器具の定格を超える使いかたをしない

禁止

火災・感電の原因になります。

■定格 15 A・交流 100V のコンセントを単独で使う

他の機器と併用すると、発熱による火災の原因になります。

■ぬれた手で、電源プラグの抜き差しはしない

ぬれ手禁止

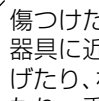
感電の原因になります。

● ぬれた手をよくふいて電源プラグ（金属でない部分）を持ってください。

■電源プラグは根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。

● 傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは使用しないでください。

■電源コード・電源プラグを破損するようなことはしない

（傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重い物を載せたり、束ねたりしない。）

禁止

傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります。

● コードやプラグの修理は、サービス実施会社へご相談ください。

■電源プラグのほこりなどは定期的にとる

プラグにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因になります。

● 電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。

⚠ 警告

■機内に水や金属物（クリップやステープル針など）が入ったときは、すぐに電源プラグを抜く

電源プラグを抜く

機内の配線がショートして、火災の原因になります。

● 電源プラグを抜いて、サービス実施会社へご連絡ください。

■本機を分解・改造しない

分解禁止

レーザー光線による視力障害､または高温部分や高電圧部分にさわるとやけどや感電の原因になります。

● 修理は、サービス実施会社へご相談ください。

■煙が出ている、変なにおいや音がするときは電源プラグを抜く

電源プラグを抜く

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

● 使用を中止し、サービス実施会社へご相談ください。

■シンナー・ガソリンなどの引火性の高いものの近くに設置しない

禁止

ガソリンなどが発火し火災の原因になります。

■必ず、アース線接続を行う

アース線接続

漏電した場合は、火災・感電の原因になります。

● アース線接続ができない場合は、サービス実施会社へご相談ください。

■アース線接続は、電源プラグをコンセントにつなぐ前に行う
また、アース線接続を外す場合は、電源プラグをコンセントから抜いてから行う

感電の原因になります。

■アース線は、ガス管・水道管や避雷針などに接続しない

禁止

接地が不十分だったり、落雷などにより、感電したり、火災の原因になります。

■電源プラグを抜くときは電源コードを引っぱらない

禁止

コードが傷つき、火災、感電の原因になります。

● 電源プラグを抜くときは、必ずプラグ（金属でない部分）を持ってください。

■付属品の電源コードは、他の製品に使用しない

禁止

火災や感電の原因になります。

■接点部に触れない

高圧注意

感電の原因になります。

■雷が鳴ったら、本機や電源プラグに触れない

接触禁止

感電の原因になります。

■狭い場所で使用するときは換気をよくする

● 本機を長時間連続で使用する場合や、大量の印刷を同時に行う場合は、特にご注意ください。

⚠警告

■自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くで使用しない

禁止

本機からの電波が自動制御機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります。

■清掃するときは、必ず電源を切る

液体や霧状の洗剤を使用しないでください。

■通風孔などから、本機内部に異物を入れない

禁止

火災・感電の原因になります。

● 本機に液体をこぼさないようにしてください。

■液体（合成洗剤や、研磨剤入りの洗剤など）を電話機コードのプラグにこぼしたり、電話機コードを濡らさない

禁止

火災の原因になります。

● 万一、電話機コードが濡れた場合は、すぐに電話機コードを壁のコンセントから抜き、使用を中止してください。

■次のような場合は、すぐに電源プラグを抜く

電源プラグを抜く

サービス実施会社へご相談ください。
– 電源コードに破損や擦り切れがあるとき
– 本機が雨や水にさらされて濡れているとき、または本機に液体をこぼしたとき

● 本機部品を電子レンジで乾かさないでください。回復不能な故障の原因になる恐れがあります。
– 取扱説明書に従って操作しても正しく動作しないとき
取扱説明書に記載してある操作だけを実施してください。不適切な調整や操作による故障は、高額な費用を要する場合があります。
– 本機を落下させたり、物理的な損傷があったとき
– 本機の性能に特徴的な変化があったとき

■床、土台が不安定な場所や振動の激しい場所へは設置しない

禁止

本機が倒れて、けがをする原因になることがあります。

■油煙や湯気や水のかかる場所、ほこりの多い場所には置かない

禁止

火災、感電の原因になることがあります。

■本機の通風孔をふさがない

禁止

機内に熱がこもり火災の原因になることがあります。

■取扱説明書で指示がない部分は操作しない

禁止

高温部分や突起のある部品にさわると、やけどやけがをする原因になることがあります。

● 内部をさわるときは、十分に注意してください。

■本機に換気扇、クーラー、換気口などの風が直接当たる場所では使用しない

禁止

機内に熱がこもり変形の原因になることがあります。

⚠注意

■紙づまりはそのまま放置しない

禁止

高温部の紙づまりを放置すると紙が発火し、火災の原因になることがあります。

● 紙づまりは確実に取り除いてください。

■電源コードは必ず付属のものを使用する

火災、感電の原因になることがあります。

■高温表示部とその周辺にはさわらないよう注意する

高温注意

高温部分にさわるとやけどの原因になることがあります。

● 紙づまり処置などで内部をさわるときは、十分に注意してください。

■鎖の長いブレスレットやネックレスなどをつけて操作しない

禁止

機内に触れたり、巻き込まれて、感電やけがをする原因になることがあります。

● 万一事故がおきたときは、電源プラグを抜き、サービス実施会社へご連絡ください。

■本機に重いものを置いたり、乗ったり、トレイなどに体重をかけたりしない

禁止

物が落下したり、転んだり、落ちてけがをする原因になることがあります。

■トナーまたはトナーの入った容器を火中に投じない

禁止

トナー粉がはねて、やけどの原因になることがあります。

■電源スイッチをオフ／オンしても"ソウチ　カクニン"が表示され続けたり、異音など異常な動作をしたときは、必ず電源プラグを抜く

電源プラグを抜く

火災・感電の原因になることがあります。

● "ソウチ　カクニン"のエラー番号をメモして、サービス実施会社へ連絡してください。

■寒い場所から暖かい場所へ移動した後は、30 分ほどたってから電源を入れる

すぐに電源を入れた場合、機器内部で結露が起こり、誤動作の原因となります。

● 本機が周辺温度に対応するまで放置してから電源を入れてください。

■本機を移動するときは、上下逆さまにしたり、横向きにしたりしない

禁止

■防水端子以外は、電話回線端子を濡れる場所に置かない

禁止

■電話回線に接続しているとき、絶縁処理されていない電話機コードや端子には触れない

禁止

● 電話機コードを接続したり、修理したりするときは十分に注意してください。

■電話機コードを接続したり、修理したりするときは十分に注意する

■動作中に光源ランプを直視しない

禁止

ランプの光により、目を傷める原因になることがあります。

■受信開閉部を閉じるとき指のはさみこみに注意する

指はさみ注意

けがの原因になることがあります。

■トナーまたはトナーの入った容器を子供の手の届くところに置かない

禁止

誤ってトナーを飲み込むおそれがあります。

管理責任者へのお願い

機器の機密保持のため、管理責任者は、機器の設置、ネットワーク接続、ネットワーク構築、セキュリティ機能の設定、機器の交換や廃棄まで、下記のセキュリティ対策を実行してください。

1. 管理責任者は、サービス技術者がメーカー、関係会社、販売会社の社員であることを、身分証明書の提示を求めて確認してください。また、電話やメールで装置情報を伝えないでください。

2. 本機が接続されているネットワークから外部ネットワークに接続する場合は、ファイアーウォールを介して接続することをお勧めします。
   クライアントコンピューターまたはサーバーに本機を接続する場合は、盗聴防止のため、スイッチングハブを利用したネットワーク環境を形成することをお勧めします。

3. キーオペレーターコードは、セキュリティ保持のために重要な情報です。
   キーオペレーターコードは、初期値を変更し、パスワードが漏えいしないように機密を保持してください。
   キーオペレーターコードの変更方法については、☛ キーオペレーターコード（管理者パスワード）を設定する（p.42）を参照してください。

4. 本機を悪意の第三者による不正操作から防衛するため、キーオペレーターコードの設定では、次を実施してください。
   ① 設定できる桁数の最大までを利用して設定してください。
   ② 設定できる文字種類を、多く組み合わせてください。
   ③キーオペレーターコードは定期的に変更してください。

   キーオペレーターコードの設定、変更時には、管理者だけが設定画面を見られる環境にし、情報が漏えいしないよう、お客様の責任において管理してください。

5. 本機を移動 / 廃棄する場合は、事前に完全にデータを削除してください。

6. 読み取りデータ（テキストとイメージ）、受信文書、設定 / 登録された情報（宛先情報）の管理は、ユーザー様の責任となります。装置の故障でこれらのデータが破損したり消失した場合、修復はできません。
   保証の範囲外となります。

7. 誤った設定をすると、設定が漏れたり、本製品の使用を妨げる可能性があります。
   設定をする場合は、慎重に詳細を確認してください。

8. 時計は調整が必要です（月平均 :1 分程度）。

キーオペレーターは、本機のセキュリティの維持と管理、不正アクセスの防止に、重要な役割を果たしています。取扱説明書で説明されている内容を理解し、上記のセキュリティ対応を確実に実行してください。

取り扱い上のお願い

■ レーザーの安全性について

本機のプリンターでは、レーザーを使用しているので注意する

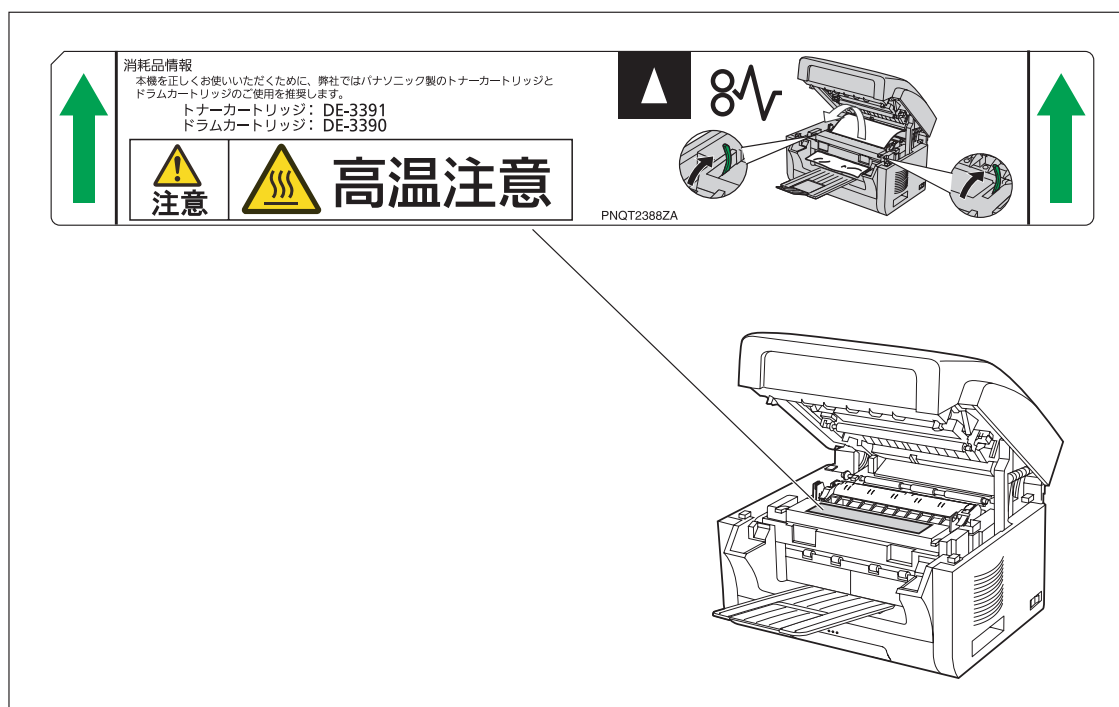
ここに規定した以外の手順による制御や調整は、危険なレーザー放射の被ばくをもたらします。

・本機はレーザークラス 1 の製品です。取扱説明書に規定した手順に従って正しくお使いください。

レーザーダイオード特性

レーザー出力：最大 15 mW
波長：760 nm - 800 nm
放出持続時間：連続

■ 注意ラベルについて

本機には安全にお使いいただくために次のような注意ラベルが貼ってあります。
内容をよく読み、安全にお使いください。

電源高調波についてのお知らせ
JIS C 61000-3-2 適合品
本装置は、高調波電流規格「JIS C 61000-3-2」に適合しています。

この装置は、クラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って、正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

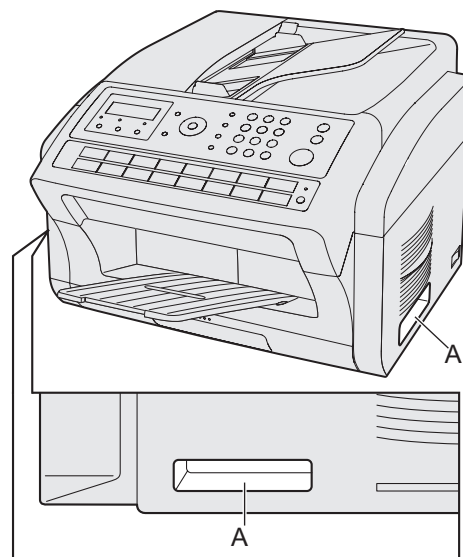
設置上のお願い

■ 次の様な場所への設置は避けてください。

● 高・低温、低・多湿な場所
● 温度変化の激しい場所
● 冷・暖房機の近く（直接風のあたる所）
● 加湿機の近く
● テレビ、ラジオなど電子機器の近く
● 直射日光のあたる場所
● ほこり、アンモニアガスが発生する場所
● シンナー、ガソリンなどの近く
● 換気の悪い場所
● 床、土台が不安定な場所、振動の激しい場所
● 換気扇、クーラー、換気口などの風が直接当たる場所

■ 本機の右側、左側および後面は、壁から 10cm 以上離してください。また、本機の右側、左側、および後面から 10cm 以内には物を置かないでください。

■ 本機の移動

● 本機を移動させる場合、両側のくぼみ部分（A) を持ってください。

操作時のお願い

■ 動作中に電源プラグを抜いたり、開閉部等を開けたり、用紙カセットを引き出したりしないでください。（紙づまりの原因となります）

■ 誤通信を未然に防ぎ、確実に相手と通信するためには、次の点に注意してご使用いただくことをお勧めいたします。

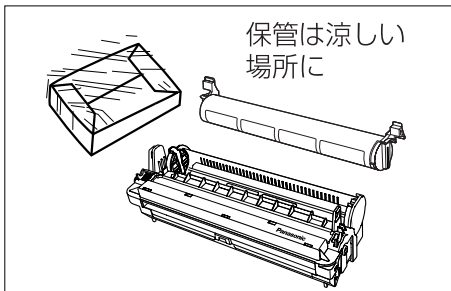
● 相手先のファクス番号、ワンタッチダイヤル / 短縮ダイヤルの登録番号をご確認いただくとともに、取扱説明書をよくご確認のうえご使用ください。

● 大切な情報を送る場合には、「誤送信防止の機能」を利用して通信されることをお勧めします。
☛ 誤送信防止の機能を使う（p.77）

お知らせ

■ 本機を操作する場合、本機近くの使いやすい場所に電源コンセントがある必要があります。

■ 電話機コードを延長しないでください。

用紙/ドラムカートリッジ/トナーカートリッジに関するお願い

■ 用紙 / ドラムカートリッジ / トナーカートリッジなどは湿気の少ない涼しい場所に保管してください。

●用紙は 60 ～ 80g/m^2 の上質紙・再生紙をお使いになれますが、できるだけ当社の推薦紙をご使用ください。
●ドラムカートリッジ / トナーカートリッジは当社指定品をご使用ください。

■ 法律で禁じられていること

次のようなコピーは所有するだけでも法律により罰せられますから充分ご注意ください。
●法律でコピーを禁止されているもの
1. 国内外で流通する紙幣、貨幣、政府発行の有価証券、国債証券、地方債証券
2. 未使用の郵便切手、郵便事業株式会社製の郵便はがき
3. 政府発行の印紙、酒税法や物品法で規定されている証紙類
●注意を要するもの
1. 株券、手形、小切手など民間発行の有価証券、定期券、回数券などは、事業会社が業務上必要最低部数をコピーする以外は政府指導によって注意が呼びかけられています。
2. 政府発行のパスポート、公共機関や民間団体発行の免許証、許可書、身分証明書や通行券、食券などの切符類のコピーも避けてください。
●著作権の対象となっている書籍、絵画、版画、地図、図面、写真などの著作物は個人的または家庭内その他、これに準ずる限られた範囲内で使用するためにコピーする以外は禁じられています。

■ ドラムカートリッジ / トナーカートリッジに関するお願い

●ドラムカートリッジ / トナーカートリッジは直接日光に当てない
プリント画像に異常が出ることがあります。
●ドラムカートリッジ / トナーカートリッジを寒い場所から暑い場所へ急に移動させない
ドラムカートリッジ / トナーカートリッジに結露が発生し、故障の原因となります。
●使用済みのドラムカートリッジ / トナーカートリッジは捨てない
回収にご協力ください。
●ドラムカートリッジ / トナーカートリッジは上を向けて保存する（箱に上向きの表示があります。）
プリント画像に異常が出ることがあります。
●トナーを摂取、吸引、皮膚接触をしないように注意してください。
トナーが口に入ったときは、多めの水を飲んで胃の中を希釈してください。
トナーを吸い込んだときは、その場所を離れてきれいな空気の場所へ移動してください。
トナーが皮膚に触れた場合は、石けんと冷水で十分に洗い流し、自然乾燥させてください。お湯で洗ったり、ドライヤーで乾かさないでください。
トナーが目に入った場合は、水で十分に洗い流してください。
上記いずれの場合でも異常があるときは、直ちに医師に相談してください。

その他

■ 製品リサイクルについて

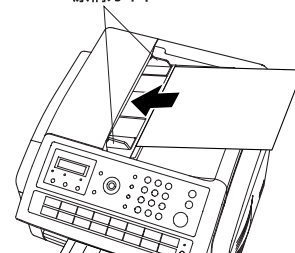
● 使用済や不要となった製品は、回収して、環境保護、資源有効活用のためリサイクルしています。
本機を廃却する場合は、必ず弊社または販売店、サービス実施会社にご連絡ください。
● 使用済や不要となったカートリッジなどの消耗品は、環境保護、資源有効活用のため、適切な処理が必要です。消耗品を廃却する場合は、必ず消耗品の梱包箱に記載されている回収連絡先、弊社または販売店、サービス実施会社にご連絡ください。

ファクスを送る

詳しい操作について ☛ ファクスを送る（p.66）

1 原稿をセットする

送る面を上向きにして、原稿ガイドを原稿の幅に合わせる

☛ 原稿のセットのしかた（p.47）

2 必要に応じて、濃度や文字サイズを選ぶ

☛ 濃度や文字サイズを設定する（p.74）

```
ｱﾃｻｷ ｦ ｲﾚﾃｸﾀﾞｻｲ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

3 ダイヤルする（36 桁まで）

テンキーで相手の電話番号を入力する

例：「12345678」を入力

- 誤って入力した場合は クリアー を押します。
- ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤル、電話帳で指定することもできます。手順6へ進みます。

☛ ワンタッチダイヤルで送る（p.68）
☛ 短縮ダイヤルで送る（p.69）
☛ 電話帳で送る（p.70）

```
TEL. NO.
12345678
```

4 スタート を押す

- ダイヤル再入力の画面が表示されます。

```
TEL.NO. ｻｲﾆｭｳﾘｮｸ
▮
```

5 もう一度ダイヤルする

テンキーで相手の電話番号を再入力する

```
TEL.NO. ｻｲﾆｭｳﾘｮｸ
12345678▮
```

6 スタート を押す

- 宛先確認の画面が表示されます。

```
V∧ﾃﾞ ｱﾃｻｷｦｶｸﾆﾝｼﾃ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

7 入力済みの宛先をすべて確認する

または

を押す

- 宛先確認をした場合だけ送信できます。

```
TEL. NO.
12345678
```

↓

```
ｱﾃｻｷﾏﾁｶﾞｲｱﾘﾏｾﾝｶ?
ﾊｲ:ｽﾀｰﾄ ｲｲｴ:ｸﾘｱｰ
```

8 スタート を押す

- 原稿の読み取りが開始されます。読み取りが終了した原稿から送信が開始されます。

```
*ﾁｸｾｷ ﾁｭｳ*NO.123
ﾏｲｽｳ=001      01%
```

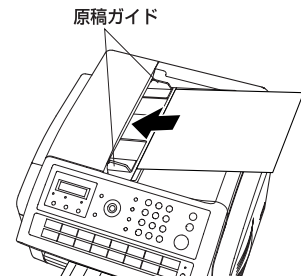
↓

```
*ﾀﾞｲﾔﾙ ｼﾃｲﾏｽ*
12345678
```

インターネット FAX を送る

詳しい操作について ☛ インターネット FAX を送る（p.160）

1 原稿をセットする

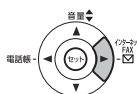
送る面を上向きにして、原稿ガイドを原稿の幅に合わせる
☛ 原稿のセットのしかた（p.47）

2 必要に応じて、濃度や文字サイズを選ぶ

☛ 濃度や文字サイズを設定する（p.74）

ｱﾃｻｷ ｦ ｲﾚﾃｸﾀﾞｻｲ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ

3 メールアドレス入力に切り替える

を押す

▮
ｱﾄﾞﾚｽｦ ｲﾚﾃｸﾀﾞｻｲ

4 メールアドレスを入力する（60 文字まで）

テンキーを利用して、相手のメールアドレスを入力する
☛ 文字入力のしかた（p.251）

例：「ab@panasonic.com」を入力

ab@panasonic.com

- 誤って入力した場合は クリアー を押します。
- ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤル、電話帳で指定することもできます。手順 7 へ進みます。
  ☛ ワンタッチダイヤルで送る（p.162）
  ☛ 短縮ダイヤルで送る（p.164）
  ☛ 電話帳で送る（p.166）

5 スタート を押す

- メールアドレス再入力の画面が表示されます。

▮
ｱﾄﾞﾚｽｦ ｻｲﾆｭｳﾘｮｸ

6 もう一度メールアドレスを入力する

メールアドレスを再入力する

ab@panasonic.com

7 スタート を押す

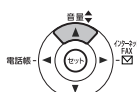
- 宛先確認の画面が表示されます。

∨∧ﾃﾞ ｱﾃｻｷｦｶｸﾆﾝｼﾃ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ

8 入力済みの宛先をすべて確認する

- 宛先確認をした場合だけ送信できます。

ab@panasonic.com

↓

ｱﾃｻｷﾏﾁｶﾞｲｱﾘﾏｾﾝｶ?
ﾊｲ:ｽﾀｰﾄ ｲｲｴ:ｸﾘｱｰ

9 スタート を押す

- 原稿の読み取りが開始されます。読み取りが終了した原稿から送信が開始されます。

*ﾁｸｾｷ ﾁｭｳ*NO.123
ﾏｲｽｳ=001　　　01%

↓

* ｿｳｼﾝ ｼﾃｲﾏｽ *
ab@panasonic.com

コピーする

コピー機能を利用して、原稿をコピーできます。
コピー部数は 1 ～ 99 まで設定できます。

1 原稿をセットする

送る面を上向きにして、原稿ガイドを原稿の幅に合わせる
☛ 原稿のセットのしかた（p.47）

2 必要に応じて、濃度や文字サイズを選ぶ

☛ 濃度や文字サイズを設定する（p.74）
- 文字サイズの「フツウ」は設定できません。

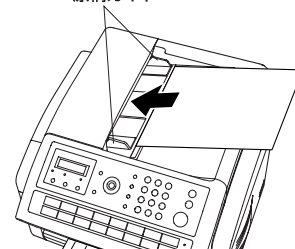
```
ｱﾃｻｷ ｦ ｲﾚﾃｸﾀﾞｻｲ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

3 コピー を押す

```
ｺﾋﾟｰ
ｺﾋﾟｰ ﾌﾞｽｳ =1
```

4 コピー部数を入力する（最大 99 部）

例：「10」を入力

```
ｺﾋﾟｰ
ｺﾋﾟｰ ﾌﾞｽｳ =10
```

5 スタート を押す

- 原稿がメモリーに蓄積され、コピーが開始されます。

スキャンする

本機とコンピューターがネットワーク経由で接続されている場合は、次の手順でスキャンします。
詳しい操作について ☛ スキャンする（p.218）

1 スキャンを設定する

スキャナー を押す

12-15 15:00
ﾖﾐｺﾐ ﾃﾞｷﾏｽ

2 原稿をセットする

送る面を上向きにして、原稿ガイドを原稿の幅に合わせる
☛ 原稿のセットのしかた（p.47）

3 原稿サイズを設定する

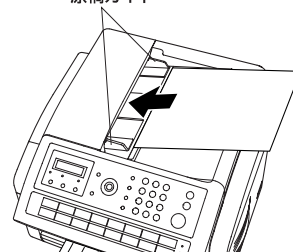
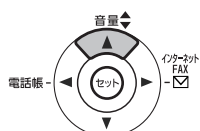
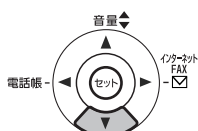
を押す

ｱﾃｻｷｦ ｾｯﾄｼﾃｸﾀﾞｻｲ
A4 ∨∧

- 初期値は「A4」に設定されています。

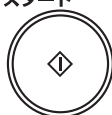
4 必要に応じて、濃度や文字サイズを選ぶ

☛ 濃度や文字サイズを設定する（p.219）

ｱﾃｻｷｦ ｾｯﾄｼﾃｸﾀﾞｻｲ
A4 ∨∧

5 宛先を指定する

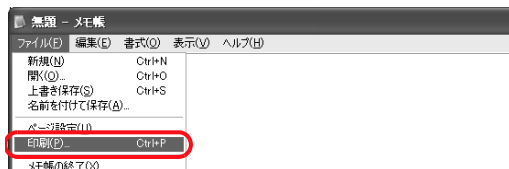
☛ 電話帳で送る（p.70）

(01)ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ
11.22.33.44

6 スタート を押す

プリントする

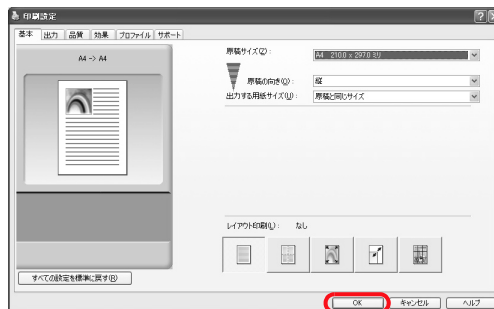
プリンタードライバーが正しくインストールされ、プリンターが「通常使うプリンタ」として設定されている場合は、簡単な操作で Windows アプリケーションから印刷できます。
ここでは、メモ帳からプリントする場合を例に、操作を説明します。

- 画面に表示されるボタン名は、アプリケーションにより異なります。

1 ［ファイル］メニューから［印刷］を選択する

- 印刷のダイアログボックスが表示されます。

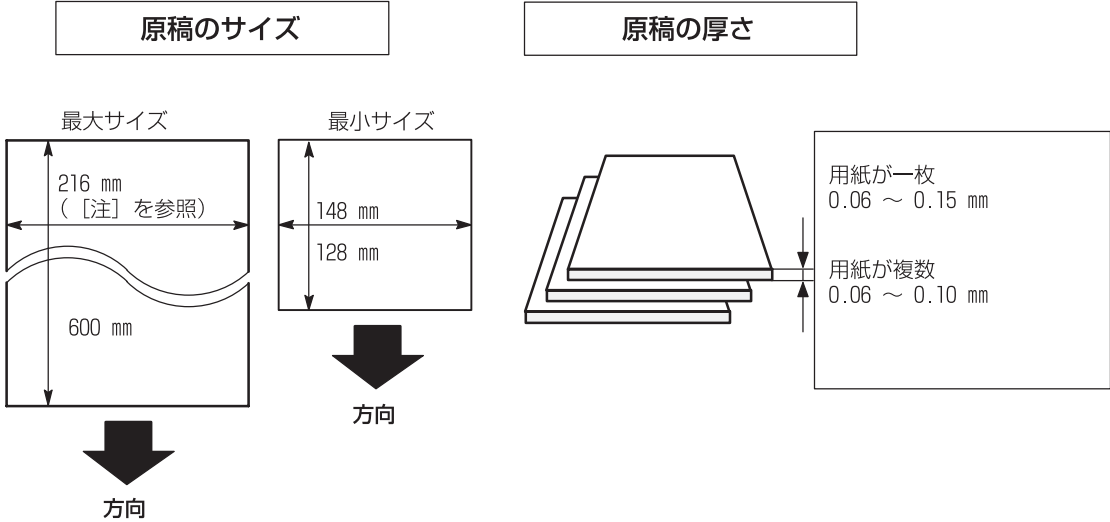
2 ［詳細設定］ボタンをクリックする

3 各タブの項目を設定し、［OK］ボタンをクリックする

- プリンタードライバーの設定項目については、プリンタードライバーのオンラインヘルプを参照してください。

4 ［印刷］ボタンをクリックする

- 作成した文書のプリントが開始されます。

原稿について

セットできる原稿

原稿のサイズ

原稿の厚さ

注：　本機のセット可能な最大原稿幅は、216mm です。
また、最小サイズは 148mm（幅） x 128mm（長さ）です。

お知らせ

1. 複数枚の原稿をセットする際には、以下のような範囲に限られます。

原稿のサイズ	原稿の厚さ	原稿枚数
A4 (210 mm × 297 mm)	0.06 mm ～ 0.10 mm	*30 枚以下
Letter (216 mm × 279 mm)		

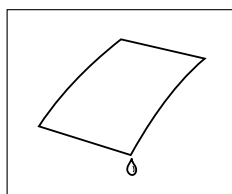
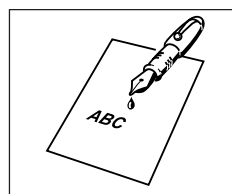
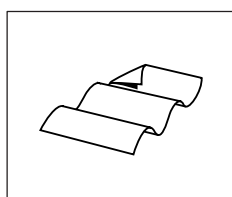
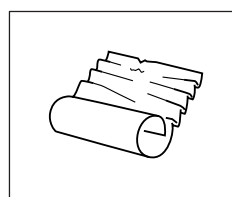
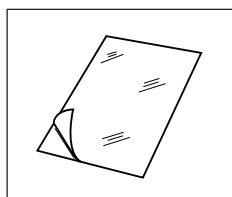
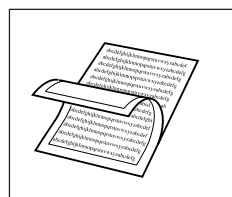
- 同一サイズ、同質の原稿
- 原稿の紙質は上質紙相当（表、裏ともコーティングのないもの）

* 原稿の大きさと厚みが上記仕様を満たしていても、用紙の種類によっては、30 枚セットできない場合がありますので、ご注意ください。

2. 364 mm を超える原稿をセットする場合は、手で支えながら送信してください。

セットできない原稿

次の原稿はセットしないでください。

- このような原稿を使用すると、ファクス送信やコピー時に、用紙づまりが発生したり、画像が正しく再現されないなどの原因となることがあります。
- このような原稿は、あらかじめ別の用紙にコピーしておいたものを使用してください。

湿気を帯びているもの

インクが乾いていない、またはインクの塊が残っているもの

薄すぎるもの
（0.05mm 未満の原稿）

しわになったり、曲がったりまたは折れたりしたもの

表または裏がコーティングされているもの

化学処理されたもの
（例：感圧紙、カーボンコート用紙など）
布製
金属製

原稿のセットのしかた

原稿は正しくセットしてください。
誤った方法でセットすると、原稿づまりなどのトラブルの原因になります。

- セットできる原稿について
  ☛ セットできる原稿（p.45）

1 原稿を確認する

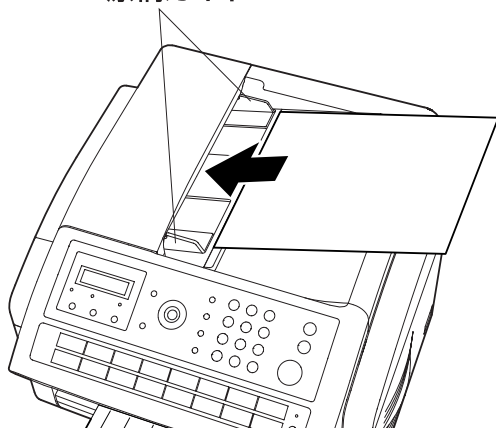
- 原稿がホッチキスやクリップ留めされていないこと
- 破れていない、油がついていない、コーティングされていないこと

2 原稿をセットする

読み取る面を上向きにして、自動原稿送り装置（ADF）の奥に突き当たるまで差し込む

- 一度にセットできる原稿：30 枚まで

ｱﾃｻｷ ｦ ｲﾚﾃｸﾀﾞｻｲ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ

3 原稿ガイドを原稿の幅に合わせる

インターネットに接続するには

本節は、本機をネットワークに接続する前に是非お読みください。

本機を、10Base-T/100Base-TX イーサネット LAN（ローカルエリアネットワーク）へ接続すると、次の機能を利用できます。

- 本機で読み取った原稿を、メールで送信する
- インターネット FAX のメッセージを送信する（ダイレクト SMTP 送信）
- メールを自動的に受信し、プリントする
- G3 ファクスまたはメールで受信した文書を、あらかじめ設定したメールアドレスまたは通常の G3 ファクスへ自動的に転送する
  ☛ 受信文書を転送する（メモリー転送）（p.134）
- G3 ファクスから受信した文書を、ITU-T のサブアドレスを使って、発信者が指定したメールアドレスまたは G3 ファクスへ自動的にルーティングする
  ☛ 受信した文書を転送する（受信ルーティング）（p.194）
- メールを通常のファクス送信として、他のファクスへ中継する
  ☛ 中継局を利用する（LAN 中継同報）（p.200）
- ネットワークスキャナー、プリンターとして利用する

これらの機能を利用するためには、本機をネットワークへ正しく設定する必要があります。ネットワークの設定内容については、システム管理者へお問合せください。

「事前準備表」（☛p.51）をコピーし、MAC (Media Access Control) アドレスを記入してから、システム管理者へ未記載の項目の記入を依頼してください。

Mac アドレスは、システム登録リストで確認できます。

システム登録リストのプリント方法

［ファンクション］ ⑥ ④ ［セット］を押し、キーオペレーターコードを入力してから［セット］を押す

本機は、SMTP 転送または POP クライアントによる受信のどちらかを設定できます。なお、SMTP 転送または POP クライアントでは、利用できる機能が異なります。次の表を参照してください。

機能	SMTP 転送	POP クライアント
原稿情報をメールで送信	○	○
インターネット FAX のメッセージを、ダイレクト SMTP により送受信	○	×
メールの自動受信とプリント	○	○
メールの手動受信とプリント	×	○
受信したファクスまたはメールの自動転送	○	○
ファクスの自動振り分け転送（ルーティング）	○	○
メールからファクスへの中継	○	×

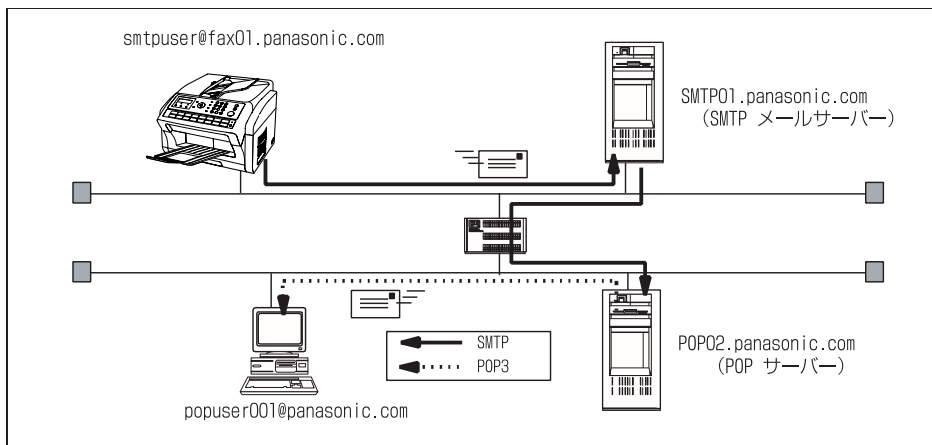
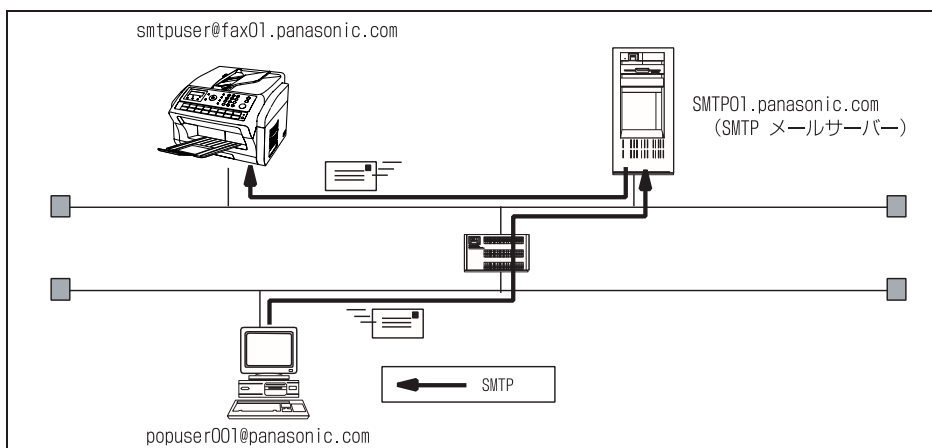
お知らせ

1. SMTP 転送で受信するには、本機のメールアドレスにお客様のドメインとホスト名が含まれている必要があります。また、ホスト名がお客様のネットワークの DNS (Domain Name System) サーバーへ登録されてきる必要があります。
   「○○○ @ ホスト名 .... ドメイン名」の形式で登録します。
   例：Internet_Fax@fax01.panasonic.com
2. 自動的に SMTP 転送または POP 受信が実行されます。POP クライアントとして設定した場合は、手動で受信することもできます。
3. DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) をご使用の場合、インターネット登録リスト（自局登録リスト）の IP アドレスはシステム管理者に依頼してください。
4. 本機が受信、プリント、転送、中継できるメールは、テキスト本文と TIFF-F 形式画像の添付ファイルのみです。

SMTP転送として設定するには

本機を SMTP 転送設定で利用する場合は、次のネットワークパラメーターの設定が必要です。

- DNS サーバーの IP アドレス（☛ お知らせ 1）
- 本機の IP アドレス
- 本機のサブネットマスク
- SMTP メールサーバー名または IP アドレス
- デフォルトゲートウェイ
- 本機のメールアドレス（☛ お知らせ 2）
- ホスト名
- SMTP 認証名（SMTP サーバーに認証が必要なとき）
- SMTP 認証パスワード（SMTP サーバーに認証が必要なとき）

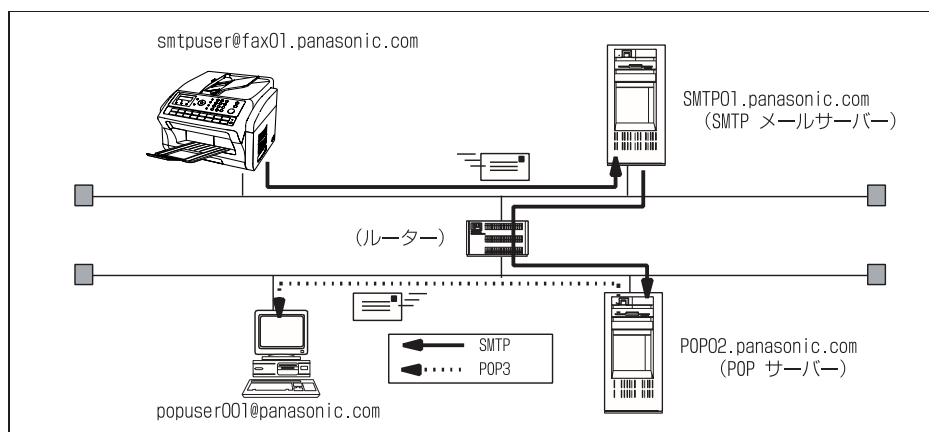
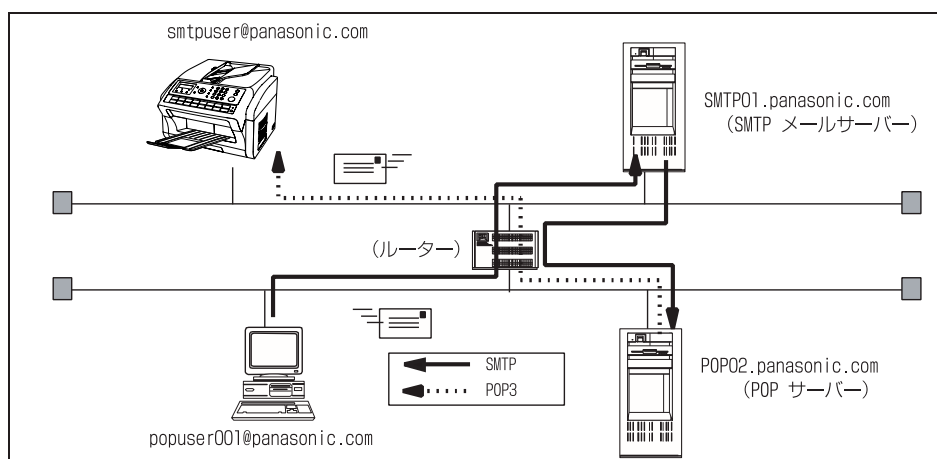
● メール（本機からコンピューターへ）の送信例

● メール（コンピューターから本機へ）の受信例

お知らせ

1. DNS サーバーが利用できない場合は、システム登録の「161 DNS サーバー」（☛p.265）を「ナシ」に変更します。
2. SMTP 転送で受信するには、本機のメールアドレスに、ドメインとホスト名が含まれている必要があります。また、ホスト名がお客様のネットワークの DNS (Domain Name System) サーバーへ登録されている必要があります。
   詳しくは、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

POPクライアントとして設定するには

本機を POP クライアントとして利用する場合は、次のネットワークパラメーターの設定が必要です。

- DNS サーバーの IP アドレス（☛ お知らせ 1）
- 本機の IP アドレス
- 本機のサブネットマスク
- SMTP メールサーバー名または IP アドレス
- デフォルトゲートウェイ
- POP サーバー名または IP アドレス
- POP ユーザーアカウント名
- POP パスワード
- 本機のメールアドレス（☛ お知らせ 2）

● メール送信の例（本機からコンピューター へ送信）

● メール受信の例（コンピューターから本機へ送信）

お知らせ

1. DNS サーバーが利用できない場合は、システム登録の「161 DNS サーバー」（☛p.265）を「ナシ」に変更します。
2. メールアドレスの形式は、通常のメールアドレスと同じです。
   詳しくは、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

事前準備表

ネットワーク経由で全体のシステムが正しく動作するために、確定情報と追加パラメーターを設定する必要があります。システム管理者から必要な情報を得て、ネットワークへ接続してください。

- **重要： このページ全体をコピーし、追加して記入する情報をシステム管理者にお問い合わせください。記入後は、本マニュアルの表紙裏にはさんでおき、必要なときに参照してください。**

ユーザー情報		
社名		
住所		
部署名		
都道府県	市	郵便番号
電話番号	ファクス番号	

自局情報リスト（インターネットパラメーター）（☛p.38）	
(1) 自局 IP アドレス：	
(2) サブネットマスク：	
(3) デフォルトゲートウェイ：	
(4) DNS サーバー IP アドレス：	
(5) 自局のメールアドレス：	
(6) メールサーバー名または IP アドレス：	ポート番号：
(7) SMTP 認証名：	
(8) SMTP 認証パスワード：	
(9) POP サーバー名または IP アドレス：	ポート番号：
(10) POP ユーザー名：	
(11) POP パスワード：	
(12) ホスト名：	
(13) サブジェクト：	
(14) デフォルトドメイン：	
(15) セレクトドメイン：	
1.	6.
2.	7.
3.	8.
4.	9.
5.	10.
(16) リモートパスワード：	
(17)LAN 中継パスワード：	
(18) 管理者メールアドレス：	
(19) 中継ドメイン名：	
1.	6.
2.	7.
3.	8.
4.	9.
5.	10.
(20) コミュニティー名 (1)：	
(21) コミュニティー名 (2)：	
(22) デバイス名：	
(23) デバイスのロケーション：	

お知らせ

1. (1) ～ (18) はシステム管理者から提供される情報です。
2. DNS サーバーが利用できない場合は、システム登録の「161 DNS サーバー」（☛p.265）を「ナシ」に変更します。
3. Mac アドレスは、システム登録リストで確認できます。
   システム登録リストのプリント方法
   [ファンクション] ⑥ ④ [セット] を押し、キーオペレーターコードを入力してから [セット] を押す

記載内容の説明

項目		説明
(1)	自局 IP アドレス	本機のインターネットプロトコル (IP) アドレス
(2)	サブネットマスク	サブネットマスク
(3)	デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイ
(4)	DNS サーバー IP アドレス 1,2	DNS サーバーの IP アドレス
(5)	自局メールアドレス	本機のメールアドレス（60 桁まで）
(6)	メールサーバー名、またはメールサーバー IP アドレス	SMTP サーバー名（60 桁まで） SMTP サーバーの IP アドレス ポート番号
(7)	SMTP 認証名	SMTP 認証名 この項目は、システム登録の「170 SMTP 認証」(☛p.266）が「アリ」の場合に設定します。
(8)	SMTP 認証パスワード	SMTP 認証パスワード この項目は、システム登録の「170 SMTP 認証」(☛p.266）が「アリ」の場合に設定します。
(9)	POPサーバー名、またはPOPサーバーIPアドレス	POP サーバー名（60 桁まで） POP サーバー IP アドレス ポート番号
(10)	POP ユーザー名	POP ユーザー名（40 桁まで）
(11)	POP パスワード	POP パスワード
(12)	ホスト名	ホスト名（60 桁まで）
(13)	デフォルトサブジェクト	件名 (Subject) の部分に自動挿入される内容 （40 文字まで）
(14)	デフォルトドメイン名	入力したメールアドレスが SMTP 標準に対して不完全な場合に使用されるドメイン名です。 メールアドレスに自動的に付加されます。デフォルトドメインは、手動でメールアドレスを入力する場合にも利用できます（最大 50 文字まで）。 例：panasonic.com
(15)	セレクトドメイン名 （01 ～ 10）	ドメイン名を 10 個まで登録できます。手動でメールアドレスを入力するときに「@」入力後にリストから選択できます（最大 30 文字まで）。 例：yourcompany.com
(16)	リモートパスワード	メールを使ったリモート操作によるインターネットパラメーター、宛先登録、通信管理レポートの取得に関するパスワード（10 桁まで）
(17)	LAN 中継パスワード	LAN 中継送信時の中継許可用パスワード （10 文字まで）
(18)	管理者メールアドレス	LAN 中継送信状況モニターと通信費用管理のための、管理者用メールアドレス（60 桁まで）
(19)	中継許可ドメイン名 （01 ～ 10）	中継送信要求のために本機へのアクセスを許可するドメイン名を 10 個まで入力できます(30 桁まで)。
(20)	コミュニティー名 (1)	ソフトウェア (デバイスエクスプローラーなど) 用のコミュニティー名（32 文字まで）
(21)	コミュニティー名 (2)	ソフトウェア (デバイスエクスプローラーなど) 用のコミュニティー名（32 文字まで）
(22)	デバイス名	ソフトウェア (デバイスエクスプローラーなど) 用のデバイス名（32 文字まで）
(23)	デバイスロケーション	ソフトウェア (デバイスエクスプローラーなど) 用のデバイス・ロケーション（32 文字まで）

お知らせ

1. IP アドレスはドットで 4 パートに区切られた数字の連なりです。
例：192.168.0.1

2. 「・」（ドット）は、(＊) を使って入力できます。

3. DNS サーバーが利用できない場合は、システム登録の「161 DNS サーバー」（☛p.265）を「ナシ」に変更します。

インターネット FAX 通信について

インターネットFAX通信とは

インターネット FAX 通信とは、原稿をインターネット FAX から、相手先のコンピューター、またはインターネット FAX へ送信する機能のことです。原稿は、メールの TIFF または PDF 形式の添付ファイルとして、相手先のコンピューターに送信されます。インターネット FAX からの簡単な操作で相手先のメールアドレスへ送信できます。

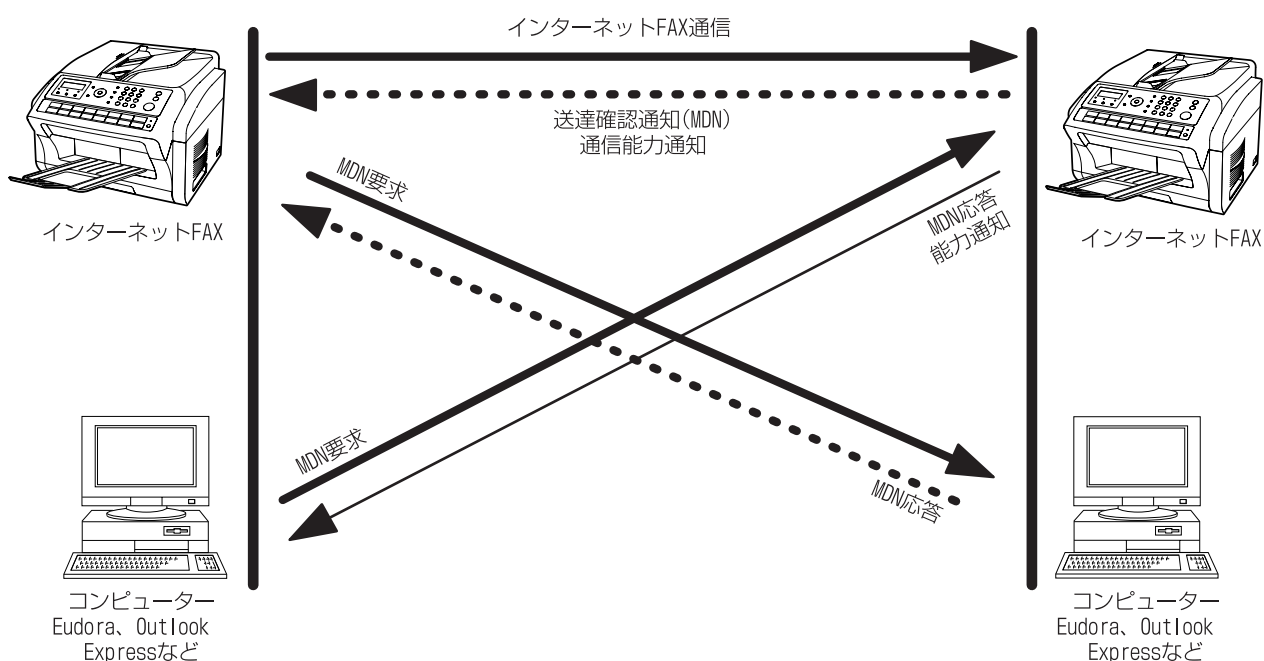
コンピューター側のメールソフトが MIME 形式に対応していない場合は、TIFF または PDF 形式の添付ファイルを使用できないため相手先へ正しく届きません。

メールのメッセージは、まず SMTP メールサーバーに送られ、その後メールサーバーからインターネットへ送られます。

インターネット FAX では、PDF 形式のデータは受信できません。

インターネットFAX送達確認通知 (MDN)

インターネット FAX からの送信の到達を確認できます。ただし、受信者の側に送達（開封）確認通知 (MDN) の機能が備わっている必要があります。

インターネット FAX からの送達確認の通知要求に応答できるメールアプリケーションには、Eudora® や Outlook® Express などがあります。MDN についての詳細は、各メールアプリケーション付属のヘルプやユーザーガイドを参照してください。

Eudora は QUALCOMM Incorporated の登録商標です。

矢印について：

：送信者からのMDN要求

：受信者からのMDN応答（通信能力通知付）

：受信者からのMDN応答

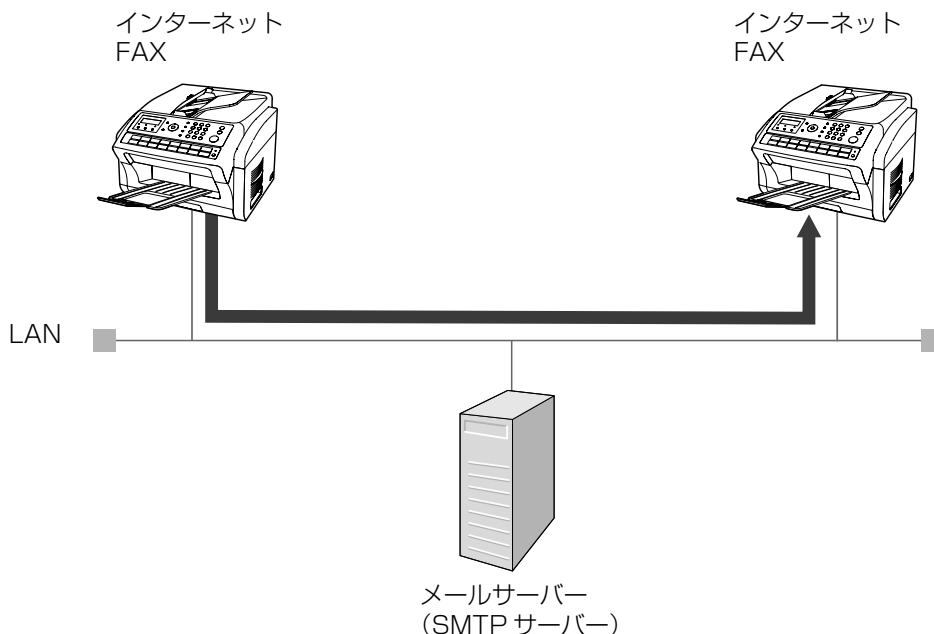
ダイレクトSMTPとは

ダイレクト SMTP は、SMTP メールサーバーを介さずに、直接インターネット FAX 間でやりとりを行う機能です。

- IP アドレスについてはネットワーク管理者にお問い合わせください。

企業などのイントラネットでは、ファイアウォールの負担を考慮して、添付ファイルを持たないメールとホームページ閲覧だけが許可されていることがあります。

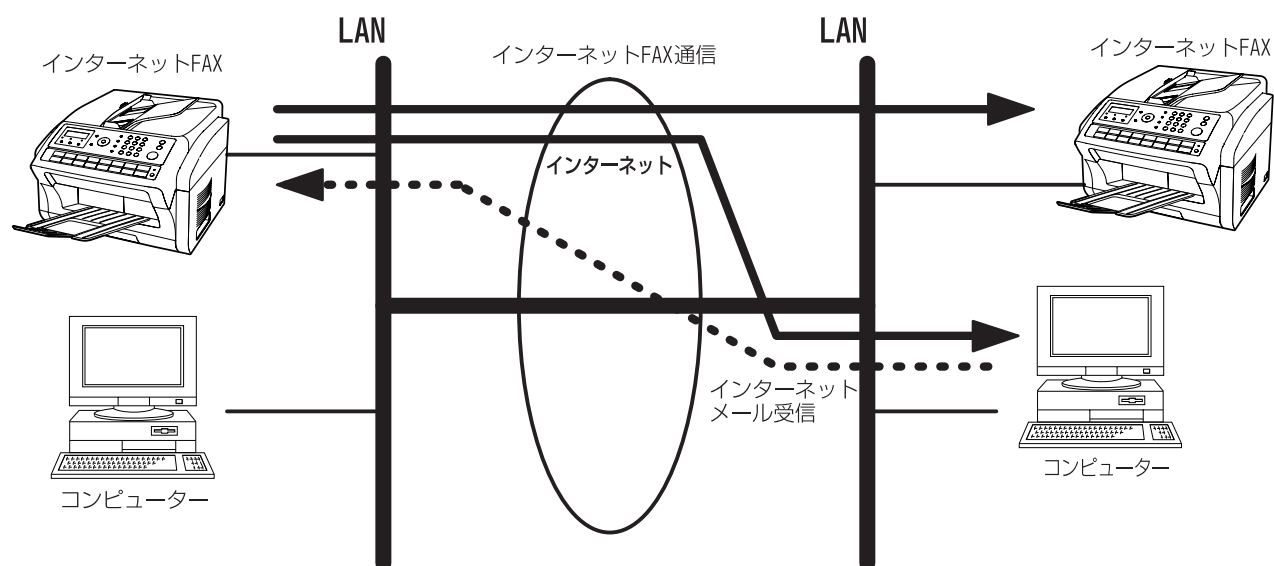
このような場合に、ダイレクト SMTP を使うことで、メールサーバー（SMTP サーバー）への負担を軽減できます。

- ダイレクト SMTP を使う場合は、システムの登録の「172 ダイレクト SMTP 送信」（☛p.266）を「アリ」に設定します。
- ダイレクト SMTP の送信先は、ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルに登録しておく必要があります。システムの登録の「172 ダイレクト SMTP 送信」（☛p.266）が「アリ」に設定されている場合、ワンタッチダイヤル（01 ～ 32）や短縮ダイヤル（001 ～ 168）の登録時に、「ダイレクト SMTP」の設定画面が表示されます。ダイレクト SMTP 送信を設定する場合は、「ハイ」を選択します。
  ☛ ワンタッチダイヤルを登録する（p.230）
  ☛ 短縮ダイヤルを登録する（p.233）
- DNS に登録されていない相手は、@以下に IP アドレスで指定します。
  （例） smtp@192.168.1.1

お知らせ

1. システム登録の「161 DNS サーバー」（☛p.265）が「ナシ」に設定されている場合、メールアドレス指定時に「@」以降を IP アドレスで指定する必要があります。
2. ダイレクト SMTP で送られてきた文書をコンピューターで受信するには、ファクス受信ソフトが必要です。操作方法については、CD-ROM 内に格納されている『取扱説明書（ソフトウェア編）』を参照してください。

インターネットからのメール受信

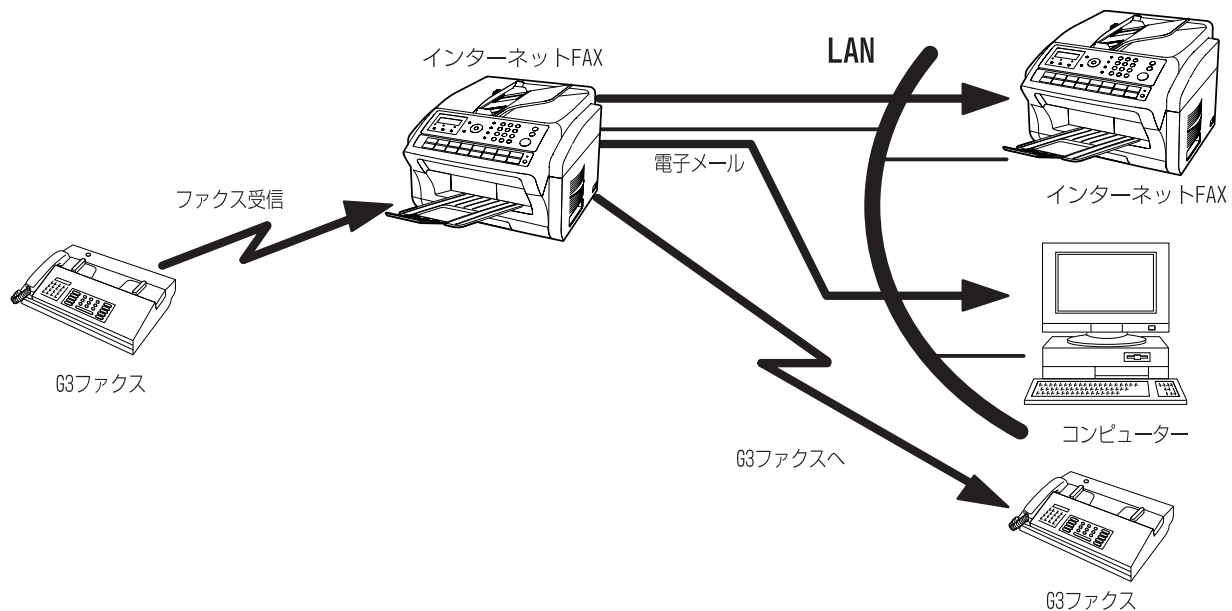
コンピューターからインターネット FAX に送られてきたメールを、設定により自動または手動でプリントする機能です。

ただし、インターネット FAX がサポートしている TIFF 形式以外の添付ファイル（Word、Excel®、PowerPoint® などのファイル）が送られてきた場合は、エラーメッセージがプリントされ、プリントできなかったことを知らせます。

ルーティングとは

ルーティングとは、一般回線のファクスから受信した文書を、ネットワークに接続したコンピューター、またはインターネット FAX にメール送信する機能のことです。また、別の一般回線のファクスにファクス送信することもできます。

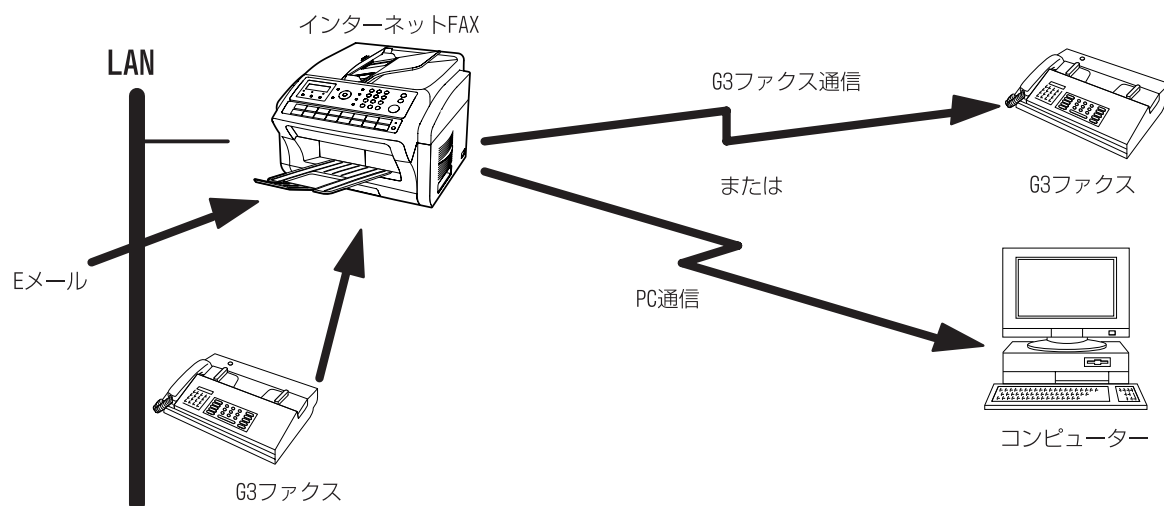
送信機の G3 ファクスが F コード通信の指示機能を利用できるファクスの場合、登録したサブアドレスを指示することで、通信ごとに宛先を選択して送信できます。

また NTT、NTT コミュニケーションズと契約している場合、送信機の G3 ファクスはナンバーディスプレイ（発信者番号通知）やモデムダイヤルインを使用して送信できます。

1. F コード通信に対応していないファクスの場合は、通信ごとに宛先の選択はできませんが、数字 ID を登録しておくと、個別の宛先に送信できます。
2. 利用できるファクスに関しては、サービス実施会社にお問い合わせください。

お知らせ

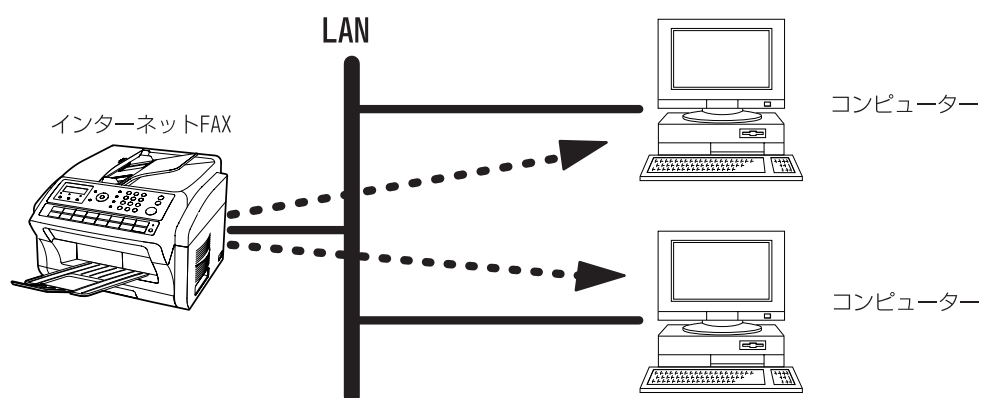
1. ファクス送信をしたファクスに上記のサブアドレス機能が備わっていない場合、サブアドレスの宛先は選べません。
2. 本機はメールアドレスと電話番号に同一のサブアドレス番号を登録することができます。また、ルーティング用に、複数のメールアドレス、ファクス番号、電話番号を短縮登録できます。

メモリー転送とは

メモリー転送とは、本機のメモリーに受信したメールやファクスを、あらかじめ設定した 1 つの宛先（ファクスやコンピューター）へ転送する機能のことです。

ネットワークスキャナーとは

本機をスキャナーとして利用できます。

インターネットを利用して、原稿を本機からコンピューターへメールとして送信することにより、原稿の画像イメージを コンピューター 側で閲覧できます。

- デフォルトドメインとして設定されている、同じドメイン内の宛先に文書を送信するときに、ヘッダーを含めるかどうかを指定するには、システム登録の「164 LAN 送信ヘッダー」（☛p.266）を使います（☛ お知らせ 1）。

お知らせ

1. デフォルトドメイン外の宛先に文書を送信するときには LAN 送信ヘッダーの設定が「ナシ」になっていてもヘッダーを含めて送信されます。

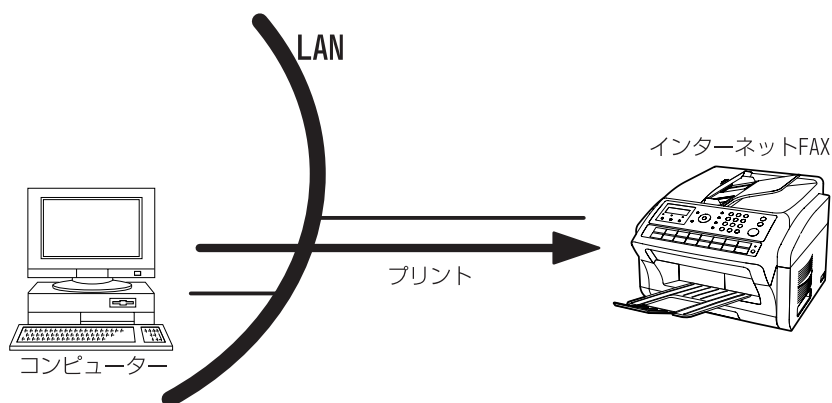
ネットワークプリンターとは

本機をプリンターとして利用できます。

コンピューターの各種アプリケーションで作成した書類を、コンピューターからの操作により、ネットワークに接続した本機へプリントを指示できます。

ネットワークプリンター機能を利用するためには、ソフトウェア（プリンタードライバー）を下記のホームページからダウンロードするか、または付属の CD-ROM からコンピューターにインストールする必要があります。

プリンタードライバーのインストールの方法や操作方法については、CD-ROM 内に格納されている『取扱説明書 （ソフトウェア編）』を参照してください。

- **ソフトウェアをダウンロードできるホームページ：**
  http://panasonic.biz/doc/fax/download/index.html

お知らせ

1. 本機をネットワークプリンターとして使用するためには、IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイが登録されている必要があります。

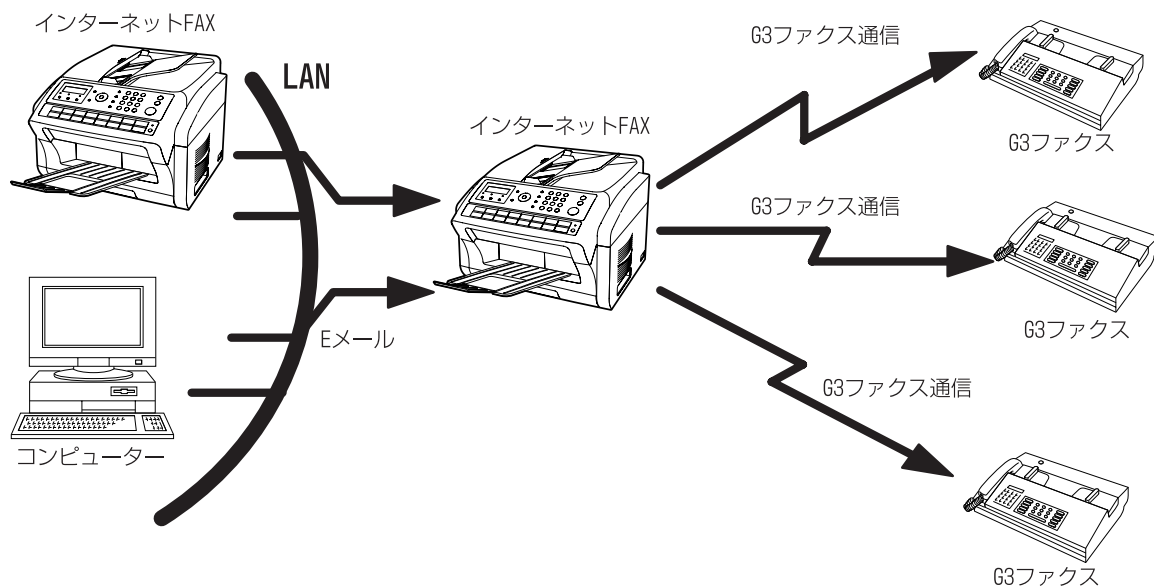
LAN 中継同報とは

LAN 中継同報とは、ネットワークに接続したインターネット FAX やコンピューターから送信したメールを、LAN 中継同報機能を持ったインターネット FAX を経由して、一般回線に接続された複数の G3 ファクスへ同報送信する機能のことです。メールには TIFF-F 形式のファイルを添付できます。

また、本機では、表計算ソフトなどの各種アプリケーションのデータファイルを TIFF-F 形式のファイルに変換してメールの添付ファイルとして送信できます。

各種アプリケーションのデータファイルを TIFF-F 形式のファイルに変換するには、ソフトウェア（TIFF 変換プログラムおよび MAPI メールリンキング）を下記のホームページからダウンロードするか、または付属の CD-ROM からコンピューターにインストールする必要があります。

各プログラムのインストールの方法や操作方法については、ダウンロードしたホームページを参照してください。

- **ソフトウェアをダウンロードできるホームページ：**
  http://panasonic.biz/doc/fax/download/index.html

DHCP(Dynamic Host Configuration Protocol)とは

DHCPとは、インターネットFAXやコンピューターにIPアドレスを自動的に割り当てるためのプロトコルです。DHCPを使うと、インターネットFAXがネットワークに接続するたびに、自動的に固有のIPアドレスを取得でき、ネットワーク管理者のIPアドレス管理の手間が省けます。
ネットワークにログオンしたインターネットFAXに対して、DHCPサーバーでマスターリストから選んだIPアドレスが割り当てられます。

なお、本機で次の機能を利用するには、DHCPを使わずに、ネットワーク管理者によって設定されたIPアドレスを設定し、必要な環境設定する必要があります。

・SMTP受信
・LAN中継送信
・ダイレクトSMTP （ダイレクトSMTP送信）

SMTP認証とは

SMTP認証とは、インターネットのセキュリティを高めるための認証サービスのひとつです。

世界規模の電子的なインフラストラクチャーとしてインターネットが登場して以来、通信機器市場は飛躍的に伸びています。しかし、インターネットのセキュリティを高める技術は、まだ確固としたものが出ていません。この理由はいくつかあります。

1. インターネットメールはマルチホップ（雑多なプロトコル、雑多なデバイス）の構造体であり、通信路をベースとしたセキュリティは一般的に実現が困難である

2. インターネットFAXの標準規格が推奨する独占的な技術がない

現在、システムの改善と健全化の標準的なソリューションとして提供されているのは、暗号技術ベースの認証システムです。この認証技術はSASL（Simple Authentication and Security Layer）のような認証機構に統合されています。

インターネットのサービスプロバイダ(ISP)は、多くが何らかの認証方式を採用しています。
本機が提供する認証オプションは、次のとおりです。

1. SMTP認証拡張サービス(SMTP AUTH) ：
接続時にアカウント名とパスワードによる認証が行われる方法です。特定ユーザー以外の送信や中継を防止できます。

2. APOP認証サービス（APOP）：
パスワードを暗号化する方法です。メールの送受信に使われます。

3. POP before SMTP：
送信前に、指定したPOP3サーバーにあらかじめアクセスさせることで、SMTPサーバーの使用許可を与える方法です。

インターネット FAX 通信の注意点

インターネット FAX による通信は、基本的にメールと同様で、一般回線用のファクスによる通信とは異なります。通常のファクス通信と異なる点は、次のとおりです。

インターネットFAXと通常のファクスの相異点について

通常のファクスでは、受話器を上げてダイヤルして原稿を送ります。データは電話回線を介して相手側に届き、回線使用の料金は送信者が負担します。ファクスとファクスが接続されると、同期を取り、画像データを交換します。

これに対して、インターネット FAX は、メールに似ています。
画像データはパケットに分解され、電話回線を介さずにネットワークからインターネットへ、またはイントラネットへと送信されます。このため、長距離通話の経費を節減できます。

正常に送信されましたか？

1. インターネット通信はネットワーク経由でのメールサーバーとの通信のため、直接相手との通信はできません。このため、何らかの原因で文書が正しく送信できなかった場合にのみ、メールサーバーからエラーメールが返送されます。
2. 相手先の場所、インターネットなどの回線の混み具合、ネットワーク システムの構成にもよりますが、エラーメールが返送されるまで長い時間（通常 20 ～ 30 分）かかることがあります。
3. メールサーバーの調子により、エラーメールが返送されない場合があります。重要な書類、緊急を要する書類、またそれに準じる書類を送信する場合は、送信後に必ず電話で確認してください。
4. 受信側のメールシステムが MIME に対応していない場合、受信側に原稿を正しく送信することができません。また、相手のメールサーバーによっては、エラーメールが返送されない場合があります。

ネットワーク 経由の電話について

ネットワーク 経由の電話はできません。電話は一般回線（PSTN）でのみ使用できます。

デュアルポート通信について

本機にはデュアルポート通信機能があります。ネットワーク経由の通信中でも、一般回線（PSTN）を使用したファクス通信ができます。

お知らせ

1. システム登録の「172 ダイレクト SMTP 送信」（☛p.266）が「アリ」に設定されている場合は、ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルで、メールサーバーを経由せずに宛先に送信するように設定できます。
2. 本機には送達確認の要求機能があります。
   ☛ 受信確認メールを送る（送達確認）（p.199）

文字サイズについて

ファクシミリでの使用を考慮して、文字サイズのお買い上げ時の設定が「フツウ」に設定されています。
文字サイズは、使用する原稿に合わせて変更できます。

☛ 文字サイズを設定する（p.74）

インターネットメール受信について

1. 本機は、コンピューターからのメールを受信しますが、受信したデータのうち、英数字、ひらがな、カタカナと第 1、2 水準の漢字（ISO-2022-JP）を記録できます。Unicode(UTF-8) などの文字コードでは文字化けとなります。また、読み取りできない文字は「■」と表示されます。
2. 受信したフォントや文字の大きさは変更できません。
3. 受信データは、1 ページ約 72 行で出力されます。
4. 受信したメールに TIFF-F 形式以外のファイル（Word、Excel®、PowerPoint® などのファイル）が添付されていた場合は、エラーメッセージが表示され、プリントできなかったことを知らせます。
5. 受信したメールに TIFF-F 形式の画像ファイルが添付されていた場合には、テキストと画像を別々のページにプリントされます。

LAN 中継通信時のセキュリティについて

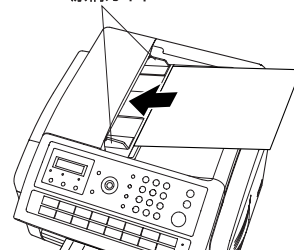
LAN 中継局への不正なアクセスを防止するために、次のようにネットワーク・セキュリティを設定します。

- LAN 中継パスワード、中継許可ドメイン名を設定します。
- LAN 中継通信全体を管理するために、管理者のメールアドレスを登録し、通信管理レポートを受け取れるようにします。

直接ダイヤルで送る

電話番号を手動でダイヤルする操作を「直接ダイヤル」と呼びます。
直接ダイヤルで送信する場合は、次の手順で操作します。

1 原稿をセットする

送る面を上向きにして、原稿ガイドを原稿の幅に合わせる
☛ 原稿のセットのしかた（p.47）

2 必要に応じて、濃度や文字サイズを選ぶ

☛ 濃度や文字サイズを設定する（p.74）

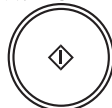
ｱﾃｻｷ ｦ ｲﾚﾃｸﾀﾞｻｲ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ

3 ダイヤルする

テンキーで相手の電話番号を入力する
例：「12345678」を入力

TEL. NO.
12345678■

- 誤って入力した場合は クリアー を押します。
- 36 桁まで入力できます。
- 記号を使って機能を入力できます。☛ 記号を使ったダイヤル方法（p.67）を参照してください。

4 スタート を押す

TEL.NO. ｻｲﾆｭｳﾘｮｸ
■

- ダイヤル再入力の画面が表示されます。

5 もう一度ダイヤルする

テンキーで相手の電話番号を再入力する

TEL.NO. ｻｲﾆｭｳﾘｮｸ
12345678

6 スタート を押す

V∧ﾃﾞ ｱﾃｻｷｦｶｸﾆﾝｼﾃ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ

- 宛先確認の画面が表示されます。
- 手順 3 で入力した電話番号と異なる場合は、「アテサキガイッチシテイマセン」と表示され、手順3に戻ります。

7 入力済みの宛先をすべて確認する

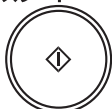
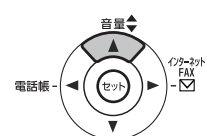
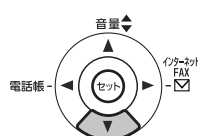
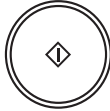
 または を押す

TEL. NO.
12345678

ｱﾃｻｷﾏﾁｶﾞｲｱﾘﾏｾﾝｶ?
ﾊｲ:ｽﾀｰﾄ ｲｲｴ:ｸﾘｱｰ

- 宛先確認をした場合だけ送信できます。

8 **を押す**

```
*チクセキ チュウ*NO.123
マイスウ=001      01%
```
↓
```
*ダイヤル シテイマス*
12345678
```

- 原稿の読み取りが開始されます。読み取りが終了した原稿から送信が開始されます。（☛ お知らせ 1）
- 送信を中止する場合は、ストップを押します。

記号を使ったダイヤル方法

直接ダイヤルで宛先を指定する場合、下のボタンを押すと記号が入力され、さまざまな機能を利用できます。

ポーズを入力する	再ダイヤル/ポーズ	ダイヤルに間隔を開けたいときに押します。 内線電話をお使いの場合は、外部アクセス番号を入力したあとに、このボタンを押してから、相手の電話番号を入力します。 画面には、「ー」が表示されます。 例：9 ポーズ 5551234
トーン信号に切り替える	＊	ダイヤル回線をお使いの場合にこのボタンを押すと、パルス信号がトーン信号に切り替わります。画面には「/」が表示されます。 ☛ 回線種別を設定する（p.32） 回線種別がプッシュ (PB) の場合、このボタンを押すと画面には「＊」が表示されますが、設定は無効です。 例：9 ポーズ ＊ 5551234 「/」の前まで発信したあとに、パルス発信からトーン発信へ変更されます。
＃を入力する	#	ファクス情報サービスを使う場合などに押します。
F コード（サブアドレス）を入力する	フック/Fコード	F コード（サブアドレス）を入力したい場合は、このボタンを押してから F コード（サブアドレス）を入力します。画面には、「s」が表示されます。

お知らせ

1. お買い上げ時の設定では、1 ページ目の原稿がメモリーに蓄積されるとダイヤルが開始され、引き続き2ページ目の原稿の読み取りが始まります。この機能を“クイックメモリー送信”と呼びます。原稿をすべてメモリーに保存してから送信したい場合は、システム登録の「082 クイックメモリー送信」（☛p.261）を「ナシ」に変更します。

ワンタッチダイヤルで送る

ワンタッチダイヤルを使って、簡単な操作でダイヤルできます。

- ワンタッチダイヤルは、あらかじめ登録が必要です。☛ ワンタッチダイヤルを登録する（p.230）を参照してください。

1 **原稿をセットする**

送る面を上向きにして、原稿ガイドを原稿の幅に合わせる
☛ 原稿のセットのしかた（p.47）

2 **必要に応じて、濃度や文字サイズを選ぶ**

☛ 濃度や文字サイズを設定する（p.74）

ｱﾃｻｷ ｦ ｲﾚﾃｸﾀﾞｻｲ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ

3 [1] **を押す**

例：ワンタッチボタン 01

- ワンタッチボタン17～32の場合は、ワンタッチボタンの前に、(シフト)を押します。

<01> ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ
5551234

4 スタート **を押す**

- 宛先確認の画面が表示されます。

∨∧ﾃﾞ ｱﾃｻｷｦｶｸﾆﾝｼﾃ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ

5 **入力済みの宛先をすべて確認する**

または
を押す

- 宛先確認をした場合だけ送信できます。

<01> ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ
5551234
↓
ｱﾃｻｷﾏﾁｶﾞｲｱﾘﾏｾﾝｶ?
ﾊｲ:ｽﾀｰﾄ ｲｲｴ:ｸﾘｱｰ

6 スタート **を押す**

- 原稿の読み取りが開始されます。読み取りが終了した原稿から送信が開始されます。（☛ お知らせ 1）
- 送信を中止する場合は、[ストップ]を押します。

*ﾁｸｾｷ ﾁｭｳ*NO. 123
ﾏｲｽｳ=001 01%
↓
ﾀﾞｲﾔﾙ ｼﾃｲﾏｽ
ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ

お知らせ

1. お買い上げ時の設定では、1 ページ目の原稿がメモリーに蓄積されるとダイヤルが開始され、引き続き２ページ目の原稿の読み取りが始まります。この機能を“クイックメモリー送信”と呼びます。原稿をすべてメモリーに保存してから送信したい場合は、システム登録の「082 クイックメモリー送信」（☛p.261）を「ナシ」に変更します。

短縮ダイヤルで送る

短縮番号を押してダイヤルできます。

- 短縮ダイヤルは、あらかじめ登録が必要です。☛ 短縮ダイヤルを登録する（p.233）を参照してください。

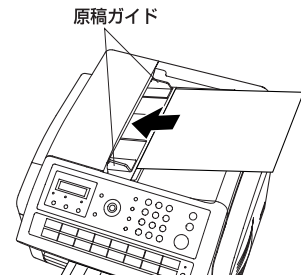
1 原稿をセットする

送る面を上向きにして、原稿ガイドを原稿の幅に合わせる
☛ 原稿のセットのしかた（p.47）

2 必要に応じて、濃度や文字サイズを選ぶ

☛ 濃度や文字サイズを設定する（p.74）

ｱﾃｻｷ ｦ ｲﾚﾃｸﾀﾞｻｲ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ

3

1 0 を押す

例：短縮番号「010」

[010]ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ
5553456

4

を押す

- 宛先確認の画面が表示されます。

∨∧ﾃﾞ ｱﾃｻｷｦｶｸﾆﾝｼﾃ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ

5 入力済みの宛先をすべて確認する

または

を押す

- 宛先確認をした場合だけ送信できます。

[010]ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ
5553456

ｱﾃｻｷﾏﾁｶﾞｲｱﾘﾏｾﾝｶ?
ﾊｲ:ｽﾀｰﾄ ｲｲｴ:ｸﾘｱｰ

6

を押す

- 原稿の読み取りが開始されます。読み取りが終了した原稿から送信が開始されます。（☛ お知らせ 1）
- 送信を中止する場合は、ストップを押します。

*ﾁｸｾｷ ﾁｭｳ*NO.123
ﾏｲｽｳ=001 01%

ﾀﾞｲﾔﾙ ｼﾃｲﾏｽ
ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ

お知らせ

1. お買い上げ時の設定では、1 ページ目の原稿がメモリーに蓄積されるとダイヤルが開始され、引き続き2ページ目の原稿の読み取りが始まります。この機能を“クイックメモリー送信”と呼びます。原稿をすべてメモリーに保存してから送信したい場合は、システム登録の「082 クイックメモリー送信」（☛p.261）を「ナシ」に変更します。

電話帳で送る

ワンタッチダイヤル（☛p.68）、短縮ダイヤル（☛p.69）に登録されている宛先を、宛先名で検索してダイヤルできます。

- ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤルは、あらかじめ登録が必要です。☛ ワンタッチダイヤルを登録する（p.230）、☛ 短縮ダイヤルを登録する（p.233）を参照してください。

1 原稿をセットする

送る面を上向きにして、原稿ガイドを原稿の幅に合わせる
☛ 原稿のセットのしかた（p.47）

2 必要に応じて、濃度や文字サイズを選ぶ

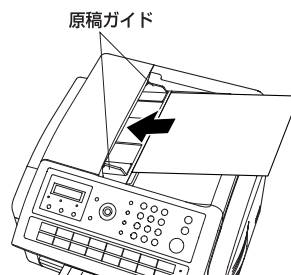
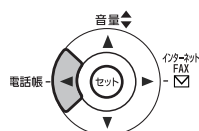
☛ 濃度や文字サイズを設定する（p.74）

ｱﾃｻｷ ｦ ｲﾚﾃｸﾀﾞｻｲ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ

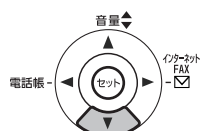
3

を押す

ｱﾃｻｷﾒｲ ﾆｭｳﾘｮｸ <ｶﾅ
▮

4

文字ボタンを使って宛先名の全部または一部を入力する
☛ 文字入力のしかた（p.251）

例：「PANASONIC」を検索するために「PANA」と入力

ｱﾃｻｷﾒｲ ﾆｭｳﾘｮｸ <A>
PANA

5 宛先を探す

 または を押す

送信する宛先名がディスプレイに表示されるまで繰り返す

<01> PANASONIC
5553456

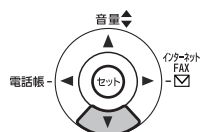
6

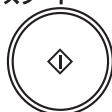
を押す

- 宛先確認の画面が表示されます。

∨∧ﾃﾞ ｱﾃｻｷｦｶｸﾆﾝｼﾃ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ

7 入力済みの宛先をすべて確認する

 または を押す

- 宛先確認をした場合だけ送信できます。

<01> PANASONIC
5553456

↓

ｱﾃｻｷﾏﾁｶﾞｲｱﾘﾏｾﾝｶ?
ﾊｲ:ｽﾀｰﾄ ｲｲｴ:ｸﾘｱｰ

8 を押す

*チクセキ チュウ*NO.123
マイスウ=001　　　01%

↓

ダイヤル シテイマス
PANASONIC

- 原稿の読み取りが開始されます。読み取りが終了した原稿から送信が開始されます。（☛ お知らせ 1）
- 送信を中止する場合は、ストップ を押します。

お知らせ

1. お買い上げ時の設定では、1 ページ目の原稿がメモリーに蓄積されるとダイヤルが開始され、引き続き2ページ目の原稿の読み取りが始まります。この機能を“クイックメモリー送信”と呼びます。原稿をすべてメモリーに保存してから送信したい場合は、システム登録の「082 クイックメモリー送信」（☛p.261）を「ナシ」に変更します。

複数宛先に送る（順次同報送信）

同じ原稿を複数の宛先に送信する場合、メモリー送信を使うことで一度の操作でたくさんの相手に送ることができます。ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤル、グループダイヤル、および直接ダイヤル（20 カ所まで）を含め、合わせて 220 カ所まで指定できます。

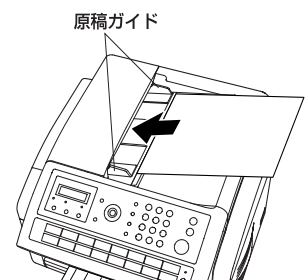
ただし、お買い上げ時は、複数宛先の指定、およびグループダイヤルを禁止するように設定されています。この機能が設定されている場合、2 カ所目の宛先指定時に、次のメッセージが表示されます。

```
ﾌｸｽｳｱﾃｻｷﾉ ｾﾝﾀｸﾊ
ﾃﾞｷﾏｾﾝ
```

- 複数宛先指定の禁止を解除する場合は、システム登録の「117 複数宛先指定」（☛p.262）を「アリ」に設定します。

1 原稿をセットする

送る面を上向きにして、原稿ガイドを原稿の幅に合わせる

☛ 原稿のセットのしかた（p.47）

2 必要に応じて、濃度や文字サイズを選ぶ

☛ 濃度や文字サイズを設定する（p.74）

```
ｱﾃｻｷ ｦ ｲﾚﾃｸﾀﾞｻｲ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

3 次の方法を組み合わせてダイヤルする

- ワンタッチダイヤル（☛p.68）
  ボタンを押して、[セット] を押す
- 短縮ダイヤル（☛p.69）
  短縮番号を指定して、[セット] を押す
- 電話帳（☛p.70）
  宛先を選択して、[セット] を押す
- 直接ダイヤル（☛p.66）
  電話番号を入力して、[セット] を押す（最大 20 件）

例：

[1] **を押す**（ワンタッチボタン 01）

```
<01>（ 宛先名 ）
5551234
```

(短縮/スペース) (0) (1) (0) **を押す**（短縮番号 010）

```
[010]（ 宛先名 ）
5553456
```

```
  1 ｱﾃｻｷ ｾｯﾄ
ﾂｲｶ ﾏﾀﾊ ｽﾀｰﾄ
```

- 入力した宛先数を確認する場合、[セット] を押します。
- [▼] または [▲] を押すと、入力した宛先を確認できます。
  宛先を削除する場合は、[クリアー] を押します。
- システム登録の「091 宛先確定操作」（☛p.261）が「アリ」に設定されている場合は、短縮ダイヤル、ワンタッチダイヤルを連続して指定できません。[セット] を押してから次の宛先を指定してください。

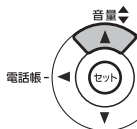
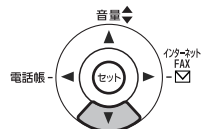
4 スタート を押す

- 宛先確認の画面が表示されます。
- 直接入力の場合は、ダイヤル再入力の画面が表示されます。テンキーで相手の電話番号を再入力して、スタートを押します。

```
V∧デ゛ アテサキヲカクニンシテ
スタートヲ オシテクダ゛サイ
```

直接ダイヤルの場合

```
TEL.NO. サイニュウリョク
12345678
```

5 入力済みの宛先をすべて確認する

- 宛先確認をした場合だけ送信できます。

```
<01>（宛先名）
5551234
```

↓

```
アテサキマチガ゛イアリマセンカ?
ハイ:スタート イイエ:クリアー
```

6

を押す

- 原稿の読み取りが開始されます。すべての原稿の読み取りが終了したら、送信が開始されます。（☛ お知らせ 1）
- 送信を中止する場合は、ストップを押します。

```
*チクセキ チュウ*NO.123
マイスウ=001      01%
```

↓

```
*ダ゛イヤル シテイマス*
パ゜ナソニック
```

お知らせ

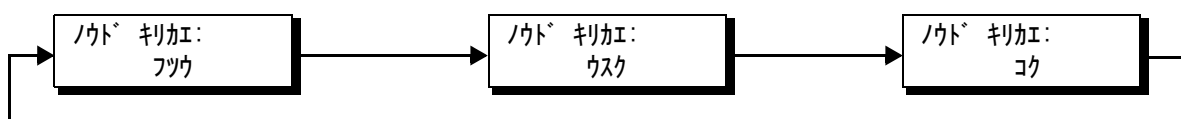
1. 複数の宛先を設定している場合、クイックメモリー送信は使用できません。

濃度や文字サイズを設定する

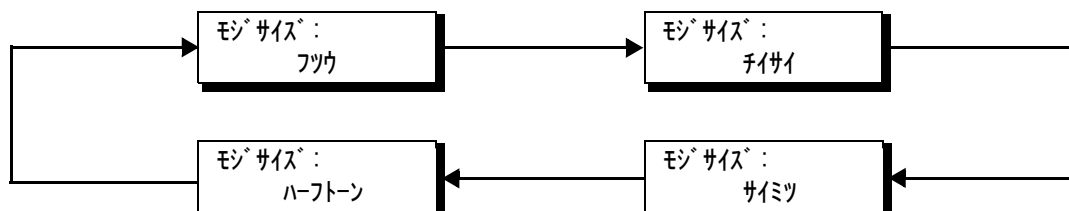
送信する原稿に合わせ、濃度と文字サイズを設定できます。これらの設定は、通信が終了すると自動的に元の設定に戻ります。

濃度を設定する

原稿を読み込む濃度を設定します。
文字が薄い原稿を送るときは「コク」に変更します。文字がこい原稿を送るときは「ウスク」に変更します。

を押すたびに、濃度の設定が切り替わります。

文字サイズを設定する

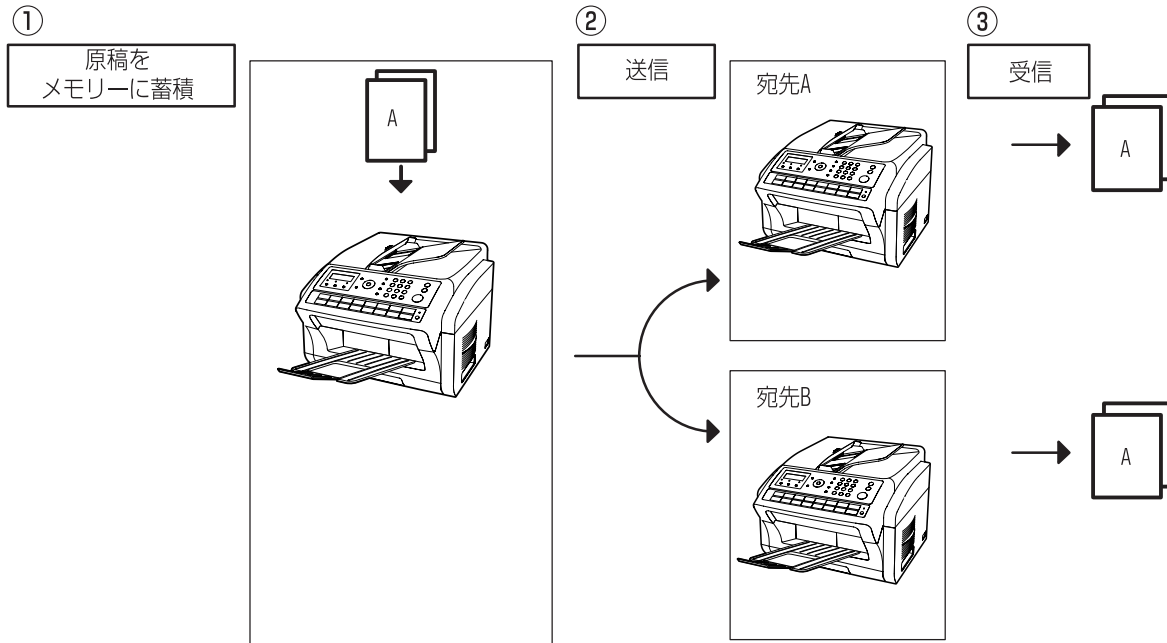
原稿を読み込む細かさ（解像度）を設定します。
細かい文字の原稿を送るときは「チイサイ」または「サイミツ」を、写真やカラー原稿を送るときは「ハーフトーン」に変更します。

を押すたびに、文字サイズの設定が切り替わります。

お知らせ

1. 濃度や文字サイズは、初期値を変更できます。よくお使いになる濃度や文字サイズの設定を登録しておけば、原稿をセットするたびに設定をする手間が省けます。
   システム登録の「001 濃度切り替え」（☛p.257）
   システム登録の「002 文字サイズ」（☛p.257）

メモリー送信について

メモリー送信とは、原稿をいったんメモリーに蓄積してから、ダイヤルを開始する方法です。
何らかの原因で、送信の途中で通信が中断されたときは、残りのページが再送されます。

- メモリーに保存できる枚数は約 480 枚です。ITU-T No.1 テストチャート原稿（☛p.319）を、文字サイズ「フツウ」で読み取ったときの枚数です。原稿によって、枚数は異なります。

ファイル番号とメモリー割合について

メモリーに蓄積された文書には、自動的にファイル番号が付けられ、ディスプレイ上段の右端に表示されます。このファイル番号は、通信結果レポートなどにもプリントされます。
また、各ページをメモリーに蓄積したあとに、使用するメモリーの割合がディスプレイ下段の右端に表示されます。

• メモリーに蓄積中のディスプレイ表示　　• メモリーに保存後のディスプレイ表示

メモリーオーバー時の動作について

複数宛先を指定している場合、またはシステム登録の「82 クイックメモリー送信」（☛p.261）が「ナシ」に設定されている場合は、原稿の蓄積中にメモリー容量が一杯になると、自動原稿送り装置（ADF）上の残りの原稿が自動的に排出されます。

この場合、送信をキャンセルするか（①を押す）、または蓄積済みの文書だけを送信するか（②を押す）を選択できます。

- 10 秒以内に操作をしない場合、自動的に「2: イイエ」が選択され、すでにメモリーへ読み込まれた原稿だけが送信されます

エラーコードについて

何らかの原因で正常に送信できなかった場合は、ディスプレイにエラーコードが表示されます。また、読み込まれた原稿は自動的にメモリーから消去され、エラーコードが通信結果レポートにプリントされます。
エラー発生時に、読み込んだ文書をメモリーに残しておき、再通信したい場合は、システム登録の「031 未通信ファイル保存」(☛p.259)を「アリ」に変更しておきます。未通信ファイルを再送する操作については、☛未通信ファイルを再送信する(未達宛先再通信)(p.125)を参照してください。

```
ｻｲﾂｳｼﾝｶﾞ ﾋﾂﾖｳﾃﾞｽ
ｺｰﾄﾞ=xxxx
```

送信を停止したいときは

送信を停止する場合は、ストップを押します。
ディスプレイには、次のメッセージが表示されます。

```
ｿｳｼﾝ ﾃｲｼ?
1:ﾊｲ 2:ｲｲｴ
```

①を押すと、送信が停止され、メモリーに蓄積された文書が自動的に消去されます。

あらかじめ、システム登録の「031 未通信ファイル保存」(☛p.259)を「アリ」に変更しておくと、次のメッセージが表示され、メモリーに蓄積された文書を保存するか、削除するかを選択できます。

```
ﾌｧｲﾙ ｾｰﾌﾞ ｼﾏｽｶ?
1:ﾊｲ 2:ｲｲｴ
```

通信結果レポートについて

通信結果レポートをプリントするように設定している場合は、送信を停止したあとに次のメッセージが表示されます。通信結果レポートをプリントする場合は、①を押します。

```
ｹｯｶﾚﾎﾟｰﾄ ﾌﾟﾘﾝﾄ?
1:ﾊｲ 2:ｲｲｴ
```

蓄積できる予約ファイル数について

メモリー内に蓄積されている予約ファイル数が 20 件になると次のメッセージが表示され、これ以上ファイルを保存できません。メモリー内の予約ファイルの送信が終了するなど、予約ファイル数が少なくなってから送信してください。

```
ｾｯﾄ ﾃﾞｷﾏｾﾝ
```

お知らせ

1. システム登録の「012 通信結果レポート」(☛p.258)で、通信結果レポートのプリント方法の初期値を変更できます。

誤送信防止の機能を使う

誤った宛先への送信を防止するため、本機には、複数宛先指定の禁止、宛先確認、直接ダイヤル制限、直接ダイヤル再入力の４つの機能があります。

複数宛先指定を禁止する（複数宛先指定）

お買い上げ時は、複数宛先の指定、およびグループダイヤルを禁止するように設定されています。
この機能が設定されている場合、2 カ所目の宛先指定時に、次のメッセージが表示されます。

```
ﾌｸｽｳｱﾃｻｷﾉ ｾﾝﾀｸﾊ
ﾃﾞｷﾏｾﾝ
```

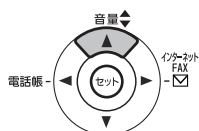
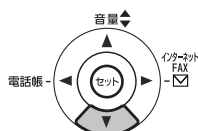
- 複数宛先指定の禁止を解除する場合は、システム登録の「117 複数宛先指定」（☛p.262）を「アリ」に設定します。
- プログラムダイヤルはこの機能の設定に関わらず複数宛先への送信が可能です。

宛先を確認してから送る（宛先確認）

本機では、お買い上げ時、常に宛先確認をしてから送信を開始するように設定されています。
宛先確認が設定されている場合、宛先を確認しないで スタート を押すと、宛先確認の操作を促すメッセージが表示されます。

- 宛先確認をする場合は、システム登録の「125 宛先確認」（☛p.262）を「アリ」に設定しておきます。お買い上げ時は、「アリ」に設定されています。

宛先を指定して スタート を押すと、宛先の確認を促すメッセージが表示されます。
次の手順で操作してください。

1 宛先を確認する

または　を押す

```
∨∧ﾃﾞ ｱﾃｻｷｦｶｸﾆﾝｼﾃ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

```
<01> PANASONIC
5553456
```

↓

```
ｱﾃｻｷﾏﾁｶﾞｲｱﾘﾏｾﾝｶ?
ﾊｲ:ｽﾀｰﾄ ｲｲｴ:ｸﾘｱｰ
```

2 スタート

を押す

- 複数宛先を指定している場合、▲または▼で、すべての宛先を確認しないで スタート を押すと、右のメッセージが表示され、手順１へ戻ります。

```
ｽﾍﾞﾃﾉｱﾃｻｷｦｶｸﾆﾝｼ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

直接ダイヤルを制限する（直接ダイヤル制限）

電話番号を直接入力する操作を禁止するように設定できます。

- 直接ダイヤル入力を禁止する場合は、システム登録の「136 直接ダイヤル制限」（☛p.263）を「アリ」に設定します。お買い上げ時は、「ナシ」に設定されています。
- この機能を設定すると、再ダイヤルは使用できません。ただし、再ダイヤル待ちが表示されている場合は 再ダイヤル押すと、再ダイヤルが開始されます。

直接ダイヤル制限が「アリ」に設定されている場合、テンキー、再ダイヤルを押すと、次のメッセージが表示されます。

```
ﾁｮｸｾﾂﾀﾞｲﾔﾙ ｾｲｹﾞﾝ
ﾁｭｳ ｺﾉｿｳｻﾊﾃﾞｷﾏｾﾝ
```

直接ダイヤル時に再入力する（直接ダイヤル再入力）

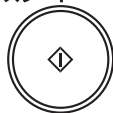
本機では、お買い上げ時、電話番号を直接入力する場合に電話番号の再入力画面が表示され、もう一度電話番号を入力するように設定されています。1 回目と 2 回目の電話番号が一致した場合にだけ送信ができます。

- 直接ダイヤル再入力の設定を変更する場合は、システム登録の「137 直ダ再入力」（☛p.263）で設定を変更してください。お買い上げ時は、「アリ」に設定されています。
- システム登録の「136 直接ダイヤル制限」が「アリ」に設定されている場合は、「137 直ダ再入力」（☛p.263）で「アリ」を設定しても、再入力画面は表示されません。
- 1 回目と 2 回目の宛先が一致しない場合は、「アテサキガ　イッチシテイマセン」と表示されます。

直接ダイヤル再入力が「アリ」に設定されている場合、1 回目の電話番号を入力し、セット または スタート を押すと、自動的に再入力画面が表示されます。次の手順に従って操作してください。

1 電話番号をもう一度入力する

```
TEL.NO. ｻｲﾆｭｳﾘｮｸ
12345678
```

2 スタート

を押す

- 1 回目と 2 回目の電話番号が一致すると、送信が開始されます。
- 1回目と2回目の電話番号が一致しない場合は、「アテサキガ イッチシテイマセン」と表示されます。この場合は、1 回目の電話番号の入力から、操作し直します。

メモリーを使わずに送る（ダイレクト送信）

本機では、何も設定を変更しないと、メモリー送信の機能がはたらき、読み取った原稿がいったんメモリーに蓄積されてから送信されます。
☛ メモリー送信について（p.75）

「メモリー優先」（ファンクション ⑧ ⑨）を「オフ」に設定すると、読み取った原稿はメモリーに蓄積されず、読み取りながら送信されます。この送信方法を、「ダイレクト送信」と呼びます。

ダイレクト送信は、次のような場合にお使になると便利です。

● **読み取った文書がメモリーに入らない**

原稿の枚数が多いなどで、読み取った文書をすべてメモリーに蓄積できないことがあります。
このような場合に、ダイレクト送信を利用すると、原稿を分割しないで送信できます。

● **割り込んでファクス送信したい**

緊急にファクス送信する必要が生じた場合に、すでにメモリーに蓄積されている送信予約に割り込んで優先的にファクス送信できます。ダイレクト送信で送信予約した原稿は、実行中の通信が終了すると、送信が開始されます。なお、ダイレクト送信では、複数相手先への送信はできません。

メモリー送信で原稿の送信中、原稿の受信中、または受信文書のプリント中は、ディスプレイに次のメッセージが表示されています。

• メモリー送信中

```
＊ ソウシン シテイマス ＊
（ 宛先名 ）
```

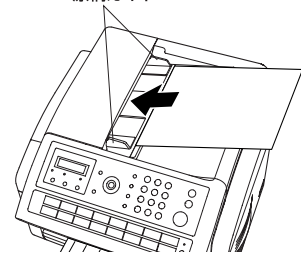
• 受信中

```
＊ジュシン シテイマス＊
（ 相手先 ID）
```

• 受信文書のプリント中

```
＊ プリント シテイマス ＊
メモリー ファイル プリント
```

ダイレクト送信をする場合は、次の手順で「メモリー優先」を「オフ」に設定してください。

1 **原稿をセットする**

送る面を上向きにして、原稿ガイドを原稿の幅に合わせる
☛ 原稿のセットのしかた（p.47）

2 **必要に応じて、濃度や文字サイズを選ぶ**

☛ 濃度や文字サイズを設定する（p.74）

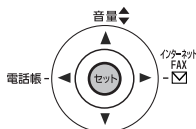
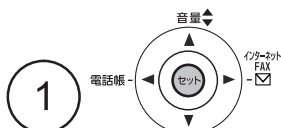
```
アテサキ ヲ イレテクダサイ
スタートヲ オシテクダサイ
```

3 **メモリー優先の画面を表示する**

ファンクション

を押す

```
メモリーユウセン?
             オン<>
```

4

を押す

```
アテサキ ヲ イレテクダサイ
```

<次ページへつづく>

5 宛先を指定する

- ワンタッチダイヤル（☛p.68）
  短縮ダイヤル（☛p.69）
  電話帳（☛p.70）
  直接ダイヤル（☛p.66）

例：短縮ダイヤル「010」

```
[010]ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ
5553456
```

6 スタート を押す

- 宛先確認の画面が表示されます。
- 直接入力の場合は、ダイヤル再入力の画面が表示されます。テンキーで相手の電話番号を再入力して、スタートを押します。

```
V∧ﾃﾞ ｱﾃｻｷｦｶｸﾆﾝｼﾃ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

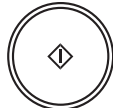
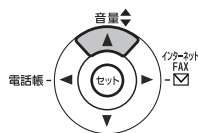
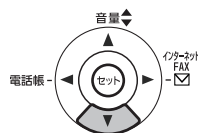
直接ダイヤルの場合

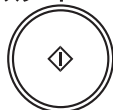
```
TEL.NO. ｻｲﾆｭｳﾘｮｸ
12345678
```

7 入力済みの宛先をすべて確認する

または
を押す

- 宛先確認をした場合だけ送信できます。

```
[010]ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ
5553456
```

```
ｱﾃｻｷﾏﾁｶﾞｲｱﾘﾏｾﾝｶ?
ﾊｲ:ｽﾀｰﾄ ｲｲｴ:ｸﾘｱｰ
```

8 スタート

を押す

- ディスプレイには、「ユウセン　ヨヤク　サレテイマス」と表示されます。
- 実行中の通信が終了すると、送信（原稿の読み取り）が開始されます。
- 送信を中止する場合は、ストップを押します。

```
*ﾀﾞｲﾔﾙ ｼﾃｲﾏｽ*
ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ
```

お知らせ

1. 内線電話などをお使いの場合、外部アクセス番号をダイヤルしたあとに、ポーズ を押してから相手の番号を入力してください。詳しくは、☛記号を使ったダイヤル方法（p.67）を参照してください。
2. 回転ダイヤル式回線を使用しているとき、ダイヤルの途中でトーン発信に変更する場合、⊛（トーン）を押してください。詳しくは、☛ 記号を使ったダイヤル方法（p.67）を参照してください。
3. 送信を停止する場合は、ストップを押します。
   ディスプレイには、次のメッセージが表示されます。

```
ｿｳｼﾝ ﾃｲｼ?
1:ﾊｲ 2:ｲｲｴ
```

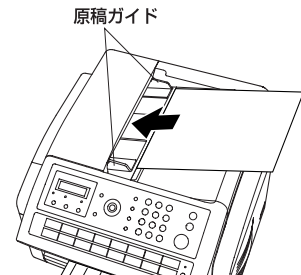
①を押すと、送信が停止されます。なお、ダイレクト送信の場合、通信結果レポートが「オン」に設定されていても、通信結果レポートはプリントされません。

相手を確認してから送る(手動送信)

オンフックダイヤルを利用して、回線上の音を確認しながら手動でファクス送信を開始できます。

- オンフックダイヤルとは、(モニター)を利用して、回線上の音を確認する操作のことです。

1 原稿をセットする

送る面を上向きにして、原稿ガイドを原稿の幅に合わせる
☛ 原稿のセットのしかた(p.47)

2 必要に応じて、濃度や文字サイズを選ぶ

☛ 濃度や文字サイズを設定する(p.74)

```
ｱﾃｻｷ ｦ ｲﾚﾃｸﾀﾞｻｲ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

3 (モニター) を押す

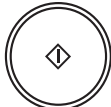
- モニタースピーカーからダイヤル発信音が聞こえます。

```
＊ﾀﾞｲﾔﾙ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ＊
▮
```

4 テンキーボタンで電話番号をダイヤルする

例：「5551234」を入力

```
＊ﾀﾞｲﾔﾙ ｼﾃｲﾏｽ＊
5551234▮
```

5 モニタースピーカーから「ピー」という音がしたら

スタート
を押す

- 原稿の読み取りが開始され、送信が開始されます。

```
＊ ｿｳｼﾝ ｼﾃｲﾏｽ ＊
```

お知らせ

1. モニターを利用するには、システム登録の「137 直ダ再入力」(☛p.263)が「ナシ」に設定されている必要があります(お買い上げ時は、「アリ」に設定されています)。
2. 内線電話などをお使いの場合、外部アクセス番号をダイヤルしたあとに、[ポーズ]を押してから相手の番号を入力してください。詳しくは、☛ 記号を使ったダイヤル方法(p.67)を参照してください。
3. 回転ダイヤル式回線を使用しているとき、ダイヤルの途中でトーン発信に変更する場合、(＊)(トーン)を押してください。詳しくは、☛ 記号を使ったダイヤル方法(p.67)を参照してください。
4. 送信を停止する場合は、[ストップ]を押します。ディスプレイには、次のメッセージが表示されます。

```
ｿｳｼﾝ ﾃｲｼ?
1:ﾊｲ 2:ｲｲｴ
```

①を押すと、送信が停止されます。なお、手動送信の場合、通信結果レポートが「オン」に設定されていても、通信結果レポートはプリントされません。

次の送信を予約する（メモリー送信予約）

メモリー送信で原稿を送信中、または原稿の受信中に、次の操作ができます。

- 次の送信をメモリーに蓄積する（最大 20 件）
- 優先ファイルの送信を予約する（ダイレクト送信）

メモリー送信で原稿の送信中、原稿の受信中、または受信文書のプリント中は、ディスプレイに次のメッセージが表示されています。

• メモリー送信中

```
＊ ｿｳｼﾝ ｼﾃｲﾏｽ ＊
（宛先名）
```

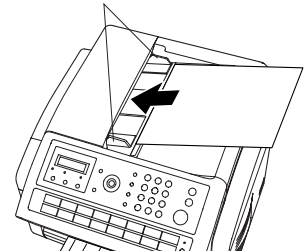
• 受信中

```
＊ｼﾞｭｼﾝ ｼﾃｲﾏｽ＊
（相手先 ID）
```

• 受信文書のプリント中

```
＊ ﾌﾟﾘﾝﾄ ｼﾃｲﾏｽ ＊
ﾒﾓﾘｰ ﾌｧｲﾙ ﾌﾟﾘﾝﾄ
```

次の送信を予約する場合は、次の手順で操作してください。

1 原稿をセットする

送る面を上向きにして、原稿ガイドを原稿の幅に合わせる

☛ 原稿のセットのしかた（p.47）

2 必要に応じて、濃度や文字サイズを選ぶ

☛ 濃度や文字サイズを設定する（p.74）

```
ｱﾃｻｷ ｦ ｲﾚﾃｸﾀﾞｻｲ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

3 宛先を指定する

- ワンタッチダイヤル（☛p.68）
  短縮ダイヤル（☛p.69）
  電話帳（☛p.70）
  直接ダイヤル（☛p.66）

例：短縮ダイヤル「010」

```
[010]ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ
5553456
```

4 スタート を押す

- 宛先確認の画面が表示されます。
- 直接入力の場合は、ダイヤル再入力の画面が表示されます。テンキーで相手の電話番号を再入力して、スタートを押します。

```
∨∧ﾃﾞ ｱﾃｻｷｦｶｸﾆﾝｼﾃ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

直接ダイヤルの場合

```
TEL.NO. ｻｲﾆｭｳﾘｮｸ
12345678
```

5 入力済みの宛先をすべて確認する

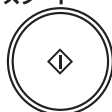
または
を押す

- 宛先確認をした場合だけ送信できます。

```
[010]ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ
5553456
```

↓

```
ｱﾃｻｷﾏﾁｶﾞｲｱﾘﾏｾﾝｶ?
ﾊｲ:ｽﾀｰﾄ ｲｲｴ:ｸﾘｱｰ
```

6 スタート

を押す

- 原稿の読み取りが開始され、メモリーに蓄積されます。
  実行中の通信やプリントが終了すると、送信が開始されます。
  (☛ お知らせ 1)
- 送信を中止する場合は、ストップを押します。

```
*チクセキ チュウ*NO.123
マイスウ=001        01%
```

↓

```
* チクセキ カンリョウ *
ゲンコウ マイスウ=003
```


お知らせ

1. メモリー送信予約の消去については、☛ 通信予約ファイルを消去する（p.122）を参照ください。

同じ相手にもう一度送る（再ダイヤル）

自動再ダイヤル

相手が話し中などで、つながらなかった場合は、約 3 分間隔で 2 回まで自動的に再ダイヤルされます。
再ダイヤル待ちになったときは、次の画面のように「ダイヤルマチ」のメッセージが表示されます。

```
ﾀﾞｲﾔﾙﾏﾁ
<01>（ 宛先名）
```

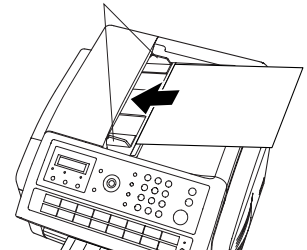
- 再ダイヤル待ちの通信予約ファイルは、通信予約時刻や宛先を変更できません。
- 再ダイヤル待ちの通信を中止したい場合は、「ダイヤルマチ」のメッセージが表示されている状態で、ストップ を押します。
- 「ダイヤルマチ」が表示されている状態で 再ダイヤル を押すと、再送信できます。

手動再ダイヤル

再ダイヤル を押すと、最後に通信予約をした宛先に、もう一度ダイヤルできます。
ここでは、メモリー送信、メモリー優先それぞれについて、再ダイヤル（手動）の操作を説明します。
再ダイヤルをする場合は、次の手順で操作します。

● **最後に通信予約をした宛先に再ダイヤルする（メモリー送信）**

1 原稿をセットする

送る面を上向きにして、原稿ガイドを原稿の幅に合わせる
☛ 原稿のセットのしかた（p.47）

2 必要に応じて、濃度や文字サイズを選ぶ

☛ 濃度や文字サイズを設定する（p.74）

```
ｱﾃｻｷ ｦ ｲﾚﾃｸﾀﾞｻｲ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

3 再ダイヤル/ポーズ **を押す**

```
TEL.NO.
12345678
```

4 スタート **を押す**

- ダイヤル再入力の画面が表示されます。

```
TEL.NO. ｻｲﾆｭｳﾘｮｸ
▮
```

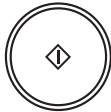
5 もう一度ダイヤルする

テンキーで相手の電話番号を再入力する

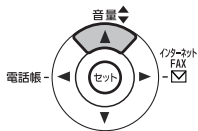
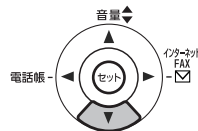
```
TEL.NO. ｻｲﾆｭｳﾘｮｸ
12345678
```

6

スタート

を押す

- 宛先確認の画面が表示されます。
- 手順 3 で入力した電話番号と異なる場合は、「アテサキガイッチシテイマセン」と表示され、手順3に戻ります。

```
V∧デ゛ アテサキヲカクニンシテ
スタートヲ オシテクダ゛サイ
```

7 入力済みの宛先をすべて確認する

または を押す

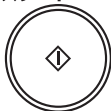
- 宛先確認をした場合だけ送信できます。

```
TEL. NO.
12345678
```

```
アテサキマチガ゛イアリマセンカ?
ハイ:スタート イイエ:クリアー
```

8

スタート

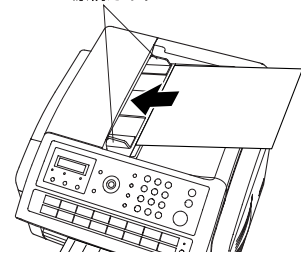
を押す

- 原稿の読み取りが開始されます。読み取りが終了した原稿から、最後に通信予約をした宛先に送信が開始されます。
- 送信を中止する場合は、ストップを押します。

```
*チクセキ チュウ*NO. 123
マイスウ=001        01%
```

```
*ダ゛イヤル シテイマス*
12345678
```

● 最後に通信予約をした宛先に再ダイヤルする（ダイレクト送信）

1 原稿をセットする

送る面を上向きにして、原稿ガイドを原稿の幅に合わせる
☛ 原稿のセットのしかた（p.47）

2 必要に応じて、濃度や文字サイズを選ぶ

☛ 濃度や文字サイズを設定する（p.74）

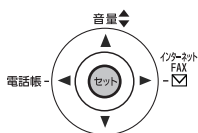
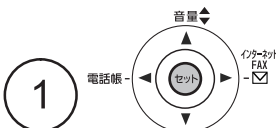
```
アテサキ ヲ イレテクダ゛サイ
スタートヲ オシテクダ゛サイ
```

3 メモリー優先の画面を表示する

ファンクション 8 9

を押す

```
メモリーユウセン?
           オン<>
```

4

を押す

```
アテサキ ヲ イレテクダ゛サイ
```

5

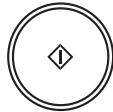
再ダイヤル/ポーズ

を押す

```
スタートデ゛ ダ゛イヤル カイシ
12345678■
```

<次ページへつづく>

6 スタート

を押す

- ダイヤル再入力の画面が表示されます。

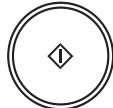
```
TEL.NO. ｻｲﾆｭｳﾘｮｸ
▮
```

7 **もう一度ダイヤルする**

テンキーで相手の電話番号を再入力する

```
TEL.NO. ｻｲﾆｭｳﾘｮｸ
12345678
```

8 スタート

を押す

- 宛先確認の画面が表示されます。
- 手順５で入力した電話番号と異なる場合は、「アテサキガイッチシテイマセン」と表示され、手順５に戻ります。

```
∨∧ﾃﾞ ｱﾃｻｷｦｶｸﾆﾝｼﾃ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

9 **入力済みの宛先をすべて確認する**

または

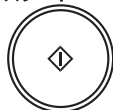
を押す

- 宛先確認をした場合だけ送信できます。

```
TEL.NO.
12345678
```

↓

```
ｱﾃｻｷﾏﾁｶﾞｲｱﾘﾏｾﾝｶ?
ﾊｲ:ｽﾀｰﾄ ｲｲｴ:ｸﾘｱｰ
```

10 スタート

を押す

- 原稿の読み取りが開始され、最後に通信予約をした宛先に送信が開始されます。（☛ お知らせ 1）
- 送信を中止する場合は、ストップを押します。

```
*ﾀﾞｲﾔﾙ ｼﾃｲﾏｽ*
12345678
```

お知らせ

1. 送信を停止する場合は、ストップを押します。
   ディスプレイには、次のメッセージが表示されます。

```
ｿｳｼﾝ ﾃｲｼ?
1:ﾊｲ 2:ｲｲｴ
```

   ①を押すと、送信が停止されます。なお、ダイレクト送信の場合、通信結果レポートが「オン」に設定されていても、通信結果レポートはプリントされません。

敬称を付ける

発信元印字の宛先（TO）に「サマ」を付加できます。
システム登録の「134 宛先名敬称付加」（☛p.262）で、発信元印字の宛先（TO）に「サマ」を印字するかどうかを設定できます。お買い上げ時は、「サマ」を印字するように設定されています。

【発信元印字の例】

通信結果レポートをプリントする

通信結果レポートをプリントして、通信結果を確認するように設定できます。通信結果レポートの設定によって、次のように動作します。

・「オフ」に設定した場合　　：通信結果レポートはプリントされません。
・「オン」に設定した場合　　：通信が終了すると、自動的に通信結果レポートがプリントされます。
・「ミツウシン」に設定した場合：通信が未通信のときだけ、通信結果レポートがプリントされます。

1 通信結果レポートの画面を表示する

ファンクション

を押す

```
ﾂｳｼﾝ ｹｯｶ ﾚﾎﾟｰﾄ?
        ﾐﾂｳｼﾝ<>
```

2 ①～③のどれかのボタンを押す

(1) オフのとき （プリントしない）

(2) オンのとき（常にプリント）

(3) ミツウシンのとき（通信が失敗したときのみプリント）

• ◀または▶を押して設定を変更することもできます。

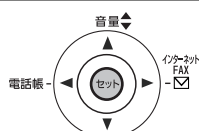
```
ﾂｳｼﾝ ｹｯｶ ﾚﾎﾟｰﾄ?
          ｵﾌ<>
```

または

```
ﾂｳｼﾝ ｹｯｶ ﾚﾎﾟｰﾄ?
          ｵﾝ<>
```

または

```
ﾂｳｼﾝ ｹｯｶ ﾚﾎﾟｰﾄ?
        ﾐﾂｳｼﾝ<>
```

3

を押す

ファクスを受ける

受信モードについて

本機には、次の表のように、4 種類の受信方法があります。
お買い上げ時は「FAX 専用」に設定されています。お使いになる環境に合わせて設定してください。

電話回線の使用方法	適した受信モードと ディスプレイ表示	着信時の動作
ファクス専用で使いたい	**FAX 専用** システム登録の「17 受信モード」を「FAX センヨウ」に設定する 12-15 15:00 00%	着信すると、すぐにファクス受信が開始されます。 ☛FAX 専用に設定しているとき（p.91）

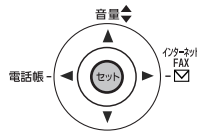
以下は、設定の変更が必要です。☛ 受信モードを設定する（p.90）

電話回線の使用方法	適した受信モードと ディスプレイ表示	着信時の動作
電話として使うことが多い	**手動** システム登録の「17 受信モード」を「シュドウ」に設定する 12-15 15:00 <ｼｭﾄﾞｳ>	着信すると、呼び出し音が鳴り続けます。 ファクスを自動受信することはできません。 本機に外部電話機を接続してお使いになっている場合、接続した外部電話機の受話器で会話したあと、ファクスを受信できます。 会話したい場合は、外部電話機の受話器を上げます。 スタート を押すとファクスを受信できます。 ☛ 手動受信に設定しているとき（p.91）
電話とファクスの両方に使いたい	**F/T 切り替え** システム登録の「17 受信モード」を「FAX/TEL キリカエ」に設定する 12-15 15:00 <F/T ｷﾘｶｴ>	着信すると、呼び出し音が鳴ります。 ・相手がファクスの場合：ファクスであることを検知すると、自動的に受信が開始されます。 ・相手が電話の場合：呼び出し音が鳴り続けます。外部電話機の受話器を上げると会話できます。 ☛F/T 切り替えに設定しているとき（p.93）
留守番電話を接続し、電話とファクスの両方に使いたい （☛ お知らせ 1）	**留守録接続** システム登録の「17 受信モード」を「ルスロクセツゾク」に設定する 12-15 15:00 <ﾙｽﾛｸ ｾﾂｿﾞｸ>	着信すると、呼び出し音が鳴り、応答メッセージが流れます。 ・相手がファクスの場合：ファクスであることを検知すると、自動的に受信が開始されます。 ・相手が電話の場合：外部電話機（留守番電話）の録音が開始されます。 ☛ 留守録接続に設定しているとき（p.94）

お知らせ

1. 接続する外部電話機（留守番電話）によっては、「留守録接続」時に正常に動作しない場合があります。

受信モードを設定する

受信モードを設定する場合は、次の手順で操作します。

1 システム登録の画面を表示する

ファンクション ( ) (7) (4) [セット] を押す

ｷｰｵﾍﾟﾚｰﾀｰ ｺｰﾄﾞ
ｺｰﾄﾞ=■

2 キーオペレーターコードを入力する

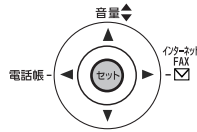
（キーオペレーター
　コードを入力して）

[セット] を押す

ｼｽﾃﾑ ﾄｳﾛｸ
NO.=■　　(01-177)

3 設定画面を表示する

(1) (7) [セット] を押す

ｼﾞｭｼﾝ ﾓｰﾄﾞ?
FAX ｾﾝﾖｳ<>

4 ①～④のボタンを押し、受信モードを設定する

(1) 手動のとき

(2) FAX 専用のとき

(3) F/T 切り替えのとき

(4) 留守録接続のとき

- ◀または▶を押して設定を変更することもできます。

ｼﾞｭｼﾝ ﾓｰﾄﾞ?
ｼｭﾄﾞｳ<>

または

ｼﾞｭｼﾝ ﾓｰﾄﾞ?
FAX ｾﾝﾖｳ<>

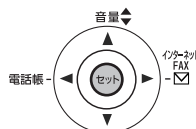
または

ｼﾞｭｼﾝ ﾓｰﾄﾞ?
FAX/TEL ｷﾘｶｴ<>

または

ｼﾞｭｼﾝ ﾓｰﾄﾞ?
ﾙｽﾛｸ ｾﾂｿﾞｸ<>

5 設定を終了する

[セット] ストップ を押す

FAX専用に設定しているとき

受信モードが「FAX 専用」に設定されている場合、相手がファクス送信のときは、自動的に受信が開始されます。特に操作の必要はありません。受信文書は、文書の裏面を上側にして排出されます。

手動受信に設定しているとき

受信モードが「手動」に設定され、本機に外部電話機が接続されている場合は、外部電話機の受話器で会話をしたあとに、ファクス受信を指示できます。
ここでは、ファクス本体で受信を指示する操作、および外部電話機から受信の指示をする方法（リモート受信）について説明します。

ファクス本体で受信する

ファクス本体で受信する場合は、次の手順で操作します。

1 呼び出し音が鳴ったら、外部電話機の受話器を上げる

- 電話から「ポーッ、ポーッ」という音が聞こえたら、相手はファクスです。
- 無音の場合も、相手はファクスです。

2 自動原稿送り装置（ADF）に原稿がないことを確認する

3 「ポー、ポー・・・」という音を確認したら

を押す

- 受信が開始されます。
- 受信文書は、文書の裏面を上側にして排出されます。
- 原稿をセットしたまま スタート を押すと、通信エラーとなります（設定により、通信結果レポートがプリントされます）。この場合は、セットされている原稿を取り除き、送信側に連絡して、もう一度受信してください。

外部電話機で受信する（リモート受信）

プッシュ式の外部電話機をお使いの場合、外部電話機から受信を指示できます。この操作をリモート受信と呼びます。
外部電話機で送信側と電話したあと、受信に切り替えることもできます。
リモート受信は、システム登録を次のように設定している場合に使えます。必要に応じて設定を変更してください。

- 「47 リモート受信」（☛p.260）.......「アリ」
- 「17 受信モード」（☛p.258）...........「手動」または「F/T 切り替え」
- 「21 着信ベル回数」（☛p.259）.......「17 受信モード」が「F/T 切り替え」の場合、着信してから外部電話機の受話器を上げることができる程度に、着信ベル回数を多めに設定しておく

お買い上げ時、システム登録は次のように設定されています。

- 「47 リモート受信」.............................「アリ」
- 「17 受信モード」.................................「FAX 専用」
- 「21 着信ベル回数」.............................「1 回」

リモート受信をする場合は、次の手順で操作します。

1 **呼び出し音が鳴ったら、外部電話機の受話器を上げる**

- 電話から「ポーッ、ポーッ」という音が聞こえたら、相手はファクスです。
- 無音の場合も、相手はファクスです。

2 **受信を指示する**

  を押す（2 秒以内に押す）

3 **受話器を戻す**

- 外部電話機から電話をかけた時は、リモート受信できません。
- 受信文書は、文書の裏面を上側にして排出されます。

F/T切り替えに設定しているとき

受信モードが「F/T 切り替え」に設定されている場合、着信すると、相手がファクスか電話かが自動的に検知され、本機は次のように動作します。

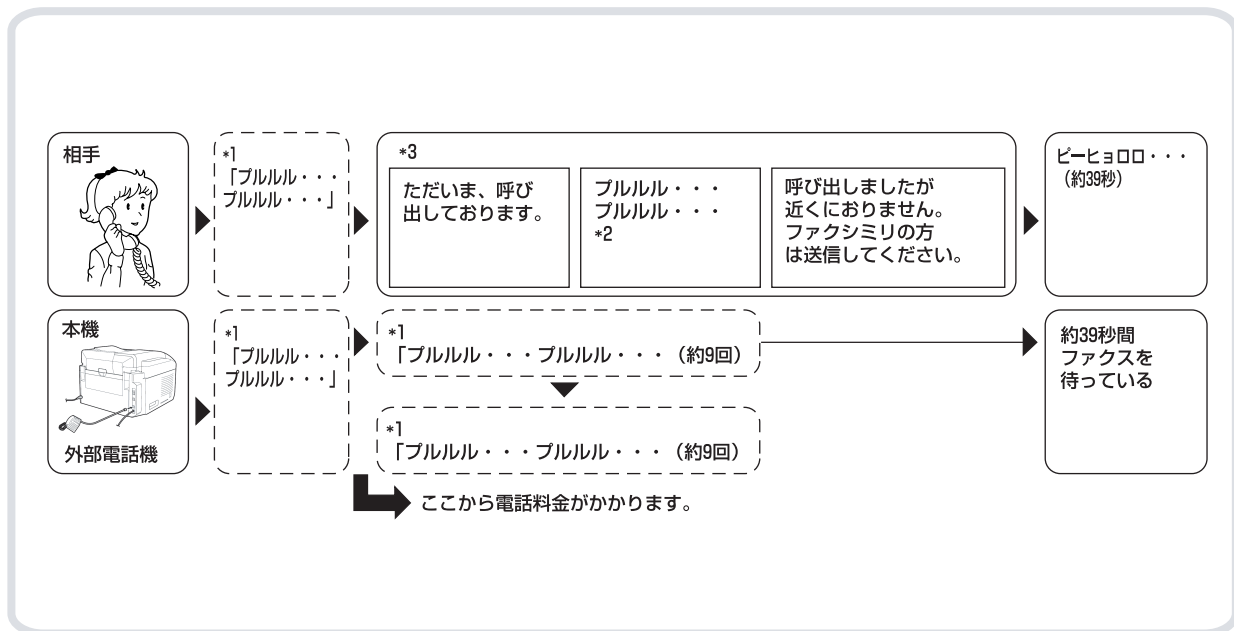
● **相手がファクスの場合**

自動的にファクス受信が開始されます。受信文書は、文書の裏面を上側にして排出されます。

● **相手が電話の場合**

呼び出し音が鳴ります。外部電話機の受話器を上げると会話できます。

- 相手がファクスの場合は、スタート を押すと受信できます。
- 受信文書は、文書の裏面を上側にして排出されます。
- ディスプレイに「ジュシン シテイマス」と表示されているときは、受話器を持ち上げたあと ストップ を押すと会話できます。

ファクス / 電話自動切替にセットしているとき、電話がかかってくると

*1 システム登録の「021　着信ベル回数」（☛p.259）で、「ただいま呼び出しております」のメッセージが聞こえる前に、呼び出し音を鳴らすことができます。着信ベル回数を設定すると、相手が自動送信のファクスでも呼び出し音が鳴ります。お買い上げ時は、「1 回」に設定されています。

*2 システム登録の「018 F/T ベル回数」（☛p.258）で、ファクスの呼び出し音を鳴らす回数を変更できます。「018 F/T ベル回数」を変更すると、相手側に流れる「プルルル・・・」音の回数も変わります。お買い上げ時は、「9 回」に設定されています。

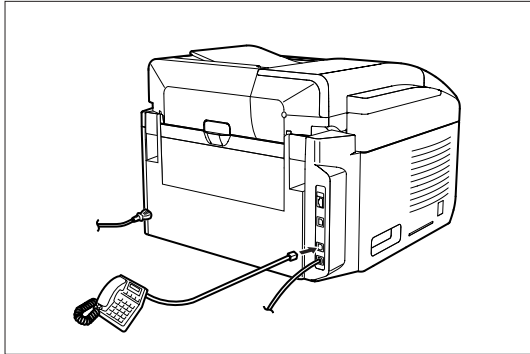
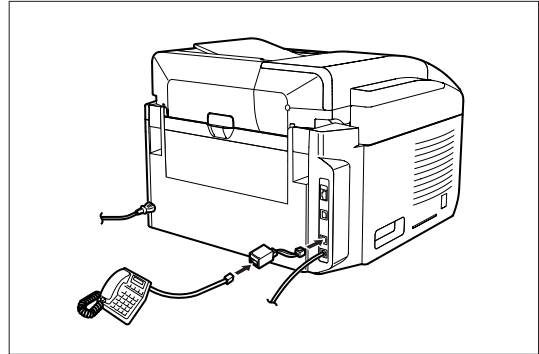
*3 システム登録の「072 音声応答」（☛p.261）を「アリ」に設定すると、音声応答メッセージが相手に流れます。「ナシ」に設定すると、音声応答メッセージは流れず、呼び出し音だけが流れます。お買い上げ時は、「ナシ」に設定されています。

お知らせ

1. 呼び出し音の音量を調整できます。☛ 呼び出し音量を設定する (p.44) を参照してください。

留守録接続に設定しているとき

外部電話機（留守番電話）は、次のようにして本機に接続します。

例 1：回線コードを本機の TEL 端子に直接差し込む

例 2：回線コードを、アダプタを介して本機の TEL 端子に差し込む

受信モードが「留守録接続」に設定されている場合、着信するとすぐに外部電話機（留守番電話）に接続し、留守番電話の応答メッセージが流れます。

- 応答メッセージが流れている間、相手側が電話かファクスかを判別しています。
  - ファクスの場合：　自動的に受信が開始されます。
  - 電話の場合　　：　留守番電話に、相手のメッセージが録音されます。

留守番電話の応答メッセージ例

はい。○○です。お電話に出られません。
ピーという発信音のあとにメッセージをお願いします。
また、ファクスの方は送信してください。お電話ありがとうございました。

- 無音検知について
  ファクス信号（「ポー、ポー・・・」）を送信しないファクスから着信した場合に、5 秒以上無音が続くと自動的にファクス受信をするように設定できます。
  この機能を設定しておくと、留守番電話への無言のメッセージ録音を防止できます。
  無音検知機能を利用したい場合は、システム登録で、次の２つの項目を設定します。

  ① システム登録の「20 無音検知」（☛p.258）を「アリ」に設定する

  ② システム登録の「19 応答メッセージ時間」（☛p.258）を、留守番電話の応答メッセージの長さに合わせて設定する
  留守番電話の応答メッセージの実際の長さより 5 〜 6 秒長く設定することをお勧めします。

お知らせ

1. お使いの外部電話機（留守番電話）によっては、本機より先に電話が切れる場合があります。この場合は、サービス実施会社へご相談ください。
2. 外部電話機（留守番電話）の録音残量がなくなった場合、ファクス受信ができなくなることがあります。
3. ナンバーディスプレイ対応の外部電話機を接続している場合、本機が先にナンバーディスプレイ信号に応答するため、外部電話機（留守番電話）にはナンバーディスプレイ表示はされません。
4. 本機をナンバーディスプレイ契約している回線に接続し、外部電話機（留守番電話）を接続した場合、外部電話機（留守番電話）が応答する前にファクス受信に切り替わることがあります。このような場合は、外部電話機（留守番電話）のナンバーディスプレイ機能をオフにし、外部電話機（留守番電話）のベル回数を短く設定（例：１回）してください。
   上記のように設定しても改善しない場合には、サービス実施会社にご連絡ください。

縮小受信について

本機は、定型サイズの A4 サイズ、レターサイズの市販の用紙をセットできます。定型サイズ以外の文書を受信した場合、1 ページにプリントできないことがあります。

このような場合は、縮小受信機能がはたらき、1 ページに縮小するか、またはページを分割してプリントされます。次のうち、最も適切な設定が自動的に選択されます。

● **自動縮小**

受信文書の各ページは、いったんメモリーに蓄積されます。

1ページの長さを基に、適切な縮小率（72 ～ 100%）が自動的に計算され、縮小して 1 ページにプリントされます。

ただし、受信した原稿が極端に長い場合（記録用紙より 39%以上長い場合）は、ページが分割され、縮小しないでプリントされます。

● **固定縮小**

システム登録の「25 固定縮小率」（☛p.259）で、プリントする縮小率を、72 ～ 100 %（1%単位）で設定できます。受信文書は、サイズに関係なく、設定された縮小率で縮小してプリントされます。

● **縮小受信を設定する**

システム登録で、次のように設定します。

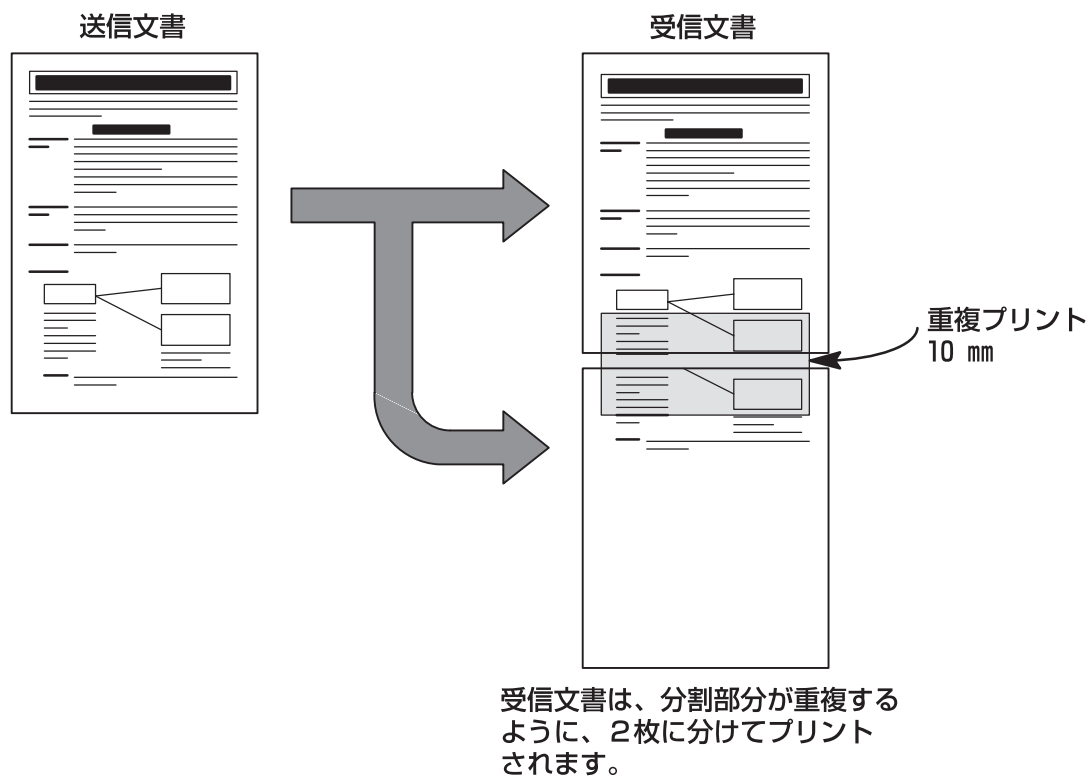
- 自動縮小に設定する場合
  「24 縮小受信」（☛p.259）を、「ジドウ」に設定します。
- 固定縮小に設定する場合（☛ お知らせ 1）
  - 「24 縮小受信」（☛p.259）を、「コテイ」に設定します。
  - 「25 固定縮小率」（☛p.259）を設定します（72 ～ 100%）。

例： A4 → A4 96%
A4 → レター 90%
レター → レター 96%
（100%に設定した場合、受信文書の端部分が切れることがあります。）

お知らせ

1. 送信側で発信元印字が画面外に設定されている場合は、縮小率を調整してください。

規定サイズ以外の原稿を受信したとき

受信した原稿が極端に長い場合（記録用紙より 39%以上長い場合）は、ページが分割され、縮小しないでプリントされます。ページを分割するとき、1 ページ目の下端 10 mm の部分と、2 ページ目の先端枚目の 10 mm の部分が重なるようにプリントされます。

お知らせ

1. システム登録の「24 縮小受信」（☛p.259）の設定によって、次のようにプリントされます。

「ジドウ」に設定されている場合
受信文書が長く、分割してプリントされたときは、縮小せずにプリントされます。

「コテイ」に設定されている場合
受信文書は、システム登録の「25　固定縮小率」で設定した縮小率でプリントされます。

メモリー代行受信について

受信中に、用紙がなくなった、用紙がつまった、またはトナーがなくなった場合は、受信文書は自動的にメモリーに蓄積されます。蓄積された受信文書は、用紙を補給し、用紙なしのエラーを対処する、用紙づまりを処置する、トナーカートリッジを交換するとプリントされます。（☛ お知らせ 1、2）

1 **メモリー受信が終了すると、エラーコードがディスプレイに表示される**

```
ﾖｳｼｦ ｶｸﾆﾝｼﾃｸﾀﾞｻｲ
ｺｰﾄﾞ=0001
```

```
ﾄﾅｰ ｶﾞ ｱﾘﾏｾﾝ
ｺｰﾄﾞ=0041
```

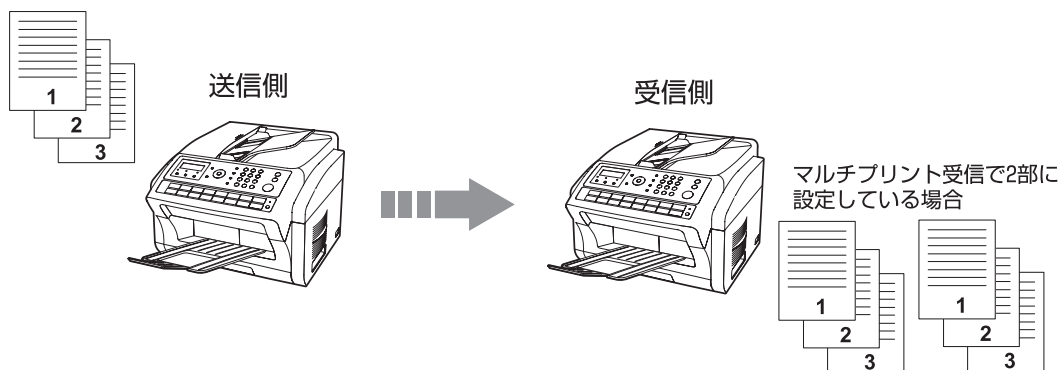
2 **エラーの対処をする**

☛ 用紙を補給する（p.287）
☛ 用紙がつまった（p.299）
☛ トナーカートリッジを交換する（p.281）

メモリーに蓄積された文書のプリントが開始されます。

```
* ﾌﾟﾘﾝﾄ ｼﾃｲﾏｽ *
ﾒﾓﾘｰ ﾌｧｲﾙ ﾌﾟﾘﾝﾄ
```

マルチ受信プリントについて

システム登録の「101 マルチ受信プリント」（☛p.262）を「オン」に設定すると、受信文書を複数部数プリントできます。プリント部数は、1 ～ 99 部を設定できます。

お知らせ

1. メモリーがいっぱいになると、受信が中止され、通信が終了します。
   メモリーに蓄積された受信文書はプリントされます。
2. 受信文書をメモリーに蓄積をしたくない場合は、システム登録の「022 代行受信」（☛p.259）を「ナシ」に設定します。

迷惑ファクスを防止する

迷惑ファクス防止とは

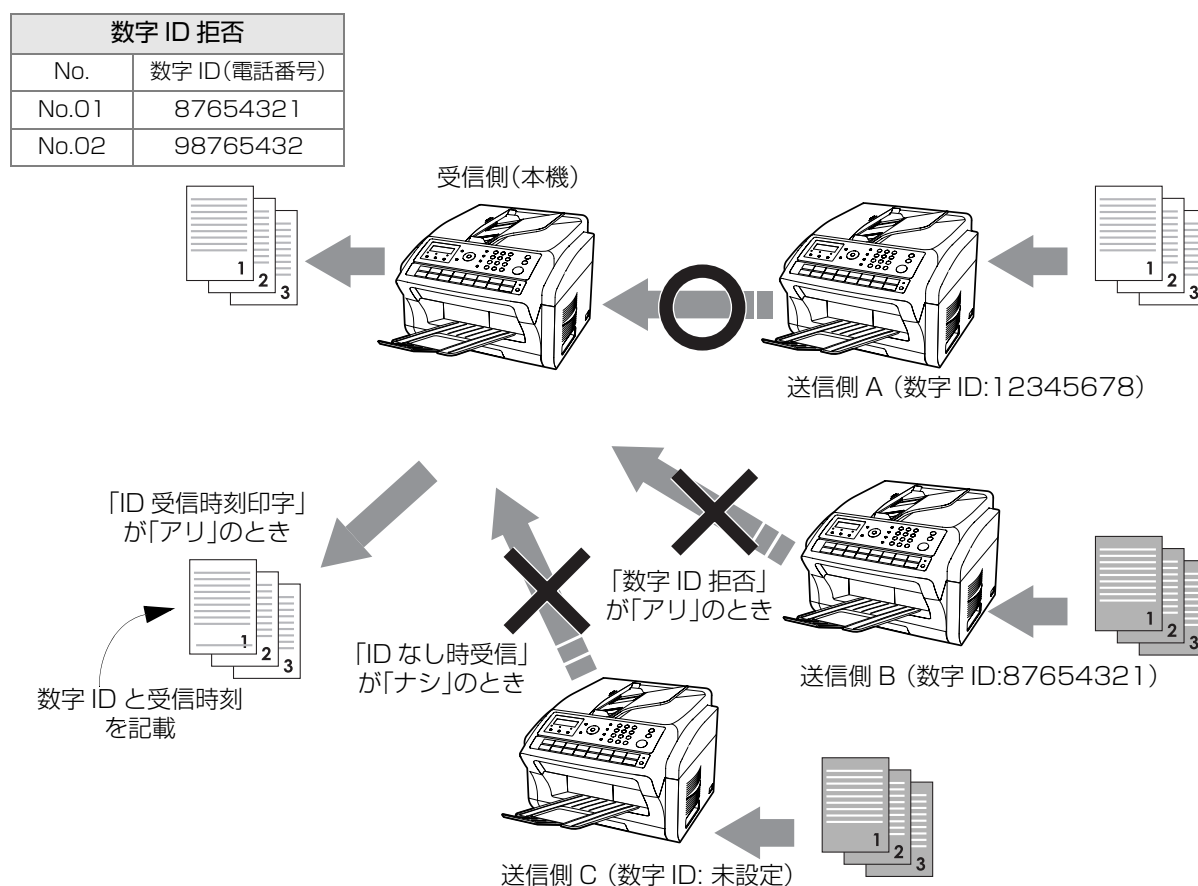
受信したくない相手から着信した場合に、受信を拒否する機能です。ダイレクトメール系のファクスや、迷惑ファクスなどを受信したくない場合に設定しておくと便利です。

迷惑ファクス防止には、数字 ID を利用した機能（☛ 本ページ下部）、発信者番号を利用した機能（☛p.102）があります。

- 数字 ID とは、ファクスの電話番号のことです。通常は自局情報の一部としてファクスに登録しておきます。
- 発信者番号とは、ナンバーディスプレイを契約している場合に、通信事業者から通知してくる発信者の番号のことです。通常は、相手の電話番号が通知されます。
- 数字 ID を利用して受信を拒否した場合は、通信管理レポートなどの結果欄に「キョヒ」と記載されます。

数字IDを利用した迷惑ファクス防止

数字 ID を利用した迷惑ファクス防止には、数字 ID 拒否、ID なし時受信、ID 受信時刻印字の 3 つの機能があります。

数字 ID 拒否	
No.	数字 ID（電話番号）
No.01	87654321
No.02	98765432

数字 ID 拒否

受信したくない相手の数字 ID を登録しておき、その数字 ID の相手から着信した場合は、受信を拒否するように設定できます。

- 受信を拒否する数字IDは、30件まで登録できます（0～9、+（＊で入力）、スペースを使い20桁まで）。
- この機能を使用する場合は、システム登録で次のように設定します。

設定項目		設定値
135 迷惑ファクス防止	数字 ID 拒否 　数字 ID 拒否 　ID 番号登録（01-30）	 「アリ」 受信を拒否する相手の数字 ID を登録（30 件まで）

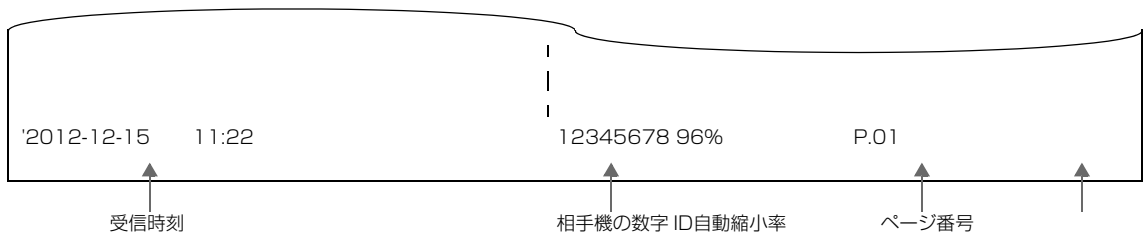
ID なし時受信

数字 ID を送出しない相手から着信した場合に、受信を拒否できます。

- ID なし時受信の設定によって、次のように動作します。
  - 「ID なし時受信」が「アリ」の場合.................. 相手機から ID が送出されない場合も受信します。
  - 「ID なし時受信」が「ナシ」の場合.................. 相手機から ID が送出されない場合は、受信を拒否します。
- この機能を使用する場合は、システム登録で次のように設定します。

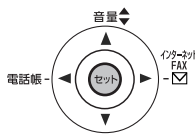
設定項目		設定値
135 迷惑ファクス防止	数字 ID 拒否 　数字 ID 拒否 　ID なし時受信	 「アリ」 「ナシ」

ID 受信時刻印字

受信時刻を記載するように設定すると、受信時刻、相手機の数字 ID、自動縮小率、ページ番号が、受信文書の下部に記載されます。

- 数字 ID が送信されなかった場合は、相手機の数字 ID は記載されません。
- この機能を使用する場合は、システム登録で次のように設定します。

設定項目		設定値
135 迷惑ファクス防止	数字 ID 拒否 　数字 ID 拒否 　ID 受信時刻印字	 「アリ」 「アリ」

迷惑ファクス防止を設定する（数字 ID を利用）

数字 ID を利用した迷惑ファクス防止を設定する場合は、次の手順で操作します。

1 システム登録の画面を表示する

ファンクション　7　4　セット　を押す

2 キーオペレーターコードを入力する

（キーオペレーター
　コードを入力して）　セット　を押す

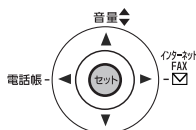
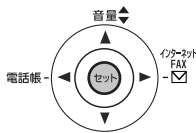
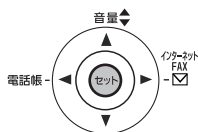
3 設定画面を表示する

1　3　5　セット　を押す

4 迷惑ファクス防止を選択する

セット　を押す

5 数字 ID 拒否を選択する

1 を押す

6 ①〜④のボタンを押し、機能を選択する

1　数字 ID 拒否のとき

2　ID なし時受信のとき

3　ID 受信時刻印字のとき

4　ID 番号登録のとき（手順 8 に進む）

- ▲または▼を押して機能を選択することもできます。

7 「アリ」に設定する

②を押す

- ◀または▶を押して設定を変更することもできます。

```
ｽｳｼﾞ ID ｷｮﾋ?
        ｱﾘ<>
```

または

```
IDﾅｼｼﾞ ｼﾞｭｼﾝ?
        ｱﾘ<>
```

または

```
IDｼﾞｭｼﾝｼﾞｺｸｲﾝｼﾞ?
        ｱﾘ<>
```

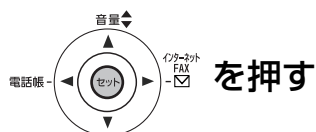
を押す

```
ｽｳｼﾞ ID ｷｮﾋ ｷﾉｳ?
ﾊﾞﾝｺﾞｳｦｲﾚﾙ ﾏﾀﾊV∧
```

- 設定を続ける場合は、手順 5 に戻ります。
- 設定を終了する場合は、ストップ を押します。

8 数字 ID 番号を登録する

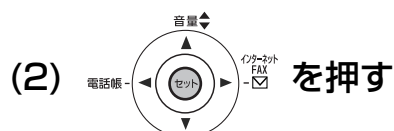
手順 7 で「数字 ID 拒否」を「アリ」に設定した場合は、次の操作で拒否する数字 ID を登録する

(1) ID 番号登録の画面が表示されるまで

を押す

```
IDﾊﾞﾝｺﾞｳ ﾄｳﾛｸ?
ｾｯﾄ ﾃﾞ ｾﾝﾀｸ
```

(2)

を押す

```
IDﾊﾞﾝｺﾞｳ ﾄｳﾛｸ?
ﾊﾞﾝｺﾞｳｦｲﾚﾙ ﾏﾀﾊV∧
```

(3) 登録先を入力する（01 ～ 30）例：01

- ▲または▼を押して登録先を変更することもできます。

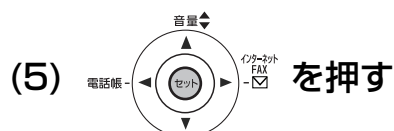
```
IDﾊﾞﾝｺﾞｳ ﾄｳﾛｸ
01
```

(4) 登録したい数字 ID を入力する

例：1234567890

```
IDﾊﾞﾝｺﾞｳ ﾄｳﾛｸ
01 1234567890▮
```

(5)

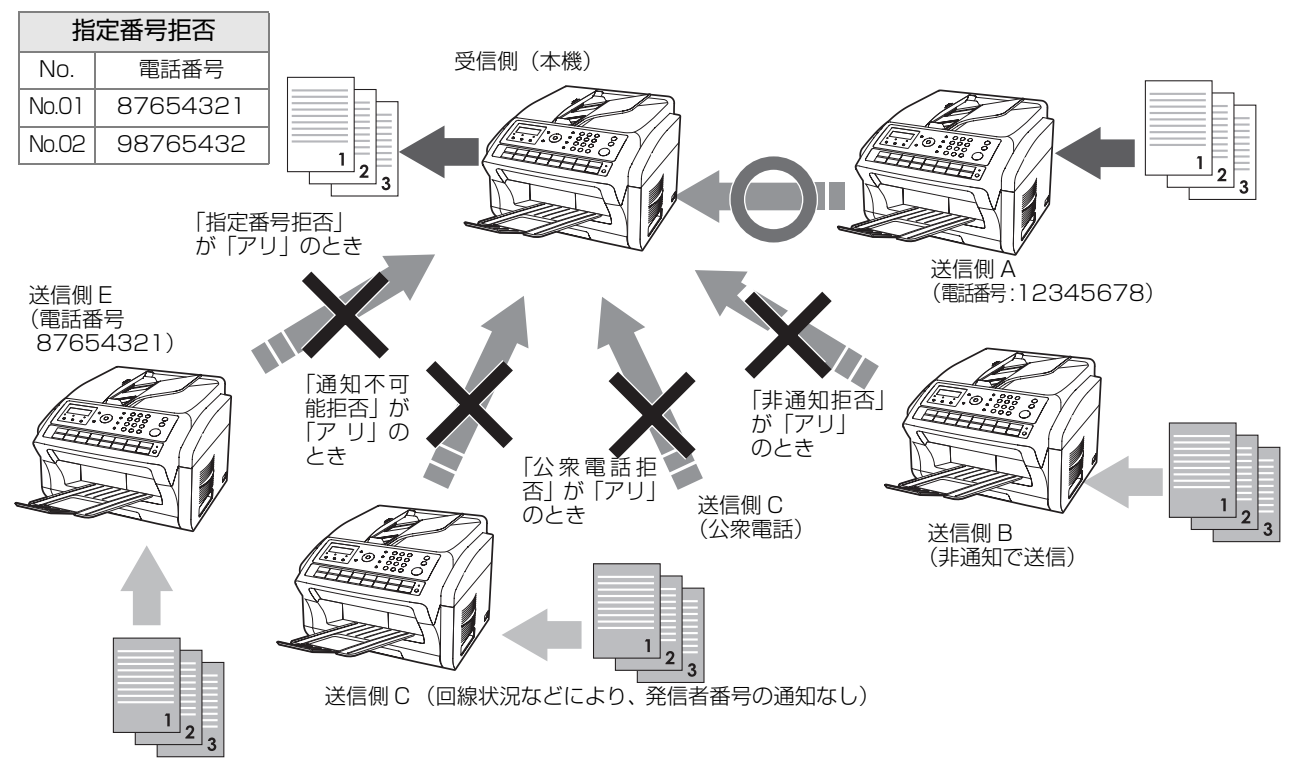
を押す

```
IDﾊﾞﾝｺﾞｳ ﾄｳﾛｸ
02
```

- 続けて別の数字IDを登録する場合は、手順(3)～(5)の操作を繰り返します。

9 設定を終了する

を押す

発信者番号を利用した迷惑ファクス防止

発信者番号を利用した迷惑ファクス防止には、非通知拒否、公衆電話拒否、通知不可能拒否、指定番号拒否の４つの機能があります。

非通知拒否

非通知の相手から着信した場合に、受信を拒否できます。

- この機能は、システム登録の「135 迷惑ファクス防止」「発番号拒否」「非通知拒否」の設定により、次のように動作します。
  - 「非通知拒否」が「アリ」の場合.........................非通知の相手から着信した場合は、受信を拒否します。
  - 「非通知拒否」が「ナシ」の場合.........................非通知の相手から着信した場合も受信します。
- この機能を使用する場合は、システム登録で次のように設定します。

設定項目		設定値
090 発番号契約		「アリ」
135 迷惑ファクス防止	発番号拒否 非通知拒否	 「アリ」

公衆電話拒否

公衆電話から着信した場合に、受信を拒否できます。

- この機能は、システム登録の「135　迷惑ファクス防止」「発番号拒否」「公衆電話拒否」の設定により、次のように動作します。
  - 「公衆電話拒否」が「アリ」の場合 .... 公衆電話から着信した場合は、受信を拒否します。
  - 「公衆電話拒否」が「ナシ」の場合 .... 公衆電話から着信した場合も受信します。
- この機能を使用する場合は、システム登録で次のように設定します。

設定項目		設定値
090 発番号契約		「アリ」
135 迷惑ファクス防止	発番号拒否 公衆電話拒否	 「アリ」

通知不可能拒否

発信者番号を通知できない相手から着信した場合に、受信を拒否できます。

- この機能は、システム登録の「135　迷惑ファクス防止」「発番号拒否」「通知不可能拒否」の設定により、以下の動作になります。
  - 「通知不可能拒否」が「アリ」の場合 .... 通知できない相手から着信した場合は、受信を拒否します。
  - 「通知不可能拒否」が「ナシ」の場合 .... 通知できない相手から着信した場合も受信します。
- 回線サービスの契約状況、回線網の経路などにより、通信事業者が発信者番号を通知できないことがあります。
- この機能を使用する場合は、システム登録で次のように設定します。

設定項目		設定値
090 発番号契約		「アリ」
135 迷惑ファクス防止	発番号拒否 通知不可能拒否	 「アリ」

指定番号拒否

受信したくない相手の発信者番号を登録しておき、その電話番号から着信した場合に、受信を拒否できます。

- 受信を拒否する発信者番号は、30 件まで登録できます。
- この機能を使用する場合は、システム登録で次のように設定します。

設定項目		設定値
090 発番号契約		「アリ」
135 迷惑ファクス防止	発番号拒否 指定番号拒否 指定番号登録 (01-30)	 「アリ」 受信を拒否する相手の発信者番号を登録

- 発番号拒否を設定した場合は、受信の状況を通信管理レポート（☛p.268）で確認できます。（通信管理レポートの相手先欄に”＜　＞”で印字されている内容）

迷惑ファクス防止を設定する（発信者番号を利用）

数字 ID を利用した迷惑ファクス防止を設定する場合は、次の手順で操作します。

7 「アリ」に設定する

②を押す

ﾋﾂｳﾁ ｷｮﾋ?
ｱﾘ<>

または

ｺｳｼｭｳﾃﾞﾝﾜ ｷｮﾋ?
ｱﾘ<>

または

ﾂｳﾁﾌｶﾉｳ ｷｮﾋ?
ｱﾘ<>

または

ｼﾃｲﾊﾞﾝｺﾞｳ ﾄｳﾛｸ?
ｱﾘ<>

- ◀または▶を押して設定を変更することもできます。

を押す

ﾊﾂﾊﾞﾝｺﾞｳ ｷｮﾋｷﾉｳ?
ﾊﾞﾝｺﾞｳｦｲﾚﾙ ﾏﾀﾊ∨∧

- 設定を続ける場合は、手順 5 に戻ります。
- 設定を終了する場合は、ストップ を押します。

8 電話番号を登録する

手順 7 で「指定番号拒否」を「アリ」に設定した場合は、次の操作で拒否する電話番号を登録する

(1) 指定番号登録の画面が表示されるまで

を押す

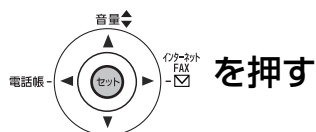
ｼﾃｲﾊﾞﾝｺﾞｳ ﾄｳﾛｸ?
ｾｯﾄ ﾃﾞ ｾﾝﾀｸ

(2)

を押す

ｼﾃｲﾊﾞﾝｺﾞｳ ﾄｳﾛｸ?
ﾊﾞﾝｺﾞｳｦｲﾚﾙ ﾏﾀﾊ∨∧

(3) 登録先を入力する（01 ～ 30）

例：01

- ▲または▼を押して登録先を変更することもできます。

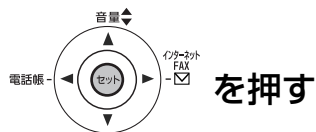
ｼﾃｲﾊﾞﾝｺﾞｳ ﾄｳﾛｸ
01

(4) 登録したい電話番号を入力する

例：1234567890

ｼﾃｲﾊﾞﾝｺﾞｳ ﾄｳﾛｸ
01 1234567890▮

(5)

を押す

ｼﾃｲﾊﾞﾝｺﾞｳ ﾄｳﾛｸ
02

- 続けて別の電話番号を登録する場合は、(3)～(5)の操作を繰り返します。

<次ページへつづく>

9 設定を終了する

ストップ を押す

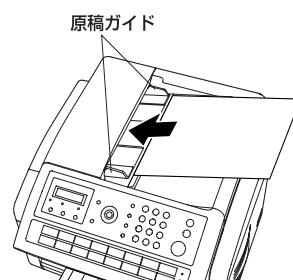
時刻を指定して通信する（タイマー通信）

時刻を指定して、送信やポーリング受信をすることができます。1 カ所、または複数の宛先へ、24 時間後までの時刻を指定して通信できます。
タイマー送信とタイマーポーリング通信を合わせて、20 タイマーまで指定できます。

時刻を指定して送る（タイマー送信）

24 時間後までの時刻を指定して送信できます。
読み取った原稿は、通信予約ファイルとしてメモリー内に蓄積され、設定した時刻になると自動的に送信が開始されます。タイマー送信をする場合は、次の手順で操作します。

1 原稿をセットする

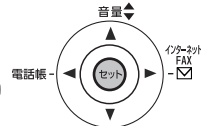
送る面を上向きにして、原稿ガイドを原稿の幅に合わせる
☛ 原稿のセットのしかた（p.47）

2 必要に応じて、濃度や文字サイズを選ぶ

☛ 濃度や文字サイズを設定する（p.74）

ｱﾃｻｷ ｦ ｲﾚﾃｸﾀﾞｻｲ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ

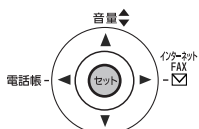
3 タイマー送信の画面を表示する

ファンクション　1　1

を押す

ﾀｲﾏｰ ｿｳｼﾝ
ﾖﾔｸ ｼﾞｺｸ　▮：

4 送信時刻を設定する

テンキーボタンで
送信時刻を入力し、

を押す

ﾀｲﾏｰ ｿｳｼﾝ
ﾖﾔｸ ｼﾞｺｸ　23:30

- 時刻は 24 時制（4 桁）で入力します。
  例：午後 11:30 に送信したいとき
  「2330」を押して セット を押します。
- 誤って入力した場合は、クリアー を押し、もう一度入力してください。

5 宛先を指定する

- ワンタッチダイヤル（☛p.68）
  短縮ダイヤル（☛p.69）
  電話帳（☛p.70）
  直接ダイヤル（☛p.66）

例：短縮ダイヤル「010」

[010]ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ
5553456

- 複数の宛先を指定できます。
  ☛ 複数宛先に送る（順次同報送信）（p.72）

<次ページへつづく>

6 スタート を押す

- 宛先確認の画面が表示されます。
- 直接入力の場合は、ダイヤル再入力の画面が表示されます。テンキーで相手の電話番号を再入力して、スタートを押します。

```
ﾂｷﾞﾆ ｱﾃｻｷｦｶｸﾆﾝｼﾃ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

直接ダイヤルの場合

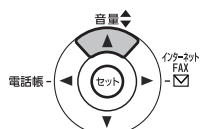
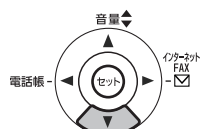
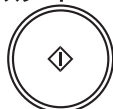
```
TEL.NO. ｻｲﾆｭｳﾘｮｸ
12345678
```

7 入力済みの宛先をすべて確認する

または
を押す

- 宛先確認をした場合だけ送信できます。

```
[010]ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ
5553456
```

```
ｱﾃｻｷﾏﾁｶﾞｲｱﾘﾏｾﾝｶ?
ﾊｲ:ｽﾀｰﾄ ｲｲｴ:ｸﾘｱｰ
```

8 スタート

を押す

- 原稿の読み取りが開始され、タイマー送信が設定されます。指定した時刻になると、送信が開始されます。
- 送信を中止する場合は、ストップを押します。

```
*ﾁｸｾｷ ﾁｭｳ*NO.123
ﾏｲｽｳ=001      01%
```

お知らせ

1. タイマー送信の設定を、変更、削除する場合は、通信予約ファイルの操作が必要です。
   ☛ 通信予約ファイルを変更する（p.120）、または ☛ 通信予約ファイルを消去する（p.122）を参照してください。

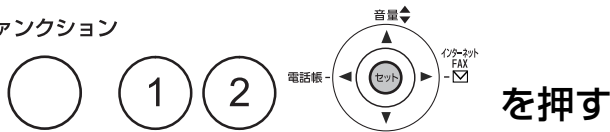
時刻を指定してポーリング受信する（タイマーポーリング受信）

24 時間後までの時刻を指定してポーリング受信できます。設定した時刻になると自動的にポーリング受信が開始されます。

- ポーリング受信とは、送信側のメモリーに蓄積された原稿を、受信側から指示して送信させる機能です。必要に応じて、機密保護のためのポーリングパスワードを設定できます。☛ ポーリングパスワードを設定する（p.112）

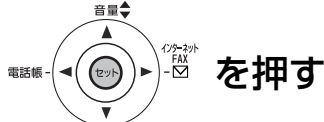
タイマーポーリング受信をする場合は、次の手順で操作します。

1 タイマーポーリングの画面を表示する

ファンクション ◯ ① ②

を押す

```
ﾀｲﾏｰ ﾎﾟｰﾘﾝｸﾞ
ﾖﾔｸ ｼﾞｺｸ    ▮ :
```

2 ポーリング時刻を設定する

テンキーボタンで受信時刻を入力し、

を押す

- 時刻は 24 時制（4 桁）で入力します。
  例：午後 11:30 に送信したいとき
  「2330」を押して セット を押します。
- 誤って入力した場合は、クリアー を押し、もう一度入力してください。

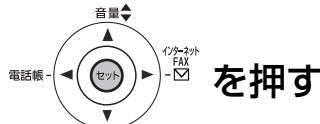
3 パスワード（4 桁）を入力する

必要に応じてパスワードを入力し、

を押す

例：1234

```
ﾀｲﾏｰ ﾎﾟｰﾘﾝｸﾞ
ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ=1234
```

```
ｱﾃｻｷ ｦ ｲﾚﾃｸﾀﾞｻｲ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

4 宛先を指定する

- ワンタッチダイヤル（☛p.68）
  短縮ダイヤル（☛p.69）
  電話帳（☛p.70）
  直接ダイヤル（☛p.66）

例：短縮ダイヤル「010」

```
[010]ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ
5553456
```

- 複数の宛先を指定できます。
  ☛ 複数宛先に送る（順次同報送信）（p.72）

<次ページへつづく>

5

を押す

- 宛先確認の画面が表示されます。
- 直接入力の場合は、ダイヤル再入力の画面が表示されます。テンキーで相手の電話番号を再入力して、スタートを押します。

```
Vﾍﾃﾞ ｱﾃｻｷｦｶｸﾆﾝｼﾃ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

直接ダイヤルの場合

```
TEL.NO. ｻｲﾆｭｳﾘｮｸ
12345678
```

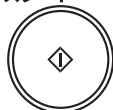
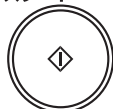
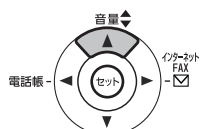
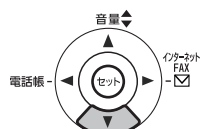
6 入力済みの宛先をすべて確認する

または
を押す

- 宛先確認をした場合だけポーリング受信できます。

```
[010]ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ
5553456
```

```
ｱﾃｻｷﾏﾁｶﾞｲｱﾘﾏｾﾝｶ?
ﾊｲ:ｽﾀｰﾄ ｲｲｴ:ｸﾘｱｰ
```

7

を押す

- タイマーポーリング受信がセットされます。指定した時刻になると、ポーリング受信が開始されます。
- ポーリング受信を中止する場合は、ストップを押します。

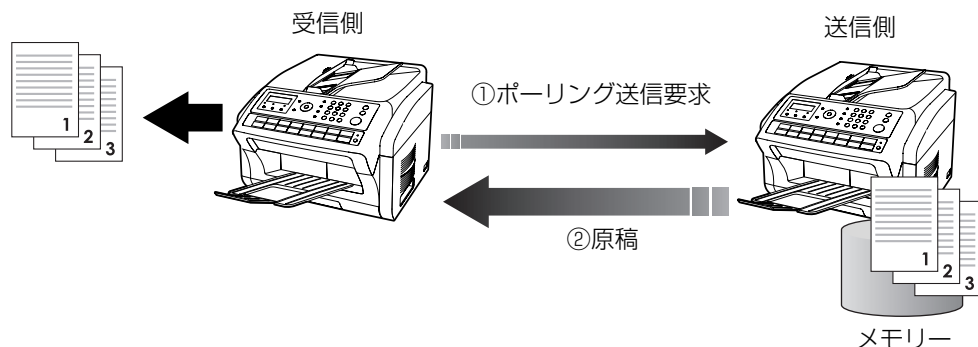
```
*ﾁｸｾｷ ﾁｭｳ*NO.123
```

お知らせ

1. タイマーポーリング受信の設定を、変更、削除する場合は、通信予約ファイルの操作が必要です。
   ☛ 通信予約ファイルを変更する（p.120）、または ☛ 通信予約ファイルを消去する（p.122）を参照してください。
2. タイマーポーリング受信は、電話回線を使って利用できます。

ポーリングする

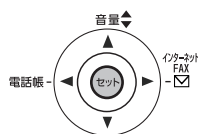
ポーリング通信とは

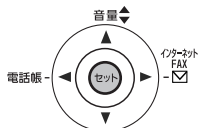
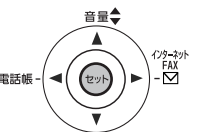
ポーリング通信は、送信側のメモリーに蓄積された原稿を、受信側から指示して送信させる機能です。送信側の操作を「ポーリング送信」受信側の操作を「ポーリング受信」と呼びます。
ポーリング通信では、機密保護のためにパスワードを設定できます（相手機が当社の機種に限定）。
なお、通信料金はポーリング受信側の負担となります。

- 相手機にポーリング送信機能がない場合、ポーリング受信はできません。重要な文書をポーリングする際は、事前にポーリング通信機能が実行できるかどうかテストすることをお勧めします。
- 時刻を指定してポーリング受信をすることもできます。
  ☛ 時刻を指定してポーリング受信する（タイマーポーリング受信）（p.109）
- パスワードを使ったポーリング通信は、相手機が当社の機種に限定されます。詳しくは、お買い上げの販売店、またはサービス実施会社にお問い合わせください。
- 次のような場合は、パスワードを使わないポーリング通信ができます。
  - 相手機が当社以外の機種の場合
  - 送信側にパスワードが設定されていない場合
- ポーリング受信は、電話回線を使って利用できます。

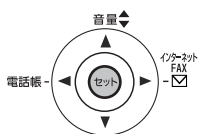
ポーリングパスワードを設定する

機密保護のためにポーリング用の パスワードを設定できます。

- パスワードが相手先と一致しなかった場合、ポーリング通信できません。
- 送信側にパスワードが設定されていない場合は、ポーリング受信側にパスワードが設定されていてもパスワードなしでポーリング受信ができます。

ポーリング用の パスワードを設定する場合は、次の手順で操作します。

1 システム登録の画面を表示する

2 キーオペレーターコードを入力する

3 設定画面を表示する

4 パスワードを（4 桁）を入力する
例：「1234」を入力

5 設定を終了する

ポーリング送信原稿を蓄積する（ポーリング送信）

ポーリング送信とは、メモリーに蓄積した原稿を、ポーリング受信側の指示により送信する機能です。
ポーリング送信用に蓄積した原稿は、受信側からポーリング送信要求がくると、自動的に送信されます。

- 原稿をメモリー蓄積する前に、ポーリングパスワードが設定されているかどうかを確認してください。
- パスワードの入力画面で新しいパスワードを上書きすると、一時的にパスワードを変更できます。
☛ ポーリングパスワードを設定する（p.112）

ポーリング送信原稿を蓄積する場合は、次の手順で操作します。

1 原稿をセットする

送る面を上向きにして、原稿ガイドを原稿の幅に合わせる

☛ 原稿のセットのしかた（p.47）

2 必要に応じて、濃度や文字サイズを選ぶ

☛ 濃度や文字サイズを設定する（p.74）

ｱﾃｻｷ ｦ ｲﾚﾃｸﾀﾞｻｲ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ

3 ポーリング送信の画面を表示する

ファンクション

を押す

ﾎﾟｰﾘﾝｸﾞ ｿｳｼﾝ
ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ=■■■■

4 パスワード（4 桁）を入力する

必要に応じてパスワードを入力します。

例：「4321」を入力

ﾎﾟｰﾘﾝｸﾞ ｿｳｼﾝ
ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ=4321

5 スタート

を押す

- 原稿の読み取りが開始されます。原稿がメモリーに蓄積され、ポーリング送信がセットされます。

*ﾁｸｾｷ ﾁｭｳ*NO. 123
ﾏｲｽｳ=001　　01%

↓

＊ ﾁｸｾｷ ｶﾝﾘｮｳ ＊
ｹﾞﾝｺｳ ﾏｲｽｳ=003

お知らせ

1. **同じ原稿を何度も送るには**
   ポーリング通信後、メモリーに蓄積されている原稿は自動的に消去されます。
   システム登録の「027 ポーリングファイル保存」（☛p.259）を「アリ」に変更すると、ポーリング送信原稿をメモリーに保存できます。1 つの原稿を繰り返してポーリング通信する場合に利用してください。
2. ポーリング送信用に蓄積できる文書は 1 文書だけです。
3. ポーリング送信用に原稿が蓄積されていても、通常どおり送受信できます。
4. ポーリング送信用に蓄積した原稿を消去する場合は、通信予約ファイルを消去してください。
   ☛ 通信予約ファイルを消去する（p.122）

ポーリング受信

原稿をポーリング受信する場合は、次の手順で操作してください。

- 複数の相手先からポーリング受信できます。
- ポーリング受信を実行する前に、ポーリングパスワードが設定されているかどうかを確認してください。
- パスワードの入力画面で新しいパスワードを上書きすると、一時的にパスワードを変更できます。
  ☛ ポーリングパスワードを設定する（p.112）

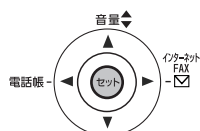
1 ポーリング受信の画面を表示する

ファンクション

を押す

```
ﾎﾟｰﾘﾝｸﾞ ｼﾞｭｼﾝ
ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ=■■■■
```

2 パスワード（4 桁）を入力する

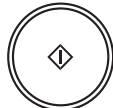
必要に応じてパスワードを入力し、

を押す

```
ｱﾃｻｷ ｦ ｲﾚﾃｸﾀﾞｻｲ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

3 宛先を指定する

- ワンタッチダイヤル（☛p.68）
  短縮ダイヤル（☛p.69）
  電話帳（☛p.70）
  直接ダイヤル（☛p.66）

例：短縮ダイヤル「010」

- 複数の宛先を指定できます。
  ☛ 複数宛先に送る（順次同報送信）（p.72）
- ▼ または ▲ を押すと、入力した宛先を確認できます。
  宛先を削除する場合は、クリアー を押します。

```
[010]ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ
5553456
```

4

スタート

を押す

- 宛先確認の画面が表示されます。
- 直接入力の場合は、ダイヤル再入力の画面が表示されます。テンキーで相手の電話番号を再入力して、スタート を押します。

```
V∧ﾃﾞ ｱﾃｻｷｦｶｸﾆﾝｼﾃ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

直接ダイヤルの場合

```
TEL.NO. ｻｲﾆｭｳﾘｮｸ
12345678
```

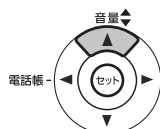
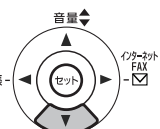
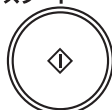
5 入力済みの宛先をすべて確認する

または
を押す

- 宛先確認をした場合だけポーリング受信できます。

```
[010]ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ
5553456
```

↓

```
ｱﾃｻｷﾏﾁｶﾞｲｱﾘﾏｾﾝｶ?
ﾊｲ:ｽﾀｰﾄ ｲｲｴ:ｸﾘｱｰ
```

6 **を押す**

*チクセキ チュウ*NO.123

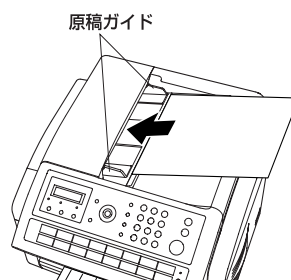
- ポーリング受信が開始されます。
- ポーリング受信を中止する場合は、ストップを押します。

プログラムダイヤルを呼び出す

あらかじめ登録されている一連の操作手順を、ワンタッチボタン（01 ～ 32）を押すだけで呼び出すことができます。
定期的に発生する操作や、複雑な手順が必要な操作の場合は、プログラムダイヤルを利用すると、手順を簡素化するだけでなく、操作ミスも防止できて便利です。
プログラムダイヤルを呼び出すときは、次の手順で操作します。

- あらかじめプログラムダイヤルを登録しておく必要があります。
  ☛ プログラムダイヤルを登録する（p.242）
- プログラムボタンにどのような操作が登録されているかは、プログラムダイヤルのリストで確認できます。
  ☛ プログラムリスト（p.278）
- タイマーポーリング受信、ポーリング受信が登録されているプログラムダイヤルの場合、
  手順 1 は不要です。

1 （タイマー送信の場合のみ）
原稿をセットする

送る面を上向きにして、原稿ガイドを原稿の幅に合わせる
☛ 原稿のセットのしかた（p.47）

2 **呼び出したい操作が登録されているワンタッチボタン（01 ～ 32）を押す**

[1] **を押す**

例 : ワンタッチボタン 01

ｱﾃｻｷ ｦ ｲﾚﾃｸﾀﾞｻｲ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ

通信予約ファイルを確認する

タイマーを指示したり、通信中に次の通信を指示すると、読み込んだ原稿と通信の指示はメモリーに蓄積されます。蓄積されている原稿と通信の指示を合わせて、「通信予約ファイル」と呼び、20 通信まで蓄積できます。通信予約ファイルは、予約レポートとしてプリントしたり、ディスプレイ上で確認できます。

通信予約レポートをプリントする

通信予約の内容をリストにしてプリントできます。

1 通信予約レポートの画面を表示する

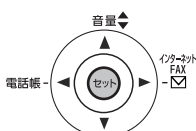
ファンクション　9　1　（セット）を押す

ﾂｳｼﾝﾖﾔｸ ｶｸﾆﾝ
1:ﾌﾟﾘﾝﾄ 2:ﾋｮｳｼﾞ

2 プリントを選択する

1 を押す

＊ ﾌﾟﾘﾝﾄ ｼﾃｲﾏｽ ＊
ﾖﾔｸ ﾚﾎﾟｰﾄ ﾌﾟﾘﾝﾄ

ファクスの操作

予約レポートの見かた

予約レポートには次の項目が記載されます。

【レポート例】

(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7)

* ********** -ﾖﾔｸ ﾚﾎﾟｰﾄ ﾌﾟﾘﾝﾄ- **************** ******** 012-12- 5 *********** 15:00 ***************

ﾌｧｲﾙ No.　ﾂｳｼﾝ ﾀｲﾌﾟ　ｻｸｾｲ ｼﾞｺｸ　ﾖﾔｸ ｼﾞｺｸ　ﾏｲｽｳ　ｱﾃｻｷ

*001　ﾒﾓﾘｰ ﾀｲﾏｰ ｿｳｼﾝ　12-15 12:30　20:30　001　[001]

002　ﾎﾟｰﾘﾝｸﾞ ｿｳｼﾝ　12-15 12:30　003　[011] [012] [013] [016] [017]

-PANASONIC -

** - ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ - - ***** - 201 555 1212- **********

(8) (9) (10)

No.	項目名	説明
(1)	ファイル No.	通信予約ファイルの番号です。通信中の場合は、＊が表示されます。
(2)	通信タイプ	通信の種類です。次のいずれかが記載されます。 ・メモリー　タイマー　ソウシン　：タイマー送信 ・ポーリング　ソウシン　：ポーリング送信 ・メモリー　ソウシン　：メモリー送信 ・ポーリング　：ポーリング受信 ・ジュンジ　ポーリング　：複数宛先のポーリング受信 ・タイマー　ポーリング　：タイマーポーリング受信 ・メモリー　シンテン　ソウシン　：メモリー親展送信 ・テンソウ　：メモリー転送 ・シンテン　ポーリング　：親展ポーリング受信 ・シンテン　ファイル　：親展ポーリング送信 ・メモリー　ジュシン　：メモリー受信
(3)	作成時刻	通信を予約した時刻です。
(4)	予約時刻	タイマー送信の予約時刻です。
(5)	枚数	メモリーに読み込んだ枚数です。
(6)	宛先	次のいずれかが記載されます。 ・＜2 桁の番号＞：ワンタッチダイヤル番号です。 ・［3 桁の番号］：短縮ダイヤル番号です。 ・電話番号：ダイヤルした電話番号です。
(7)	日付、時刻	レポートをプリントした日付と時刻です。
(8)	文字 ID	文字 ID として登録した会社名や自分の名前です（16 文字まで）。
(9)	発信元	発信元として登録した会社名や自分の名前です（25 文字まで）。
(10)	数字 ID	数字 ID として登録したファクスの電話番号です（20 桁まで）。

ディスプレイ上で通信予約ファイルを確認する

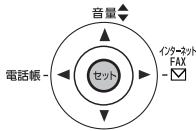
通信予約ファイルの宛先や通信予約時刻などを、ディスプレイ上で確認できます。

1 通信予約レポートの画面を表示する

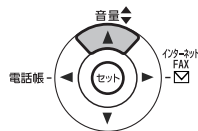
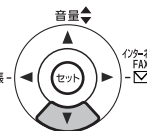
ファンクション 9 1 セット を押す

ﾂｳｼﾝﾖﾔｸ ｶｸﾆﾝ
1:ﾌﾟﾘﾝﾄ 2:ﾋｮｳｼﾞ

2 画面表示を選択する

2 を押す

ﾅｲﾖｳﾊ V Λ ﾎﾞﾀﾝﾃﾞ
ｶｸﾆﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ

3 ファイルを選択する

確認したいファイルが表示されるまで

を押す

4 表示を終了する

を押す

ファクスの操作

通信予約ファイルを変更する

タイマー通信（タイマー送信、タイマーポーリング受信）で予約した時刻や宛先は変更できます。
時刻や宛先を変更する場合は、次の手順で操作してください。

1 通信予約レポートの画面を表示する

ファンクション 9 2 を押す

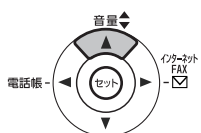
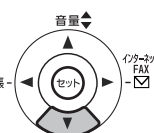
```
ﾊﾞﾝｺﾞｳｦｲﾚﾙ ﾏﾀﾊV∧
ﾌｧｲﾙ NO.=■■■
```

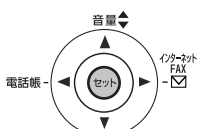
2 ファイル No. を入力する

例：「001」を入力

```
ﾊﾞﾝｺﾞｳｦｲﾚﾙ ﾏﾀﾊV∧
ﾌｧｲﾙ NO.=001
```

ファイルを選択する

変更したいファイルが表示されるまで

または

を押す

3

を押す （☛p.121 の お知らせ 2）

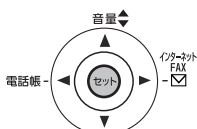
```
ﾀｲﾏｰ ｿｳｼﾝ
ﾖﾔｸ ｼﾞｺｸ    22:30
```

4 時刻を変更する

変更する時刻を、24 時間制で入力する
例：午前 6 時の場合、「0600」を入力

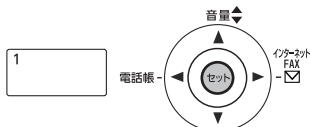
- 時刻を変更する必要がない場合は、手順 5 へ進みます。

```
ﾀｲﾏｰ ｿｳｼﾝ
ﾖﾔｸ ｼﾞｺｸ    06:00
```

5

を押す

```
<01>（ 宛先名 ）
5551234
```

6 宛先を変更する

- 宛先を消去する場合：
  ▼ ▲キーで消去したい宛先を表示し、クリアー を押す
- 宛先を追加する場合：
  追加する宛先を指定して、セット を押す
  例：

- 宛先の変更が終了して、スタート を押すと、宛先確認の画面が表示されます。
- 直接入力の場合は、ダイヤル再入力の画面が表示されます。テンキーで相手の電話番号を再入力して、スタート を押します。
- 宛先を変更する必要がない場合は、スタート を押して手順 7 へ進みます。

```
ｱﾃｻｷ ｦ ｲﾚﾃｸﾀﾞｻｲ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

```
  2 ｱﾃｻｷ ｾｯﾄ
ﾂｲｶ ﾏﾀﾊ ｽﾀｰﾄ
```

7 入力済みの宛先をすべて確認する

- 宛先確認をした場合だけ通信できます。

```
<01>（宛先名）
5551234
```

```
アテサキマチガイアリマセンカ?
ハイ:スタート イイエ:クリアー
```

8

を押す

- 通信予約の内容が変更され、待機状態に戻ります。

```
*チクセキ チュウ*NO.001
```


お知らせ

1. 送信中、再ダイヤル待機中の通信予約ファイルは変更できません。
2. タイマー予約されていない通信予約ファイル（未通信ファイル）の場合は、ディスプレイに次のように表示されます。① を押すと、タイマー予約できます。

```
タイマー ツウシン セット?
1:ハイ 2:イイエ
```

3. 未通信ファイルとして保存された通信予約ファイルの場合、タイマー送信しない場合は、上の画面で ② を入力してから スタート を押すと、ディスプレイに次のメッセージが表示されます。再送信をする場合は、①を押します。

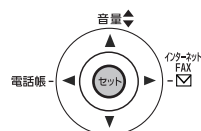
```
ツウシン エラー リトライ?
1:ハイ 2:イイエ
```

通信予約ファイルを消去する

メモリー内に蓄積されている通信予約ファイルを消去できます。
通信予約ファイルを消去する場合は、次の手順で操作してください。

- 送信中の通信予約ファイルは消去できません。

1 通信予約ファイル消去の画面を表示する

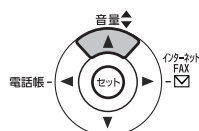
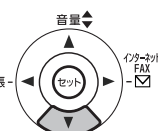
ファンクション　9　3　セット を押す

```
ﾊﾞﾝｺﾞｳｦｲﾚﾙ ﾏﾀﾊ∨∧
ﾌｧｲﾙ NO.=■■■
```

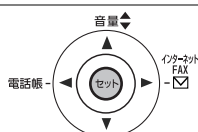
2 ファイル No. を入力する（☛ お知らせ 1）

例：「001」を入力

```
ﾊﾞﾝｺﾞｳｦｲﾚﾙ ﾏﾀﾊ∨∧
ﾌｧｲﾙ NO.=001
```

ファイルを選択する

消去したいファイルが表示されるまで

または

を押す

3

を押す

```
ﾌｧｲﾙ ｼｮｳｷｮ?
1:ﾊｲ 2:ｲｲｴ
```

4 消去する

を押す

- 続けて別の通信予約ファイルを消去する場合は、手順 2 からの操作を繰り返します。

```
＊ｼｮｳｷｮ ｼﾃｲﾏｽ＊
ﾌｧｲﾙ NO.=001
```

↓

```
ﾊﾞﾝｺﾞｳｦｲﾚﾙ ﾏﾀﾊ∨∧
ﾌｧｲﾙ NO.=■■■
```

5

ストップ を押す

- 待機状態に戻ります。

お知らせ

1. ファイル No. として「***」を入力すると、通信予約ファイルをすべて選択できます。
この場合、セット を押すと、次のメッセージが表示されます。
ただし、通信中のファイルがある場合は、操作できません。

```
ｽﾍﾞﾃﾉﾌｧｲﾙ ｼｮｳｷｮ？
1:ﾊｲ 2:ｲｲｴ
```

① を押すと、すべての通信予約ファイル、およびメモリー内に蓄積されているすべての受信ファイルが消去されます。

通信予約ファイルをプリントする

メモリー内に蓄積されている通信予約ファイルをプリントできます。読み込んだ原稿がプリントされます。

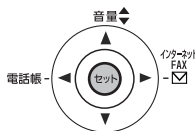
- 送信中の通信予約ファイルはプリントできません。

1 通信予約ファイルプリントの画面を表示する

ファンクション

9 4

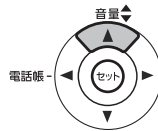
を押す

```
バンゴウヲイレル マタハV∧
ファイル NO.=■■■
```

2 ファイル No. を入力する

例：「001」を入力

```
バンゴウヲイレル マタハV∧
ファイル NO.=001
```

ファイルを選択する

プリントしたいファイルが表示されるまで

または

を押す

3 スタート

を押す

```
* プリント シテイマス *
ページ=001/003
```

- 通信予約ファイルのプリントが開始されます。
- プリント後も、通信予約ファイルはメモリーに蓄積されています。

ファクスの操作

通信予約ファイルに原稿を追加する

メモリー内の通信予約ファイルに、ページ単位で原稿を追加できます。
原稿を追加する場合は、次の手順で操作してください。

- 送信中、再ダイヤル待機中の通信予約ファイルに原稿を追加することはできません。

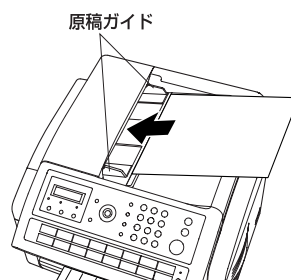
1 ファイル No. を確認する

原稿を追加したい通信予約ファイルのファイル No. を確認しておく

☛ 通信予約レポートをプリントする（p.117）
☛ ディスプレイ上で通信予約ファイルを確認する（p.119）

2 追加する原稿をセットする

送る面を上向きにして、原稿ガイドを原稿の幅に合わせる

☛ 原稿のセットのしかた（p.47）

3 必要に応じて、濃度や文字サイズを選ぶ

☛ 濃度や文字サイズを設定する（p.74）

ｱﾃｻｷ ｦ ｲﾚﾃｸﾀﾞｻｲ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ

4 原稿追加の画面を表示する

を押す

ﾊﾞﾝｺﾞｳｦｲﾚﾙ ﾏﾀﾊ∨∧
ﾌｧｲﾙ NO.=■■■

5 ファイル No. を入力する

例：「001」を入力

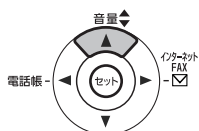
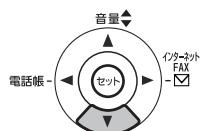
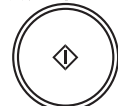
ﾊﾞﾝｺﾞｳｦｲﾚﾙ ﾏﾀﾊ∨∧
ﾌｧｲﾙ NO.=001

ファイルを選択する

原稿を追加したいファイルが表示されるまで

または
を押す

6

を押す

*ﾁｸｾｷ ﾁｭｳ*NO.123
ﾏｲｽｳ=003 01%

- 通信予約ファイルに原稿が追加されます。

未通信ファイルを再送信する（未達宛先再通信）

相手の話し中や無応答で、再ダイヤルしても通信できなかった場合は、通信エラーが発生し、メモリーに蓄積された通信予約ファイルが消去されます。このような場合に、システム登録の「31 未通信ファイル保存」（☛p.259）を「アリ」に設定しておくと、送信できなかった原稿を、通信エラーファイルとしてメモリーに蓄積しておくことができます。ここでは、蓄積された通信エラーファイルを、再送信する操作について説明します。

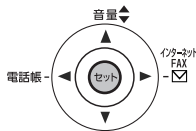
保存されている通信エラーファイルを再送信する場合は、次の手順で操作してください。

1 ファイル No. を確認する

通信予約レポートをプリントし、未通信ファイルのファイルNo. を確認しておく

☛ 通信予約レポートをプリントする（p.117）
☛ ディスプレイ上で通信予約ファイルを確認する（p.119）

2 再送信の画面を表示する

を押す

ﾊﾞﾝｺﾞｳｦｲﾚﾙ ﾏﾀﾊV∧
ﾌｧｲﾙ NO.=■■■

3 ファイル No. を入力する

例：「001」を入力

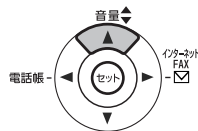
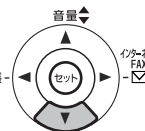
ﾊﾞﾝｺﾞｳｦｲﾚﾙ ﾏﾀﾊV∧
ﾌｧｲﾙ NO.=001

ファイルを選択する

再送信するファイルが表示されるまで

または

を押す

4

を押す

- 未通信ファイルの再送信が開始されます。

お知らせ

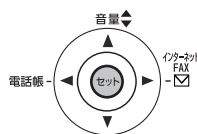
1. 「31 未通信ファイル保存」を「アリ」に設定すると、通信エラーが発生するたびに送信文書がメモリーに蓄積されます。メモリーオーバーを避けるため、メモリー内の通信エラーファイルを定期的にチェックしてください。
2. 未送信ファイルの保存の最大数は 10 件までです。最大数を超えた場合は、古いファイルから順に消去されます。
3. 通信エラーファイルとしてメモリーに蓄積されたファイルは、通信予約ファイルと同様に扱われます。通信エラーファイルを削除したり、プリントして確認する操作については、次を参照してください。
☛ 通信予約ファイルを消去する（p.122）
☛ 通信予約ファイルをプリントする（p.123）
☛ 通信予約ファイルに原稿を追加する（p.124）

利用者を制限する（アクセスコード）

アクセスコードとは、本機を操作するためのアクセスコード（パスワード）を設定し、第三者の使用を制限する機能です。送信やコピーなど、すべての操作にアクセスコードが設定されます。
アクセスコードを設定すると、機能設定や送信などをする場合に常にアクセスコードの入力が必要となります。ただし、自動受信など、操作者が不要な操作は自動的にはたらきます。

- アクセスコードを忘れた場合、本機を利用できなくなります。アクセスコードは厳重に管理してください。万一、忘れた場合はサービス実施会社にお問い合せください。
- アクセスコードを変更、解除する場合は、☛ アクセスコードを変更 / 解除する（p.127）を参照してください。

アクセスコードを設定する

アクセスコードを設定する場合は、次の手順で操作します。

1 システム登録の画面を表示する

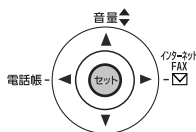
ファンクション

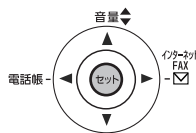
を押す

キーオペレーター コード
コード=▮

2 キーオペレーターコードを入力する

（キーオペレーター
コードを入力して）

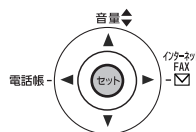
を押す

システム トウロク
NO.=▮ (01-177)

3 設定画面を表示する

を押す

アクセス コード?

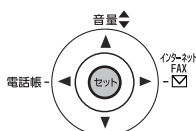
4 アクセスコード（8 桁）を入力する

（アクセスコードを入力して）

を押す

アクセス コード?
abcdehgh

例：「abcdehgh」を入力

- 数字、英字、記号（@ . _ スペース）を入力できます。

5 設定を終了する

を押す

アクセスコードを変更/解除する

すでにアクセスコードが設定されている場合に、アクセスコードを変更 / 解除する操作について説明します。アクセスコードの制限を変更 / 解除する場合は、次の手順で操作します。

● アクセスコードを変更する

1 アクセスコードの画面を表示する

☛ アクセスコードを設定する（p.126）の手順 3 の画面を表示する

```
ｱｸｾｽ ｺｰﾄﾞ?
abcdehgh
```

2 アクセスコードを変更する

[クリアー] を押し、新しいアクセスコードを入力して [セット] を押す

● アクセスコードの設定を解除する

1 アクセスコードの画面を表示する

☛ アクセスコードを設定する（p.126）の手順 3 の画面を表示する

```
ｱｸｾｽ ｺｰﾄﾞ?
abcdehgh
```

2 アクセスコードの設定を解除する

[クリアー] を押し、何も入力しないで [セット] を押す

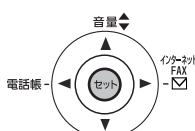
アクセスコードを入力する

アクセスコードが設定されている場合、本機を操作するには、アクセスコードの入力が必要です。
アクセスコードが設定されている場合は、待機状態のディスプレイに、アクセスコード入力のメッセージが表示されます。

```
12-15 15:00
ｺｰﾄﾞ=▮
```

次の手順でアクセスコードを入力します。

1 アクセスコード（8 桁）を入力する

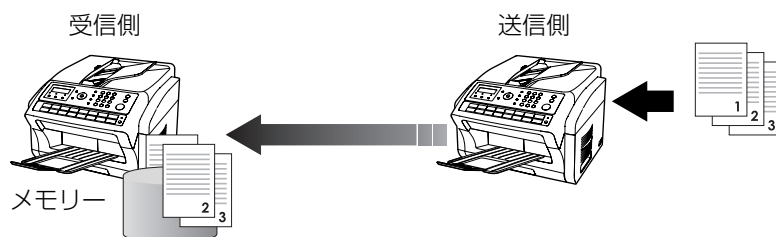
（アクセスコードを入力して）

を押す

```
12-15 15:00
          00%
```

メモリーに受信する（メモリー受信）

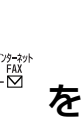
メモリー受信とは、受信文書をすべてメモリーに蓄積する機能です。プリントされた受信文書を置いたままにしたくない場合や、受信した原稿を一括してプリントしたい場合に便利です。
受信文書がメモリーに蓄積されている場合は、ディスプレイに次のメッセージが表示されます。

```
ﾒﾓﾘｰﾆ ﾃﾞｰﾀｶﾞ ｱﾘﾏｽ
< ﾒﾓﾘｰ ｼﾞｭｼﾝ >
```

プリントが終了すると、受信文書はメモリーから削除されます。
ここでは、メモリー受信のパスワードを設定する操作、メモリー受信を設定する操作、メモリー受信した文書をプリントする操作を説明します。

- メモリーが一杯になると、受信が中止され通信が停止します。それ以前にメモリーに蓄積された原稿は通常どおりプリントできます。
- メモリーが一杯の場合は受信できません。
- この機能は、受信したすべての原稿をメモリーに蓄積して保存するもので、パスワードが設定されている場合、メモリー受信した原稿をプリントするには正しいパスワードの入力が必要です。
- 休日や夜間に受信した原稿を、あとでまとめてプリントできます。

メモリー受信のパスワードを設定する

メモリー受信した文書をプリントするときにパスワードを入力するように設定したい場合は、次の手順で設定します。

- メモリー受信のパスワードを設定する場合は、「メモリー受信」（ファンクション ⑧⑤）を「オフ」に設定しておいてください。「オン」の場合は、パスワードを設定できません。

4 パスワード（8 桁）を入力する

例：「12345678」を入力

```
ﾒﾓﾘｰ ｼﾞｭｼﾝ?
12345678
```

5 設定を終了する

ストップ を押す

ファクスの操作

パスワードを変更 / 解除するには

すでにメモリー受信のパスワードが設定されている場合に、パスワードを変更、解除する操作について説明します。

● パスワードを変更する

1 パスワード入力の画面を表示する

☛ メモリー受信のパスワードを設定するの手順 3（☛p.128）の画面を表示する

```
ﾒﾓﾘｰ ｼﾞｭｼﾝ?
12345678
```

2 パスワードを変更する

[クリアー] を押し、新しいパスワードを入力して [セット] を押す

● パスワードの設定を解除する

パスワードの設定を解除するときは、次の手順で操作します。

1 パスワード入力の画面を表示する

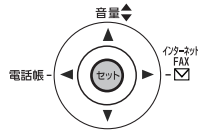
☛ メモリー受信のパスワードを設定するの手順 3（☛p.128）の画面を表示する

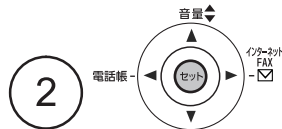
```
ﾒﾓﾘｰ ｼﾞｭｼﾝ?
12345678
```

2 パスワードの設定を解除する

[クリアー] を押し、何も入力しないで [セット] を押す

メモリー受信を設定する

メモリー受信を設定する場合は、次の手順で操作します。

1 **メモリー受信の画面を表示する**

2 **メモリー受信を設定する**

12-15 15:00
< メモリー ジュシン >

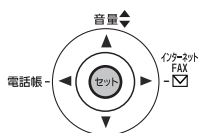
- メモリー受信が設定されます。

メモリー受信文書をプリントする

メモリー受信をしたときは、次のメッセージがディスプレイに表示されます。

メモリーニ データガ アリマス
< メモリー ジュシン >

メモリー受信した原稿をプリントする場合は、次の手順で操作します。

1 **メモリー受信の画面を表示する**

2 **メモリー受信文書をプリントする**

- ①「オフ」または③「プリント」を選択します。
- パスワードが設定されていない場合、パスワードの入力は不要です。手順４へ進みます。

3 （パスワードが設定されている場合）
パスワードを入力する

例：「12345678」を入力

パスワード ニュウリョク
コード=*******8

4 スタート **を押す**

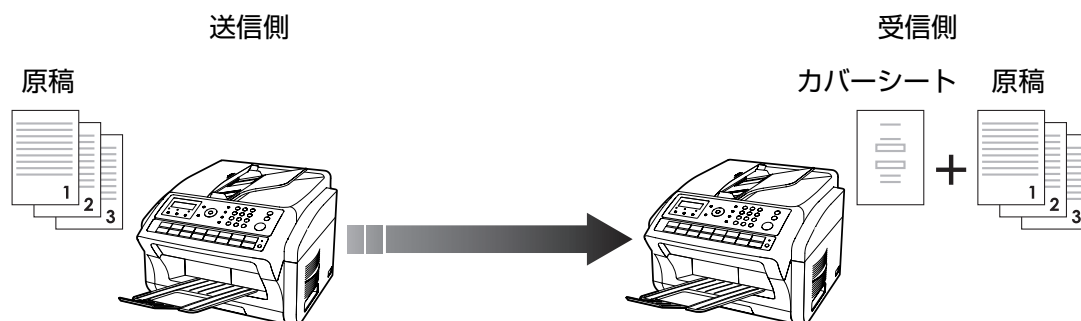
＊ プリント シテイマス ＊
メモリー ファイル プリント

- メモリー受信文書のプリントが開始されます。

表紙をつけて送る（カバーシート）

宛先名、送信元の名前、ページ数が記載された表紙（カバーシート）を、原稿の先頭に添付して送信できます。

送信側　　　　　　　　　　　　　　　　受信側

原稿　　　　　　　　　　　　　　　　カバーシート　原稿

- システム登録の「56 カバーシート」（☛p.261）でカバーシートの初期設定（オン / オフ）を変更できます。お買い上げ時は「オフ」に設定されています。
  どちらに設定していても、ここで説明する操作で通信ごとに設定を変更できます。
- カバーシートは、通信管理レポートなどのページ数にはカウントされません。
- カバーシートは、次の送信で使用できます。
  - メモリー送信　- ダイレクト送信　- 手動送信　- タイマー送信　- F コード（サブアドレス）送信
  - 順次同報送信

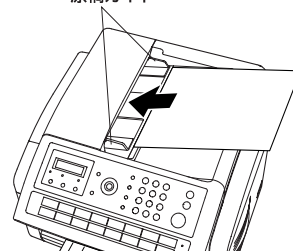
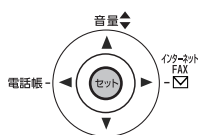
カバーシートを設定する

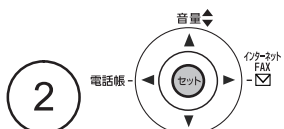
カバーシートを原稿に添付して送信する場合は、次の手順で操作します。

1　原稿をセットする

送る面を上向きにして、原稿ガイドを原稿の幅に合わせる
☛ 原稿のセットのしかた（p.47）

2　カバーシートの画面を表示する

を押す

カバ゛ー　シート?
オフ<>

3　カバーシートを設定する

を押す

アテサキ　ヲ　イレテクダ゛サイ
スタートヲ　オシテクダ゛サイ

4　必要に応じて、濃度や文字サイズを選ぶ

☛ 濃度や文字サイズを設定する（p.74）

アテサキ　ヲ　イレテクダ゛サイ
スタートヲ　オシテクダ゛サイ

＜次ページへつづく＞

5 宛先を指定する

- ワンタッチダイヤル（☛p.68）
  短縮ダイヤル（☛p.69）
  電話帳（☛p.70）
  直接ダイヤル（☛p.66）

例：短縮ダイヤル「010」

```
[010]ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ
5553456
```

6 スタート を押す

- 宛先確認の画面が表示されます。
- 直接入力の場合は、ダイヤル再入力の画面が表示されます。テンキーで相手の電話番号を再入力して、スタートを押します。

```
V∧ﾃﾞ ｱﾃｻｷｦｶｸﾆﾝｼﾃ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

直接ダイヤルの場合

```
TEL.NO. ｻｲﾆｭｳﾘｮｸ
12345678
```

7 入力済みの宛先をすべて確認する

または を押す

- 宛先確認をした場合だけ送信できます。

```
[010]ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ
5553456
```

↓

```
ｱﾃｻｷﾏﾁｶﾞｲｱﾘﾏｾﾝｶ?
ﾊｲ:ｽﾀｰﾄ ｲｲｴ:ｸﾘｱｰ
```

8 スタート を押す

- 原稿の読み取りが開始されます。読み取りが終了した原稿から送信が開始されます。
- 送信を中止する場合は、ストップを押します。

```
*ﾁｸｾｷ ﾁｭｳ*NO.123
ﾏｲｽｳ=001      01%
```

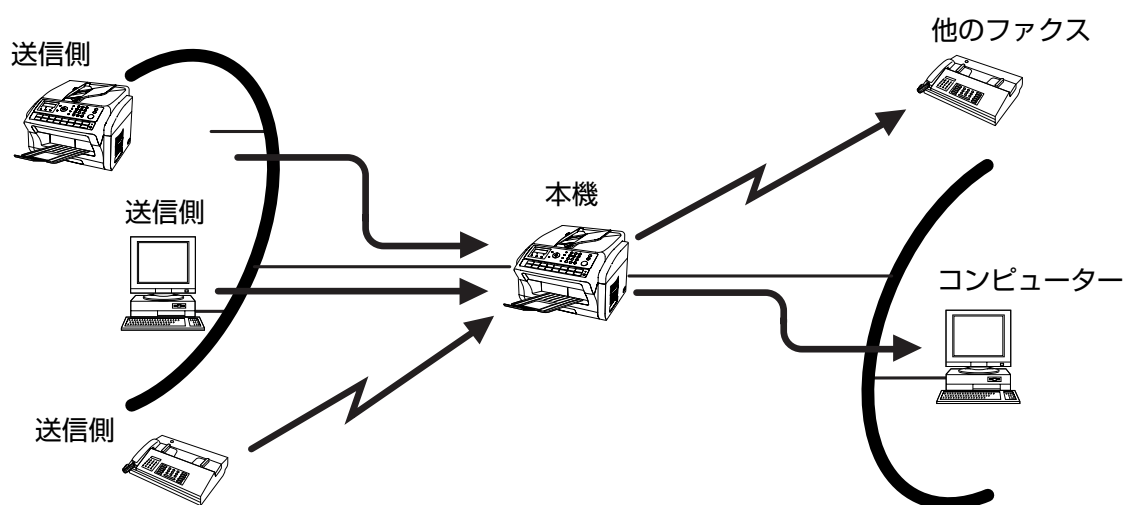
↓

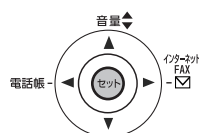
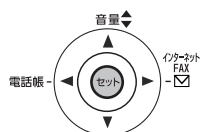
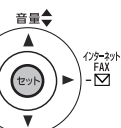
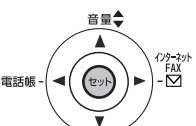
```
*ﾀﾞｲﾔﾙ ｼﾃｲﾏｽ*
ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ
```

カバーシート例

No.	項目名	説明
(1)	送信開始時刻	送信を開始した時刻です。
(2)	宛先名	ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤルに登録されている宛先名です。 直接ダイヤルの場合は、電話番号が表示されます。 システム登録の「134 宛先名敬称付加」（☛p.262）が「アリ」に設定されている場合は、末尾に「サマ」が付きます。 お買い上げ時は、「アリ」に設定されています。
(3)	発信元情報	発信元（最大 25 文字）と、数字 ID（最大 20 桁）です。
(4)	ページ数	表紙を含まないページ数です。 ダイレクト送信の場合は記載されません。

受信文書を転送する（メモリー転送）

メモリー転送とは、すべての受信文書を、他のファクスやコンピューターに転送する機能です。
夜間や休日に別の場所（自宅など）でファクス受信をしたい場合に便利です。

- メモリー転送は、システム登録の「54 メモリー転送」（☛p.261）が「アリ」に設定されている場合に機能します。お買い上げ時は、「ナシ」に設定されています。
- メモリー転送を利用する場合、転送先の電話番号やメールアドレスは、あらかじめワンタッチダイヤル、短縮ダイヤルに登録しておいてください。
  ☛ ワンタッチダイヤルを登録する（p.230）
  ☛ 短縮ダイヤルを登録する（p.233）

メモリー転送を設定するときは、次の手順で操作します。

5 転送先を設定する

ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤル、またはグループダイヤルで転送先を入力する
（☛ お知らせ 1）

例：[1] を押す

<01> ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ
5551234

短縮/スペース (0)(1)(0) を押す

[010]ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ
5553456

6 設定を終了する

を押す

ファクスの操作

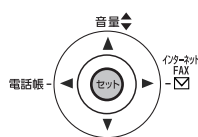
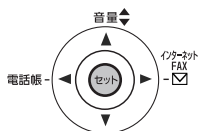
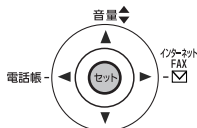
お知らせ

1. 手順 5 で設定した宛先の登録内容は変更できません。転送先の設定内容を変更したい場合は、次の手順で操作します。
   (1) システム登録の「54 メモリー転送」を「ナシ」に変更する
   (2) ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤル、プログラムボタンの登録内容を変更する
   (3) システム登録の「54 メモリー転送」を「アリ」に戻す
   (4) 再度、宛先を指定する
2. メモリー転送時、転送先が話し中などで転送できないときは、転送が中止されます。受信文書は本機でプリントされ、メモリーから削除されます。これは、システム登録の「31 未通信ファイル保存」（☛p.259）が「アリ」に設定されていても同じです。このような場合に、メモリーに受信原稿を蓄積したいときは、メモリー受信が便利です。
   ☛ メモリーに受信する（メモリー受信）（p.128）
3. メモリー使用量が 98% 以上の場合は、受信できません。

迷惑ファクスを防止する（セレクト受信）

セレクト受信とは、ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルに登録されている宛先からだけ受信する機能のことです。ダイレクトメールや、迷惑ファクスを受信したくない場合に設定します。
本機のワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルに登録されている電話番号の下 4 桁と、送信元の数字 ID の下 4 桁を照合し、一致したときだけ受信が開始されます。一致しない場合は、受信が拒否され、エラーコード（0406）がレポート類に記載されます。

- 数字 ID とは、ファクスの電話番号のことです。本機の場合、自局登録の「数字 ID」で登録します。
- セレクト受信は、システム登録の「46 セレクト受信」（☛p.260）が「アリ」に設定されている場合に機能します。
  お買い上げ時は、「ナシ」に設定されています。
- セレクト受信は、電話回線の場合に利用できます。

セレクト受信を設定するときは、次の手順で操作します。

お知らせ

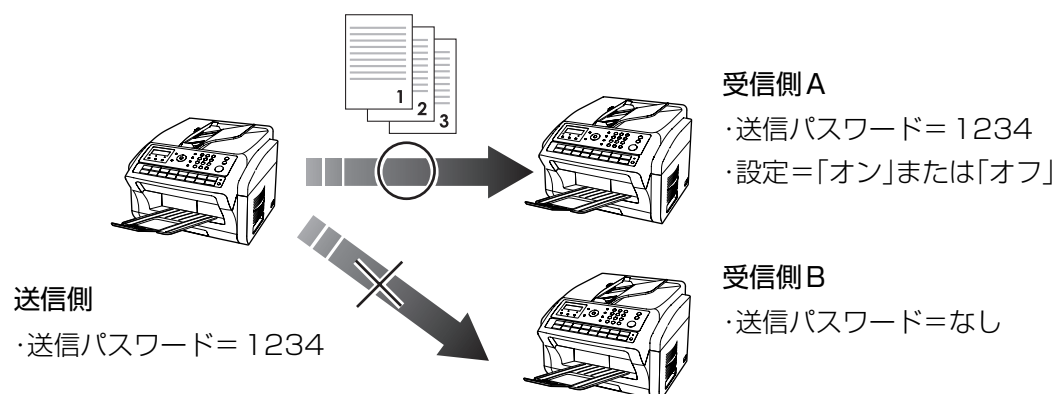
1. 送信元に対し、数字 ID に電話番号（ファクスの電話番号）を必ず設定するよう依頼してください。電話番号以外が設定されている、数字 ID が登録されていないなどの場合は、セレクト受信できません。
2. 本機からファクスを送信する場合、受信側がセレクト受信を設定している場合があります。このため、数字 ID は必ず登録しておいてください。

パスワード通信を利用する（パスワード送信 / パスワード受信）

パスワード通信は、お互いの送信パスワード、または受信パスワードを照合し、一致する場合だけ通信が開始される機能です。パスワード通信には、パスワード送信、パスワード受信の機能があります。

パスワード送信とは

送信時に、お互いの送信パスワードを照合し、一致する場合だけ通信が開始されます。パスワードが異なる場合は、通信エラーとなります。パスワード送信を設定すると、ほかの相手への誤送信を防止できます。

○：送信できます。
×：送信できません。

- この機能は、相手機が限定されます。詳しくは、サービス実施会社にお問い合わせください。
- パスワード通信は、電話回線を使って利用できます。
- あらかじめ「パスワード送信」（☛p.139）と「パスワード受信」（☛p.140）の設定が必要です。

パスワード送信は、送信パスワードと、システム登録の「43 パスワード送信」の設定により、次表のように動作します。
☛ パスワード送信を設定する（p.139）

設定	説明
送信パスワード　登録なし	パスワード送信の機能は、はたらきません。
送信パスワードを登録し、システム登録の「43 パスワード送信」を「オフ」に設定	「パスワード送信」（ファンクション ⑧ ④）を「オン」に設定した場合に、パスワード送信の機能がはたらきます。 送信側と受信側の送信パスワードが一致した場合にだけ送信できます。 ☛ 通信ごとにパスワード送信を設定する（p.141） 送信側、受信側ともに送信パスワードの登録が必要です。 「パスワード送信」（ファンクション ⑧ ④）を「オフ」に設定した場合には、パスワード送信の機能がはたらかないため、受信側の送信パスワードの登録は必要ありません。
送信パスワードを登録し、システム登録の「43 パスワード送信」を「オン」に設定	常にパスワード送信の設定になっているため、「パスワード送信」（ファンクション ⑧ ④）の設定をしなくても、パスワード送信の機能がはたらきます。 送信側と受信側の送信パスワードが一致した場合にだけ送信できます。 送信側、受信側ともに送信パスワードの登録が必要です。

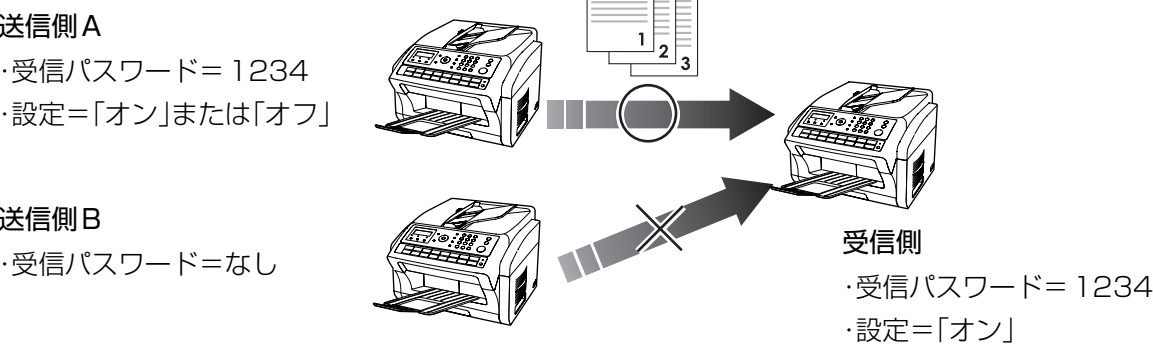
パスワード受信とは

受信時に、お互いの受信パスワードを照合し、一致する場合だけ通信が開始されます。
パスワードが異なる場合は、通信エラーとなります。
パスワード受信を設定すると、受信パスワードが一致しない相手からの受信を拒否できます。

○:受信できます。

×:受信を拒否します。

送信側Ａ
·受信パスワード= 1234
·設定=「オン」または「オフ」

送信側Ｂ
·受信パスワード=なし

- この機能は、相手機が限定されます。詳しくは、サービス実施会社にお問い合わせください。

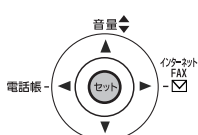
パスワード受信は、システム登録の「44 パスワード受信」の設定により、次表のように動作します。
☛ パスワード受信を設定する（p.140）

設定	説明
受信パスワード　登録なし	パスワード受信の機能は、はたらきません。
受信パスワードを登録し、パスワード受信を「オフ」に設定	送信側が本機と異なる受信パスワードを設定していると、パスワード受信の機能がはたらかず、通常の受信となります。
受信パスワードを登録し、パスワード受信を「オン」に設定	常にパスワード受信の機能がはたらきます。 送信側と受信側の受信パスワードが一致したときにだけ受信できます。 送信側、受信側ともに受信パスワードの登録が必要です。

パスワード送信を設定する

システム登録で、送信パスワード、およびパスワード送信のオン / オフを設定する場合は、次の手順で操作します。

- システム登録の「43 パスワード送信」（☛p.260）でパスワードを設定した場合、「パスワード送信」（ファンクション ⑧ ④）で通信ごとにパスワード送信をするかどうかを設定できます。
  ☛ 通信ごとにパスワード送信を設定する（p.141）

1 システム登録の画面を表示する

を押す

```
ｷｰｵﾍﾟﾚｰﾀｰ ｺｰﾄﾞ
ｺｰﾄﾞ=▮
```

2 キーオペレーターコードを入力する

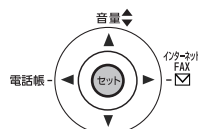
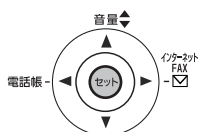
（キーオペレーターコードを入力して）

を押す

```
ｼｽﾃﾑ ﾄｳﾛｸ
NO.=▮     (01-177)
```

3 設定画面を表示する

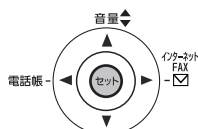
を押す

```
ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ ｿｳｼﾝ?
            ▮▮▮▮
```

4 パスワード（4 桁）を入力する

（送信パスワードを入力して）

を押す

例：「1234」を入力

```
ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ ｿｳｼﾝ?
1234        ｵﾌ<>
```

5 ①または②を押し、パスワード送信を設定する

① オフ：パスワードはチェックされません

② オン：パスワードがチェックされます

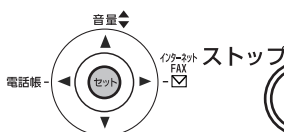
- ◀または▶を押して設定を変更することもできます。

```
ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ ｿｳｼﾝ?
1234        ｵﾌ<>
```

または

```
ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ ｿｳｼﾝ?
1234        ｵﾝ<>
```

6 設定を終了する

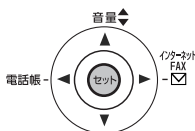
を押す

お知らせ

1. 送信パスワードを変更する場合は、手順 4 で クリアー を押して、新しいパスワードを入力してください。

パスワード受信を設定する

システム登録で受信パスワードと、パスワード受信のオン / オフを設定する場合は、次の手順で操作します。

- パスワード受信は、通信単位で「オフ」または「オン」を切り替えできません。切り替えたい場合は、システム登録の設定を変更してください。

1 システム登録の画面を表示する

ファンクション　7　4　を押す

```
ｷｰｵﾍﾟﾚｰﾀｰ ｺｰﾄﾞ
ｺｰﾄﾞ=■
```

2 キーオペレーターコードを入力する

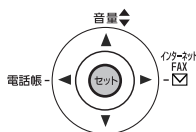
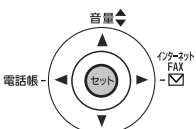
（キーオペレーター
コードを入力して）

を押す

```
ｼｽﾃﾑ ﾄｳﾛｸ
NO.=■    (01-177)
```

3 設定画面を表示する

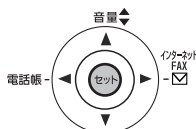
を押す

```
ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ ｼﾞｭｼﾝ?
               ■■■■
```

4 パスワード（4 桁）を入力する

（受信パスワードを入力して）

を押す

例 :「1234」を入力

```
ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ ｼﾞｭｼﾝ?
1234          ｵﾌ<>
```

5 ①または②を押し、パスワード受信を設定する

1 オフ : パスワードはチェックされません

```
ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ ｼﾞｭｼﾝ?
1234          ｵﾌ<>
```

2 オン : パスワードがチェックされます

```
ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ ｼﾞｭｼﾝ?
1234          ｵﾝ<>
```

- ◀または▶を押して設定を変更することもできます。

6 設定を終了する

ストップ　を押す

お知らせ

1. 受信パスワードを変更する場合は、手順 4 で クリアー を押して、新しいパスワードを入力してください。

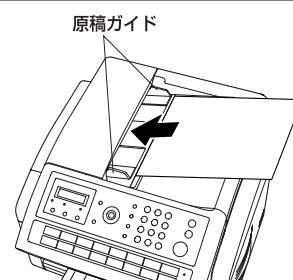
通信ごとにパスワード送信を設定する

システム登録の「43 パスワード送信」でパスワードを設定している場合、パスワード送信をするかどうかを通信単位で設定できます。

- 「オン」に設定した場合、通信時に照合される送信パスワードは、システム登録の「43 パスワード送信」で設定されている送信パスワードです。

1 原稿をセットする

送る面を上向きにして、原稿ガイドを原稿の幅に合わせる

☛ 原稿のセットのしかた（p.47）

2 パスワード送信の画面を表示する

を押す

ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ ｿｳｼﾝ ?
ｵﾌ<>

3 ①または②を押し、パスワード送信を設定する

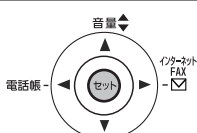
1 オフ：パスワードはチェックされません

ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ ｿｳｼﾝ?
ｵﾌ<>

2 オン：パスワードがチェックされます

ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ ｿｳｼﾝ?
ｵﾝ<>

- ◀または▶を押して設定を変更することもできます。

4

を押す

ｱﾃｻｷ ｦ ｲﾚﾃｸﾀﾞｻｲ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ

5 必要に応じて、濃度や文字サイズを選ぶ

☛ 濃度や文字サイズを設定する（p.74）

ｱﾃｻｷ ｦ ｲﾚﾃｸﾀﾞｻｲ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ

6 宛先を指定する

- ワンタッチダイヤル（☛p.68）
  短縮ダイヤル（☛p.69）
  電話帳（☛p.70）
  直接ダイヤル（☛p.66）

例：短縮ダイヤル「010」

[010]ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ
5553456

- 複数の宛先を指定できます。
  ☛ 複数宛先に送る（順次同報送信）（p.72）

＜次ページへつづく＞

7 スタート を押す

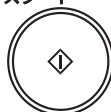
- 宛先確認の画面が表示されます。
- 直接入力の場合は、ダイヤル再入力の画面が表示されます。テンキーで相手の電話番号を再入力して、スタートを押します。

```
V∧デ゛ アテサキヲカクニンシテ
スタートヲ オシテクダ゛サイ
```

直接ダイヤルの場合

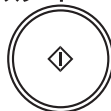
```
TEL.NO. サイニュウリョク
12345678
```

8 入力済みの宛先をすべて確認する

または
を押す

- 宛先確認をした場合だけ送信できます。

```
[010]パ゜ナソニック
5553456
```

↓

```
アテサキマチガ゛イアリマセンカ?
ハイ:スタート イイエ:クリアー
```

9

を押す

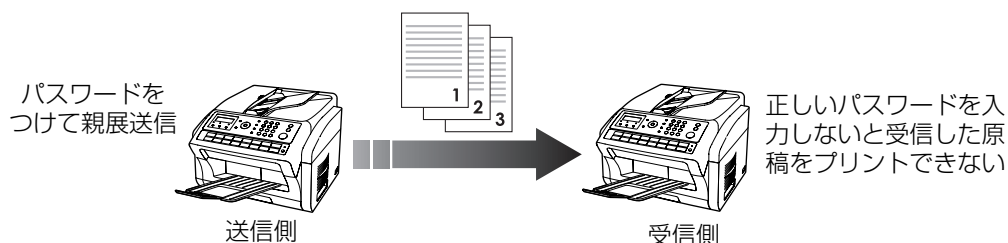
- 原稿の読み取りが開始されます。読み取りが終了した原稿から送信が開始されます。
- 送信を中止する場合は、ストップを押します。

```
*チクセキ チュウ*NO.123
マイスウ=001        01%
```

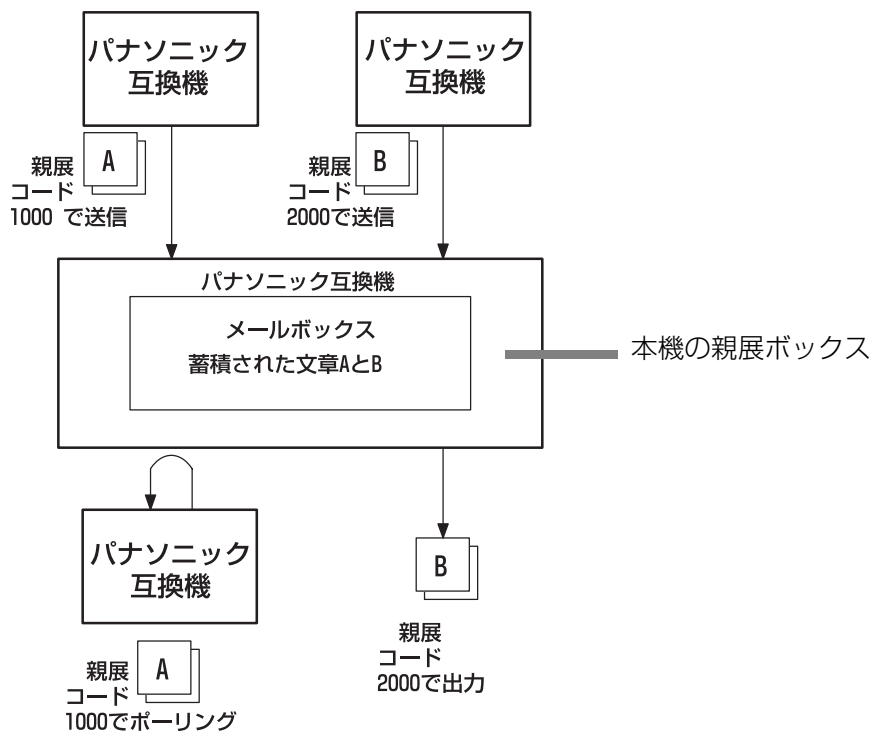
↓

```
*ダ゛イヤル シテイマス*
パ゜ナソニック
```

親展ボックスを利用する（親展通信）

親展通信とは、親展ボックス機能を利用し、親展番号（パスワード）をつけて原稿を送受信したり、ポーリング送受信をする機能のことです。機密性の高い文書の送受信や、特定の相手との送受信に便利です。
受信側は、パスワードを入力しない限り、受信した原稿をプリントできないため、第三者への情報漏えいに配慮した通信ができます。

- この機能は、相手機が限定されます。詳しくは、サービス実施会社にお問い合わせください。
- 親展ボックスは 10 個まで使用できます。10 個の異なる親展番号（パスワード）を使用して親展文書を受信できます。
- システム登録の「42 親展ファイル保存」（☛p.260）を「アリ」に設定すると、ポーリング送信後も親展文書を親展ボックスに保存できます。同じ原稿を連続してポーリング送信したい場合は、設定を変更してください。

メールボックス機能について

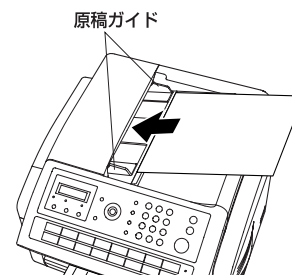
親展ボックスを利用すると、他のパナソニック互換機と通信するためのメールボックス（中継局）として本機を使用できます。メールボックス（中継局）では、親展番号（パスワード）が付加された親展文書をメモリーに蓄積しておけます。指定された親展番号（パスワード）を入力しない限り、親展文書のポーリング受信やプリントができません。

お知らせ

1. 同じ親展番号（パスワード）を持つ親展文書を受信すると、同じメールボックスに保存されます。
2. メモリー容量が足りない場合は、親展通信できません。

親展文書を送信する

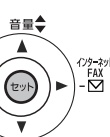
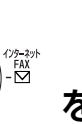
中継局のメールボックスに親展文書を送信する場合は、次の手順で操作します。

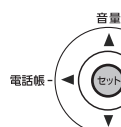
1 原稿をセットする

送る面を上向きにして、原稿ガイドを原稿の幅に合わせる
☛ 原稿のセットのしかた（p.47）

2 親展通信の画面を表示する

ファンクション 2 2

を押す

```
ｼﾝﾃﾝ ﾂｳｼﾝ?
ﾊﾞﾝｺﾞｳｦｲﾚﾙ ﾏﾀﾊV∧
```

3 親展送信を設定する

1 を押す

```
ｼﾝﾃﾝ ｿｳｼﾝ
ｼﾝﾃﾝ ﾊﾞﾝｺﾞｳ=████
```

4 親展番号（パスワード）（4 桁）を入力する

（親展番号（パスワード）を入力して）

を押す

```
ｱﾃｻｷ ｦ ｲﾚﾃｸﾀﾞｻｲ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

5 必要に応じて、濃度や文字サイズを選ぶ

☛ 濃度や文字サイズを設定する（p.74）

```
ｱﾃｻｷ ｦ ｲﾚﾃｸﾀﾞｻｲ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

6 中継局の宛先を指定する

- ワンタッチダイヤル（☛p.68）
  短縮ダイヤル（☛p.69）
  電話帳（☛p.70）
  直接ダイヤル（☛p.66）

例：短縮ダイヤル「010」

```
[010]ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ
5553456
```

7 スタート を押す

- 宛先確認の画面が表示されます。
- 直接入力の場合は、ダイヤル再入力の画面が表示されます。テンキーで相手の電話番号を再入力して、スタートを押します。

```
V∧ﾃﾞ ｱﾃｻｷｦｶｸﾆﾝｼﾃ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

直接ダイヤルの場合

```
TEL.NO. ｻｲﾆｭｳﾘｮｸ
12345678
```

8 入力済みの宛先をすべて確認する

を押す

- 宛先確認をした場合だけ送信できます。

[010]ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ
5553456

ｱﾃｻｷﾏﾁｶﾞｲｱﾘﾏｾﾝｶ?
ﾊｲ:ｽﾀｰﾄ ｲｲｴ:ｸﾘｱｰ

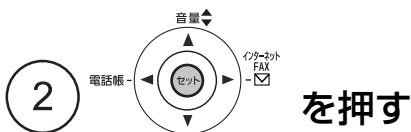
9

を押す

- 原稿の読み取りが開始されます。読み取りが終了した原稿から、相手機の親展ボックスに送信が開始されます。
- 送信を中止する場合は、ストップを押します。
- 必要に応じて、受信側に親展番号（パスワード）を知らせてください。

親展文書をポーリング受信する

中継局のメールボックスに親展文書を受信した旨の知らせが入ったら、ポーリング受信を利用して親展文書を取り出せます。親展文書をポーリング受信する場合は、次の手順で操作します。

1 親展通信の画面を表示する

を押す

ｼﾝﾃﾝ ﾂｳｼﾝ?
ﾊﾞﾝｺﾞｳｦｲﾚﾙ ﾏﾀﾊV∧

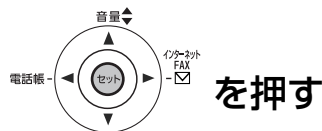
2 親展ポーリングを設定する

を押す

ｼﾝﾃﾝ ﾎﾟｰﾘﾝｸﾞ
ｼﾝﾃﾝ ﾊﾞﾝｺﾞｳ=■■■■

3 親展番号（パスワード）（4 桁）を入力する

（親展番号（パスワード）を入力して）

を押す

ｱﾃｻｷ ｦ ｲﾚﾃｸﾀﾞｻｲ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ

4 中継局の宛先を指定する

- ワンタッチダイヤル（☛p.68）
  短縮ダイヤル（☛p.69）
  電話帳（☛p.70）
  直接ダイヤル（☛p.66）

例：短縮ダイヤル「010」

[010]ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ
5553456

<次ページへつづく>

ファクスの操作

5

を押す

```
VAﾃﾞ ｱﾃｻｷｦｶｸﾆﾝｼﾃ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

- 宛先確認の画面が表示されます。
- 直接入力の場合は、ダイヤル再入力の画面が表示されます。テンキーで相手の電話番号を再入力して、スタートを押します。

直接ダイヤルの場合

```
TEL.NO. ｻｲﾆｭｳﾘｮｸ
12345678
```

6 入力済みの宛先をすべて確認する

または

を押す

- 宛先確認をした場合だけポーリング受信できます。

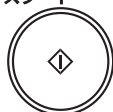
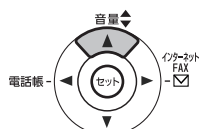
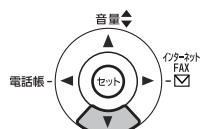
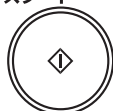
```
[010]ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ
5553456
```

↓

```
ｱﾃｻｷﾏﾁｶﾞｲｱﾘﾏｾﾝｶ?
ﾊｲ:ｽﾀｰﾄ ｲｲｴ:ｸﾘｱｰ
```

7

を押す

```
*ﾁｸｾｷ ﾁｭｳ*NO.123
```

- 親展文書のポーリング受信が開始されます。
- ポーリング受信を中止する場合は、ストップを押します。

お知らせ

1. 親展文書のポーリング受信が終了すると、親展文書はメールボックスから自動的に消去されます。

親展文書を受信すると

親展受信文書は、メモリー内の親展ボックスに蓄積されます。このとき、ディスプレイにはメッセージが表示され、親展受付レポートがプリントされます。

- 同じ親展番号をもつ文書を受信した場合は、同じ親展ボックスに保存されます。
- 最大 10 個の親展ボックスを使用できます。
  （特に親展ボックスを登録する必要はありません。親展番号のリストはありませんので、控えておいてください。）
- メモリーが一杯の場合は、親展受信できません。

ディスプレイに表示されるメッセージ

親展受信文書がメモリーに蓄積されている場合、親展ファイル蓄積のメッセージが表示されます。

シンテン ファイルガ゛ アリマス

親展受付レポート

親展受付レポートには、次の項目が記載されます。

【レポート例】

No.	項目名	説明
(1)	ファイル No.	通信を受け付けたときに自動的に付く番号です（001 ～ 999）。
(2)	相手先 ID	相手（中継局）の文字 ID、または数字 ID です。
(3)	枚数	受信をした枚数です。
(4)	受付時刻	親展文書を受信した時刻です。
(5)	日付、時刻	レポートをプリントした日付と時刻です。
(6)	文字 ID	文字 ID として登録した会社名や自分の名前です（16 文字まで）。
(7)	発信元	発信元として登録した会社名や自分の名前です（25 文字まで）。
(8)	数字 ID	数字 ID として登録したファクスの電話番号です（20 桁まで）。

親展文書を蓄積する

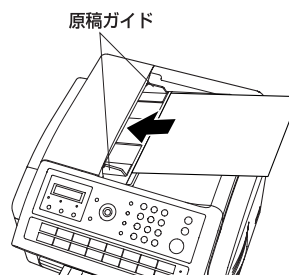
ポーリング送信用に、メールボックスに親展文書を蓄積する場合は、次の手順で操作します。

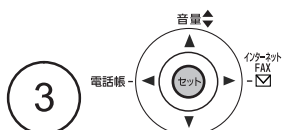
- システム登録の「42 親展ファイル保存」（☛p.260）を「アリ」に設定すると、ポーリング送信後も親展文書を親展ボックスに保存できます。

1 原稿をセットする

送る面を上向きにして、原稿ガイドを原稿の幅に合わせる
☛ 原稿のセットのしかた（p.47）

2 親展通信の画面を表示する

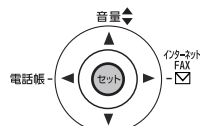
を押す

ｼﾝﾃﾝ ﾂｳｼﾝ?
ﾊﾞﾝｺﾞｳｦｲﾚﾙ ﾏﾀﾊV∧

3 親展文書の蓄積を設定する

を押す

ｼﾝﾃﾝ ﾁｸｾｷ
ｼﾝﾃﾝ ﾊﾞﾝｺﾞｳ=■■■■

4 親展番号（パスワード）（4 桁）を入力する

（親展番号（パスワード）を入力して）

を押す

*ﾁｸｾｷ ﾁｭｳ*NO. 123
ﾏｲｽｳ=001 01%

- 原稿の読み取りが開始されます。親展ボックスに親展文書が蓄積されます。
- 必要に応じて、受信側に親展番号（パスワード）を知らせてください

親展文書をプリントする

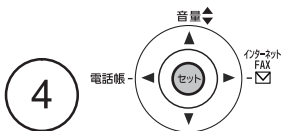
受信した親展文書や、蓄積したポーリング送信用の親展文書をプリントする場合は、次の手順で操作します。

- 親展文書をプリントすると、親展文書は親展ボックスから消去されます。システム登録の「42 親展ファイル保存」が「アリ」に設定されている場合も消去されます。
（「42 親展ファイル保存」は、ポーリング送信したあとに親展文書を保存するかどうかを設定するための項目です。）

1 親展通信の画面を表示する

ファンクション　2　2　を押す

シンテン ツウシン?
バンゴウヲイレル マタハV∧

2 親展プリントを設定する

4　を押す

シンテン プリント
シンテン バンゴウ=■■■■

3 親展番号（パスワード）（4 桁）を入力する

（親展番号（パスワード）を入力して）

を押す

＊ プリント シテイマス ＊
ページ =001/003

- 親展文書のプリントが開始されます。

親展文書を消去する

メモリーがいっぱいになったなどで、ポーリング送信用に蓄積した親展文書を消去したい場合は、次の手順で操作します。

- 同じ操作で、受信した親展文書を消去することもできますが、親展文書はプリントして消去することをお勧めします。
  ☛ 親展文書をプリントする（p.149）

消去方法には、親展番号（パスワード）を使って 1 文書ずつ消去する方法、親展ボックス内の親展文書すべてを一括して消去する方法があります。

親展番号を使って消去する

1 親展通信の画面を表示する

ファンクション 2 2 を押す

2 親展文書の消去を設定する

5 を押す

3 親展番号（パスワード）（4 桁）を入力する

例：「1234」を入力

4 スタート を押す

- 親展文書が消去されます。

＊ ショウキョ シテイマス ＊
シンテン バンゴウ=1234

一括して消去する

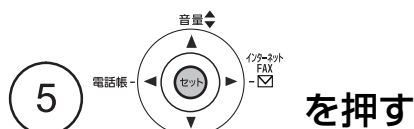
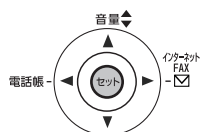
1 親展通信の画面を表示する

ファンクション 2 2 を押す

2 親展文書の消去を設定する

5 を押す

3 一括消去を指示する

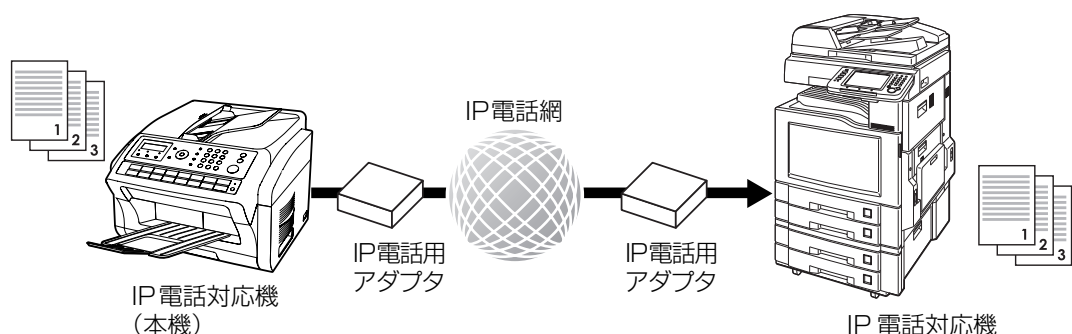
を押す

```
ｽﾍﾞﾃﾉｼﾝﾃﾝｦ ｼｮｳｷｮ
ｼﾏｽｶ? 1:ﾊｲ 2:ｲｲｴ
```

4 ① を押す

- 親展ボックス内のすべての親展文書が消去されます。

```
＊ ｼｮｳｷｮ ｼﾃｲﾏｽ ＊
ｽﾍﾞﾃ ﾉ ｼﾝﾃﾝ
```

IP 電話サービスを使って送る

本機では、IP 電話サービスを利用してファクス通信できます。

IP電話サービス利用上の注意

● **プロバイダが提供する IP 電話サービスのご契約が必要です。**

ご利用になるプロバイダが、「IP 電話対応機器」に対応した IP 電話サービスを提供しているかどうか、事前にご確認ください。

● **IP 電話サービスのサービス内容は、プロバイダごとに異なります。**

- IP 電話サービスのサービス内容・料金・提供条件・お申し込み方法などは、プロバイダにより異なります。各プロバイダにご確認ください。
- IP 電話サービスから発信できる番号は、各プロバイダにより異なります。
- 「IP 電話対応機器」をご利用のお客様間でも、ご契約された IP 電話サービスが異なる場合は、IP 電話サービスとして通信できない場合があります。

● **一般電話回線を接続しない場合、110 番などにはつながらない場合があります。**

- 110 番、118 番、119 番の電話番号へは、一般電話回線から自動的に発信されます。このため、一般電話回線が正しく接続されていないと、つながらない場合があります。
- ご契約されたIP電話サービスが携帯電話やフリーダイヤルなどへの電話をサービス対象外としている場合は、一般電話回線から発信してください。

● **IP 電話サービスからの発信方法は、次表のとおりです。**

<table>
<tr><th colspan="2">相手の電話番号</th><th>発信に利用するサービス</th></tr>
<tr><td>一般の電話番号</td><td>例　03-1234-5678
06-1234-5678</td><td>IP 電話サービスから発信できます。</td></tr>
<tr><td>050 番号（IP 電話）</td><td>例　050-XXXX-XXXX　＊</td><td>IP 電話サービスから発信できます。</td></tr>
<tr><td>0X0（050 以外）</td><td>例　携帯電話（090、080）
PHS（070）
国際電話（010）など</td><td rowspan="4">ご契約された IP 電話サービスのサービス内容により異なります。
詳しくは各電話サービスのサービス内容をご確認ください。

【ダイヤルした番号が IP 電話サービス対象の場合】
IP 電話サービスから発信します。

【ダイヤルした番号が IP 電話サービス対象外の場合】
一般電話回線から発信してください。</td></tr>
<tr><td>00XY</td><td>例　0036 などで始まるダイヤル</td></tr>
<tr><td>0XY0
（市外局番以外）</td><td>例　0120、0570 などで始まるダイヤル</td></tr>
<tr><td>その他のダイヤル
（110、118、119 以外）</td><td>――</td></tr>
<tr><td>110、118、119</td><td>110、118、119 の緊急電話</td><td>一般電話回線から自動的に発信します。</td></tr>
</table>

＊「184 ＋電話番号」および「186 ＋電話番号」を含みます。

- **IP 電話サービスから発信できない / 発信したくないとき**
  - 一般電話回線から発信してください。
  - ネットワーク障害など何らかのトラブルにより、IP電話サービスがご利用いただけない場合は、一般電話回線から発信してください。
- **発信者番号通知について**
  - IP 電話サービス間の電話の場合は、IP 電話サービスの電話番号が通知されます。
    （「184 ＋電話番号」をダイヤルすることで非通知にすることもできます。）
  - 加入電話など、IP 電話サービス以外に発信する際の発信者番号通知については、ご契約された各プロバイダにご確認ください。
- **IP 電話サービスについては、お使いの IP 電話対応機器の取扱説明書をあわせてご覧ください。**
- **下記のような場合は、IP 電話の電話品質が低下したり、ファクス通信が困難な場合があります。**
  - ADSL 回線の接続状況によって十分な帯域が確保できない場合
  - インターネットで十分な帯域が確保できない場合
  - IP 電話対応機器に接続されているコンピューターで、ファイル転送やストリーミングサービスのような、大きな帯域を必要とするサービスを使用中の場合

IP電話サービスを利用して送信する

「IP 電話対応機器」を設置している場合は、特別な操作をすることなく IP 電話サービスを使ってファクスを送信したり、電話をかけたりできます。
なお、インターネット網の不調などで IP 電話回線が通信不能になった場合は、次に説明するリルート機能とプレフィクス機能によって、自動的に一般電話回線に切り替えて通信できます。

リルート機能

リルート機能とは、IP 電話回線が通信不能の場合に、自動的に一般電話回線に切り替えてダイヤルをし直す機能です。この機能は、システム登録の「123 リルート機能」が「アリ」に設定されている場合に利用できます。

- 次ページの図の①～③のいずれかの送信方法で、自動的に通信回線を切り替えてダイヤルをし直し、ファクス送信されます。
- ①の方法で送信を開始し、送信できない場合は、②、③と送信方法が順次切り替わります。
- 「123 リルート機能」が「アリ」に設定されている場合は、ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルに一般の電話番号と IP 電話の番号を両方登録できます。
- ①～③の動作は、一般電話番号と IP 電話番号の両方が登録されていることを前提としています。一般電話番号のみしか登録されていない場合は②の方法で送信し、送信できなかったときは③の方法に切り替えて送信します。
- ③の方法へ切り替えるためには、システム登録の「124　プレフィクス機能」に一般電話回線への切り替え番号（プレフィクス番号）を登録し、「アリ」「ナシ」の設定を「ナシ」にします。
- 「123 リルート機能」が「アリ」に設定されている場合は、ディスプレイに次のメッセージが表示されます。

リルートだけを設定している場合

```
12-15 13:25
 <ﾘﾙｰﾄ ｾｯﾃｲﾁｭｳ>
```

リルート、プレフィクスの両方を設定している場合

```
12-15 13:25
ﾘﾙｰﾄ/ﾌﾟﾚﾌｨｸｽｾｯﾃｲ
```

- 「123 リルート機能」の設定 ☛ リルート機能 / プレフィクス機能を設定する（p.156）

プレフィクス機能

プレフィクス機能とは、ダイヤルした番号の頭にプレフィクス番号を自動的に付与することにより、IP 電話回線ではなく一般電話回線で通信する機能です。
この機能は、システム登録の「124 プレフィクス機能」で、プレフィクス番号が登録され、プレフィクス機能が「アリ」に設定されている場合に利用できます。

- プレフィクス番号は、0 ～ 9、#、＊、ポーズ記号を組み合わせて、最大 20 桁まで登録できます。
- 「124　プレフィクス機能」が「アリ」に設定されている場合、「123　リルート機能」の設定にかかわらず、常にプレフィクス番号をつけて一般電話回線で発信します。（次ページの図③参照）
- 「124 プレフィクス機能」が「アリ」に設定されている場合は、ディスプレイに次のメッセージが表示されます。

プレフィクスだけを設定している場合

```
12-15 13:25
<ﾌﾟﾚﾌｨｸｽｾｯﾃｲﾁｭｳ>
```

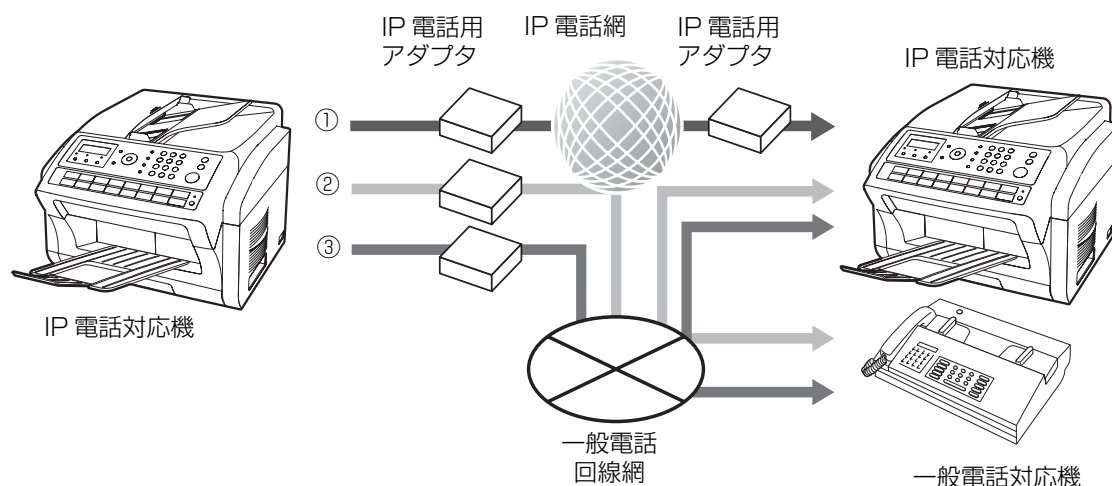
リルート、プレフィクスの両方を設定している場合

```
12-15 13:25
ﾘﾙｰﾄ/ﾌﾟﾚﾌｨｸｽｾｯﾃｲ
```

- モニターボタンを押してダイヤルする場合、プレフィクス機能は無効となります。
- 「124 プレフィクス機能」の設定 ☛ リルート機能 / プレフィクス機能を設定する（p.156）

（ＮＴＴ の例）

0000　：「IP 電話対応機器」を使用しているときに、続けてダイヤルすると、相手先の電話番号に一般電話回線から発信します。

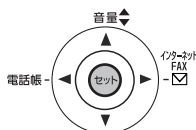
「0000」は NTT の例です。一般電話回線への切り替え番号は、ご契約の電話会社へご確認ください。

① IP 電話　→ IP 電話　　相手が IP 電話番号を持っている場合
② IP 電話　→ 一般電話　相手が IP 電話番号を持っていない場合
③一般電話　→ 一般電話　一般電話回線を指定する場合

送信の流れ

1. 送信方法①でファクスが送られます。
2. 通信エラーによって送信方法①で送ることができない場合は、自動的に送信方法②でファクス送信されます。
3. 通信エラーによって送信方法②でも送ることができない場合は、自動的に送信方法③でファクス送信されます。

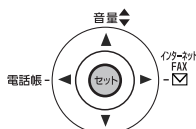
- どの回線を使ってファクス送信されたかを、通信管理レポートや通信結果レポートで確認できます。
  ☛ 通信管理レポート（p.268）
  ☛ 通信結果レポート（p.274）

リルート機能 / プレフィクス機能を設定する

リルート機能、およびプレフィクス機能を設定する場合は、次の手順で操作します。

1 システム登録の画面を表示する

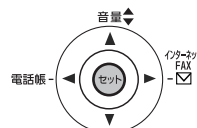
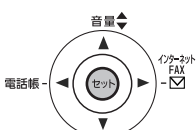
ファンクション 7 4 セット を押す

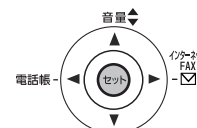
2 キーオペレーターコードを入力する

（キーオペレーターコードを入力して） セット を押す

3 リルート機能の設定画面を表示する

1 2 3 セット を押す

4 リルート機能を設定する

2 セット を押す

5 プレフィクス番号を入力する（最大 20 桁）

（プレフィクス番号を入力して） セット を押す

- 誤って入力した場合は、クリアーを押して訂正します。

6 プレフィクス機能を設定する

1 プレフィクス機能を利用しないとき

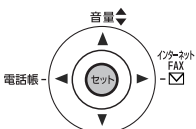
2 プレフィクス機能を利用するとき

- ◀または▶を押して設定を変更することもできます。

ﾌﾟﾚﾌｨｸｽ ｷﾉｳ?
ﾅｼ<>

または

ﾌﾟﾚﾌｨｸｽ ｷﾉｳ?
ｱﾘ<>

7 設定を終了する

ストップ を押す

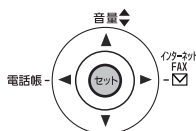
お知らせ

1. 「124 プレフィクス機能」を「アリ」にすると、「123 リルート機能」の設定にかかわらず、常にプレフィクス番号をつけて発呼します。

IP電話番号を登録する

システム登録の「123 リルート機能」を「アリ」に設定すると、1 つのワンタッチまたは短縮ダイヤルに、一般の電話番号と IP 電話番号の両方を登録できます。

ここでは、ワンタッチダイヤルに IP 電話番号を登録する手順で操作を説明します。

1 設定画面を表示する

ファンクション

を押す

1:ﾜﾝﾀｯﾁ ﾄｳﾛｸ
2:ﾀﾝｼｭｸ ﾄｳﾛｸ

2 ワンタッチダイヤル / 短縮ダイヤルを選択する

1 ワンタッチダイヤルに登録するとき

2 短縮ダイヤルに登録するとき

例：ワンタッチダイヤル

ﾜﾝﾀｯﾁ< >
ﾜﾝﾀｯﾁ ｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ

3 登録するワンタッチボタンを選択する

例：1

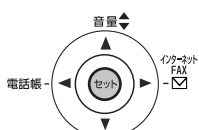
<01>
ﾃﾞﾝﾜﾊﾞﾝｺﾞｳﾆｭｳﾘｮｸ

4 電話番号を入力する（最大 36 桁）

例：「396111123」を入力

<01>
396111123■

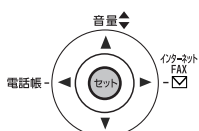
5

を押す

<01>
IPﾊﾞﾝｺﾞｳ ﾆｭｳﾘｮｸ

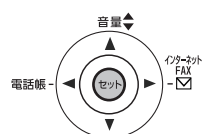
6 IP 電話番号を入力する（最大 36 桁）

例：「0501234567890」を入力

<01>
0501234567890■

7

を押す

<01> ﾅﾏｴ ﾄｳﾛｸ<ｶﾅ
0501234567890

8 文字ボタンを使って宛先名を入力する（最大 15 文字）

例：「エイギョウブ」を入力

☛ 文字入力のしかた（p.251）

<01> ｴｲｷﾞｮｳﾌﾞ<ｶﾅ
0501234567890

<次ページへつづく>

9

を押す

```
ﾜﾝﾀｯﾁ<   >
ﾜﾝﾀｯﾁ ｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

- 続けてワンタッチダイヤルの登録をする場合は、手順 3 からの操作を繰り返します。

10 設定を終了する

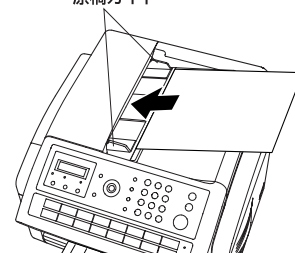
ストップ を押す

インターネット FAX を送る

インターネット FAX 機能を利用にするには、本機をネットワークへ接続し、必要な項目を正しく設定する必要があります。必要な設定項目と設定の操作については、次を参照してください。

☛ 自局登録（インターネットパラメーター）を設定する（p.38)、☛ インターネットに接続するには（p.48）

直接メールアドレスを指定して送る

メールアドレスを手動で入力して送信する場合は、次の手順で操作します。

1 原稿をセットする

送る面を上向きにして、原稿ガイドを原稿の幅に合わせる

☛ 原稿のセットのしかた（p.47）

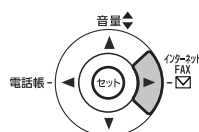
2 必要に応じて、濃度や文字サイズを選ぶ

☛ 濃度や文字サイズを設定する（p.74）

ｱﾃｻｷ ｦ ｲﾚﾃｸﾀﾞｻｲ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ

3 メールアドレス入力に切り替える

を押す

▮
ｱﾄﾞﾚｽｦ ｲﾚﾃｸﾀﾞｻｲ

4 メールアドレスを入力する

• 60 文字まで入力できます。

テンキーを利用して、相手のメールアドレスを入力する

☛ 文字入力のしかた（p.251）

例：「ab@panasonic.com」を入力

ab@panasonic.com

• 誤って入力した場合は クリアー を押します。

デフォルトドメインを利用する

メールアドレスのユーザー部分を入力し、セット を押す

例：「ab」を入力すると、送信時に登録されているデフォルトドメイン「@panasonic.com」が付加される

ab▮

デフォルト以外のドメインに送信する

(1) メールアドレスのユーザー部分を入力する
(2) ①を押して「@」を入力する
(3) ▲または▼を押して、ドメインを選択する
(4) セット を押す

ab@▮

5 スタート を押す

- メールアドレス再入力の画面が表示されます。

```
▮
ｱﾄﾞﾚｽｦ ｻｲﾆｭｳﾘｮｸ
```

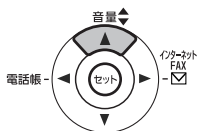
6 もう一度メールアドレスを入力する

相手のメールアドレスを再入力する

```
ab@panasonic.com
```

7
を押す

- 宛先確認の画面が表示されます。
- 手順4で入力したメールアドレスと異なる場合は､｢アテサキガ イッチシテイマセン｣と表示され､手順４に戻ります。

```
V∧ﾃﾞ ｱﾃｻｷｦｶｸﾆﾝｼﾃ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

8 入力済みの宛先をすべて確認する

を押す

- 宛先確認をした場合だけ送信できます。

```
ab@panasonic.com
↓
ｱﾃｻｷﾏﾁｶﾞｲｱﾘﾏｾﾝｶ?
ﾊｲ:ｽﾀｰﾄ ｲｲｴ:ｸﾘｱｰ
```

9
を押す

- 原稿の読み取りが開始されます。読み取りが終了すると送信が開始されます。（☛ お知らせ 1）
- 送信を中止する場合は､ストップを押します。

お知らせ

1. お買い上げ時の設定では、送信できなかった場合に、自動的に通信結果レポートがプリントされます。
2. 正常に送信できなかった場合は、メールサーバーからエラーメールが返信されます。
   ☛ ファイルタイプを設定する（送信ファイルタイプ）（p.178）
3. デフォルトドメインは、システム登録の「160 デフォルトドメイン名」（☛p.265）が「アリ」に設定され、自局情報にデフォルトドメインが登録されているときに利用できます。
4. 「送信ファイルタイプ」（ファンクション ⑧ ⑥ ）で、送信ファイルタイプを送信ごとに変更できます。また、よく使用する送信ファイルタイプは、システム登録の「177 送信ファイルタイプ」（☛p.266）で、初期値として設定できます。

インターネットFAXの操作

ワンタッチダイヤルで送る

本機では、サーバーを介したインターネット FAX 送信、およびサーバーを介さずに直接インターネット FAX へ送るダイレクト SMTP 送信を利用できます。

サーバーを介してインターネット FAX を送る

ワンタッチダイヤルを使って、簡単な操作でダイヤルできます。

- ワンタッチダイヤルは、あらかじめ登録が必要です。☛ ワンタッチダイヤルを登録する（p.230）を参照してください。

1 原稿をセットする

送る面を上向きにして、原稿ガイドを原稿の幅に合わせる
☛ 原稿のセットのしかた（p.47）

2 必要に応じて、濃度や文字サイズを選ぶ

☛ 濃度や文字サイズを設定する（p.74）

ｱﾃｻｷ ｦ ｲﾚﾃｸﾀﾞｻｲ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ

3 [1] を押す

例 : ワンタッチボタン 01

- ワンタッチボタン17～32の場合は、ワンタッチボタンの前に、(シフト)を押します。

<01> ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ
ab@panasonic.com

4 (スタート) を押す

- 宛先確認の画面が表示されます。

V∧ﾃﾞ ｱﾃｻｷｦｶｸﾆﾝｼﾃ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ

5 入力済みの宛先をすべて確認する

を押す

- 宛先確認をした場合だけ送信できます。

<01> ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ
ab@panasonic.com

ｱﾃｻｷﾏﾁｶﾞｲｱﾘﾏｾﾝｶ?
ﾊｲ:ｽﾀｰﾄ ｲｲｴ:ｸﾘｱｰ

6 (スタート) を押す

- 原稿の読み取りが開始されます。読み取りが終了すると送信が開始されます。（☛ お知らせ 1）
- 送信を中止する場合は、[ストップ]を押します。

サーバーを介さずに直接インターネット FAX へ送る（ダイレクト SMTP 送信）

ダイレクト SMTP 送信が設定されているワンタッチダイヤルを使って、簡単な操作でダイレクト SMTP 送信を利用できます。

- ワンタッチダイヤルは、あらかじめ登録が必要です。☛ ワンタッチダイヤルを登録する（p.230）を参照してください。

1 原稿をセットする

送る面を上向きにして、原稿ガイドを原稿の幅に合わせる

☛ 原稿のセットのしかた（p.47）

2 必要に応じて、濃度や文字サイズを選ぶ

☛ 濃度や文字サイズを設定する（p.74）

```
ｱﾃｻｷ ｦ ｲﾚﾃｸﾀﾞｻｲ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

3 [1] を押す

例 : ワンタッチボタン 01

- ワンタッチダイヤルの登録時に「ダイレクト SMTP」を「ハイ」に設定したワンタッチボタンを指定します。
- ワンタッチボタン17～32の場合は、ワンタッチボタンの前に、(ｼﾌﾄ)を押します。

```
<01> ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ
ab@panasonic.com
```

4

☛ サーバーを介してインターネット FAX を送る（p.162）のの手順４へ進みます。

お知らせ

1. お買い上げ時の設定では、送信できなかった場合に、自動的に通信結果レポートがプリントされます。
2. 正常に送信できなかった場合は、メールサーバーからエラーメールが返信されます。
   ☛ ファイルタイプを設定する（送信ファイルタイプ）（p.178）
3. 「送信ファイルタイプ」（[ファンクション] ⑧ ⑥）で、送信ファイルタイプを送信ごとに変更できます。また、よく使用する送信ファイルタイプは、システム登録の「177 送信ファイルタイプ」（☛p.266）で、初期値として設定できます。

短縮ダイヤルで送る

本機では、サーバーを介したインターネット FAX 送信、およびサーバーを介さずに直接インターネットFAXへ送るダイレクト SMTP 送信を利用できます。

サーバーを介してインターネットFAXを送る

短縮番号を押してダイヤルできます。

- 短縮ダイヤルは、あらかじめ登録が必要です。☛短縮ダイヤルを登録する（p.233）を参照してください。

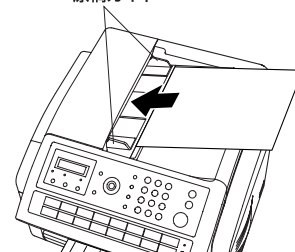
1 原稿をセットする

送る面を上向きにして、原稿ガイドを原稿の幅に合わせる

☛原稿のセットのしかた（p.47）

2 必要に応じて、濃度や文字サイズを選ぶ

☛濃度や文字サイズを設定する（p.74）

アテサキ ヲ イレテクダ サイ
スタートヲ オシテクダ サイ

3 短縮/スペース 0 1 0 を押す

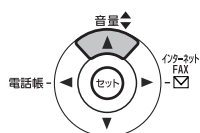
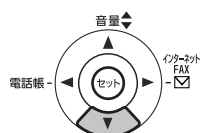
例：短縮ダイヤル「010」

[010]パ ナソニック
ab@panasonic.com

4 スタート を押す

- 宛先確認の画面が表示されます。

V∧デ アテサキヲカクニンシテ
スタートヲ オシテクダ サイ

5 入力済みの宛先をすべて確認する

または

を押す

- 宛先確認をした場合だけ送信できます。

[010]パ ナソニック
ab@panasonic.com
↓
アテサキマチガ イアリマセンカ?
ハイ:スタート イイエ:クリアー

6 スタート を押す

- 原稿の読み取りが開始されます。読み取りが終了すると送信が開始されます。（☛お知らせ 1）
- 送信を中止する場合は、ストップを押します。

*チクセキ チュウ*NO.123
マイスウ=001 01%
↓
* ソウシン シテイマス *
[010]パ ナソニック

サーバーを介さずに直接インターネット FAX へ送る（ダイレクト SMTP 送信）

ダイレクト SMTP 送信が設定されている短縮ダイヤルを使って、簡単な操作でダイレクト SMTP 送信を利用できます。

- 短縮ダイヤルは、あらかじめ登録が必要です。☛ 短縮ダイヤルを登録する（p.233）を参照してください。

1 原稿をセットする

送る面を上向きにして、原稿ガイドを原稿の幅に合わせる
☛ 原稿のセットのしかた（p.47）

2 必要に応じて、濃度や文字サイズを選ぶ

☛ 濃度や文字サイズを設定する（p.74）

```
ｱﾃｻｷ ｦ ｲﾚﾃｸﾀﾞｻｲ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

3

を押す

例：短縮ダイヤル「010」

```
[010]ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ
ab@panasonic.com
```

- 短縮ダイヤルの登録時に「ダイレクト SMTP」を「ハイ」に設定した短縮ダイヤルの番号を指定します。

4

☛ サーバーを介してインターネット FAX を送る (p.164) のの手順４へ進みます。

お知らせ

1. お買い上げ時の設定では、送信できなかった場合に、自動的に通信結果レポートがプリントされます。
2. 正常に送信できなかった場合は、メールサーバーからエラーメールが返信されます。
   ☛ ファイルタイプを設定する（送信ファイルタイプ）(p.178）
3. 「送信ファイルタイプ」（ファンクション ⑧ ⑥）で、送信ファイルタイプを送信ごとに変更できます。また、よく使用する送信ファイルタイプは、システム登録の「177 送信ファイルタイプ」(☛p.266）で、初期値として設定できます。

電話帳で送る

ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤルに登録されている宛先を、宛先名で検索してダイヤルできます。

- ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤルは、あらかじめ登録が必要です。☛ ワンタッチダイヤルを登録する（p.230）、☛ 短縮ダイヤルを登録する（p.233）を参照してください。

1 原稿をセットする

送る面を上向きにして、原稿ガイドを原稿の幅に合わせる
☛ 原稿のセットのしかた（p.47）

2 必要に応じて、濃度や文字サイズを選ぶ

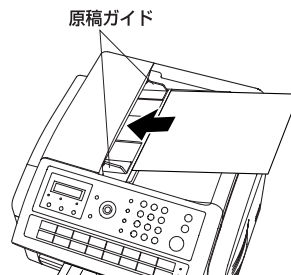
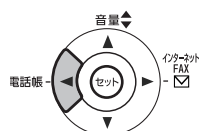
☛ 濃度や文字サイズを設定する（p.74）

ｱﾃｻｷ ｦ ｲﾚﾃｸﾀﾞｻｲ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ

3

を押す

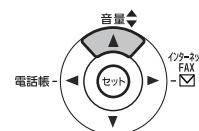
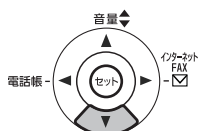
ｱﾃｻｷﾒｲ ﾆｭｳﾘｮｸ <ｶﾅ
▮

4

文字ボタンを使って宛先名の全部または一部を入力する
☛ 文字入力のしかた（p.251）
例：「PANASONIC」を検索するために「PANA」を入力

ｱﾃｻｷﾒｲ ﾆｭｳﾘｮｸ <A>
PANA

5 宛先を探す

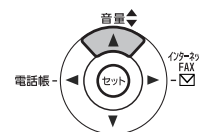
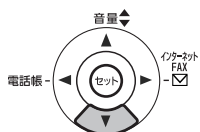
または

を押す

送信する宛先名がディスプレイに表示されるまで繰り返す

<01> PANASONIC
ab@panasonic.com

6

を押す

- 宛先確認の画面が表示されます。

∨∧ﾃﾞ ｱﾃｻｷｦｶｸﾆﾝｼﾃ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ

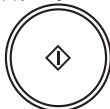
7 入力済みの宛先をすべて確認する

または

を押す

- 宛先確認をした場合だけ送信できます。

<01> PANASONIC
ab@panasonic.com

ｱﾃｻｷﾏﾁｶﾞｲｱﾘﾏｾﾝｶ?
ﾊｲ:ｽﾀｰﾄ ｲｲｴ:ｸﾘｱｰ

8 スタート

を押す

- 原稿の読み取りが開始されます。読み取りが終了すると送信が開始されます。(☛ お知らせ 1)
- 送信を中止する場合は、ストップを押します。

お知らせ

1. お買い上げ時の設定では、送信できなかった場合に、自動的に通信結果レポートがプリントされます。
2. 正常に送信できなかった場合は、メールサーバーからエラーメールが返信されます。
   ☛ ファイルタイプを設定する(送信ファイルタイプ)(p.178)
3. 「送信ファイルタイプ」(ファンクション ⑧ ⑥)で、送信ファイルタイプを送信ごとに変更できます。また、よく使用する送信ファイルタイプは、システム登録の「177 送信ファイルタイプ」(☛p.266)で、初期値として設定できます。

複数宛先に送る（順次同報送信）

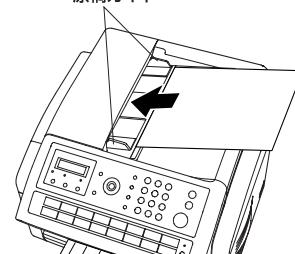
同じ原稿を複数の宛先に送信する場合、メモリー送信を使うことで一度の操作でたくさんの相手に送ることができます。ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤル、グループダイヤル、および直接ダイヤル（20カ所まで）を含め、合わせて220カ所まで指定できます。

ただし、お買い上げ時は、複数宛先の指定、およびグループダイヤルを禁止するように設定されています。この機能が設定されている場合、2カ所目の宛先指定時に、次のメッセージが表示されます。

ﾌｸｽｳｱﾃｻｷﾉ ｾﾝﾀｸﾊ
ﾃﾞｷﾏｾﾝ

- 複数宛先指定の禁止を解除する場合は、システム登録の「117 複数宛先指定」（☛p.262）を「アリ」に設定します。

1 原稿をセットする

送る面を上向きにして、原稿ガイドを原稿の幅に合わせる
☛ 原稿のセットのしかた（p.47）

2 必要に応じて、濃度や文字サイズを選ぶ

☛ 濃度や文字サイズを設定する（p.74）

ｱﾃｻｷ ｦ ｲﾚﾃｸﾀﾞｻｲ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ

3 次の方法を組み合わせてメールアドレスを指定する

- ワンタッチダイヤル（☛p.162）
  ボタンを押して、セットを押す
- 短縮ダイヤル（☛p.164）
  短縮番号を指定して、セットを押す
- 電話帳（☛p.166）
  宛先を選択して、セットを押す
- 直接ダイヤル（☛p.160）
  電話番号を入力して、セットを押す（最大20件）

例：

 を押す（ワンタッチボタン01）

<01>（宛先名）
ab@panasonic.com

短縮/スペース 0 1 0 **を押す**（短縮番号001）

[010]（宛先名）
ab@panasonic.com

1　ｱﾃｻｷ ｾｯﾄ
ﾂｲｶ ﾏﾀﾊ ｽﾀｰﾄ

- 入力した宛先数を確認する場合、セットを押します。
- ▼ または ▲を押すと、入力した宛先を確認できます。
  宛先を削除する場合は、クリアーを押します。

4

を押す

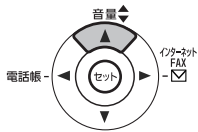
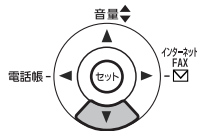
- 宛先確認の画面が表示されます。
- 直接入力の場合は、再入力の画面が表示されます。テンキーでメールアドレスを再入力して、スタートを押します。

```
V∧デ゛ アテサキヲカクニンシテ
スタートヲ オシテクダ゛サイ
```

直接入力の場合

```
▮
アト゛レスヲ サイニュウリョク
```

5 入力済みの宛先をすべて確認する

または
を押す

- 宛先確認をした場合だけ送信できます。

```
<01> ( 宛先名 )
ab@panasonic.com
```

```
アテサキマチカ゛イアリマセンカ?
ハイ:スタート イイエ:クリアー
```

6

を押す

- 原稿の読み取りが開始されます。すべての原稿の読み取りが終了したら、送信が開始されます。（☛ お知らせ 2）
- 送信を中止する場合は、ストップを押します。

```
*チクセキ チュウ*NO.123
マイスウ=001      01%
```

```
* ソウシン シテイマス *
[010]( 宛先名 )
```

お知らせ

1. お買い上げ時の設定では、送信できなかった場合に、自動的に通信結果レポートがプリントされます。
2. 正常に送信できなかった場合は、メールサーバーからエラーメールが返信されます。
   ☛ ファイルタイプを設定する（送信ファイルタイプ）（p.178）
3. メールアドレスと電話番号を組み合わせることができます。
4. 一般的に LAN による複数宛先への送信は、SMTP サーバーに 1 回の送信で完了します。システム登録の「173 送達確認要求」（☛p.266）が「オン」に設定されているか、「172 ダイレクト SMTP 送信」が「アリ」に設定されている宛先を選択した場合は、各宛先へ個別に送信されます。
5. 「送信ファイルタイプ」（ファンクション ⑧ ⑥ ）で、送信ファイルタイプを送信ごとに変更できます。また、よく使用する送信ファイルタイプは、システム登録の「177 送信ファイルタイプ」（☛p.266）で、初期値として設定できます。

誤送信防止の機能を使う

誤った宛先への送信を防止するため、本機には、複数宛先指定の禁止、宛先確認、直接ダイヤル制限、直接ダイヤル再入力の４つの機能があります。

複数宛先指定を禁止する（複数宛先指定）

お買い上げ時は、複数宛先の指定、およびグループダイヤルを禁止するように設定されています。
この機能が設定されている場合、2 カ所目の宛先指定時に、次のメッセージが表示されます。

ﾌｸｽｳｱﾃｻｷﾉ ｾﾝﾀｸﾊ
ﾃﾞｷﾏｾﾝ

- 複数宛先指定の禁止を解除する場合は、システム登録の「117 複数宛先指定」（☛p.262）を「アリ」に設定します。
- 「ナシ」に設定した場合も、プログラムダイヤルを利用すると複数宛先へ送信できます。

宛先を確認してから送る（宛先確認）

本機では、お買い上げ時、常に宛先確認をしてから送信を開始するように設定されています。
宛先確認が設定されている場合、宛先を確認しないで［スタート］を押すと、宛先確認の操作を促すメッセージが表示されます。

- 宛先確認をする場合は、システム登録の「125 宛先確認」（☛p.262）を「アリ」に設定しておきます。お買い上げ時は、「アリ」に設定されています。

宛先を指定して［スタート］を押すと、宛先の確認を促すメッセージが表示されます。
次の手順で操作してください。

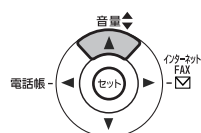
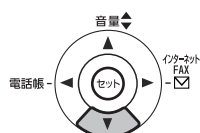
1 宛先を確認する

ﾏﾀﾊﾃﾞ ｱﾃｻｷｦｶｸﾆﾝｼﾃ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ

または　　を押す

2

を押す

ｽﾍﾞﾃﾉｱﾃｻｷｦｶｸﾆﾝｼ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ

- 複数宛先を指定している場合、［▲］または［▼］で、すべての宛先を確認しないで［スタート］を押すと、右のメッセージが表示され、手順１へ戻ります。

直接ダイヤルを制限する（直接ダイヤル制限）

メールアドレスを直接入力する操作を禁止するように設定できます。

- 直接ダイヤル入力を禁止する場合は、システム登録の「136 直接ダイヤル制限」（☛p.263）を「アリ」に設定します。お買い上げ時は、「ナシ」に設定されています。
- この機能を設定すると、再ダイヤルは使用できません。ただし、再ダイヤル待ちが表示されている場合は 再ダイヤル押すと、再ダイヤルが開始されます。

直接ダイヤル制限が「アリ」に設定されている場合、テンキー、再ダイヤル、▶（インターネット FAX）を押すと、次のメッセージが表示されます。

ﾁｮｸｾﾂﾀﾞｲﾔﾙ ｾｲｹﾞﾝ
ﾁｭｳ ｺﾉｿｳｻﾊﾃﾞｷﾏｾﾝ

メールアドレスの直接入力時に再入力する（直接ダイヤル再入力）

本機では、お買い上げ時、メールアドレスを直接入力する場合にメールアドレスの再入力画面が表示され、もう一度メールアドレスを入力するように設定されています。1 回目と 2 回目のメールアドレスが一致した場合にだけ送信ができます。

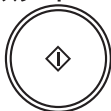
- 直接ダイヤル再入力の設定を変更する場合は、システム登録の「137 直ダ再入力」（☛p.263）で設定を変更してください。お買い上げ時は、「アリ」に設定されています。
- システム登録の「136 直接ダイヤル制限」が「アリ」に設定されている場合は、「137 直ダ再入力」（☛p.263）で「アリ」を設定しても、再入力画面は表示されません。
- 1 回目と 2 回目の宛先が一致しない場合は、「アテサキガ　イッチシテイマセン」と表示されます。

直接ダイヤル再入力が「アリ」に設定されている場合、1 回目のメールアドレスを入力し、セット または スタート を押すと、自動的に再入力画面が表示されます。次の手順に従って操作してください。

1 メールアドレスをもう一度入力する

ｱﾄﾞﾚｽｦ ｻｲﾆｭｳﾘｮｸ

ab@panasonic.com

2

を押す

- 1 回目と 2 回目のメールアドレスが一致すると、送信が開始されます。
- 1 回目と 2 回目のメールアドレスが一致しない場合は、「アテサキガ　イッチシテイマセン」と表示されます。
この場合は、1 回目のメールアドレスの入力から、操作し直します。

次の送信を予約する（メモリー送信予約）

メモリー送信で原稿を送信中、または原稿の受信中に、次の操作ができます。

- 次の送信をメモリーに蓄積する（最大 20 件）

メモリー送信で原稿の送信中、原稿の受信中、または受信文書のプリント中は、ディスプレイに次のメッセージが表示されています。

- メモリー送信中

```
* ｿｳｼﾝ ｼﾃｲﾏｽ *
（宛先名）
```

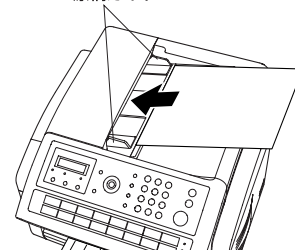
- 受信中

```
*ｼﾞｭｼﾝ ｼﾃｲﾏｽ*
（相手先 ID）
```

- 受信文書のプリント中

```
* ﾌﾟﾘﾝﾄ ｼﾃｲﾏｽ *
ﾒﾓﾘｰ ﾌｧｲﾙ ﾌﾟﾘﾝﾄ
```

メモリー送信予約の操作

次の送信を予約する場合は、次の手順で操作します。

1 原稿をセットする

送る面を上向きにして、原稿ガイドを原稿の幅に合わせる

☛ 原稿のセットのしかた（p.47）

2 必要に応じて、濃度や文字サイズを選ぶ

☛ 濃度や文字サイズを設定する（p.74）

```
ｱﾃｻｷ ｦ ｲﾚﾃｸﾀﾞｻｲ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

3 宛先を指定する

- ワンタッチダイヤル（☛p.162）
  短縮ダイヤル（☛p.164）
  電話帳（☛p.166）
  直接ダイヤル（☛p.160）

例：短縮ダイヤル「010」

```
[010]ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ
ab@panasonic.com
```

4 スタート を押す

- 宛先確認の画面が表示されます。
- 直接入力の場合は、再入力の画面が表示されます。テンキーでメールアドレスを再入力して、スタート を押します。

```
V∧ﾃﾞ ｱﾃｻｷｦｶｸﾆﾝｼﾃ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

直接入力の場合

```
▮
ｱﾄﾞﾚｽｦ ｻｲﾆｭｳﾘｮｸ
```

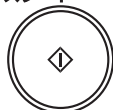
5 入力済みの宛先をすべて確認する

を押す

- 宛先確認をした場合だけ送信できます。

6

を押す

- 原稿の読み取りが開始されます。読み取りが終了すると送信が開始されます。（☛ お知らせ 1）
- 送信を中止する場合は、ストップを押します。

自動再ダイヤルについて

LAN 接続に異常があったり、相手のサーバーが通信不可能などで通信ができなかったときは、3 分ごとに最大 2 回まで再ダイヤルされます。

その間、下のようなメッセージが表示されます。ファイル番号は、メモリー送信ファイルの場合ディスプレイの右端上部に表示されます。

ダ゛イヤルマチ
<01>（ 宛先名）

- 再ダイヤル待ちの通信予約ファイルは、通信予約時刻や宛先を変更できません。
- 再ダイヤル待ちの通信を中止したい場合は、「ダイヤルマチ」のメッセージが表示されている状態で、ストップ を押します。
- 「ダイヤルマチ」が表示されている状態で 再ダイヤル を押すと、再送信できます。

お知らせ

1. メモリー送信予約の消去については、☛ 通信予約ファイルを消去する（p.122）を参照ください。
2. 送信を停止する場合は、ストップ を押します。
   ディスプレイには、次のメッセージが表示されます。

   ソウシン テイシ?
   1:ハイ 2:イイエ

   ①を押すと、送信が停止されます

ドメインリストを利用する（セレクトドメイン）

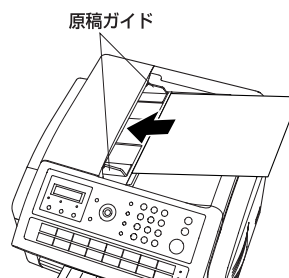
セレクトドメイン機能を使うと、メールアドレスを簡単に入力できます。

この機能を利用する場合は、あらかじめ、よく使うドメイン名を自局情報（インターネットパラメーター）の「セレクトドメイン」（☛p.40）に登録しておきます。10 件まで登録できます。

セレクトドメインを利用する場合は、次の手順で操作します。

例：事前に登録した "panasonic.com" を使って、パナソニック販売部宛 "sales@panasonic.com" にメールを送信する

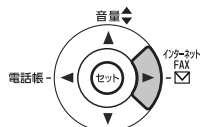
1 原稿をセットする

送る面を上向きにして、原稿ガイドを原稿の幅に合わせる
☛ 原稿のセットのしかた（p.47）

2 必要に応じて、濃度や文字サイズを選ぶ

☛ 濃度や文字サイズを設定する（p.74）

```
ｱﾃｻｷ ｦ ｲﾚﾃｸﾀﾞｻｲ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

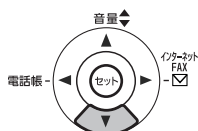
3 メールアドレス入力に切り替える

を押す

```
▮
ｱﾄﾞﾚｽｦ ｲﾚﾃｸﾀﾞｻｲ
```

4 メールアドレスのユーザー部分を入力する

例：「sales@」を入力

```
sales@▮
```

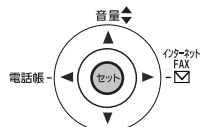
- メールアドレスは、60 文字まで入力できます。
- 「@」は、①を押して入力します。

5 ドメイン名を選択する

を押す

```
panasonic.com
```

6 ドメイン名を決定する

を押す

```
sales@panasonic.
com
```

例：「panasonic.com」を選択

- 誤ったドメイン名を選択した場合は、手順 5 へ戻ります。
（☛p.175 のお知らせ 1）

7 スタート を押す

アドレスヲ サイニュウリョク

- メールアドレス再入力の画面が表示されます。

8 もう一度メールアドレスを入力する

相手のメールアドレスを再入力する

sales@panasonic.
com

9 スタート を押す

V∧デ アテサキヲカクニンシテ
スタートヲ オシテクダサイ

- 宛先確認の画面が表示されます。
- 手順 6 で入力したメールアドレスと異なる場合は、「アテサキガ イッチシテイマセン」と表示され、手順 3 に戻ります。

10 入力済みの宛先をすべて確認する

または
を押す

- 宛先確認をした場合だけ送信できます。

sales@panasonic.
com

アテサキマチガイアリマセンカ?
ハイ:スタート イイエ:クリアー

11 スタート
を押す

- 原稿の読み取りが開始されます。読み取りが終了すると送信が開始されます。
- 送信を中止する場合は、ストップを押します。

*チクセキ チュウ*NO. 123
マイスウ=001 01%

* ソウシン シテイマス *
sales@panasonic.

お知らせ

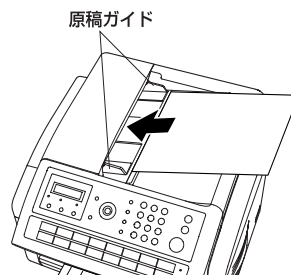
1. 必要なドメイン名が見つからない場合は、クリアーを押してセレクトドメインを終了してください。

受信確認メールを要求する（送達確認要求（MDN））

送達確認要求（MDN）を設定すると、受信側に受信確認のメールを要求できます。受信側に送達確認の機能がある場合は、送信元に対して受信確認メールを自動的に送信できます。

- 受信確認メールが戻ってきた場合、お使いのファクスの通信管理レポートには「OK」が表示されます。

1 原稿をセットする

送る面を上向きにして、原稿ガイドを原稿の幅に合わせる
☛ 原稿のセットのしかた（p.47）

2 必要に応じて、濃度や文字サイズを選ぶ

☛ 濃度や文字サイズを設定する（p.74）

```
ｱﾃｻｷ ｦ ｲﾚﾃｸﾀﾞｻｲ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

3 送達確認要求の画面を表示する

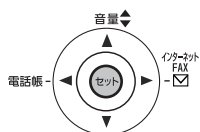
を押す

```
ｿｳﾀﾂ ｶｸﾆﾝ?
          ｵﾝ<>
```

4 ①または②を押し、送達確認を設定する

1 オフのとき

2 オンのとき

- ◀または▶を押して設定を変更することもできます。

```
ｿｳﾀﾂ ｶｸﾆﾝ?
          ｵﾌ<>
```

または

```
ｿｳﾀﾂ ｶｸﾆﾝ?
          ｵﾝ<>
```

5

を押す

```
ｱﾃｻｷ ｦ ｲﾚﾃｸﾀﾞｻｲ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

6 宛先を指定する

- ワンタッチダイヤル（☛p.162）
  短縮ダイヤル（☛p.164）
  電話帳（☛p.166）
  直接ダイヤル（☛p.160）

例：短縮ダイヤル「010」

```
[010]ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ
ab@panasonic.com
```

7

を押す

- 宛先確認の画面が表示されます。
- 直接入力の場合は、再入力の画面が表示されます。テンキーでメールアドレスを再入力して、スタートを押します。

```
V∧デ゛ アテサキヲカクニンシテ
スタートヲ オシテクダ゛サイ
```

直接入力の場合

```
■
アト゛レスヲ サイニュウリョク
```

8 入力済みの宛先をすべて確認する

または

を押す

- 宛先確認をした場合だけ送信できます。

```
[010]パ゜ナソニック
ab@panasonic.com
```

```
アテサキマチガ゛イアリマセンカ?
ハイ:スタート イイエ:クリアー
```

9

を押す

- 原稿の読み取りが開始されます。読み取りが終了すると送信が開始されます。(☛ お知らせ 1)
- 送信を中止する場合は、ストップを押します。

```
*チクセキ チュウ*NO.123
マイスウ=001        01%
```

```
* ソウシン シテイマス *
[010]パ゜ナソニック
```

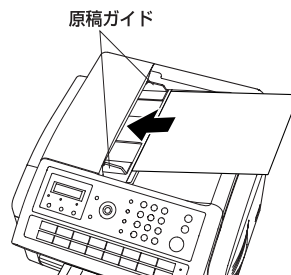

お知らせ

1. 複数の宛先に送信すると、宛先ごとに送信し、送達確認が要求されます。
2. システム登録の「173 送達確認要求」(☛p.266)で、送達確認要求の初期値を変更できます。お買い上げ時は、「オン」に設定されています。

ファイルタイプを設定する（送信ファイルタイプ）

送信文書のファイルタイプを、TIFF、または PDF から選択できます。
送信ファイルタイプを設定する場合は、次の手順で操作します。

1 原稿をセットする

送る面を上向きにして、原稿ガイドを原稿の幅に合わせる
☛ 原稿のセットのしかた（p.47）

2 必要に応じて、濃度や文字サイズを選ぶ

☛ 濃度や文字サイズを設定する（p.74）

ｱﾃｻｷ ｦ ｲﾚﾃｸﾀﾞｻｲ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ

3 機能設定の画面を表示する

ファンクション　8　6

を押す

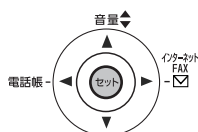
ｿｳｼﾝ ﾌｧｲﾙ ﾀｲﾌﾟ?
TIFF<>

4 ①または②を押し、ファイルタイプを設定する

1　TIFF のとき

2　PDF のとき

- ◀または▶を押して設定を変更することもできます。

ｿｳｼﾝ ﾌｧｲﾙ ﾀｲﾌﾟ?
TIFF<>

または

ｿｳｼﾝ ﾌｧｲﾙ ﾀｲﾌﾟ?
PDF<>

5

を押す

ｱﾃｻｷ ｦ ｲﾚﾃｸﾀﾞｻｲ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ

6 宛先を指定する

- ワンタッチダイヤル（☛p.162）
  短縮ダイヤル（☛p.164）
  電話帳（☛p.166）
  直接ダイヤル（☛p.160）

例：短縮ダイヤル「010」

[010]ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ
ab@panasonic.com

7 スタート

を押す

- 宛先確認の画面が表示されます。
- 直接入力の場合は、再入力の画面が表示されます。テンキーでメールアドレスを再入力して、スタートを押します。

ﾖｹﾚﾊﾞ ｱﾃｻｷｦｶｸﾆﾝｼﾃ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ

直接入力の場合

▮
ｱﾄﾞﾚｽｦ ｻｲﾆｭｳﾘｮｸ

8　入力済みの宛先をすべて確認する

または　を押す

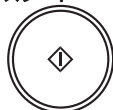
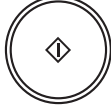
- 宛先確認をした場合だけ送信できます。

```
[010]ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ
ab@panasonic.com
```

↓

```
ｱﾃｻｷﾏﾁｶﾞｲｱﾘﾏｾﾝｶ?
ﾊｲ:ｽﾀｰﾄ ｲｲｴ:ｸﾘｱｰ
```

9

を押す

- 原稿の読み取りが開始されます。読み取りが終了すると設定したファイルタイプで、送信が開始されます。
- 送信を中止する場合は、[ストップ]を押します。

お知らせ

1. 送信ファイルタイプは、システム登録の「177 送信ファイルタイプ」(☛p.266)で初期値を変更できます。

送信エラーが発生したときは（エラーメール）

インターネット FAX では、メールを正常に送信できなかった場合、メールサーバーからエラーメールが返送されます。エラーメールでは、メールサーバーからの情報と 1 枚目の画情報がプリントされます。

エラーメールのプリント例

```
Received: from localhost (localhost) by ifeif1.rdmg.mgcs.mei.co.jp (8.6.12/3.4W3) with
internal id OAA24381; Sun, dd Mmm yyyy 14:52:57 +0900
Date: Sun, dd Mmm yyyy 14:52:57 +0900
From: Mail Delivery Subsystem <MAILER-DAEMON@ifeif1.rdmg.mgcs.mei.co.jp>
Subject: Returned mail: User unknown
Message-Id: <200011120552.OAA24381@ifeif1.rdmg.mgcs.mei.co.jp>
To: <fax@nwpc31.rdmg.mgcs.mei.co.jp>

The original message was received at Sun, dd Mmm yyyy 14:52:54 +0900
from nwpc31.rdmg.mgcs.mei.co.jp [172.21.22.51]

   ----- The following addresses had delivery problems -----
<error@nwr39.rdmg.mgcs.mei.co.jp>  (unrecoverable error)

   ----- Transcript of session follows -----
.... while talking to nwr39.rdmg.mgcs.mei.co.jp.:
>>> RCPT To:<error@nwr39.rdmg.mgcs.mei.co.jp>
<<< 550 <error@nwr39.rdmg.mgcs.mei.co.jp>... User unknown
550 <error@nwr39.rdmg.mgcs.mei.co.jp>... User unknown

   ----- Original message follows -----
Return-Path: fax@nwpc31.rdmg.mgcs.mei.co.jp
Received: from nwpc31.rdmg.mgcs.mei.co.jp (Internet FAX) (nwpc31.rdmg.mgcs.mei.co.jp [172.21
.22.51]) by ifeif1.rdmg.mgcs.mei.co.jp (8.6.12/3.4W3) with SMTP id OAA24380 for <error@nwr39
.rdmg.mgcs.mei.co.jp>; Sun, dd Mmm yyyy 14:52:54 +0900
Message-Id: <200011120552.OAA24380@ifeif1.rdmg.mgcs.mei.co.jp>
Mime-Version: 1.0
Content-Type: image/tiff
Content-Transfer-Encoding: base64
Content-Disposition: attachment; filename="image.tif"
Content-Description: image.tif
X-Mailer: Internet FAX, MGCS
Date: Sun, dd Mmm yyyy 14:49:00 +0900
From: "DP-2000" <fax@nwpc31.rdmg.mgcs.mei.co.jp>
Subject: IMAGE from Internet FAX
To: error@nwr39.rdmg.mgcs.mei.co.jp
```

5

dd Mmm yyyy 14:49　　FROM UF-6020　　P.01/01

THE SLEREXE COMPANY LIMITED

SAPORS LANE - BOOLE - DORSET - BH 25 8 ER

TELEPHONE BOOLE (945 13) 51617 - TELEX 123456

Our Ref. 350/PJC/EAC　　dd Mmm yyyy

Dr. P.N. Cundall,
Mining Surveys Ltd.,
Holroyd Road
Reading,
Berks.

Dear Pete,

Permit me to introduce you to the facility of facsimile transmission.

In facsimile a photocell is caused to perform a raster scan over the subject copy. The variations of print density on the document cause

メーリングリストを使う

複数の相手のメールアドレスを指定する代わりに、あらかじめメールサーバーに登録されたメーリングリストを利用すると、１回の操作で、簡単に複数宛先送信ができます。
メーリングリストのご利用については、システム管理者とよく相談のうえご使用ください。

インターネットFAXを受ける

ネットワーク上のコンピューターまたはインターネットFAXから受信した文書は､自動的にプリントされ､受信トレイに排出されます。受信するための設定は特にありません。
ただし、POPサーバーに接続してインターネットFAXを利用する場合は、POP関連の設定が必要になります。☛POPクライアントとして設定するには（p.50）

インターネットFAXは、受信文書だけではなく、メールも受信できます。メールをコンピューターで閲覧する操作については、お使いのメールソフトやビューアーソフトの取扱説明書をご覧ください。

TIFFビューアー、TIFFコンバーター、プリンタードライバーは、次のホームページからダウンロードできます。

・ホームページ　http://panasonic.biz/doc/fax/download/index.html

ダウンロードしたソフトウェアのインストール、およびインストール後の動作については、お客様の責任の元にお取り扱いください。当社では、これらのソフトウェアについての、動作保証、インストール後の二次的損害に関しては、その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

POPサーバーからメールを受信する

POP サーバーに接続して本機を利用する場合は、システム登録で項目の設定が必要です。

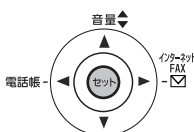
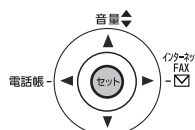
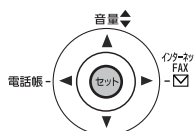
- 本機が POP サーバーに接続されているかどうかは、システム管理者にお問い合わせください。

システム登録の項目

POP サーバーに関連するシステム登録の項目は次表のとおりです。

☛POP クライアントとして設定するには（p.50）

No.	項目	説明
146	POP 取得間隔	POP サーバーへメールの到着を確認する間隔を設定します。 • 0～60分で設定します（初期値は3分）。 • 「0分」に設定すると、確認されません。
147	POP 自動受信	POP サーバーへメールの到着を確認し、自動的にメールを受信するかどうかを設定します。「ナシ」にすると、自動受信されません。 ・ナシ............自動受信されません。ディスプレイに受信メールの件数だけが表示されます。この場合は、手動で E メールを受信する必要があります。 ☛POP サーバーから手動で受信する（p.185） ・アリ............POP サーバーにメールがあれば、自動的に受信し、本機でプリントされます。
148	POP 受信後メール削除	本機が POP 受信サーバーからメールを受信したあとに、POP 受信サーバー上のメールを削除するかどうかを設定します。 「ナシ」にすると、POP 受信後、メールが削除されません。
149	POP エラー時メール削除	印刷できない形式の添付ファイルを受信した場合に、POP 受信サーバーからメールを削除するかどうかを設定します。 ・ナシ............エラーのメールを受信しても削除されません。 ・アリ............エラーのメールを受信すると、自動的に削除されます。

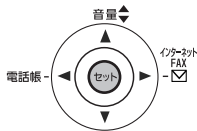
POP 受信を設定する

4 POP取得間隔を設定する

POPサーバーへメールの到着を確認する間隔をテンキーで設定します。
例：「5」を入力

```
POP ｼｭﾄｸ ｶﾝｶｸ?
 5    ﾌﾝ (0-60)
```

- 0～60分を設定できます。
- 誤って入力したときは、クリアーを押してから正しい文字を入力し直してください。

5

を押す

```
POP ｼﾞﾄﾞｳ ｼﾞｭｼﾝ?
          ｱﾘ<>
```

6 POP自動受信を設定する

POPサーバーへメールの到着を確認し、自動的にメールを受信するかどうかを、①または②のボタンを押して設定します。

1 「ナシ」のとき

2 「アリ」のとき

```
POP ｼﾞﾄﾞｳ ｼﾞｭｼﾝ?
          ﾅｼ<>
```

または

```
POP ｼﾞﾄﾞｳ ｼﾞｭｼﾝ?
          ｱﾘ<>
```

- ◀または▶を押して設定を変更することもできます。

7

を押す

```
POPｺﾞ ﾒｰﾙｻｸｼﾞｮ?
          ｱﾘ<>
```

8 POP後メール削除を設定する

本機がPOP受信サーバーからメールを受信したあとに、POP受信サーバー上のメールを削除するかどうかを、①または②のボタンを押して設定します。

1 「アリ」のとき

2 「アリ」のとき

```
POPｺﾞ ﾒｰﾙｻｸｼﾞｮ?
          ﾅｼ<>
```

または

```
POPｺﾞ ﾒｰﾙｻｸｼﾞｮ?
          ｱﾘ<>
```

- ◀または▶を押して設定を変更することもできます。

9

を押す

```
POPｴﾗｰ ﾒｰﾙｻｸｼﾞｮ?
          ﾅｼ<>
```

インターネットFAXの操作

＜次ページへつづく＞

10 POP後エラーメール削除を設定する

印刷できない形式の添付ファイルを受信した場合に、POP受信サーバーからメールを削除するかどうかを、①または②のボタンを押して設定します。

```
POPｴﾗｰ ﾒｰﾙｻｸｼﾞｮ?
          ﾅｼ<>
```

または

```
POPｴﾗｰ ﾒｰﾙｻｸｼﾞｮ?
          ｱﾘ<>
```

1 「ナシ」のとき

2 「アリ」のとき

- ◀または▶を押して設定を変更することもできます。

11 設定を終了する

ストップ を押す

お知らせ

1. プリントできない添付ファイルを受信した場合は、プリントできないことが通知されます。
2. システム登録の「148 POP受信後メール削除」(☛p.264)、「149 POPエラー時メール削除」(☛p.264)のどちらかが「ナシ」に設定されている場合、POPサーバーのメールは削除されません。
   「ナシ」に設定されている場合は、POPサーバーのメールを定期的に削除してください。
   POPサーバーは、アカウントごとに一定の容量が確保されていますが、メールを定期的に削除しない場合、メールボックスが容量オーバーとなり、新規メールが拒否されます。
   POPサーバーのメールは、お手持ちのコンピューターに取り込むか、または上記のシステム登録の設定を「アリ」に変更し、本機がPOPサーバーからすべてのメールを受信、プリント、削除できるようにします。ただし、この場合、前にプリントしたメールを再プリントすることがあります。

POP サーバーからの自動受信について

● **システム登録の「147 POP 自動受信」（☛p.264）を「アリ」に設定している場合：**

システム登録の「146 POP 取得間隔」（☛p.264）で設定した間隔で、自動的に POP サーバーにアクセスし、新規メールが確認されます。
POP サーバー上のメールはすべて本機に取り込まれ、自動的にプリントされます。

```
1ｹﾝ ﾒｰﾙｶﾞ ｱﾘﾏｽ
```

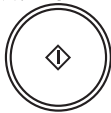
● **システム登録の「147 POP 自動受信」（☛p.264）を「ナシ」に設定している場合：**

システム登録の「146 POP 取得間隔」（☛p.264）で設定した間隔で、自動的に POP サーバーにアクセスし、新規メールの着信が確認されます。
新着のメールがある場合も、本機には取り込まれず、メッセージだけが表示されます。

```
12-15 15:00
<ﾒｰﾙｶﾞ ﾄﾄﾞｲﾃｲﾏｽ>
```

POP サーバーから手動で受信する

POP サーバーから手動でメールを受信する場合は、次の手順で操作します。

を押す

```
1ｹﾝ ﾒｰﾙｶﾞ ｱﾘﾏｽ
```

新着のメールが POP サーバー上にない場合は、右のメッセージが表示されます。

```
ｼﾞｭｼﾝﾒｰﾙﾊ ｱﾘﾏｾﾝ
```

新着のメールが POP サーバー上にある場合、メールを受信してプリントされます。

```
* ｼﾞｭｼﾝ ｼﾃｲﾏｽ *
ID:ab@panasonic.
```

ワンタッチボタンで POP サーバーから手動で受信する

ワンタッチボタンに POP 手動受信が登録されている場合は、自局情報（インターネットパラメーター）で登録したユーザー名以外の POP ユーザー名宛のメールを受信できます。

- ワンタッチボタンで POP 手動受信を登録する操作については、☛POP 手動受信を登録する（p.248）

ワンタッチボタンを利用して POP サーバーから手動でメールを受信する場合は、次の手順で操作します。

1 **POP 受信が登録されているワンタッチボタンを押す**

例：ワンタッチボタン 01

[1] **を押す**

- ワンタッチボタン17～32の場合は、ワンタッチボタンの前に、(シフト)を押します。
- POP ユーザー名が登録されていない場合は、POP ユーザー名を入力して[スタート]を押してください。

```
POPジュシン ユーザーメイ
panasonic
```

2 （パスワードが設定されていない場合）
POP 受信パスワードを入力する

POP 受信パスワードを設定します。

```
POPジュシン パスワード
```

3

を押す

新着のメールが POP サーバー上にない場合は、右のメッセージが表示されます。

```
ジュシンメールハ アリマセン
```

新着のメールが POP サーバー上にある場合、メールを受信してプリントされます。

```
＊ジュシン シテイマス＊
ID:ab@panasonic.
```

FROM 欄を利用する（FROM 選択）

システム登録の「145 From 選択機能」（☛p.264）を「アリ」に設定すると、メール送信時に、発信元やメールの From 欄の内容を選択できます。お買い上げ時の設定は「ナシ」になっています。
From 選択機能には、24 個（No.01 ～ 24 ）のユーザー名とアドレスを登録できます。

ここでは、システム登録で FROM 選択を設定する操作、送信時に FROM 欄を設定する操作について説明します。

FROM 選択を設定する

1 システム登録の画面を表示する

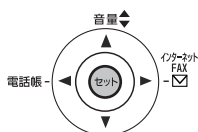
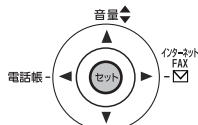
ファンクション

を押す

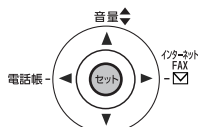
キーオペレーター コード
コード=

2 キーオペレーターコードを入力する

（キーオペレーター
コードを入力して）

を押す

システム トウロク
NO.=　(01-177)

3 From 選択機能の設定画面を表示する

を押す

Fromラン センタク?
ナシ<>

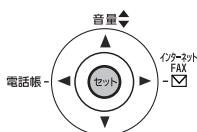
4 From 選択を設定する

2 「アリ」のとき

Fromラン センタク?
アリ<>

- ◀または▶を押して設定を変更することもできます。

5

を押す

Fromラン センタク
バンゴウヲイレル マタハV∧

6 From 選択の番号を入力する

- 01 ～ 24 を設定できます。
- 誤って入力したときは、クリアーを押してから正しい文字を入力し直してください。
- ▲または▼を押して番号を選択することもできます。

ユーザーメイニュウリョク<カナ
01

7 From 選択のユーザー名を入力する

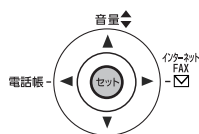
ユーザー名を入力する
☛ 文字入力のしかた（p.251）
例：パナソニック

- 最大 25 文字まで入力できます。

ユーザーメイニュウリョク<カナ
01 パナソニック

<次ページへつづく>

8

を押す

```
ｱﾄﾞﾚｽｦ ｲﾚﾃｸﾀﾞｻｲ
01
```

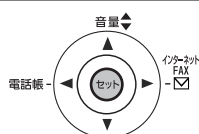
9 メールアドレスを入力する

メールアドレスを入力する
☛ 文字入力のしかた（p.251）
例：def@panasonic

- 最大 60 文字まで入力できます。

```
ｱﾄﾞﾚｽｦ ｲﾚﾃｸﾀﾞｻｲ
01 def@panasonic
```

10

を押す

```
ﾕｰｻﾞｰﾒｲﾆｭｳﾘｮｸ<ｶﾅ
02
```

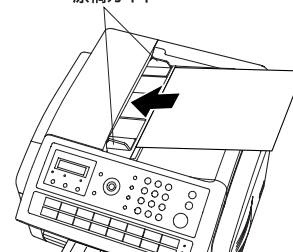
- 続けてほかのユーザー名を登録する場合は、手順 6 からの操作を繰り返します。

11 設定を終了する

ストップ

を押す

FROMを選択して送信する

From を選択して送信する場合は、次の手順で操作します。

1 原稿をセットする

送る面を上向きにして、原稿ガイドを原稿の幅に合わせる
☛ 原稿のセットのしかた（p.47）

2 必要に応じて、濃度や文字サイズを選ぶ

☛ 濃度や文字サイズを設定する（p.74）

```
ｱﾃｻｷ ｦ ｲﾚﾃｸﾀﾞｻｲ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

3 宛先を指定する

- ワンタッチダイヤル（☛p.162）
  短縮ダイヤル（☛p.164）
  電話帳（☛p.166）
  直接ダイヤル（☛p.160）

例：短縮ダイヤル「010」

```
[010]ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ
ab@panasonic.com
```

4

を押す

```
V∧デ゛ アテサキヲカクニンシテ
スタートヲ オシテクダ゛サイ
```

- 宛先確認の画面が表示されます。
- 直接入力の場合は、再入力の画面が表示されます。テンキーでメールアドレスを再入力して、[スタート]を押します。

直接入力の場合

```
▮
アド゛レスヲ サイニュウリョク
```

5 入力済みの宛先をすべて確認する

または を押す

- 宛先確認をした場合だけ送信できます。

```
[010]パ゛ナソニック
ab@panasonic.com
```

```
アテサキマチガ゛イアリマセンカ?
ハイ:スタート イイエ:クリアー
```

6

を押す

```
Fromラン センタク
バ゛ンゴ゛ウヲイレル マタハV∧
```

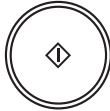
7 From 欄を設定する

From の番号を入力するか、[▲]または[▼]を使って From を選択する
例：「01」を入力

```
01 パ゛ナソニック
def@panasonic.co
```

- 「00」を選択した場合は、自局登録のインターネットパラメーターに登録されているユーザー名で送信されます。

8

を押す

- 原稿の読み取りが開始されます。読み取りが終了すると、設定したユーザー名をメールのヘッダー部の「From」に記載して送信されます。
- 送信を中止する場合は、[ストップ]を押します。

```
*チクセキ チュウ*NO.123
マイスウ=001       01%
```

```
* ソウシン シテイマス *
[010]パ゛ナソニック
```

FROM選択リストをプリントする

システム登録の「145 From 選択機能」（☛p.264）が「アリ」に設定されている場合は、FROM 欄選択リストをプリントできます。FROM 欄選択リストは、システム登録リストの末尾にプリントされます。

システム登録リスト（FROM 欄選択リスト）

FROM 欄選択リストの見かた

FROM欄選択リストには､次の項目が記載されます。

No.	項目名	説明
(1)	No.	送信元の選択番号です。
(2)	ユーザー名	登録したユーザー名です。
(3)	メールアドレス	登録したメールアドレスです。

- 上記以外の項目については、☛ システム登録リスト（p.279）を参照してください。

件名欄を利用する（サブジェクト）

何も設定されていない場合、メールの件名欄には定型文として「IMAGE from Internet FAX」が設定されます。システム登録の「159 サブジェクト登録」（☛p.265）を「アリ」に設定すると、個別に件名を設定して送信できます。

ここでは、システム登録でサブジェクト登録を設定する操作、および件名をつけて送信する操作を説明します。

- 自局登録の「サブジェクト」に件名を設定しておくと、送信するすべてのメールに、設定したサブジェクトが挿入されます。

件名欄を設定する

1 システム登録の画面を表示する

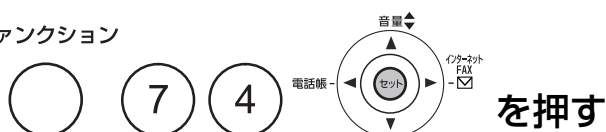
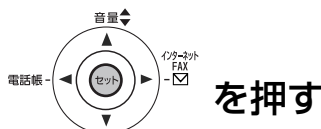
ファンクション

を押す

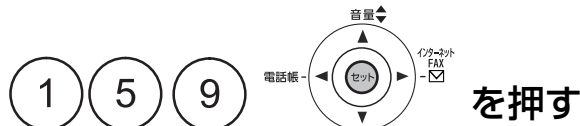
```
ｷｰｵﾍﾟﾚｰﾀｰ ｺｰﾄﾞ
ｺｰﾄﾞ=▮
```

2 キーオペレーターコードを入力する

（キーオペレーター
　コードを入力して）

を押す

```
ｼｽﾃﾑ ﾄｳﾛｸ
NO.=▮    (01-177)
```

3 サブジェクト登録の設定画面を表示する

を押す

```
ｻﾌﾞｼﾞｪｸﾄ ﾄｳﾛｸ?
          ﾅｼ<>
```

4 サブジェクト登録を設定する

(2) を押す

```
ｻﾌﾞｼﾞｪｸﾄ ﾄｳﾛｸ?
          ｱﾘ<>
```

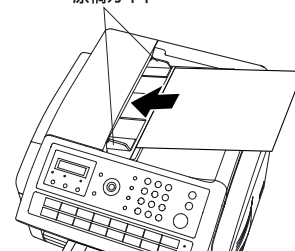
- [◀]または[▶]を押して設定を変更することもできます。

5 設定を終了する

ストップ

を押す

件名を設定して送信する

件名を設定して送信する場合は、次の手順で操作します。

1 原稿をセットする

送る面を上向きにして、原稿ガイドを原稿の幅に合わせる

☛ 原稿のセットのしかた（p.47）

2 必要に応じて、濃度や文字サイズを選ぶ

☛ 濃度や文字サイズを設定する（p.74）

ｱﾃｻｷ ｦ ｲﾚﾃｸﾀﾞｻｲ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ

3 宛先を指定する

- ワンタッチダイヤル（☛p.162）
  短縮ダイヤル（☛p.164）
  電話帳（☛p.166）
  直接ダイヤル（☛p.160）

例：短縮ダイヤル「010」

[010]ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ
ab@panasonic.com

4 スタート

を押す

- 宛先確認の画面が表示されます。
- 直接入力の場合は、再入力の画面が表示されます。テンキーでメールアドレスを再入力して、スタートを押します。

V∧ﾃﾞ ｱﾃｻｷｦｶｸﾆﾝｼﾃ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ

直接入力の場合

▮
ｱﾄﾞﾚｽｦ ｻｲﾆｭｳﾘｮｸ

5 入力済みの宛先をすべて確認する

または

を押す

- 宛先確認をした場合だけ送信できます。

[010]ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ
ab@panasonic.com

ｱﾃｻｷﾏﾁｶﾞｲｱﾘﾏｾﾝｶ?
ﾊｲ:ｽﾀｰﾄ ｲｲｴ:ｸﾘｱｰ

6 スタート

を押す

ｻﾌﾞｼﾞｪｸﾄ ﾆｭｳﾘｮｸ
ﾏﾀﾊｽﾀｰﾄｦｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ

7 件名を設定する

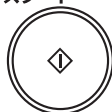
文字ボタンを使って、件名を入力する
☛ 文字入力のしかた（p.251）
例：ﾚﾝﾗｸ

ｻﾌﾞｼﾞｪｸﾄ　　　<ｶﾅ
ﾚﾝﾗｸ

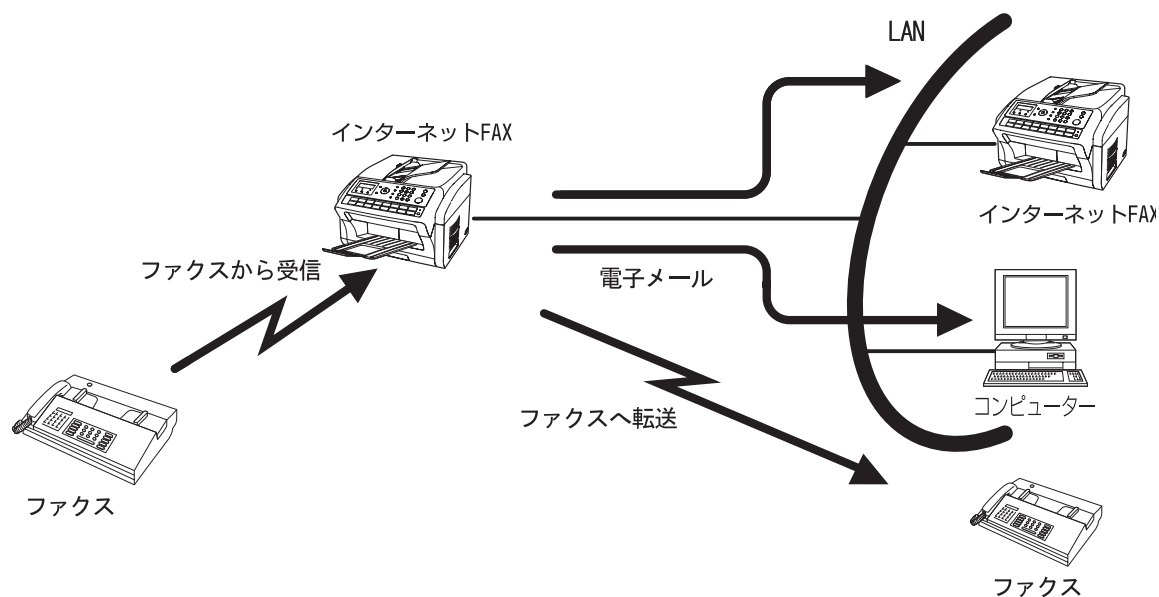
- 40 文字まで設定できます。
- 自局登録のサブジェクトが登録されている場合は、何も設定しないと登録した件名が挿入されます。
- 自局登録のサブジェクトが登録されていない場合は、本機の初期値（「IMAGE from Internet FAX」）が挿入されます。

8

スタート

を押す

- 原稿の読み取りが開始されます。読み取りが終了すると、設定した件名が、メールのヘッダー部の件名欄に記載して送信されます。
- 送信を中止する場合は、ストップを押します。

受信した文書を転送する（受信ルーティング）

G3 ファクスから受信した原稿を、ネットワークに接続されたコンピューターやインターネット FAX、または電話回線に接続された別の G3 ファクスに転送できます。

この機能を利用する場合は、システム登録の「152 SUB ルーティング」(☛p.265)、「153 数字 ID ルーティング」(☛p.265)、「175 発番号ルーティング」(☛p.266)、または「176 ダイヤルインルーティング」(☛p.266) の設定を「アリ」にする必要があります。

受信ルーティングの設定について

受信ルーティングに関連するシステム登録の項目は次表のとおりです。利用するルーティング方法に合わせて、システム登録の設定を変更してください。

No.	項目	説明
152	SUB ルーティング	F コード通信が利用できる G3 ファクスから、F コード（サブアドレス）を使ってルーティングする場合に「アリ」に設定します。 送信側の G3 ファクスから送られる F コード（サブアドレス）で、本機に登録されている宛先にルーティングできます。
153	数字 ID ルーティング	数字 ID を利用してルーティングする場合に「アリ」に設定します。 送信側のファクスから送られてくる数字 ID で、本機に登録されている宛先にルーティングできます
154	ルーティング時 From 欄	ルーティングで、メールを送信するときの From 欄の内容を選択します。 ・中継局 ....ルーティングする本機のメールアドレスが表示されます。 ・指示局 ....発信者の数字 ID が表示されます。
155	ルーティング時プリント	受信した原稿をすべて本機でプリントするか、ルーティング操作が機能しなかった場合にだけプリントするかを選択します。 ・未通信 ....ルーティングできなかった場合だけ受信文書がプリントされます。 ・すべて ....ルーティングできたかどうかにかかわらず、受信文書がプリントされます。
175	発番号ルーティング	送信側の G3 ファクスから送られる発信者番号を使ってルーティングする場合に設定します。 送信側の G3 ファクスから送られる発信者番号で、本機に登録されている宛先にルーティングできます。 （☛ お知らせ 1） • この機能を利用する場合は、システム登録の「90 発番号契約」（☛p.261）を「アリ」に設定してください。
176	ダイヤルインルーティング	送信側の G3 ファクスから送られるダイヤルイン番号を使ってルーティングする場合に「アリ」に設定し、ダイヤルイン番号（最大 20 桁、50 件まで）を登録します。 送信側の G3 ファクスから送られるダイヤルイン番号で、本機に登録されている宛先にルーティングできます。 （☛ お知らせ 1）

お知らせ

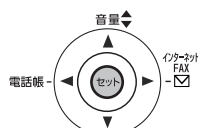
1. 発信者番号通知（ナンバーディスプレイ）、ダイヤルインサービスは、あらかじめ NTT、NTT コミュニケーションズとの契約が必要です。本サービスの詳細については NTT、NTT コミュニケーションズにお問い合わせください。

転送先を登録する

ルーティング機能を使う場合は、転送先をワンタッチダイヤル、または短縮ダイヤルに登録します。
送信側から送られてきた番号（設定により、サブアドレス、数字 ID、発信者番号、ダイヤルイン番号のいずれか）と、ワンタッチダイヤル、または短縮ダイヤルに登録されている番号が一致した場合に、転送が実行されます。

- 転送先を登録する場合は、あらかじめ、システム登録の「152 SUB ルーティング」、「153 数字 ID ルーティング」、「175 発番号ルーティング」、「176 ダイヤルインルーティング」のいずれかの設定を「アリ」に変更しておいてください。
  ☛ 受信ルーティングの設定について（p.195）

ここでは、転送先を設定する操作を、ワンタッチダイヤルにメールアドレスを登録する場合の手順で説明します。

1 設定画面を表示する

ファンクション 7 2 ► を押す

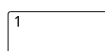
2 ワンタッチダイヤル / 短縮ダイヤルを選択する

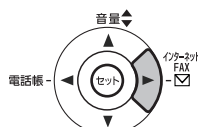
1 ワンタッチダイヤルに登録するとき

2 短縮ダイヤルに登録するとき

例：ワンタッチダイヤル

3 登録するワンタッチボタンを選択する

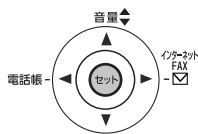
例：ワンタッチボタン 01

4 メールアドレス入力に切り替える

► を押す

5 メールアドレスを入力する（60 文字まで）

テンキーを利用して、相手のメールアドレスを入力する
☛ 文字入力のしかた（p.251）

例：「ab@panasonic.com」を入力

6

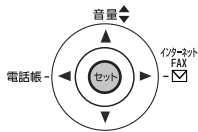
を押す

```
<01> ﾅﾏｴ ﾄｳﾛｸ<ｶﾅ
ab@panasonic.com
```

7 文字ボタンを使って宛先名を入力する（最大 15 文字）

例：「エイギョウブ」を入力

☛ 文字入力のしかた（p.251）

```
<01> ｴｲｷﾞｮｳﾌﾞ<ｶﾅ
ab@panasonic.com
```

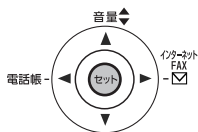
8 SUB ルーティングを設定している場合

を押す　（サブアドレスを入力する）

例：「1122334455」を入力

- この項目は、システム登録の「152 SUBルーティング」（☛p.265）が、「アリ」に設定されている場合に設定します。

```
ﾙｰﾃｨﾝｸﾞ:SUBｱﾄﾞﾚｽ
▮
```

```
ﾙｰﾃｨﾝｸﾞ:SUBｱﾄﾞﾚｽ
1122334455
```

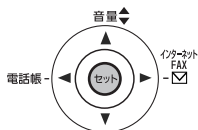
9 数字 ID ルーティングを設定している場合

を押す　（数字 ID を入力する）

例：「5551234」を入力

- この項目は、システム登録の「153 数字IDルーティング」（☛p.265）が、「アリ」に設定されている場合に設定します。

```
ﾙｰﾃｨﾝｸﾞ:ｽｳｼﾞ ID
▮
```

```
ﾙｰﾃｨﾝｸﾞ:ｽｳｼﾞ ID
5551234
```

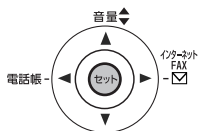
10 発番号ルーティングを設定している場合

を押す　（発番号を入力する）

例：「5553456」を入力

- この項目は、システム登録の「175 発番号ルーティング」（☛p.266）が、「アリ」に設定されている場合に設定します。

```
ﾙｰﾃｨﾝｸﾞ:ﾊﾂﾊﾞﾝｺﾞｳ
▮
```

```
ﾙｰﾃｨﾝｸﾞ:ﾊﾂﾊﾞﾝｺﾞｳ
5553456
```

11 ダイヤルインルーティングを設定している場合

を押す　（▲または▼を押し、ダイヤルイン番号を選択する）

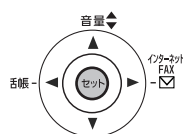
例：「01　5555678」を選択

- この項目は、システム登録の「176 ダイヤルインルーティング」（☛p.266）が、「アリ」に設定されている場合に設定します。

```
ﾙｰﾃｨﾝｸﾞ:ﾀﾞｲﾔﾙｲﾝ
V ∧ ｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

```
ﾙｰﾃｨﾝｸﾞ:ﾀﾞｲﾔﾙｲﾝ
01 5555678
```

<次ページへつづく>

12

を押す

- システム登録でダイレクト SMTP 送信が設定されている場合は、手順 13 に進みます。
- 続けてほかのワンタッチダイヤルを登録する場合は、手順 3 からの操作を繰り返します。
- ワンタッチダイヤルの登録を終了する場合は、手順 15 に進みます。

ダイレクト SMTP 送信が設定されていない場合

```
ﾜﾝﾀｯﾁ<   >
ﾜﾝﾀｯﾁ ｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

ダイレクト SMTP 送信が設定されている場合

```
ﾀﾞｲﾚｸﾄ SMTP=■
1:ﾊｲ 2:ｲｲｴ
```

13

（ダイレクト SMTP 送信が設定されている場合のみ）

ダイレクト SMTP 送信を設定する

(1) ハイ　：ダイレクト SMTP 送信が設定されます。

(2) イイエ：ダイレクト SMTP 送信は設定されません。

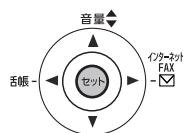
- この項目は、システム登録の「172 ダイレクト SMTP 送信」（☛p.266）が「アリ」に設定され、手順４～５でメールアドレスを指定した場合に設定します。

```
ﾀﾞｲﾚｸﾄ SMTP=1
1:ﾊｲ 2:ｲｲｴ
```

または

```
ﾀﾞｲﾚｸﾄ SMTP=2
1:ﾊｲ 2:ｲｲｴ
```

14

を押す

- 続けてほかのワンタッチダイヤルを登録する場合は、手順 3 からの操作を繰り返します。

```
ﾜﾝﾀｯﾁ<   >
ﾜﾝﾀｯﾁ ｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

15

設定を終了する

ストップ を押す

受信確認メールを送る（送達確認）

システム登録の「150 送達確認返送」(☛p.264）を「アリ」に設定すると、メール受信時、送信側に対して受信確認メールが自動的に送信されます。

- 送達確認の送信は、送信元の機種が限定されます。詳しくは、お買い上げの販売店または、サービス実施会社にご相談ください。

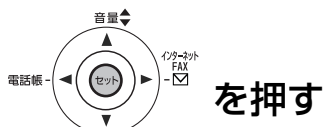
1 システム登録の画面を表示する

ファンクション （ ）（7）（4）（セット）を押す

```
ｷｰｵﾍﾟﾚｰﾀｰ ｺｰﾄﾞ
ｺｰﾄﾞ=■
```

2 キーオペレーターコードを入力する

（キーオペレーター
　コードを入力して）

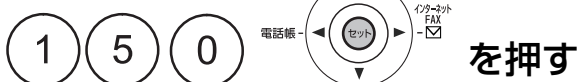
を押す

```
ｼｽﾃﾑ ﾄｳﾛｸ
NO.=■    (01-177)
```

3 送達確認返送の設定画面を表示する

を押す

```
ｿｳﾀﾂ ｶｸﾆﾝ ﾍﾝｿｳ?
            ﾅｼ<>
```

4 送達確認返送を設定する

（2）を押す

```
ｿｳﾀﾂ ｶｸﾆﾝ ﾍﾝｿｳ?
            ｱﾘ<>
```

- ◀または▶を押して設定を変更することもできます。

5 設定を終了する

ストップ（⊘）を押す

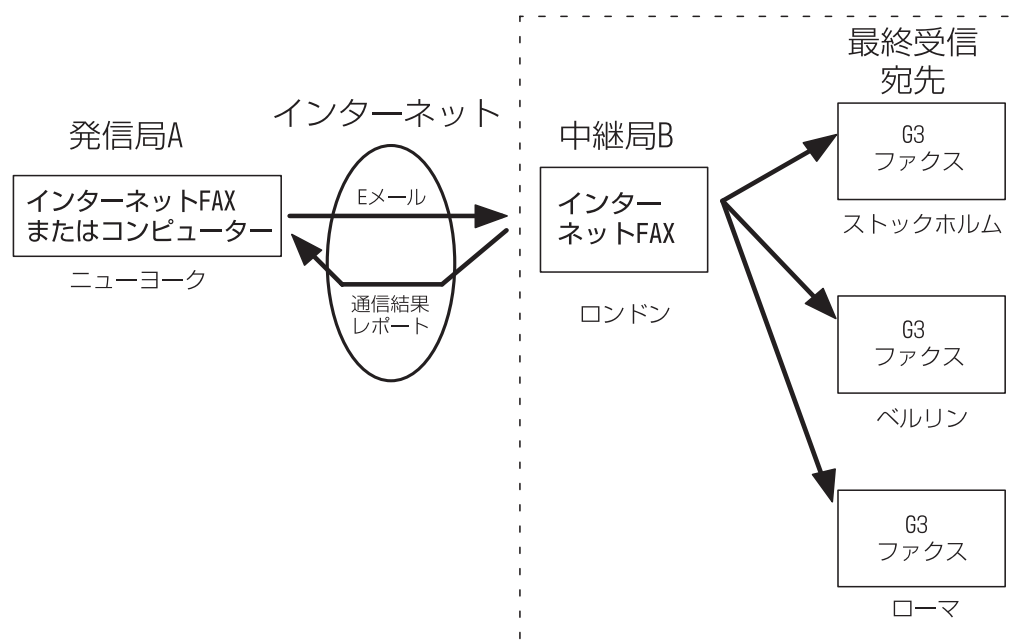
インターネットFAXの操作

お知らせ　1. コンピューターから送信されたメールを受信した場合は、受信確認メールを送信できません。

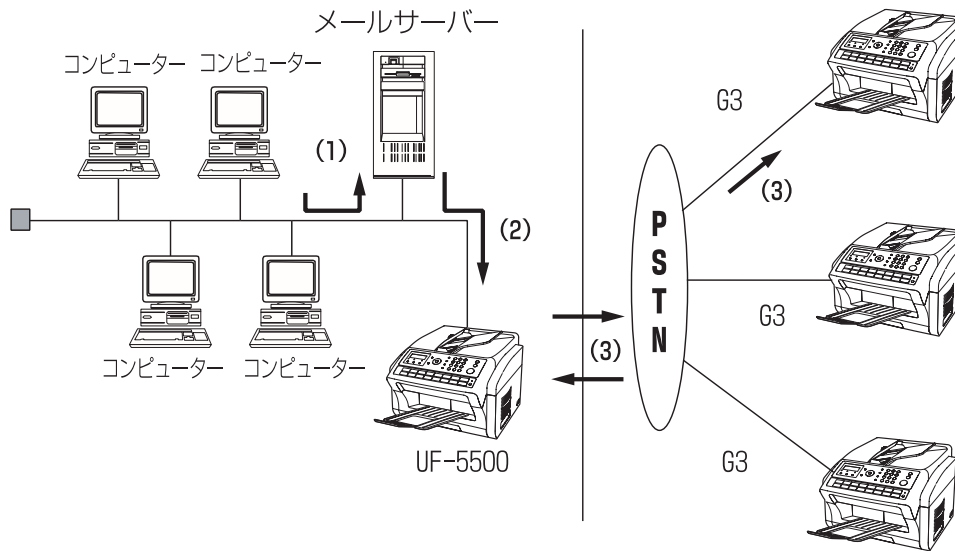
中継局を利用する（LAN 中継同報）

LAN 中継同報機能を持ったインターネット FAX とネットワークを組むことで、LAN 経由で送信したメールを、一般回線に接続された複数の G3 ファクスへ同報送信できます。

LAN 中継同報とは

● 例 1：インターネット中継送信

以下に、LAN 中継同報の流れを説明します。

1. LAN 中継機能を持ったインターネット FAX B （中継局）に、メール（TIFF 形式のファイルを添付することができます）で、LAN 中継同報を指示します。あらかじめ、LAN 中継指示を登録したワンタッチ／短縮ダイヤルを使用すると、簡単に LAN 中継同報の指示ができます。
   ☛LAN 中継局として設定する（p.205）
2. 管理者用のコンピューターに、LAN 中継同報指示されたことがメールで通知されます。
   ☛ 送信ジャーナル（管理者宛メール）（p.214）
3. LAN 中継指示されたメールに添付されているファイルが、一般回線に接続されたファクス（ストックホルム）へ転送されます（順次同報）。
4. 引き続き、次のファクス（ベルリン・ローマ）に転送されます。
5. LAN 中継同報が終了すると、LAN 中継同報を指示したインターネット FAX A （発信局）（またはコンピューター）へ、通信結果レポートが返送されます。
   ☛ 中継送信レポート（通信結果レポート）（p.213）

● 例 2 : ファクスサーバー （イントラネット中継送信）

(1) メールを利用して、メールサーバーに LAN 中継同報送信が指示されます。

(2) メールサーバーによって、LAN 中継指示で本機にメールが転送されます。

(3) 本機では、G3 ファクスに対して送信が開始されます。

お知らせ

1. 本機には、LAN 経由の中継同報を指示する機能と、中継指示を受けて一般回線に接続されたファクスに送信する LAN 中継局の機能があります。それぞれ、次を参照してください。

・LAN 中継同報の指示について　：☛LAN 中継送信を指示する（p.208）

・LAN 中継同報指示の登録について　：☛LAN 中継指示を設定する（p.206）

・LAN 中継局としての登録について　：☛LAN 中継局として設定する（p.205）

2. 一般回線に接続されたファクスから、本機に LAN 中継同報を指示することはできません。

3. LAN に接続されたインターネット FAX やメール を宛先として、LAN 経由で LAN 中継同報を指示することはできません。

4. 本機が LAN 中継指示を一度に受け付ける宛先数は、最大 20 カ所です。20 カ所を越える LAN 中継指示が受け付けられた場合は分割して処理されます。この場合、中継結果レポートは分割した処理単位で返送されます。

5. POP サーバーに接続して利用している場合、LAN 中継指示を受け付けて一般回線に接続されたファクスに送信する機能は利用できません。

中継ネットワークについて

本機から最終宛先まで直接インターネット FAX で送信する場合、本機能により、時間および長距離市外電話料金が節約できます。

中継ネットワークは原則として、インターネット FAX（発信局 A）またはコンピューターである発信局と LAN 中継機能を持つインターネット FAX（中継局 B）、そして G3 ファクスである最終宛先から構成されます。

本機から原稿、またはコンピューターからメールをインターネットを使って中継局（本機を含む）へ送信します。中継局からは通常の電話回線を使って G3 ファクスである最終宛先まで送信できます。（コンピューターからの送信は TIFF-F 形式のファイルが添付可能です。）

中継局から最終宛先への送信には、電話料金が発生します。

中継局から最終宛先までの送信完了後に、LAN 中継送信が完了したかどうかを通知する通信ジャーナルが、中継局から発信局に返信されます。中継送信情報は、メールで中継局にあらかじめ登録されている自局登録のインターネットパラメーターの管理者メールアドレスに送信されます。（☛p.51）

LAN 中継送信を利用するには、☛LAN 中継局として設定する（p.205）～ ☛ 送信ジャーナル（管理者宛メール）（p.214）に記載されている設定手順にしたがい、必要情報を入力してください。

図 1 に LAN 中継ネットワークのサンプルを記載します。

図 1 のサンプルは、**ニューヨーク（発信局）**を起点とし、**ロンドン**および**シンガポール（中継局）**が、ニューヨークと結ばれ、**（最終宛先）**は**ストックホルム、ローマ、東京、香港**そして**シドニー**などとなっています。

この基本的なネットワークはネットワーク内の宛先に、ロンドンおよびシンガポールの 2 箇所の中継局を介して、1 回の操作でファイルを送信できます。

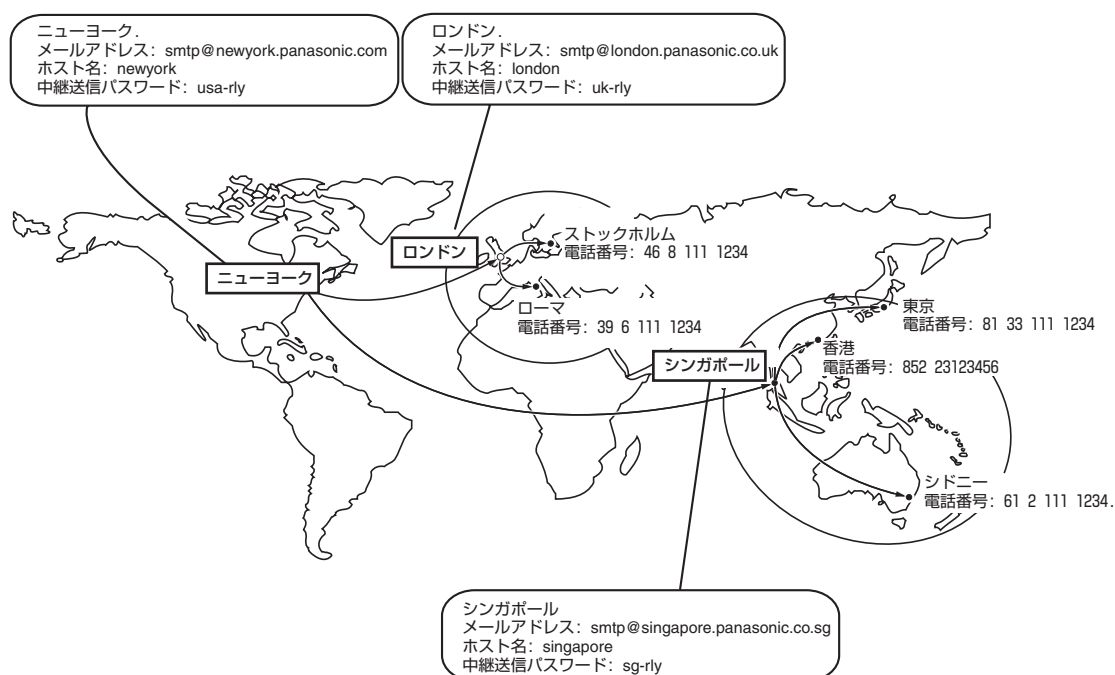



図 1：ネットワークのサンプル

- 表 1 ～ 3 は、図 1 記載のサンプルネットワーク設定です。

表 1 : ニューヨークへのサンプルパラメーターおよび電話帳機能番号表 （始発発信局）

電話番号 : 212 111 1234
メールアドレス (SMTP) : smtp@newyork.panasonic.com
ホスト名 : newyork
LAN 中継パスワード : usa-rly

ワンタッチ／短縮ダイヤル	宛先名	メールアドレス / 電話番号	中継局アドレス
<01>	ロンドン	smtp@london.panasonic.co.uk	---
<02>	ストックホルム	46 8 111 1234	[001]
<03>	シンガポール	smtp@singapore.panasonic.co.sg	---
<04>	東京	81 33 111 1234	[002]
[001]	ロンドンリレー	uk-rly@london.panasonic.co.uk	---
[002]	シンガポールリレー	sg-rly@singapore.panasonic.co.sg	---
[003]	ローマ	39 6 111 1234	[001]
[004]	香港	852 23123456	[002]
[005]	シドニー	61 2 111 1234	[002]

表 2 : ロンドンへのサンプルパラメーターおよび電話帳機能番号表 （中継局）

電話番号 : 71 111 1234
メールアドレス (SMTP) : smtp@london.panasonic.co.uk
ホスト名 : london
LAN 中継パスワード : uk-rly

ワンタッチ／短縮ダイヤル	宛先名	メールアドレス / 電話番号	中継局アドレス
<01>	ニューヨーク	smtp@newyork.panasonic.com	---
<02>	ストックホルム	46 8 111 1234	---
<03>	シンガポール	smtp@singapore.panasonic.co.sg	---
<04>	東京	81 33 111 1234	[001]
[001]	シンガポールリレー	sg-rly@singapore.panasonic.co.sg	---
[002]	ローマ	39 6 111 1234	---
[003]	香港	852 23123456	[001]
[004]	シドニー	61 2 111 1234	[001]

表 3 : シンガポールへのサンプルパラメーターおよび電話帳機能番号表 （中継局）

電話番号 : 65 111 1234
メールアドレス (SMTP) : smtp@singapore.panasonic.co.sg
ホスト名 : singapore
LAN 中継パスワード : sg-rly

ワンタッチ／短縮ダイヤル	宛先名	メールアドレス / 電話番号	中継局アドレス
<01>	ロンドン	smtp@london.panasonic.co.uk	---
<02>	ストックホルム	46 8 111 1234	[001]
<03>	ニューヨーク	smtp@newyork.panasonic.com	---
<04>	東京	81 33 111 1234	---
[001]	ロンドンリレー	uk-rly@london.panasonic.co.uk	---
[002]	ローマ	39 6 111 1234	[001]
[003]	香港	852 23123456	---
[004]	シドニー	61 2 111 1234	---

お知らせ

1. 本機が中継局として動作するよう、LAN 中継パスワードを登録してください。（☛p.205）
2. 第三者が LAN 中継局送信にアクセスできないようにするため、ネットワークセキュリティーを設定してください。すべての LAN 中継局送信通知のために、中継許可ドメイン名と管理者のメールアドレスを入力してください。
☛LAN 中継局として設定する（p.205）

LAN中継局として設定する

以下のパラメーターを確実に設定し、本機を LAN 中継局に設定してください。（☛p.51、☛p 264）

1. **システム登録の「142 LAN 中継機能」**（☛p.264）
   本機を LAN 中継局として機能させるかを設定します。
   ・「ナシ」...................... LAN 中継の動作をしません。
   ・「アリ」...................... LAN 中継の動作をします。

2. **システム登録の「143 中継結果返送」**（☛p.264）
   LAN 中継結果を発信元へ返送するかを設定します。
   ・「オフ」...................... LAN 中継結果を送信しません。
   ・「全て」...................... LAN 中継結果のすべてを送信します。
   ・「未通信」.................... LAN 中継で未通信となった場合に送信します。

3. **LAN 中継指示をするときのパスワード （自局情報）**（☛ お知らせ 1 ）
   LAN 中継指示をするときに、第三者が本機にアクセスするのを防ぐ目的で、パスワード （10 文字まで）を設定します。このパスワードが合った場合のみ、LAN 中継動作します。

4. **管理者のメールアドレス （自局情報）**
   LAN 中継の管理およびコスト管理の目的で、管理者のメールアドレスを登録してください。送信情報は以下の通りです。
   （発信者：発信局のメールアドレス）
   （宛先：受信者の G3 ファクスの電話番号）
   各発信者からの LAN 中継指示を受けると、管理者へメールで通知されます。

5. **中継許可ドメイン名 （自局情報）**（☛ お知らせ 2）
   10 件のドメイン名（最大 30 文字）まで登録できます。
   例：登録ドメイン名
   (01): rdnn.mgcs.co.jp
   (02): rdmg.mgcs.co.jp
   (03): panasonic.com

上記の例で、LAN 中継指示は、rdnn.mgcs.co.jp, rdmg.mgcs.co.jp または panasonic.com のドメイン名を含むメールアドレスからのみ受信できます。

お知らせ

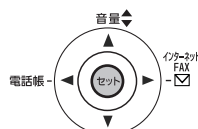
1. LAN 中継パスワードは、メールのヘッダー部分に含まれて送信するため、メールやインターネット FAX で使っているメールアドレスとは異なるものを登録することをお勧めします。このように登録することで、インターネット FAX を受信したとき、LAN 中継パスワードを容易に識別できます。
2. 中継許可ドメイン名がすべて空欄である場合は、インターネット FAX はすべてのドメイン名に対して LAN 中継指示を受信します。

LAN中継指示を設定する

ワンタッチダイヤル / 短縮ダイヤルへ中継指示を登録する場合は、次の手順で操作します。

- あらかじめ、システム登録の「140 LAN 中継指示」（☛p.264）を「アリ」に設定しておきます。
  「ナシ」: LAN 中継送信指示することはできません。
  「アリ」: LAN 経由の中継送信指示が可能になります。

1 設定画面を表示する

ファンクション

を押す

1: ﾜﾝﾀｯﾁ ﾄｳﾛｸ
2: ﾀﾝｼｭｸ ﾄｳﾛｸ

2 ワンタッチダイヤル / 短縮ダイヤルを選択する

1 ワンタッチダイヤルに登録するとき

2 短縮ダイヤルに登録するとき

例 : ワンタッチダイヤル

ﾜﾝﾀｯﾁ< >
ﾜﾝﾀｯﾁ ｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ

3 登録するワンタッチボタンを選択する

例 : ワンタッチボタン 01

1

<01>
ﾃﾞﾝﾜﾊﾞﾝｺﾞｳﾆｭｳﾘｮｸ

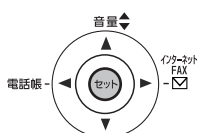
4 電話番号を入力する

電話番号を入力する
（ポーズやスペースを含み、最大 36 桁まで）
例 :「9-555 1234」を入力

<01>
9-555 1234

- 誤って入力した場合は クリアー を押します。
- 中継局と最終宛先が同じ地域に位置する場合は、最終宛先から国番号または市外局番を省略できます。中継局からは、最終宛先まで市内番号通話となります。

5

を押す

<01> ﾅﾏｴ ﾄｳﾛｸ<ｶﾅ
9-555 1234

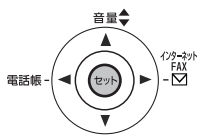
6 文字ボタンを使って宛先名を入力する（最大 15 文字）

例 :「ローマ」を入力

☛ 文字入力のしかた（p.251）

<01> ﾛｰﾏ <ｶﾅ
9-555 1234

7

を押す

チュウケイキョク バンゴウ
■■■

8

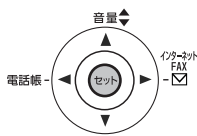
LAN 中継局を設定する

LAN中継局として登録されている短縮ダイヤルの3 桁の番号を入力します。（☛ お知らせ 1）
例：「010」を入力

チュウケイキョク バンゴウ
010

- 中継局として登録した短縮ダイヤルに、中継局と合致したLAN 中継パスワードが登録されている必要があります。

9

を押す

ワンタッチ< >
ワンタッチ ヲ オシテクダサイ

- 続けてワンタッチダイヤルの登録をする場合は、手順 3 からの操作を繰り返します。

10

設定を終了する

ストップ
を押す

お知らせ

1. LAN 中継局の短縮ダイヤル設定
   LAN 中継局を短縮ダイヤルに登録する場合は、宛先のメールアドレスにホスト名と LAN 中継パスワードを設定する必要があります。
   例：uk-rly@london.panasonic.co.uk

LAN中継送信を指示する

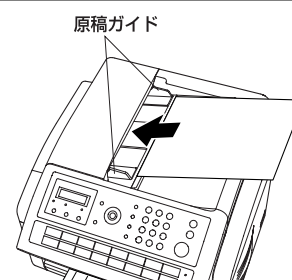
本機に必要なすべての項目を登録すると、次の手順で LAN 中継局を経由して自動的に 1 つまたは複数の G3 ファクスに原稿を送信できます。

- LAN 中継局には、必要な項目すべてを必ず設定してください。

中継局が登録されている宛先へ送信する場合

- LAN 中継指示を設定したワンタッチダイヤル / 短縮ダイヤルを指定する操作
  ☛LAN 中継指示を設定する（p.206）

1 原稿をセットする

送る面を上向きにして、原稿ガイドを原稿の幅に合わせる
☛ 原稿のセットのしかた（p.47）

2 必要に応じて、濃度や文字サイズを選ぶ

☛ 濃度や文字サイズを設定する（p.74）

ｱﾃｻｷ ｦ ｲﾚﾃｸﾀﾞｻｲ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ

3 LAN 中継指示を設定した宛先を指定する

- ワンタッチダイヤル（☛p.162）
  短縮ダイヤル（☛p.164）
  電話帳（☛p.166）

例：ワンタッチダイヤル「02」

<01> ﾛｰﾏ
9-555 1234

4 スタート を押す

- 宛先確認の画面が表示されます。

V∧ﾃﾞ ｱﾃｻｷｦｶｸﾆﾝｼﾃ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ

5 入力済みの宛先をすべて確認する

または
を押す

- 宛先確認をした場合だけ送信できます。

<01> ﾛｰﾏ
9-555 1234

↓

ｱﾃｻｷﾏﾁｶﾞｲｱﾘﾏｾﾝｶ?
ﾊｲ:ｽﾀｰﾄ ｲｲｴ:ｸﾘｱｰ

6

を押す

- 中継局へ送信が開始されます。

例：最終宛先：9-555 1234
（電話番号）
（☛ お知らせ 1）

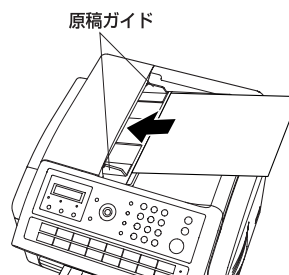
- 最終宛先への送信が完了すると、中継局から本機宛に通信結果レポートが送信されます。このレポートで、LAN 中継送信が完了したかどうかを確認できます。
- 送信を中止する場合は、ストップを押します。

お知らせ

1. 中継局が内線電話などをお使いの場合、外部アクセス番号をダイヤルしたあとに ポーズ を押してから、宛先の番号を全部入力してください。
2. # 文字は、中継局のメールアドレスには使用できません。

中継局が登録されていない宛先へ送信する場合

1 原稿をセットする

送る面を上向きにして、原稿ガイドを原稿の幅に合わせる

☛ 原稿のセットのしかた（p.47）

2 必要に応じて、濃度や文字サイズを選ぶ

☛ 濃度や文字サイズを設定する（p.74）

ｱﾃｻｷ ｦ ｲﾚﾃｸﾀﾞ ｻｲ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞ ｻｲ

3 中継同報の画面を表示する

を押す

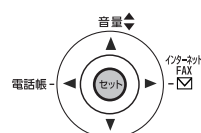
LAN ﾁｭｳｹｲ
ﾁｭｳｹｲｷｮｸｲﾚﾃｸﾀﾞ ｻｲ

4 中継局を指定する

- ワンタッチダイヤル（☛p.68）、（☛p.162）
  短縮ダイヤル（☛p.69）、（☛p.164）
  電話帳（☛p.70）、（☛p.166）
  直接ダイヤル（☛p.66）、（☛p.160）

例：短縮ダイヤル「001」

[010]ﾛﾝﾄﾞﾝ ﾁｭｳｹｲ
uk-rly@london.pa

5

を押す

LAN ﾁｭｳｹｲ
ｱﾃｻｷ ｦ ｲﾚﾃｸﾀﾞ ｻｲ

6 最終宛先を指定する（電話番号のみ）

- ワンタッチダイヤル（☛p.68）
  短縮ダイヤル（☛p.69）
  電話帳（☛p.70）
  直接ダイヤル（☛p.66）

例：ワンタッチダイヤル「01」

<01> ｽﾄｯｸﾎﾙﾑ
4681111234

- 最終宛先は、複数指定できます。

7

スタート

を押す

V∧ﾃﾞ ｱﾃｻｷｦｶｸﾆﾝｼﾃ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞ ｻｲ

- 宛先確認の画面が表示されます。

8 入力済みの宛先をすべて確認する

- 宛先確認をした場合だけ送信できます。

<01> ｽﾄｯｸﾎﾙﾑ
4681111234

↓

ｱﾃｻｷﾏﾁｶﾞｲｱﾘﾏｾﾝｶ?
ﾊｲ:ｽﾀｰﾄ ｲｲｴ:ｸﾘｱｰ

9

を押す

- 中継局へ送信が開始されます。

例：最終宛先：4681111234
（電話番号）
（☛ お知らせ 1）

- 最終宛先への送信が完了すると、中継局から本機宛に通信結果レポートが送信されます。このレポートで、LAN 中継送信が完了したがどうかを確認できます。
- 送信を中止する場合は、ストップを押します。

お知らせ

1. 中継局が内線電話などをお使いの場合、外部アクセス番号をダイヤルしたあとに ポーズ を押してから、宛先の番号を全部入力してください。
2. # 文字は、中継局のメールアドレスには使用できません。

コンピューターからLAN中継同報を指示する

Outlook などのメールアプリケーションを使って、TIFF 形式のファイルを添付し、複数の宛先のファクスへ中継送信できます。この機能を利用にするには、事前に次の設定が必要です。

- 本機に自局情報（LAN 中継パスワード）を正しく設定しておく
- DNS サーバーへホスト名を登録し、適切な SMTP セキュリティを設定をする

＊ DNS サーバーへの登録と、セキュリティー設定については、お使いのネットワークのシステム管理者へお問合わせください。

コンピューターから中継送信をする場合は、メールアプリケーションの宛先（To ）に相当するフィールドに、次のように入力します。

（例）sg-rly#8133111234@singapore.panasonic.co.sg

または

sg-rly#*001@singapore.panasonic.co.sg

- sg-rly ： LAN 中継パスワード（自局情報インターネット登録の内容と合致させる）
  #8133111234 ： ファクスの電話番号
- # と @ のあいだは、電話番号のほか、ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤルなどの情報を入力することもできます。
- PBX （交換機）などを利用して内線から外線へ発信する際にポーズが必要な場合は、「－」（ハイフン）をファクス番号の部分に入力してください。
- #*001 ～ #*168 ：短縮ダイヤル
  #*2001 ～ #*2032 ：ワンタッチダイヤル / プログラムダイヤル
- @ のあとには DNS サーバーへ登録されたホスト名とドメイン名が入ります。

LAN 中継送信が完了すると、中継結果が通信結果レポートとしてコンピューターへ返送され、中継結果を確認できます。

TIFF コンバーターは、インターネット FAX が受信可能な TIFF ファイル形式へ変換するアプリケーションです。
Word、Excel® などで作成されたファイルを、中継機能を使ってファクスへ送信する場合、そのまま *.doc、*.xls 形式のファイルを添付して送信することはできません。あらかじめ TIFF コンバーターを利用して TIFF 形式のファイルへ変換してから送信してください。

- 変換時の解像度は、通常 200dpi を選択してください。400dpi は、受信側が 400dpi の 処理能力を保有していることが、あらかじめわかっている場合に使用します。
- MAPI アプリケーションは、TIFF ファイルへ変換後、MAPI を使ってメールアプリケーションを自動的に起動するアドインプログラムです。MAPI に対応したメールアプリケーションと連動することにより、Word、Excel® などのアプリケーションからプリントする感覚で、インターネット FAX へ送信できます。

TIFF コンバーター、および MAPI アプリケーションは、次の URL からダウンロードできます。
http://panasonic.biz/doc/fax/download/index.html

お知らせ

1. 「#」と「*」記号は、送信パスワードのあとに入れ、最終宛先の電話番号を続けます。
2. 中継局が内線電話などを使用している場合、外部アクセス番号をダイヤルしたあとに、［ポーズ］を押し、ポーズ（「－」）を入力してから、宛先の番号を全部入力してください。

LAN中継同報の通信結果

中継送信を使用する場合、中継局からは、次の 2 種類のレポートが送信され、通信状況の確認と記録に役立ちます。

1. 中継送信レポート（通信結果レポート）
   システム登録の「143 中継結果返送」（☛p.264）が「全て」または「未通信」に設定されている場合は、中継局が最終宛先に送信をしたあとに、通信結果レポートが送信されます。通信結果レポートで、送信が完了したかどうかを確認できます。

2. 送信ジャーナル（管理者宛メール）
   中継局が LAN 中継指示を受信すると、登録されている管理者にメールで通知が送付されます。
   ☛LAN 中継指示を設定する（p.206）

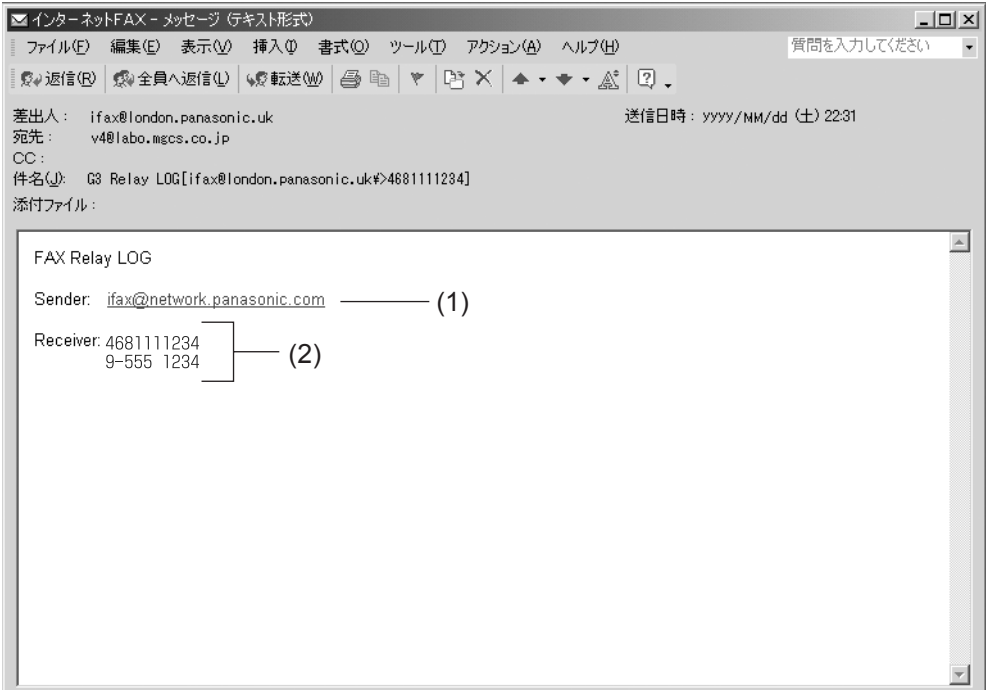
中継送信レポート（通信結果レポート）

中継送信レポート（通信結果レポート）には、次の項目が記載されます。

No.	項目名	説明
(1)	通信種別	「中継転送」が記載されます。
(2)	通信受付時間	中継同報の受け付け時間です。
(3)	通信完了時間	中継同報の完了時間です。
(4)	受付 NO.	通信の受付番号です。001 ～ 999 までが記載されます。
(5)	宛先 NO.	レポート上の番号です。
(6)	状況	・R － OK　：LAN 中継または親展通信が終了しました。 ・4 桁エラーコード　：通信エラーが発生しました。 ☛ エラーコードが表示されたら（p.291）

＜次ページへつづく＞

No.	項目名	説明
(7)	ワンタッチ / 短縮 No.	ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルの番号です。
(8)	相手先	最終宛先の G3 ファクスの電話番号です。
(9)	枚数	送信や受信をした枚数です。メモリー送信の場合に、送信できたページ数 / メモリーに蓄積したページ数の形式で記載されます。
(10)	通信時間	送信や受信にかかった時間です。 複数の通信予約ファイルが同じ宛先に一括送信された場合、「バッチ」と表示されます。

送信ジャーナル（管理者宛メール）

No.	説明
(1)	送信側のインターネットファクスまたはコンピューターのメールアドレス
(2)	最終宛先の G3 ファクスの電話番号

コピーする

コピー機能を利用して、原稿をコピーできます。
コピー部数は 1 ～ 99 まで設定できます。

1 原稿をセットする

送る面を上向きにして、原稿ガイドを原稿の幅に合わせる
☛ 原稿のセットのしかた（p.47）

2 必要に応じて、濃度や文字サイズを選ぶ

☛ 濃度や文字サイズを設定する（p.74）
- 文字サイズの「フツウ」は設定できません。

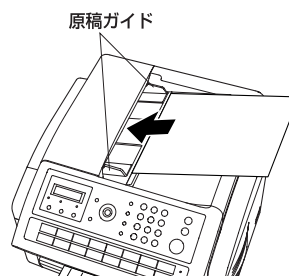
ｱﾃｻｷ ｦ ｲﾚﾃｸﾀﾞｻｲ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ

3 コピー を押す

ｺﾋﾟｰ
ｺﾋﾟｰ ﾌﾞｽｳ =1

4 コピー部数を入力する（最大 99 部）

例：「10」を入力

ｺﾋﾟｰ
ｺﾋﾟｰ ﾌﾞｽｳ =10

5 スタート を押す

- 原稿がメモリーに蓄積され、コピーが開始されます。

お知らせ

1. 原稿の長さによって、自動的に縮小してコピーされます。手動で縮小率を変更するときは、システム登録の「032 縮小コピー」（☛p.259）を「シュドウ」に変更します。
   「032 縮小コピー」が「シュドウ」に設定されている場合は、▼または▲を押して、縮小率を 100 ～ 72% の範囲で 1% 刻みに設定できます。
2. 「文字サイズ」を「サイミツ」に設定してコピーする場合、縮小率を 100%に設定したときは、1ページにプリントするために少し縮小してコピーされます。
3. 「文字サイズ」が「フツウ」に設定されている場合、手順 3 で コピー を押すと、自動的に「チイサイ」に設定されます（「フツウ」は設定できません）。
4. 複数部数をコピーする場合、原稿の読み取り中にメモリーがいっぱいになると、コピーできません。読み取り前の原稿が排紙され、「メモリーオーバー」のメッセージが表示されます。蓄積された原稿は消去されます。この場合には、2 回以上に分けてコピーしてください。

お知らせ

1. 次のようなコピーを所有するだけでも、法律により罰せられますのでお気を付けください。
   - 紙幣、貨幣、政府発行の有価証券、国債証券類、地方債証券類
   - 外国で流通する紙幣、貨幣、証券類
   - 未使用郵便切手、郵便事業株式会社製の郵便はがき類、政府発行の印紙、酒税法で規制の証券類
   - 著作権の目的となっている書籍、絵画、写真、図面、地図、楽譜などの著作物は個人的にまたは家庭内、その他これに準ずる限られた範囲内で使用する場合を除いてコピーは禁止されています。

スキャンする

本機とコンピューターがネットワーク経由で接続されている場合、本機のスキャン機能を利用して、原稿を読み取り、コンピューターに転送できます。

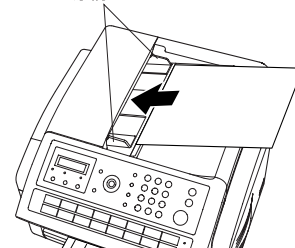
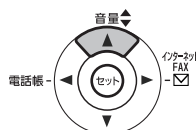
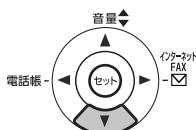
- 本機からコンピューターにスキャン文書を転送するには、あらかじめコンピューター側に『コミュニケーションユーティリティー』をインストールし、機能を設定しておく必要があります。
  インストール、および機能の設定については、CD-ROM 内に格納されている『取扱説明書 （ソフトウェア編)』を参照してください。
- カラー原稿を読み取る場合は、☛ カラー読み取りを設定する（p.223）を参照してください。
- 本機とコンピューターが USB ケーブルで接続されている場合は、コンピューターからスキャンの指示をします。操作方法については、CD-ROM 内に格納されている『取扱説明書 （ソフトウェア編)』を参照してください。

1 スキャンを設定する

を押す

```
12-15 15:00
ﾖﾐｺﾐ ﾃﾞｷﾏｽ
```

2 原稿をセットする

送る面を上向きにして、原稿ガイドを原稿の幅に合わせる
☛ 原稿のセットのしかた（p.47）

3 原稿サイズを設定する

または を押す

- 初期値は「A4」に設定されています。

```
ｱﾃｻｷｦ ｾｯﾄｼﾃｸﾀﾞｻｲ
A4 ∨∧
```

4 必要に応じて、濃度や文字サイズを選ぶ

☛ 濃度や文字サイズを設定する（p.219）

```
ｱﾃｻｷｦ ｾｯﾄｼﾃｸﾀﾞｻｲ
A4 ∨∧
```

5 必要に応じて、スキャンの設定を変更する

☛ ファイルタイプ / ファイル名を設定する（p.220）
☛ 圧縮形式を設定する（p.221）
☛ グレースケールを設定する（p.222）
☛ カラー読み取りを設定する（p.223）

```
ｱﾃｻｷｦ ｾｯﾄｼﾃｸﾀﾞｻｲ
A4 ∨∧
```

6 宛先を指定する

☛ 電話帳で送る（p.70）

```
(01)ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ
11.22.33.44
```

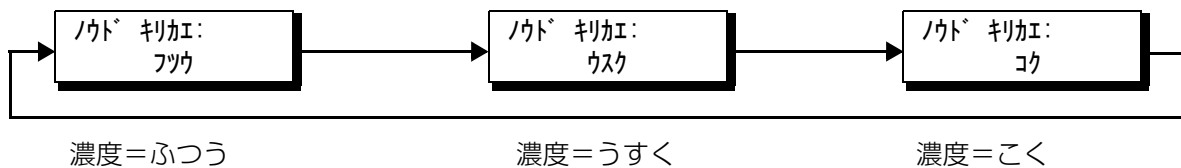
濃度や文字サイズを設定する

送信する原稿に合わせ、濃度と文字サイズを設定できます。これらの設定は、スキャンが終了すると自動的に元の設定に戻ります。

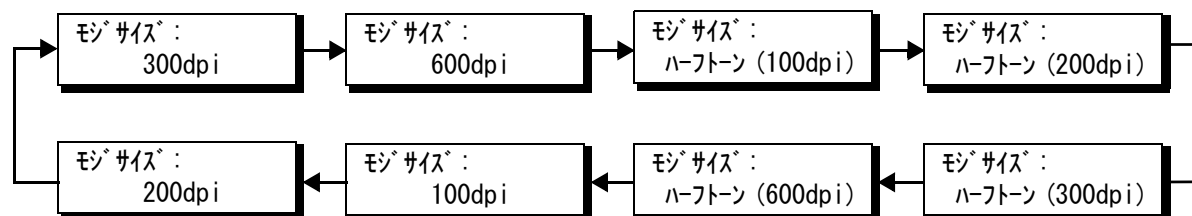
濃度を設定する

原稿を読み込む濃度を設定します。
文字が薄い原稿を送るときは「コク」に変更します。文字がこい原稿を送るときは「ウスク」に変更します。

を押すたびに、濃度の設定が切り替わります。

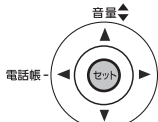
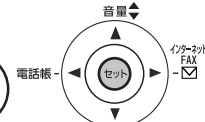
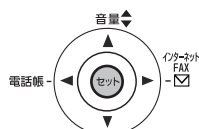
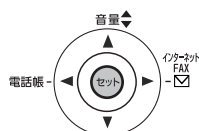
濃度＝ふつう　濃度＝うすく　濃度＝こく

文字サイズを設定する

原稿を読み込む細かさ（解像度）を設定します。
写真原稿を送るときは「ハーフトーン」に変更します。

を押すたびに、文字サイズの設定が切り替わります。

お知らせ

1. 濃度や文字サイズは、初期値を変更できます。よくお使いになる濃度や文字サイズの設定を登録しておけば、原稿をセットするたびに設定をする手間が省けます。
   - 濃度：システム登録の「001 濃度切り替え」(☛p.257)
   - 文字サイズ：スキャナ機能設定の「3 文字サイズ」(☛p.226)
2. 「グレースケール」または「カラー」を設定して読み取る場合、「ハーフトーン」は設定できません。

ファイルタイプ/ファイル名を設定する

スキャンした文書のファイルタイプ / ファイル名を設定できます。
ファイル名は、日付かファイル名を選択できます。

7 （編集を選択した場合）
ファイル名を入力する

文字ボタンを使って、ファイル名を入力する
☛ 文字入力のしかた（p.251）

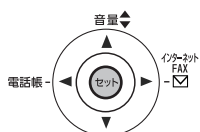
例：「サンコウイラスト」

- 誤って入力したときは、◀ ▶ を使って間違えた文字の右隣にカーソルを移動し、クリアー を押してから正しい文字を入力し直してください。
- 16 文字以上を入力すると、文字列が左端にスクロールされ、画面から消えます。

```
ﾌｧｲﾙﾒｲ        <ｶﾅ
ﾅﾏｴ ﾄｳﾛｸ
```

```
ﾌｧｲﾙﾒｲ        <ｶﾅ
ｻﾝｺｳｲﾗｽﾄ
```

8

を押す

```
12-15 15:00
ﾖﾐｺﾐ ﾃﾞｷﾏｽ
```

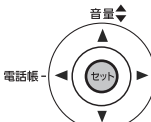
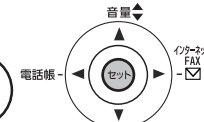
圧縮形式を設定する

読み込んだ文書の圧縮形式を設定できます。

1
スキャンを設定する

を押す

```
12-15 15:00
ﾖﾐｺﾐ ﾃﾞｷﾏｽ
```

2
機能設定の画面を表示する

```
ｱｯｼｭｸ ｹｲｼｷ?
          MMR<>
```

3
①～③を押し、圧縮形式を設定する

(1) MH

(2) MR

(3) MMR

```
ｱｯｼｭｸ ｹｲｼｷ?
           MH<>
```

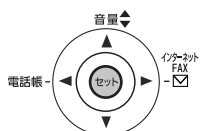
または

```
ｱｯｼｭｸ ｹｲｼｷ?
           MR<>
```

または

```
ｱｯｼｭｸ ｹｲｼｷ?
          MMR<>
```

4

を押す

```
12-15 15:00
ﾖﾐｺﾐ ﾃﾞｷﾏｽ
```

グレースケールを設定する

写真原稿の場合に、グレースケールを設定できます。

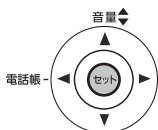
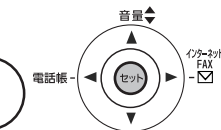
1 スキャンを設定する

を押す

12-15 15:00
ﾖﾐｺﾐ ﾃﾞｷﾏｽ

2 機能設定の画面を表示する

ファンクション

を押す

ｸﾞﾚｰ ｽｹｰﾙ?
ｵﾌ<>

3 ①または②を押し、グレースケールを設定する

① オフ：グレースケールは設定されません。

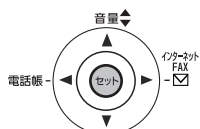
② オン：グレースケールが設定されます。

ｸﾞﾚｰ ｽｹｰﾙ?
ｵﾌ<>

または

ｸﾞﾚｰ ｽｹｰﾙ?
ｵﾝ<>

4

を押す

12-15 15:00
ﾖﾐｺﾐ ﾃﾞｷﾏｽ

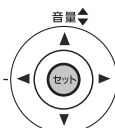
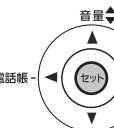
カラー読み取りを設定する

原稿をカラーで読み取る場合は、カラーに設定します。

1 スキャンを設定する

スキャナー を押す

12-15 15:00
ﾖﾐｺﾐ ﾃﾞｷﾏｽ

2 機能設定の画面を表示する

ファンクション 2 4 を押す

ｶﾗｰ ?
ｵﾌ<>

3 ①または②を押し、読み取りモードを設定する

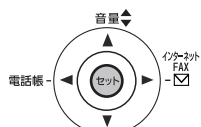
1 オフ：白黒で読み取られます。

2 オン：カラーで読み取られます。

ｶﾗｰ ?
ｵﾌ<>

または

ｶﾗｰ ?
ｵﾝ<>

4 セット を押す

12-15 15:00
ﾖﾐｺﾐ ﾃﾞｷﾏｽ

スキャナー機能を設定する

スキャナー機能設定には、一般設定と管理者設定があります。

スキャナー機能（一般設定）を設定する

スキャナー機能（圧縮形式、文字サイズ、送信ファイルタイプ、原稿サイズ）の初期値を設定できます。

1　スキャンを設定する

スキャナー を押す

12-15 15:00
ﾖﾐｺﾐ ﾃﾞｷﾏｽ

2　機能設定の画面を表示する

ファンクション 1 ▶ 1 ▶ を押す

ｽｷｬﾅｰﾊﾟﾗﾒｰﾀ(0-9)
ﾊﾞﾝｺﾞｳｦｲﾚﾙ ﾏﾀﾊV∧

3　機能番号を入力する

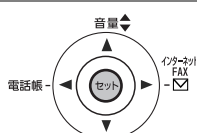
例：③ 文字サイズ

ﾓｼﾞｻｲｽﾞ?
300dpi<>

4　項目を選択する

例：② 200dpi

ﾓｼﾞｻｲｽﾞ?
200dpi<>

5

セット を押す

- ほかの機能を設定する場合は、手順3に戻って操作します。

ｿｳｼﾝ ﾌｧｲﾙ ﾀｲﾌﾟ?
TIFF/JPEG<>

6　設定を終了する

ストップ を押す

12-15 15:00
ﾖﾐｺﾐ ﾃﾞｷﾏｽ

スキャナー機能（管理者設定）を設定する

グループ ID を設定できます。

スキャン設定一覧（一般設定）

* お買い上げ時の設定です。

No.	設定項目	選択肢		説明
0	スキャナー機能設定	(----)	(----)	スキャナー機能設定リストがプリントされます。
2	圧縮形式	1	MH	画像の圧縮形式の初期値を設定します。
		2	MR	
		3	MMR*	
3	文字サイズ	1	100dpi	読み取り解像度の初期値を設定します。
		2	200dpi	
		3	300dpi*	
		4	600dpi	
		5	ハーフトーン（100dpi）	
		6	ハーフトーン（200dpi）	
		7	ハーフトーン（300dpi）	
		8	ハーフトーン（600dpi）	
5	送信ファイルタイプ	1	TIFF/JPEG*	読み取った原稿を送信するときの、ファイルタイプの初期値設定します。 ・ グレースケール原稿 / カラー原稿の場合 TIFF または JPEG を選択できます。
		2	PDF	
7	原稿サイズ	1	A4*	原稿サイズの初期値を設定します。
		2	レター	
		3	リーガル	
9	キーオペレーターモード	(----)	(----)	管理者専用のメニューに移行します。キーオペレーターコードの入力が必要です。 ☛ スキャン設定（管理者設定）（p.226）を参照してください。

スキャン設定（管理者設定）

* お買い上げ時の設定です。

No.	設定項目	選択肢		説明
1	グループ ID	0	0-99（*0）	グループ ID を設定します。

スキャナー機能設定リストをプリントする

スキャナー機能設定リストをプリントする場合は、次の手順で操作します。

1 スキャンを設定する

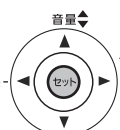
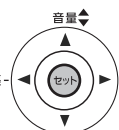
を押す

```
12-15 15:00
ﾖﾐｺﾐ ﾃﾞｷﾏｽ
```

2 機能設定の画面を表示する

ファンクション

を押す

```
ｽｷｬﾅｰﾊﾟﾗﾒｰﾀ(0-9)
ﾊﾞﾝｺﾞｳｦｲﾚﾙ ﾏﾀﾊ∨∧
```

3 機能番号を入力する

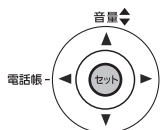
を押す

```
ｽｷｬﾅｰ ｷﾉｳ ｾｯﾃｲ?
ｾｯﾄ ﾃﾞ ﾌﾟﾘﾝﾄ
```

4 プリントを開始する

を押す

```
* ﾌﾟﾘﾝﾄ ｼﾃｲﾏｽ *
ｽｷｬﾅｰ ｷﾉｳ ｾｯﾃｲ
```

スキャナーの操作

プリントする

本機とコンピューターがネットワークまたは USB で接続され、プリンタードライバーが正しくインストールされている場合は、簡単な操作で Windows アプリケーションから印刷できます。

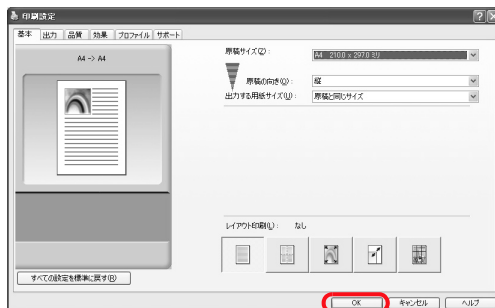
・ プリンタードライバーのインストールについては、CD-ROM 内に格納されている『取扱説明書 （ソフトウェア編)』を参照してください。
・ 下の手順は、本機が「通常使うプリンタ」として設定されている場合の例です。

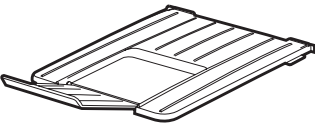
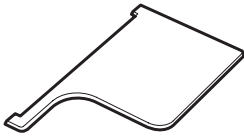
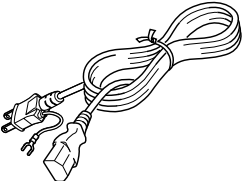
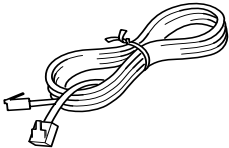
1 ［ファイル］メニューから［印刷］を選択する

• 印刷のダイアログボックスが表示されます。

2 ［詳細設定］ボタンをクリックする

• ボタン名は、アプリケーションにより異なります。

3 各タブの項目を設定し、［OK］ボタンをクリックする

• プリンタードライバーの設定項目については、プリンタードライバーのオンラインヘルプを参照してください。

4 ［印刷］ボタンをクリックする

• 作成した文書の印刷が開始されます。
• ボタン名は、アプリケーションにより異なります。

本体 / 付属品 / 添付品を確認する

梱包をほどきましたら、次のものがすべて揃っていることをご確認ください。

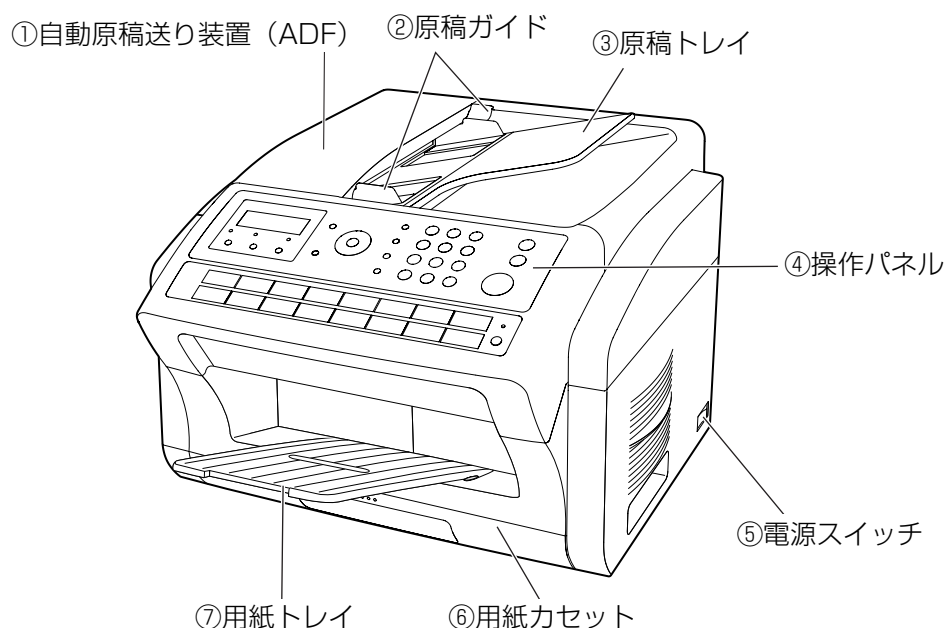
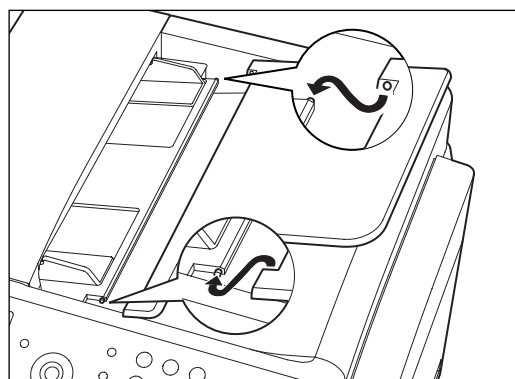
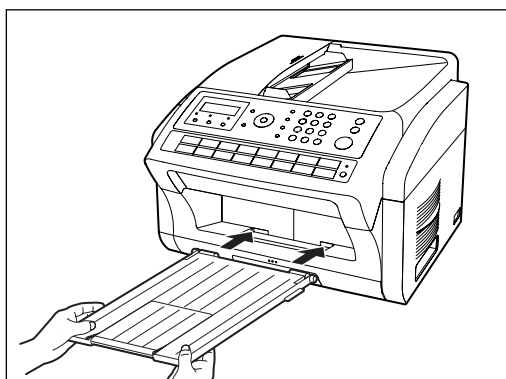
本体・付属品

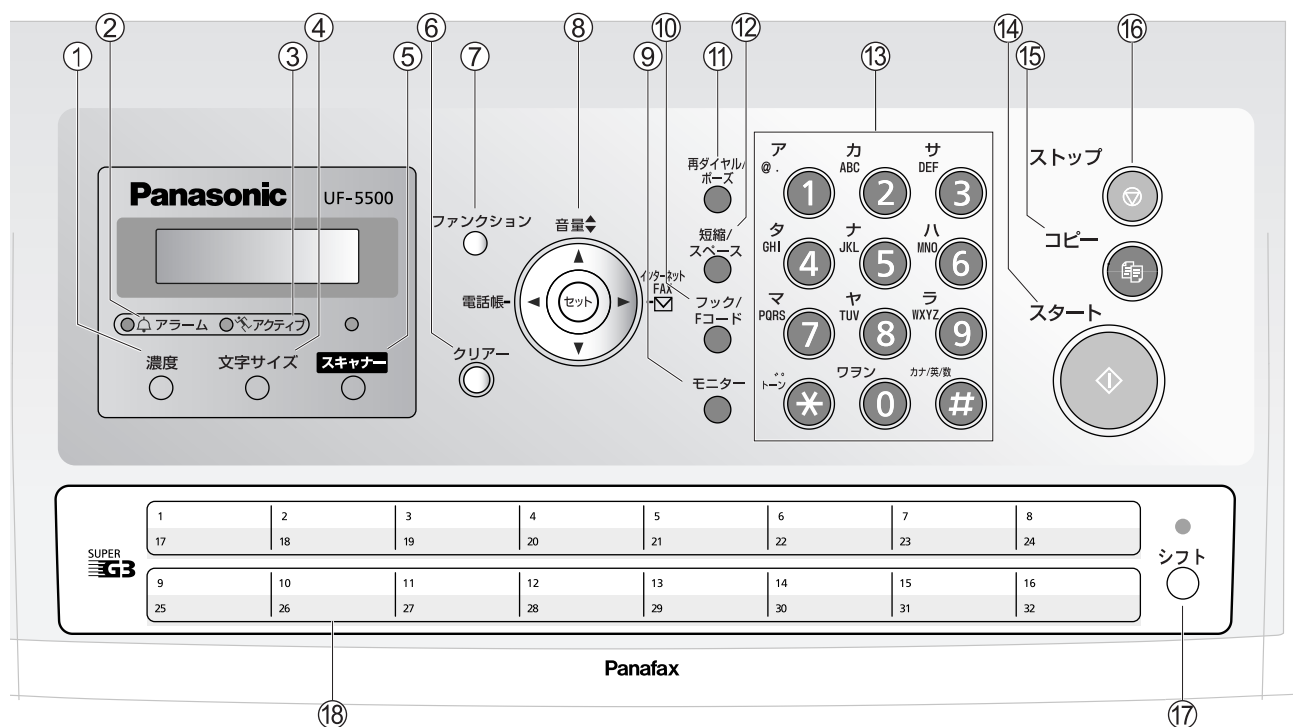
本体	用紙トレイ	原稿トレイ
電源コード	回線コード	

添付品

- 取扱説明書（基本編）
- かんたん設置ガイド
- CD-ROM
- 保証書

各部の名前と働き

本体

■原稿トレイ

■用紙トレイ

No.	説明	No.	説明
①	**自動原稿送り装置（ADF）** 原稿トレイにセットした原稿を自動的に送り込んで読み取るための装置です。	②	**原稿ガイド** 原稿をセットするときに、原稿の幅に合わせて移動し、原稿に沿わせます。 ☛ 原稿のセットのしかた（p.47）
③	**原稿トレイ** ファクス送信やスキャン時、ここに原稿をセットします。 ☛ 原稿のセットのしかた（p.47）	④	**操作パネル** 操作に必要なボタンやランプがまとめられています。 ☛ コントロールパネル（p.28）
⑤	**電源スイッチ** 本機の電源の入 / 切をします。	⑥	**用紙カセット** ファクス受信やプリント時に、プリントに使用する用紙を入れてセットします。約 250 枚までセットできます。 ☛ 用紙を補給する（p.287）
⑦	**用紙トレイ** ファクス受信やコンピューターからのプリント時、プリントされた文書がここに排出されます。		

コントロールパネル

No.	アイコン / ボタン	説明	No.	アイコン / ボタン	説明
①	濃度	**濃度** 原稿を読み取る濃度を選択するときに押します。 ふつう、濃く、薄くから選択します。 ☛ 濃度を設定する（p.74）	②		**アラームランプ（赤）** エラーが発生したり、故障している場合に点灯 / 点滅します。 • 点灯：トナーがなくなった、用紙がつまっている、エラーが発生しているなどで、本機の動作が停止中のとき 用紙カセットに用紙が入っていないとき • 点滅：本機が警告状態になったとき（動作は停止しません）、トナーの残量が少ないとき
③		**アクティブランプ（緑）** • 点灯：受信データがメモリーに蓄積されているとき • 点滅：本機が動作中のとき	④	文字サイズ	**文字サイズ** 原稿を読み取る細かさ（解像度）を選択するときに押します。 ・ファクス / インターネット FAX の場合： ☛ 文字サイズを設定する（p.74） ・スキャンの場合： ☛ 文字サイズを設定する（p.219）
⑤	スキャナー	**スキャナー** 原稿を読み取って、コンピューターに送信する場合に押します。 カラーで読み取ることもできます。 ☛6 章 スキャナーの操作（p.218）	⑥	クリアー	**クリアー** 入力した電話番号や文字を消去するときに押します。 また、すでに設定されている内容をリセットするときにも押します。
⑦	ファンクション	**ファンクション** 各種機能を選択するときに押します。			

No.	アイコン / ボタン	説明	No.	アイコン / ボタン	説明
⑧	音量▲▼ 電話帳 ◀ セット ▶ インターネットFAX	**◀ 電話帳** ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルに登録されている宛先を、宛先名で検索するときに押します。また、機能の選択、システム登録の変更、文字入力のカーソル移動のときにも押します。 **▲ ▼ 音量** 呼び出し音やモニター音の音量を調整します。▲を押すと音が大きく、▼を押すと音が小さくなります。また宛先確認のときにも押します。 ☛ モニター音量を設定する（p.43） **▶ インターネット FAX** インターネット FAX の送信時、メールアドレス入力に切り替えるときに押します。 また、機能の選択、システム登録の変更、文字入力のカーソル移動のときにも押します。 ☛ インターネット FAX を送る（p.160）			
⑨	モニター	**モニター** 手動でダイヤルをするときに使用します。モニター音は音量を調整できます。 ☛ 相手を確認してから送る（手動送信）（p.81） ☛ モニター音量を設定する（p.43）	⑩	フック/Fコード	**フック** 構内交換機に接続されている場合で、内線から NTT 回線（外線）へ切り替えるときにお使いください。動作は交換機によるため、詳細は管理者にご相談ください。 **F コード** F コード（サブアドレス）を入力するときに押します。
⑪	再ダイヤル/ポーズ	**再ダイヤル** 直前にダイヤルした宛先をもう一度指定するときに押します。 ☛ 同じ相手にもう一度送る（再ダイヤル）（p.84） **ポーズ** 電話番号の入力時、ポーズ（空き）を挿入するときに押します。	⑫	短縮/スペース	**短縮** 短縮番号で宛先を指定するときに押します。 ☛ 短縮ダイヤルで送る（p.69） **スペース** 文字の入力でスペースを挿入するときに押します。 ☛ 文字入力のしかた（p.251）
⑬	1 2 3 4 5 6 7 8 9 * 0 #	**テンキー** 手動で電話番号をダイヤルするとき、機能の番号を入力するとき、システム登録の設定をするときなどに押します。 また、文字入力のボタンとして使います。 ☛ 文字入力のしかた（p.251） **トーン** 回線種別がダイヤル式の場合に、このボタンを押すと、一時的にプッシュホン信号を送出できます。 ☛ 記号を使ったダイヤル方法（p.67）	⑭	スタート	**スタート** 通信やコピーを開始するときに押します。
⑮	コピー	**コピー** コピーをするときに押します。 ☛5 章 コピーの操作（p.216）	⑯	ストップ	**ストップ** 送信、コピー、各種登録を中止するときに押します。アラーム音が鳴っているときに押すと、アラーム音が停止します。
⑰	シフト	**シフトボタン / ランプ** ワンタッチボタン（17～32）に切り替えるときに押します。切り替わるとランプが点灯します。 もう一度ボタンを押すと、ランプが消え、ワンタッチボタン（01～16）に戻ります。	⑱	1	**ワンタッチボタン（01 ～ 32）** ワンタッチダイヤル、グループダイヤル、プログラムダイヤルを利用するときに押します。 シフトを押すと、ワンタッチボタン（17～32）に切り替わります。 ☛ワンタッチダイヤルで送る（p.68）

ファンクション番号一覧

ファンクション

1 タイマー通信

① タイマー送信
② タイマーポーリング

2 特殊通信

② 親展通信

②－① 親展送信
②ー② 親展ポーリング
②ー③ 親展ポーリング送信文書の蓄積
②ー④ 親展文書のプリント
②ー⑤ 親展文書の消去

⑤ LAN 中継送信

3 ポーリング

① ポーリング受信
② ポーリング送信

6 リストプリント

① 通信管理確認　①ー①　プリント　①ー②　確認
② ワンタッチ・短縮リスト
③ プログラムリスト
④ システム登録リスト
⑥ 送信レポート

7 登録モード

① 自局登録
② ワンタッチ・短縮登録

②ー① ワンタッチダイヤルの登録
②ー② 短縮ダイヤルの登録

③ プログラム登録

③ー① グループダイヤルの登録
③ー② プログラムダイヤルの登録
③ー③ グループダイヤル / プログラムダイヤルの取り消し
③ー④ 手動 POP 受信の登録

④ システム登録

8 セレクトモード

① 通信結果レポート
② 送達確認
③ カバーシート
④ パスワード送信
⑤ メモリー受信
⑥ 送信ファイルタイプ
⑨ メモリー優先

9 通信予約の確認と消去

① 通信予約確認　①ー①　プリント　①ー②　確認
② 時間・宛先の変更
③ 通信予約の消去
④ 予約内容のプリント
⑤ 通信予約ファイルへの原稿追加
⑥ 未達宛先への再送信

回線コード、ケーブル、電源コードを接続する

接続図

お知らせ

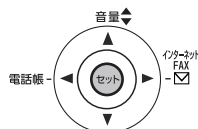
1. USB ケーブルのコンピューター側の一方は、プリンタードライバーのインストール時に接続します。インストールの途中で、コンピューターへ USB ケーブル接続を促すメッセージが表示されます。このメッセージが表示されるまで、USB ケーブルを接続しないでください。

2. コンピューターと接続するケーブルは、次のものを使用してください。
   - ・シールド USB ケーブル（例：USB 2.0 Hi-Speed 対応ケーブル）
   - ・シールド LAN ケーブル（カテゴリ 5（CAT5）イーサネットケーブル）

回線種別を設定する

電話回線には、ダイヤル（DP）回線（ダイヤルスピード 10PPS ）、ダイヤル（DP）回線（ダイヤルスピード 20PPS ）、プッシュ（PB）回線があります。お使いの電話回線の種類を確認したら、次の手順で回線種別を設定します。なお、IP 電話サービスを利用するときは、プッシュ（PB）回線に設定します。

- 回線種別の見分けかた ☛ 回線種別を見分ける（p.33）

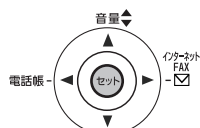
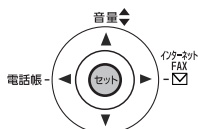
1 システム登録の画面を表示する

ファンクション

7 4 を押す

キーオペレーター コード
コード=

2 キーオペレーターコードを入力する

（キーオペレーターコードを入力して） を押す

システム トウロク
NO.= (01-177)

3 設定画面を表示する

0 6 を押す

ダイヤル キリカエ?
プッシュ (PB)<>

4 ①〜③のボタンを押し、電話回線を設定する

1 回転ダイヤル式回線（10 pps）のとき

2 回転ダイヤル式回線（20 pps）のとき

3 プッシュホン式回線のとき

- ◀または▶を押して設定を変更することもできます。

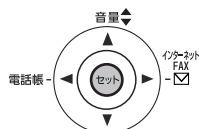
ダイヤル キリカエ?
10PPS<>

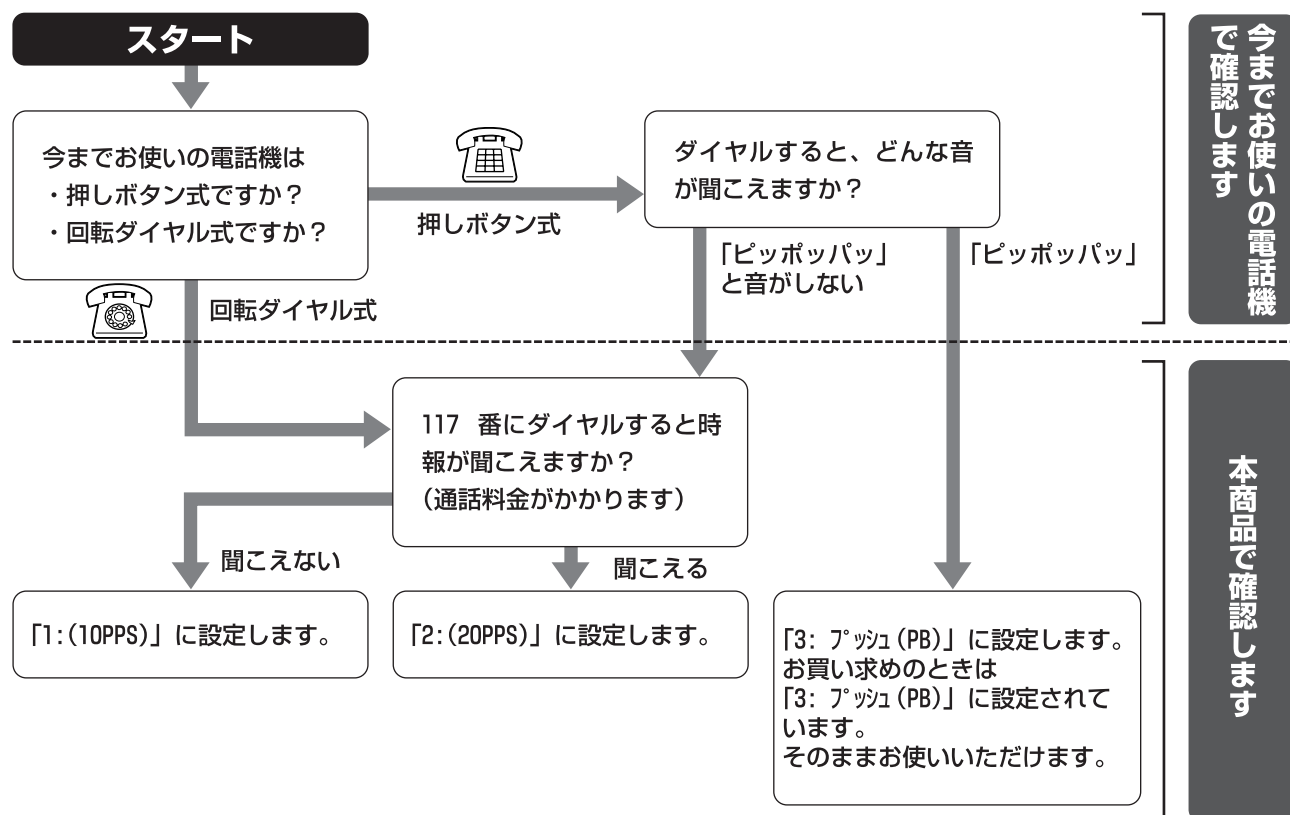
または

ダイヤル キリカエ?
20PPS<>

または

ダイヤル キリカエ?
プッシュ (PB)<>

5 設定を終了する

ストップ を押す

回線種別を見分ける

お知らせ

1. 117 番に電話をかけると、通話料金がかかります。
2. 回線種別をプッシュ（PB) に設定している場合、または 10PPS または 20PPS に設定している場合で ⊛ を押したときは、プッシュ信号として ✱ や # を利用できます。

お願い

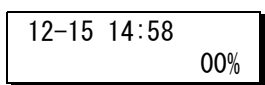
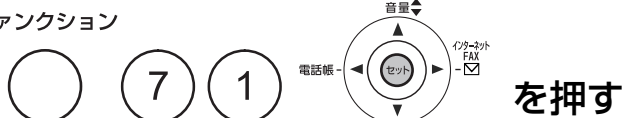
1. お使いの回線種別の確認と設定は、必ず実施してください。正しく設定しない場合、本機を使用できないことがあります。
2. 回線の種別がわからないときは、局番なしの 116 番（無料）へお問い合わせください。
3. TA（ターミナルアダプタ）に本機を接続して利用する場合、本機の外部電話用モジュラージャックには電話機を接続しないでください。接続すると本機や電話機の機能が正常に動作しないことがあります。
4. PBX（構内交換機）に接続するときは、サービス実施会社へお問い合わせください。
5. PBX（構内交換機）、TA（ターミナルアダプタ）、IP 電話に接続した環境で、FAX 送信ができない（リダイヤルを繰り返す）場合があります。このような環境で使用する場合は、システム登録の「68 ダイヤルトーン検知」（☛p.261）を「ナシ」に変更してください。

ファクス通信に必要な設定について

自局登録について

本機では、ファクス通信の記録のために、基本的な情報を「自局登録」に登録できます。
発信元 ID を登録しておくと、ファクス送受信者の身元確認に役立ちます。

日付と時刻を登録する

日付と時刻を入力し、本機の時計を合わせます。
本機では、待機状態のときにディスプレイに日付と時刻が表示されます。

```
12-15 14:58
         00%
```

1 自局登録の画面を表示する

ファンクション ⑦ ① を押す

```
ｷｰｵﾍﾟﾚｰﾀｰ ｺｰﾄﾞ
ｺｰﾄﾞ=█
```

2 キーオペレーターコードを入力する

（キーオペレーター
　コードを入力して） を押す

```
ｼﾞｺｸ ｾｯﾄ
█012-12-15 14:58
```

3 日付と時刻を入力する

例：

②⓪①②	年　：	2012 年
①②	月　：	12 月
①⑤	日　：	15 日
①⑤ ⓪⓪	時刻：	午後 3 時

```
ｼﾞｺｸ ｾｯﾄ
2012-12-15 15:00
```

- 誤って入力したときは、◀ ▶ を使ってカーソルを移動し、正しい数字を上書きしてください。
- 時刻は 24 時制で入力してください。

4 設定を終了する

を押す

発信元を登録する

発信元として、会社名などを入力します。
発信元は、相手に届いた原稿の先端に発信元印字の一部としてプリントされます。

【発信元印字の例】

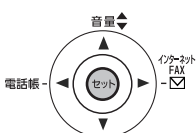
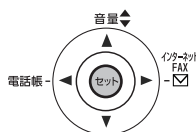
発信元に「パナソニック」を登録した場合

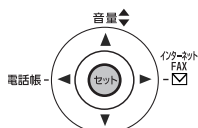
1 自局登録の画面を表示する

を押す

キｰｵﾍﾟﾚｰﾀｰ ｺｰﾄﾞ
ｺｰﾄﾞ=▮

2 キーオペレーターコードを入力する

を押す

ｼﾞｺｸ ｾｯﾄ
2012-12-15 15:00

3 発信元の画面を表示する

を繰り返し押す

ﾊｯｼﾝﾓﾄ　　　　＜ｶﾅ
▮

4 発信元を入力する

文字ボタンを使って、発信元を入力する
☛ 文字入力のしかた（p.251）

ﾊｯｼﾝﾓﾄ　　　　＜ｶﾅ
ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ▮

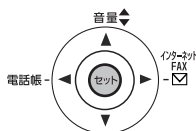
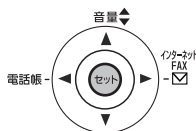
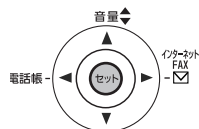
例：「パナソニック」を入力

- 25 文字まで入力できます。
- 誤って入力したときは、◀ ▶ を使って間違えた文字の右隣にカーソルを移動し、クリアー を押してから正しい文字を入力し直してください。
- 16 文字以上を入力すると、文字列が左方向にスクロールされ、画面から消えます。

5 設定を終了する

を押す

文字IDを登録する

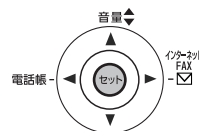
文字 ID として、会社名などを入力します。
文字 ID は、通信時、相手のディスプレイやレポートに表示されます。

4 **文字 ID を入力する**

文字ボタンを使って、文字 ID を入力する
☛ 文字入力のしかた（p.251）

モジ ID くカナ
パナソニック

例：「パナソニック」を｣入力

- 16 文字まで入力できます。
- 誤って入力したときは、◀ ▶ を使って間違えた文字の右隣にカーソルを移動し、クリアー を押してから正しい文字を入力し直してください。

5 **設定を終了する**

を押す

数字ID(ファクス番号)を登録する

数字 ID として、自分のファクスの電話番号を入力します。
数字 ID は、通信時、相手のディスプレイやレポートに表示されます。
通常は、ファクスの電話番号を本機の数字 ID として登録することをお勧めします。

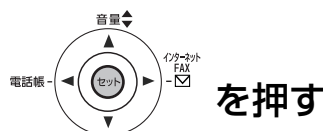
1 自局登録の画面を表示する

ファンクション ( ) (7) (1) セット を押す

```
ｷｰｵﾍﾟﾚｰﾀｰ ｺｰﾄﾞ
ｺｰﾄﾞ=▮
```

2 キーオペレーターコードを入力する

(キーオペレーター
コードを入力して)

を押す

```
ｼﾞｺｸ ｾｯﾄ
2012-12-15 15:00
```

3 数字 ID の画面を表示する

を繰り返し押す

```
ｽｳｼﾞ ID
▮
```

4 数字 ID を入力する

テンキーボタンと空白文字を入れるための[スペース]を使って、数字 ID を入力する

```
ｽｳｼﾞ ID
201 555 1212▮
```

例：「201 555 1212」を入力

- 20 文字まで入力できます。
- 誤って入力したときは、[◀] [▶] を使って間違えた文字の右隣にカーソルを移動し、[クリアー] を押してから正しい文字を入力し直してください。
- 16 文字以上を入力すると、文字列が左方向にスクロールされ、画面から消えます。

5 設定を終了する

を押す

お知らせ

1. 国別コードに "+" を入力するときは、(＊)を押します。
2. 例：+1 XXX XXX XXXX　+1 は、アメリカ合衆国の国別コード
　+81 X XXX XXXX　+81 は、日本の国別コード

自局登録(インターネットパラメーター)を設定する

インターネット FAX を使用するには、下記の基本的な設定項目の登録が必要です。

- IP アドレス
- サブネットマスク
- デフォルトゲートウェイ
- メールサーバー名、またはメールサーバー IP アドレス
- メールアドレス

設定を開始する前に、☛ 事前準備表(p.51)のコピーに、必要な事項を記入し、用意しておいてください。

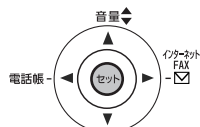
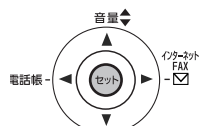
詳しくは、☛ インターネットに接続するには(p.48)をお読みください。

- お使いの環境によっては、上記以外の設定項目の設定が必要な場合があります。☛ 自局登録(インターネットパラメーター)の項目一覧(p.40)を参照して、必要な項目を設定してください。
- お使いのネットワークが DHCP サーバーに対応している場合は、IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを自動的に取得できます。

1 自局登録の画面を表示する

ファンクション 7 1 を押す

2 キーオペレーターコードを入力する

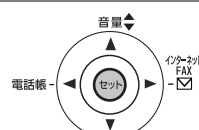
(キーオペレーターコードを入力して) を押す

3 IP アドレスの画面を表示する

を繰り返し押す

4 IP アドレスを入力する

テンキーボタンで、IP アドレスを入力する

例:「192.168.0.1」を入力

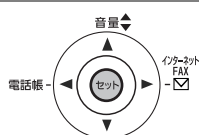
- 「・」(ドット)は、✱を使って入力できます。

5 を押す

6 サブネットマスクを入力する

テンキーボタンで、サブネットマスクを入力する

例:「255.255.255.0」を入力

7 を押す

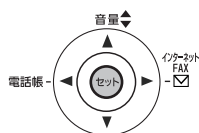
```
ﾃﾞﾌｫﾙﾄ ｹﾞｰﾄｳｪｲ
▮
```

8 **デフォルトゲートウエイを入力する**

テンキーボタンで、デフォルトゲートウエイを入力する

例：「192.168.0.10」を入力

```
ﾃﾞﾌｫﾙﾄ ｹﾞｰﾄｳｪｲ
192.168.0.10▮
```

9

を押す

```
DNS ｻｰﾊﾞｰ1 IP
▮
```

- 手順3～8と同様にして、必要な項目をすべて設定します。
- 設定項目については、☛ 自局登録（インターネットパラメーター）の項目一覧（p.40）を参照してください。

10 **設定を終了する**

ストップ を押す

```
ｾｯﾃｲ ｶﾞ ｶﾜﾘﾏｼﾀ
ﾘﾌﾞｰﾄ ｼﾏｽ
```

- 設定を有効にするため、自動的に再起動されます。

お知らせ

1. DNS サーバーが利用できない場合は、システム登録の「161 DNS サーバー」（☛p.265）を「ナシ」に変更します。
2. 「・」（ドット）は、✱を使って入力できます。
3. 誤って入力したときは、◀ ▶ を使って間違えた文字の右隣にカーソルを移動し、クリアー を押してから正しい文字を入力し直してください。

自局登録(インターネットパラメーター)の項目一覧

ネットワークの構成により、最初に下記のパラメーターを適切に設定する必要があります。

- インターネットFAXの機能やネットワーク構成については、☛インターネットに接続するには(p.48)を参照してください。

パラメーター	説明
IP アドレス	ネットワーク管理者または DHCP サーバーによって割り当てられた IP アドレスです。
サブネットマスク	ネットワーク管理者またはDHCPサーバーによって割り当てられたサブネットマスクです。
デフォルトゲートウェイ	ネットワーク管理者またはDHCPサーバーによって割り当てられたデフォルトゲートウェイです。
DNS サーバー IP アドレス	プライマリー DNS サーバーの IP アドレスです。DNS サーバーがご利用になれない場合はシステム登録の No.161(DNS サーバー)を「ナシ」に変更します。
自局メールアドレス	本機に割り当てられたメールアドレス 1 です。 (60 文字まで)
メールサーバー名、またはメールサーバー IP アドレス	SMTP メールサーバーの名称(60 文字まで)、または IP アドレスとポート番号です。
SMTP 認証名	SMTP 認証名 • この項目は、システム登録の「170 SMTP 認証」(☛p.266)が「アリ」の場合に設定します。
SMTP 認証パスワード	SMTP 認証パスワード • この項目は、システム登録の「170 SMTP 認証」(☛p.266)が「アリ」の場合に設定します。
POP サーバー名、または POP サーバー IP アドレス	POP メールサーバーの名称(60 文字まで)、または POP メールサーバーの IP アドレスとポート番号です。
POP ユーザー名	本機に割り当てられた POP ユーザー名です。 (40 文字まで)
POP パスワード	本機に割り当てられたパスワードです。 (30 文字まで)
ホスト名	本機のホスト名です。 (60 文字まで)
デフォルトサブジェクト	メールの件名に自動挿入されるデフォルトの情報(最大 40 文字まで)です。この情報を手動で変更する場合は、システム登録の「159 サブジェクト登録」(☛p.265)を「アリ」に設定します。
デフォルトドメイン名	送信しようとしているメールアドレスがSMTP標準に対して不完全な場合に使用されるドメイン名です。メールアドレスに自動的に付加されます。デフォルトドメインは、手動でメールアドレスを入力する場合にも利用できます。 (50 文字まで)
セレクトドメイン名 (01 ~ 10)	ドメイン名を 10 個まで登録できます。手動でメールアドレスを入力するときに「@」入力後にリストから選択できます。 (30 文字まで)
LAN 中継パスワード	LAN 中継送信時の中継許可用パスワードです。 (10 文字まで)
リモートパスワード	セキュリティパスワードです。 インターネットパラメーター、オートダイアラー、またはメールによる通信管理レポートの取得について、リモート・プログラミングが可能になります。 (10 文字まで)

パラメーター	説明
管理者メールアドレス	LAN 中継送信状況モニターと通信費用管理のための、管理者用メールアドレスです。 (60 文字まで)
中継許可ドメイン名 (01 ～ 10)	中継送信要求のために本機へのアクセスを許可するされているドメイン名を 10 個まで入力できます。 (30 文字まで)
コミュニティー名（1)、(2)	ソフトウェア（デバイスエクスプローラーなど）が使用するコミュニティー名です。 (01) ～（02)
デバイス名	ソフトウェア（デバイスエクスプローラーなど）が使用するデバイス名です。
デバイスロケーション	ソフトウェア（デバイスエクスプローラーなど）が使用するデバイス・ロケーションです。

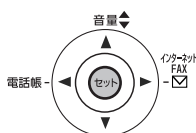
* 自局登録 (インターネットパラメーター) の設定値については、システム管理者にお問い合わせください。

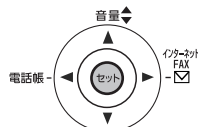
キーオペレーターコード（管理者パスワード）を設定する

お買い上げ時、キーオペレーターコード（管理者パスワード）は、「00000000」に設定されています。
キーオペレーターコードを変更する場合は、次の手順で操作します。

1 自局登録の画面を表示する

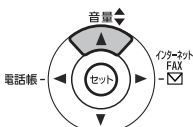
ファンクション ( ) (7) (1) [セット] を押す

```
ｷｰｵﾍﾟﾚｰﾀｰ ｺｰﾄﾞ
ｺｰﾄﾞ=█
```

2 キーオペレーターコードを入力する

（キーオペレーターコードを入力して）[セット] を押す

```
ｼﾞｺｸ ｾｯﾄ
2012-12-15 15:00
```

3 キーオペレーターコードの画面を表示する

を押す

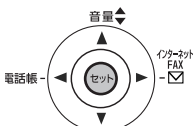
```
ｷｰｵﾍﾟﾚｰﾀｰ ｺｰﾄﾞ
█****
```

4 キーオペレーターコード（8文字）を入力する

キーオペレーターコードを入力する
例：「12345678」を入力

- テンキーボタンの1～0を使用して、パスワードを指定してください。
  ☛ 文字入力のしかた（p.251）

```
ｷｰｵﾍﾟﾚｰﾀｰ ｺｰﾄﾞ
******8
```

5

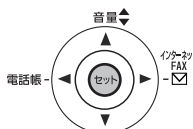
を押す

```
ｻｲﾆｭｳﾘｮｸ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ
█****
```

6 キーオペレーターコード（8文字）を、もう一度入力する

キーオペレーターコードを入力する

例：「12345678」を入力

```
ｻｲﾆｭｳﾘｮｸ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ
******8
```

7 設定を終了する

ストップ を押す

お知らせ

1. キーオペレーターコード（管理者パスワード）は、8文字すべてを同じ文字に設定することはできません（例：11111111 や AAAAAAAA など）。
   お買い上げ時、キーオペレーターコード（管理者パスワード）は「00000000」に設定されています。セキュリティー保持のため、初期値を変更し、パスワードが漏えいしないように機密を保持してください。
   セキュリティー保持については、☛ 管理責任者へのお願い（p.16）を参照してください。

音量を設定する

本機では、モニター音量（スピーカーの音量）、呼び出し音量を調整できます。

モニター音量を設定する

モニター音量は、8 段階で設定できます。

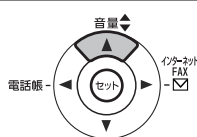
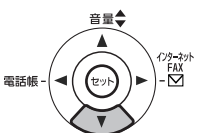
1 モニター ◯ を押す

```
*ﾀﾞｲﾔﾙ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ*
▮
```

• スピーカーから、モニター音が聞こえます。

2

モニター音量を大きくするとき

```
ﾓﾆﾀｰ ｵﾝﾘｮｳ
ｼｮｳ[▮▮▮▮▮▮▮▮]ﾀﾞｲ
```

または

モニター音量を小さくするとき

```
ﾓﾆﾀｰ ｵﾝﾘｮｳ
ｼｮｳ[        ]ﾀﾞｲ
```

3 設定を終了する

を押す

お知らせ

1. モニターを利用するには、システム登録の「137 直ダ再入力」（☛p.263）が「ナシ」に設定されている必要があります（お買い上げ時は、「アリ」に設定されています）。

呼び出し音量を設定する

1 待機状態を確認する

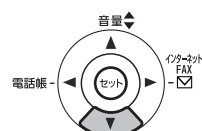
12-15 15:00
00%

2 音量を調整する

▲ または ▼ を押すと、テスト用の呼び出し音が鳴ります。
音を確認しながら、お好みの大きさに調整します。

呼び出し音量を大きくするとき

ﾖﾋﾞﾀﾞｼ ｵﾝﾘｮｳ
((((☎))))

または

呼び出し音量を小さくするとき

ﾖﾋﾞﾀﾞｼ ｵﾝﾘｮｳ
☎

3 設定を終了する

を押す

ワンタッチダイヤル / 短縮ダイヤルを登録する

ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルを利用すると、簡単な操作でダイヤルできます。これらのダイヤルは、あらかじめ、電話番号またはメールアドレス、および宛先名を登録しておく必要があります。

- システム登録でルーティングが設定されている場合は、宛先名の入力後にルーティング機能を設定する画面が表示されます。操作については、☛ 転送先を登録する（p.196）を参照してください。
- システム登録でLAN中継が設定されている場合は、宛先名の入力後にLAN中継同報機能を設定する画面が表示されます。操作については、☛LAN 中継指示を設定する（p.206）を参照してください。

ワンタッチダイヤルを登録する

ワンタッチダイヤル（01 ～ 32）に、電話番号やメールアドレスを登録できます。
新規にワンタッチダイヤルを登録する場合は、次の手順で操作します。

- ワンタッチボタンには、ここで説明するワンタッチダイヤル以外に、プログラム機能やグループダイヤル機能を登録できます。詳しくは、☛ プログラムダイヤルを登録する（p.240）を参照してください。

1 設定画面を表示する

ファンクション

を押す

```
1:ﾜﾝﾀｯﾁ ﾄｳﾛｸ
2:ﾀﾝｼｭｸ ﾄｳﾛｸ
```

2 ワンタッチダイヤル登録を選択する

(1) を押す

```
ﾜﾝﾀｯﾁ<  >
ﾜﾝﾀｯﾁ ｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

3 ワンタッチボタンを押す

例 :ワンタッチボタン「01」

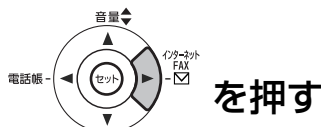
[1] を押す（☛ お知らせ 1　☛p.232）

- ワンタッチボタン17～32の場合は、ワンタッチボタンの前に、(シフト)を押します。

```
<01>
ﾃﾞﾝﾜﾊﾞﾝｺﾞｳﾆｭｳﾘｮｸ
```

4 （メールアドレスを入力する場合）

を押す

```
<01>
ｱﾄﾞﾚｽｦ ｲﾚﾃｸﾀﾞｻｲ
```

5 電話番号、メールアドレスを入力する

- 電話番号の場合（☛ お知らせ 2、3　☛p.232）
  電話番号を入力する
  （ポーズやスペースを含み、最大 36 桁）

  例 :「9-555 1234」を入力
- メールアドレスの場合（☛ お知らせ 2　☛p.232）
  文字ボタンを使って入力する（最大 60 桁）
  ☛ 文字入力のしかた（p.251）

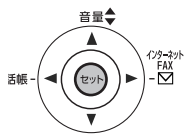
  例 :「ab@panasonic.com」を入力

```
<01>
9-555 1234
```

または

```
<01>
ab@panasonic.com
```

6

を押す

```
<01> ﾅﾏｴ ﾄｳﾛｸ<ｶﾅ
9-555 1234
```

または

```
<01> ﾅﾏｴ ﾄｳﾛｸ<ｶﾅ
ab@panasonic.com
```

7 **宛先名を入力する**

文字ボタンを使って宛先名を入力する（最大 15 文字）
☛ 文字入力のしかた（p.251）

例 :「エイギョウブ」を入力

```
<01> ｴｲｷﾞｮｳﾌﾞ<ｶﾅ
9-555 1234
```

または

```
<01> ｴｲｷﾞｮｳﾌﾞ<ｶﾅ
ab@panasonic.com
```

8

を押す

- メールアドレスの入力でシステム登録のダイレクトSMTP送信が設定されている場合は、手順 9 に進みます。
- 続けてほかのワンタッチダイヤルを登録する場合は、手順 3 からの操作を繰り返します。
- ワンタッチダイヤルの登録を終了する場合は、手順 11 に進みます。
- システム登録でルーティングが設定されている場合は、ルーティング機能を設定する画面が表示されます。操作については、☛ 転送先を登録する（p.196）を参照してください。
- システム登録で LAN 中継同報が設定されている場合は、LAN 中継同報機能を設定する画面が表示されます。操作については、☛LAN 中継指示を設定する（p.206）を参照してください。

ダイレクト SMTP 送信が設定されていない場合

```
ﾜﾝﾀｯﾁ<   >
ﾜﾝﾀｯﾁ ｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

ダイレクト SMTP 送信が設定されている場合

```
ﾀﾞｲﾚｸﾄ SMTP=▮
1:ﾊｲ 2:ｲｲｴ
```

9 （ダイレクト SMTP 送信が設定されている場合のみ）

ダイレクト SMTP 送信を設定する

① ハイ　：ダイレクト SMTP 送信が設定されます。

② イイエ：ダイレクト SMTP 送信は設定されません。

- この項目は、システム登録の「172 ダイレクト SMTP 送信」(☛p.266) が「アリ」に設定され、手順 5 でメールアドレスを指定した場合に設定します。

```
ﾀﾞｲﾚｸﾄ SMTP=1
1:ﾊｲ 2:ｲｲｴ
```

または

```
ﾀﾞｲﾚｸﾄ SMTP=2
1:ﾊｲ 2:ｲｲｴ
```

<次ページへつづく>

登録と設定

10

を押す

ﾜﾝﾀｯﾁ<　>
ﾜﾝﾀｯﾁ ｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ

- 続けてほかのワンタッチダイヤルを登録する場合は、手順3からの操作を繰り返します。

11 設定を終了する

ストップ を押す

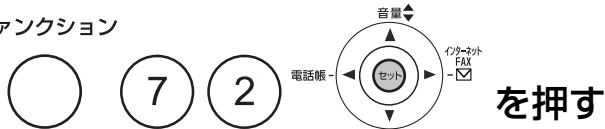
お知らせ

1. 選択したワンタッチボタンにすでに宛先が登録されている場合は、電話番号やメールアドレスが表示されます。登録内容を変更する場合は、
☛ ワンタッチダイヤル / 短縮ダイヤルを変更する（p.236）
2. 電話番号やメールアドレスを誤って入力した場合は、◀ または ▶ を使ってカーソルを誤って入力した文字の右隣へ移動し、クリアー を押してから、新しい番号を入力します。
3. 電話番号には、ポーズ、トーン、スペース、サブアドレスも登録できます。
☛ 記号を使ったダイヤル方法（p.67）

短縮ダイヤルを登録する

短縮ダイヤル（001 ～ 168）に、電話番号やメールアドレスを登録できます。
新規に短縮ダイヤルを登録する場合は、次の手順で操作します。

1 設定画面を表示する

を押す

1:ﾜﾝﾀｯﾁ ﾄｳﾛｸ
2:ﾀﾝｼｭｸ ﾄｳﾛｸ

2 短縮ダイヤル登録を選択する

2 を押す

ﾀﾝｼｭｸ[▮]
ﾀﾝｼｭｸNO.ｲﾚﾃｸﾀﾞｻｲ

3 短縮ダイヤルを選択する

例：

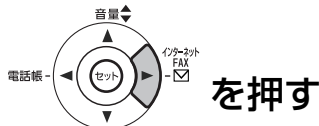
を押す

（☛ お知らせ 1 ☛p.235）

[022]
ﾃﾞﾝﾜﾊﾞﾝｺﾞｳﾆｭｳﾘｮｸ

4 （メールアドレスを入力する場合）

を押す

[022]
ｱﾄﾞﾚｽｦ ｲﾚﾃｸﾀﾞｻｲ

5 電話番号、メールアドレスを入力する

- 電話番号の場合（☛ お知らせ 2、3 ☛p.235）
  電話番号を入力する
  （ポーズやスペースを含み、最大 36 桁）

  例 :「9-555 1234」を入力
- メールアドレスの場合（☛ お知らせ 2 ☛p.235）
  文字ボタンを使って入力する（最大 60 桁）
  ☛ 文字入力のしかた（p.251）

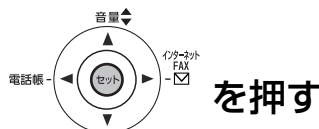
  例 :「ab@panasonic.com」を入力

[022]
9-555 1234

または

[022]
ab@panasonic.com

6

を押す

[022]ﾅﾏｴ ﾄｳﾛｸ<ｶﾅ
9-555 1234

または

[022]ﾅﾏｴ ﾄｳﾛｸ<ｶﾅ
ab@panasonic.com

<次ページへつづく>

7 宛先名を入力する

文字ボタンを使って宛先名を入力する（最大 15 文字）
☛ 文字入力のしかた（p.251）

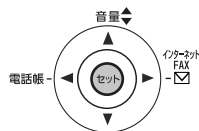
例 :「エイギョウブ」を入力

```
[022]ｴｲｷﾞｮｳﾌﾞ<ｶﾅ
9-555 1234
```

または

```
[022]ｴｲｷﾞｮｳﾌﾞ<ｶﾅ
ab@panasonic.com
```

8

を押す

- メールアドレスの入力でシステム登録のダイレクトSMTP送信が設定されている場合は、手順 9 に進みます。
- 続けてほかの短縮ダイヤルを登録する場合は、手順 3 からの操作を繰り返します。
- 短縮ダイヤルの登録を終了する場合は、手順 11 に進みます。
- システム登録でルーティングが設定されている場合は、ルーティング機能を設定する画面が表示されます。
  操作については、☛ 転送先を登録する（p.196）を参照してください。
- システム登録で LAN 中継同報が設定されている場合は、LAN 中継同報機能を設定する画面が表示されます。
  操作については、☛LAN 中継指示を設定する（p.206）を参照してください。

ダイレクト SMTP 送信が設定されていない場合

```
ﾀﾝｼｭｸ[▮  ]
ﾀﾝｼｭｸNO.ｲﾚﾃｸﾀﾞｻｲ
```

ダイレクト SMTP 送信が設定されている場合

```
ﾀﾞｲﾚｸﾄ SMTP=▮
1:ﾊｲ 2:ｲｲｴ
```

9

（ダイレクト SMTP 送信が設定されている場合のみ）

ダイレクト SMTP 送信を設定する

(1) ハイ　：ダイレクト SMTP 送信が設定されます。

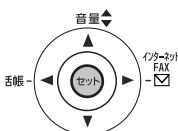
(2) イイエ：ダイレクト SMTP 送信は設定されません。

- この項目は、システム登録の「172 ダイレクト SMTP 送信」(☛p.266) が「アリ」に設定され、手順 5 でメールアドレスを指定した場合に設定します。

```
ﾀﾞｲﾚｸﾄ SMTP=1
1:ﾊｲ 2:ｲｲｴ
```

または

```
ﾀﾞｲﾚｸﾄ SMTP=2
1:ﾊｲ 2:ｲｲｴ
```

10

を押す

- 続けてほかの短縮ダイヤルを登録する場合は、手順 3 からの操作を繰り返します。

```
ﾀﾝｼｭｸ[▮  ]
ﾀﾝｼｭｸNO.ｲﾚﾃｸﾀﾞｻｲ
```

11 設定を終了する

ストップ

を押す

お知らせ

1. 入力した短縮番号にすでに宛先が登録されている場合は、電話番号やメールアドレスが表示されます。登録内容を変更する場合は、
☛ ワンタッチダイヤル / 短縮ダイヤルを変更する（p.236）

2. 電話番号やメールアドレスを誤って入力した場合は、◀ または ▶ を使ってカーソルを誤って入力した文字の右隣へ移動し、クリアー を押してから、新しい番号を入力します。

3. 電話番号には、ポーズ、トーン、スペース、サブアドレスも登録できます。
☛ 記号を使ったダイヤル方法（p.67）

ワンタッチダイヤル/短縮ダイヤルを変更する

登録されているワンタッチダイヤル / 短縮ダイヤルを変更する場合は、次の手順で操作します。
- ここでは、ワンタッチダイヤルを変更する手順を例に、操作を説明します。
- 電話番号やメールアドレスの入力内容については、次を参照してください。
☛ ワンタッチダイヤルを登録する（p.230）、☛ 短縮ダイヤルを登録する（p.233）

1 設定画面を表示する

ファンクション ○ ⑦ ② 電話帳 セット インターネットFAX 音量 を押す

```
1:ﾜﾝﾀｯﾁ ﾄｳﾛｸ
2:ﾀﾝｼｭｸ ﾄｳﾛｸ
```

2 ワンタッチダイヤル登録を選択する

① を押す

```
ﾜﾝﾀｯﾁ<  >
ﾜﾝﾀｯﾁ ｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

3 ワンタッチボタンを押す

例：ワンタッチボタン「01」

[1] を押す

- ワンタッチボタン17～32の場合は、ワンタッチボタンの前に、シフト○を押します。

```
<01> ｴｲｷﾞｮｳﾌﾞ
9-555 1234
```

または

```
<01> ｴｲｷﾞｮｳﾌﾞ
ab@panasonic.com
```

4 電話番号やメールアドレスを変更する場合

(1) クリアー ◎ を押す

```
<01> ｴｲｷﾞｮｳﾌﾞ
ﾃﾞﾝﾜﾊﾞﾝｺﾞｳﾆｭｳﾘｮｸ
```

または

```
<01> ｴｲｷﾞｮｳﾌﾞ
ｱﾄﾞﾚｽｦ ｲﾚﾃｸﾀﾞｻｲ
```

(2) **変更後の電話番号やメールアドレスを入力する**

例：9-555 3456
例：yz@panasonic.com

・メールアドレスを入力する場合は、[▶]を押します。

```
<01> ｴｲｷﾞｮｳﾌﾞ
9-555 3456
```

または

```
<01> ｴｲｷﾞｮｳﾌﾞ
yz@panasonic.com
```

(3) 電話帳 セット インターネットFAX 音量 を押す

```
<01> ｴｲｷﾞｮｳﾌﾞ
9-555 3456
```

または

```
<01> ｴｲｷﾞｮｳﾌﾞ
yz@panasonic.com
```

5 宛先名を変更する場合

(1) クリアー を押す

```
<01> ▮       <ｶﾅ
9-555 3456
```

または

```
<01> ▮       <ｶﾅ
yz@panasonic.com
```

(2) 変更後の宛先名を入力する

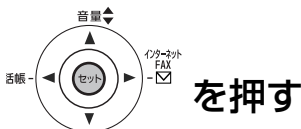
例 :「パナソニック」を入力

```
<01> ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ <ｶﾅ
9-555 3456
```

または

```
<01> ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ <ｶﾅ
yz@panasonic.com
```

6

を押す

- メールアドレスの入力でシステム登録のダイレクト SMTP 送信が設定されている場合は、手順 7 に進みます。
- 続けてほかのワンタッチダイヤルを変更する場合は、手順 3 からの操作を繰り返します。
- ワンタッチダイヤルの変更を終了する場合は、手順 9 に進みます。
- ルーティングが設定されている場合は、ルーティング機能を設定する画面が表示されます。設定を変更する場合は、クリアーを押し、設定を変更します。
  設定内容については、☛ 転送先を登録する（p.196）を参照してください。
- LAN 中継同報が設定されている場合は、LAN 中継同報機能を設定する画面が表示されます。設定を変更する場合は、クリアーを押し、設定を変更します。
  設定内容については、☛LAN 中継指示を設定する（p.206）を参照してください。

ダイレクト SMTP 送信が設定されていない場合

```
ﾜﾝﾀｯﾁ<   >
ﾜﾝﾀｯﾁ ｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

ダイレクト SMTP 送信が設定されている場合

```
ﾀﾞｲﾚｸﾄ SMTP=▮
1:ﾊｲ 2:ｲｲｴ
```

7 （ダイレクト SMTP 送信が設定されている場合のみ）ダイレクト SMTP 送信を設定する

① ハイ　：ダイレクト SMTP 送信が設定されます。

② イイエ：ダイレクト SMTP 送信は設定されません。

- この項目は、システム登録の「172 ダイレクト SMTP 送信」（☛p.266）が「アリ」に設定され、手順４でメールアドレスを指定した場合に設定します。

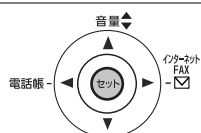
```
ﾀﾞｲﾚｸﾄ SMTP=1
1:ﾊｲ 2:ｲｲｴ
```

または

```
ﾀﾞｲﾚｸﾄ SMTP=2
1:ﾊｲ 2:ｲｲｴ
```

＜次ページへつづく＞

8

を押す

ﾜﾝﾀｯﾁ<　>
ﾜﾝﾀｯﾁ ｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ

- 続けてほかのワンタッチダイヤル / 短縮ダイヤルを変更する場合は、手順 3 からの操作を繰り返します。

9 **設定を終了する**

ストップ

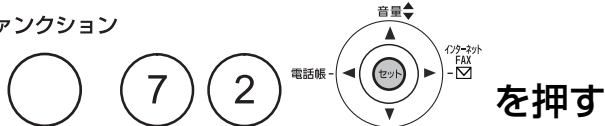
を押す

お知らせ

1. 電話番号やメールアドレスを誤って入力した場合は、◀ または ▶ を使ってカーソルを誤って入力した文字の右隣へ移動し、クリアー を押してから、新しい番号を入力します。

ワンタッチダイヤル/短縮ダイヤルを消去する

登録されているワンタッチダイヤル / 短縮ダイヤルを消去する場合は、次の手順で操作します。
ここでは、ワンタッチダイヤルを消去する手順を例に、操作を説明します。

1 設定画面を表示する

ファンクション

を押す

```
1:ワンタッチ トウロク
2:タンシュク トウロク
```

2 ワンタッチダイヤル登録を選択する

(1) を押す

```
ワンタッチ<  >
ワンタッチ ヲ オシテクダサイ
```

3 ワンタッチボタンを押す

例 :ワンタッチボタン「01」

を押す

- ワンタッチボタン17～32の場合は、ワンタッチボタンの前に、シフト を押します。

```
<01> エイギョウブ
9-555 1234
```

または

```
<01> エイギョウブ
ab@panasonic.com
```

4 電話番号、メールアドレスを消去する

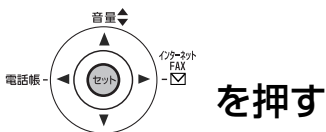
クリアー を押す

```
<01> エイギョウブ
デンワバンゴウニュウリョク
```

または

```
<01> エイギョウブ
アドレスヲ イレテクダサイ
```

5

を押す

- 続けてほかのワンタッチダイヤル / 短縮ダイヤルを消去する場合は、手順 3 からの操作を繰り返します。

```
ワンタッチ<  >
ワンタッチ ヲ オシテクダサイ
```

6 設定を終了する

ストップ

を押す

プログラムダイヤルを登録する

ワンタッチボタン（01 ～ 32) は、ワンタッチダイヤルとして利用するだけではなく、一連の操作手順を登録してプログラムボタンとして使用したり、複数の宛先を登録してグループダイヤルとして利用できます。

● グループダイヤル

グループダイヤルとは、ひとつのワンタッチボタンに、ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルの宛先を複数登録できる機能です。１つのグループダイヤルには最大で１９９件まで宛先を登録できます。

- グループダイヤルに登録する宛先は、あらかじめワンタッチダイヤル、短縮ダイヤルに登録しておいてください。

● プログラムダイヤル

プログラムダイヤルとは、タイマー送信、ポーリング受信、タイマーポーリング受信の一連の操作を登録できる機能です。宛先は、ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤル、グループダイヤルで指定します。

グループダイヤルを登録する

ワンタッチボタン（01 ～ 32）に、あらかじめワンタッチダイヤル、短縮ダイヤルに登録されている宛先を複数登録できます。
新規にグループダイヤルを登録する場合は、次の手順で操作します。

6 宛先を設定する

ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤルを利用して、グループダイヤルに登録する宛先をすべて入力する

例：ワンタッチボタン「02」

[2] を押す

例：短縮ダイヤル「010」

- 入力した宛先数を確認する場合は、[セット]を押します。
- [▼] または [▲]を押すと、入力した宛先を確認できます。
- 宛先を削除する場合は、[クリアー]を押します。

```
<02> ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ 1
5551234
```

```
[010]ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ 2
5553456
```

7

を押す

- 宛先確認の画面が表示されます。

```
V∧ﾃﾞ ｱﾃｻｷｦｶｸﾆﾝｼﾃ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

8 入力済みの宛先をすべて確認する

または

を押す

- 宛先確認をした場合だけグループダイヤルを登録できます。

```
<02> ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ 1
5551234
```

↓

```
ｱﾃｻｷﾏﾁｶﾞｲｱﾘﾏｾﾝｶ?
ﾊｲ:ｽﾀｰﾄ ｲｲｴ:ｸﾘｱｰ
```

9

を押す

- 続けてほかのグループダイヤルを登録する場合は、手順３からの操作を繰り返します。

```
ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ[P  ]
ﾜﾝﾀｯﾁ ｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

10 設定を終了する

を押す

お知らせ

1. 選択したワンタッチボタンにすでに宛先が登録されている場合は、登録済みの内容が表示されます。登録内容を変更する場合は、
☛ グループダイヤル / プログラムダイヤルを消去する（p.250）
2. お買い上げ時は、複数宛先の指定、およびグループダイヤルを禁止するように設定されています。禁止を解除する場合は、システム登録の「117 複数宛先指定」（☛p.262）を「アリ」に設定します。

登録と設定

プログラムダイヤルを登録する

ワンタッチボタン（01 ～ 32）に、タイマー送信、ポーリング受信、タイマーポーリング受信の一連の操作を登録できます。宛先は、ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤル、グループダイヤルで指定します。
新規にプログラムダイヤルを登録する場合は、次の手順で操作します。

タイマー送信を登録するとき

7 送信時刻を設定する

テンキーボタンで
送信時刻を入力し、

を押す

```
ﾀｲﾏｰ ｿｳｼﾝ
ﾖﾔｸ ｼﾞｺｸ     23:30
```

```
ｱﾃｻｷ ｦ ｲﾚﾃｸﾀﾞｻｲ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

- 時刻は 24 時制（4 桁）で入力します。
  例：午後 11:30 に送信したいとき
  「2330」を押して セット を押します。
- 誤って入力した場合は、クリアー を押し、もう一度入力してください。

8 宛先を指定する

次のどれかの操作で指定する

```
[010]ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ
5553456
```

- ワンタッチダイヤル（☛p.68）
  短縮ダイヤル（☛p.69）
  グループダイヤル（☛p.240）
  例：短縮ダイヤル「010」
- 複数宛先を設定できます。
  ☛ 複数宛先に送る（順次同報送信）（p.72）

9

を押す

```
V∧ﾃﾞ ｱﾃｻｷｦｶｸﾆﾝｼﾃ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

- 宛先確認の画面が表示されます。

10 入力済みの宛先をすべて確認する

または
を押す

```
[010]ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ
5553456
```

```
ｱﾃｻｷﾏﾁｶﾞｲｱﾘﾏｾﾝｶ?
ﾊｲ:ｽﾀｰﾄ ｲｲｴ:ｸﾘｱｰ
```

- 宛先確認をした場合だけプログラムダイヤルを登録できます。

11

を押す

```
ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ[P  ]
ﾜﾝﾀｯﾁ ｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

- 続けてほかのプログラムダイヤルを登録する場合は、手順 3 からの操作を繰り返します。

12 設定を終了する

を押す

お知らせ

1. 選択したワンタッチボタンにすでに宛先が登録されている場合は、登録済みの内容が表示されます。登録内容を変更する場合は、
   ☛ グループダイヤル / プログラムダイヤルを消去する（p.250）

タイマーポーリング受信を登録するとき

1 設定画面を表示する

ファンクション

を押す

```
ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ      (1-4)
ﾊﾞﾝｺﾞｳｦｲﾚﾙ ﾏﾀﾊV∧
```

2 プログラムダイヤルを選択する

を押す

```
ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ[P  ]
ﾜﾝﾀｯﾁ ｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

3 ワンタッチボタンを押す

例：ワンタッチボタン「01」

1 を押す（☛ お知らせ 1 ☛p.245）

- ワンタッチボタン17～32の場合は、ワンタッチボタンの前に、シフトを押します。

```
[P01] ﾅﾏｴ    <ｶﾅ
ﾅﾏｴ ﾄｳﾛｸ
```

4 プログラム名を入力する

文字ボタンを使ってプログラム名を入力する（最大 15 文字）
☛ 文字入力のしかた（p.251）

例：「プログラム A」を入力

```
[P01] ﾅﾏｴ    <ｶﾅ
ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ A
```

5

を押す

```
ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ[P01]
ﾌｧﾝｸｼｮﾝﾎﾞﾀﾝｦ ｵｽ
```

6 タイマーポーリング受信の画面を表示する

ファンクション

1 2

を押す

```
ﾀｲﾏｰ ﾎﾟｰﾘﾝｸﾞ
ﾖﾔｸ ｼﾞｺｸ    █ :
```

7 ポーリング時刻を設定する

テンキーボタンで
受信時刻を入力し、

を押す

```
ﾀｲﾏｰ ﾎﾟｰﾘﾝｸﾞ
ﾖﾔｸ ｼﾞｺｸ    23:30
```

```
ﾀｲﾏｰ ﾎﾟｰﾘﾝｸﾞ
ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ=████
```

- 時刻は 24 時制（4 桁）で入力します。
  例：午後 11:30 に送信したいとき
  「2330」を押して セット を押します。
- 誤って入力した場合は、クリアー を押し、もう一度入力してください

8 パスワード（4 桁）を入力する

```
ｱﾃｻｷ ｦ ｲﾚﾃｸﾀﾞｻｲ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

必要に応じて
パスワードを
入力し、

を押す

9 宛先を指定する

```
[010]ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ
5553456
```

次のどれかの操作で指定する

- ワンタッチダイヤル（☛p.68）
  短縮ダイヤル（☛p.69）
  グループダイヤル（☛p.240）

  例：短縮ダイヤル「010」
- 複数宛先を設定できます。
  ☛ 複数宛先に送る（順次同報送信）（p.72）

10

```
V∧ﾃﾞ ｱﾃｻｷｦｶｸﾆﾝｼﾃ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

を押す

- 宛先確認の画面が表示されます。

11 入力済みの宛先をすべて確認する

```
[010]ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ
5553456
```
↓
```
ｱﾃｻｷﾏﾁｶﾞｲｱﾘﾏｾﾝｶ?
ﾊｲ:ｽﾀｰﾄ ｲｲｴ:ｸﾘｱｰ
```

を押す

- 宛先確認をした場合だけプログラムダイヤルを登録できます。

12

```
ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ[P  ]
ﾜﾝﾀｯﾁ ｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

を押す

- 続けてほかのプログラムダイヤルを登録する場合は、手順 3 からの操作を繰り返します。

13 設定を終了する

を押す

お知らせ

1. 選択したワンタッチボタンにすでに宛先が登録されている場合は、登録済みの内容が表示されます。登録内容を変更する場合は、
   ☛ グループダイヤル / プログラムダイヤルを消去する（p.250）

ポーリング受信を登録するとき

1 設定画面を表示する

ファンクション 7 3 セット を押す

2 プログラムダイヤルを選択する

2 セット を押す

3 ワンタッチボタンを押す

例：ワンタッチボタン「01」

1 を押す（☛ お知らせ 1　☛p.247）

- ワンタッチボタン17～32の場合は、ワンタッチボタンの前に、シフトを押します。

4 プログラム名を入力する

文字ボタンを使ってプログラム名を入力する（最大 15 文字）
☛ 文字入力のしかた（p.251）

例：「プログラム A」を入力

5 セット を押す

6 ポーリング受信の画面を表示する

ファンクション 3 を押す

7 パスワード（4 桁）を入力する

必要に応じてパスワードを入力し、セット を押す

8 宛先を指定する

次のどれかの操作で指定する

- ワンタッチダイヤル（☛p.68）
  短縮ダイヤル（☛p.69）
  グループダイヤル（☛p.240）
  例：短縮ダイヤル「010」
- 複数宛先を設定できます。
  ☛ 複数宛先に送る（順次同報送信）（p.72）

```
[010]ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ
5553456
```

9

を押す

- 宛先確認の画面が表示されます。

```
V∧ﾃﾞ ｱﾃｻｷｦｶｸﾆﾝｼﾃ
ｽﾀｰﾄｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

10 入力済みの宛先をすべて確認する

または

を押す

- 宛先確認をした場合だけプログラムダイヤルを登録できます。

```
[010]ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ
5553456
```

```
ｱﾃｻｷﾏﾁｶﾞｲｱﾘﾏｾﾝｶ?
ﾊｲ:ｽﾀｰﾄ ｲｲｴ:ｸﾘｱｰ
```

11

を押す

- 続けてほかのプログラムダイヤルを登録する場合は、手順3からの操作を繰り返します。

```
ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ[P  ]
ﾜﾝﾀｯﾁ ｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

12 設定を終了する

を押す

お知らせ

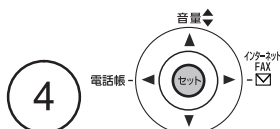
1. 選択したワンタッチボタンにすでに宛先が登録されている場合は、登録済みの内容が表示されます。登録内容を変更する場合は、
   ☛ グループダイヤル / プログラムダイヤルを消去する（p.250）

登録と設定

POP手動受信を登録する

POP 受信サーバーに本機を接続している場合は、ワンタッチボタン（01 ～ 32）に、本機のメールアドレス以外のメールアドレスに宛てた E メールを受信する機能を登録できます。

- パスワードを設定しないでおくと、POP 受信時にパスワード入力が必要になります。
  セキュリティを重視し、第三者による POP サーバーからのメール取り出しを防止したい場合は、パスワードを入力しないことをお勧めします。
- POP 手動受信の操作については、☛POP サーバーから手動で受信する（p.185）

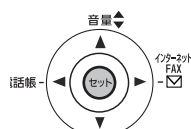
POP 自動受信のユーザーを登録する場合は、次の手順で操作します。

4 POP ユーザー名を入力する

文字ボタンを使って POP ユーザー名を入力する
☛ 文字入力のしかた（p.251）

例：「Panasonic」を入力

- 40 文字まで登録できます。

POP ユーサ゛ーメイ
Panasonic

5

（セット）を押す

POP ハ゜スワート゛

6 POP パスワードを入力する

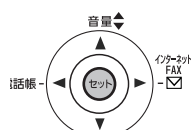
文字ボタンを使って POP パスワードを入力する
☛ 文字入力のしかた（p.251）

- 10 文字まで登録できます。

POP ハ゜スワート゛
12345678■

7

（セット）を押す

メール サクシ゛ョ NO.=1
1:イイエ 2:ハイ

8 POP 受信後のメール削除を設定する

本機が POP 受信サーバーからメールを受信したあとに、POP 受信サーバー上のメールを削除するかどうかを設定します。

ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ[P]
ﾜﾝﾀｯﾁ ｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ

1 「イイエ」のとき

2 「ハイ」のとき

9 設定を終了する

ストップ を押す

お知らせ

1. 選択したワンタッチボタンにすでに宛先が登録されている場合は、登録済みの内容が表示されます。登録内容を変更する場合は、
☛ グループダイヤル / プログラムダイヤルを消去する（p.250）

2. メモリー転送（☛p.134）が設定されている場合、手動での POP 受信はできません。

グループダイヤル/プログラムダイヤルを変更する

ワンタッチボタンに登録済みのグループダイヤル / プログラムダイヤルは、次の項目を変更できます。

- グループダイヤル：グループ名、グループに登録した宛先
- プログラムダイヤル：プログラム名、各通信機能の通信予約時刻、宛先、パスワード

変更する場合は、「☛ グループダイヤルを登録する（p.240）」～「☛ プログラムダイヤルを登録する（p.242）」を参照し、画面に表示される古い内容を消去して、新しい内容を入力してください。

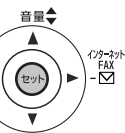
グループダイヤル/プログラムダイヤルを消去する

登録されているグループダイヤル / プログラムダイヤルを消去する場合は、次の手順で操作します。

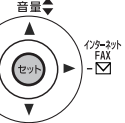
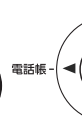
1 設定画面を表示する

ファンクション

を押す

```
ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ     (1-4)
ﾊﾞﾝｺﾞｳｦｲﾚﾙ ﾏﾀﾊV∧
```

2 プログラムダイヤルの消去を選択する

を押す

```
ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ[P  ]
ﾜﾝﾀｯﾁ ｦ ｵｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

3 ワンタッチボタンを押す

例：ワンタッチボタン「01」

[1] を押す（☛ お知らせ 1　☛p.243）

- ワンタッチボタン17～32の場合は、ワンタッチボタンの前に、(シフト)を押します。

```
ﾄﾘｹｼ?
1:ﾊｲ 2:ｲｲｴ
```

4 消去する

(1) を押す

- 続けてほかのグループダイヤル/プログラムダイヤルを消去する場合は、手順 3 からの操作を繰り返します。

```
* ｼｮｳｷｮ ｼﾃｲﾏｽ *
ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ[P01]
```

5 設定を終了する

ストップ を押す

文字入力のしかた

ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤル、自局情報などの登録時には、文字入力の画面が表示されます。

- 文字入力の画面では、テンキーボタンを使って、カタカナ、アルファベット（大文字と小文字）、記号、数字を入力できます。
- 濁音（ガギグゲゴなど）や半濁音（パピプペポなど）は2文字分になります。
- 文字入力をする機能により、入力できる文字に制限があります。
- 入力する機能により、画面に表示される文字がかわります。
- 文字種別ごとの入力方法については、次を参照してください。
☛ カタカナを入力する（p.252）
☛ アルファベットを入力する（p.252）
☛ 数字を入力する（p.253）
☛ 記号を入力する（p.253）

文字種別を切り替えるには

- ㈱を押すたびに、文字種別が次の順で切り替わります。

カタカナ　→　英字 / 記号　→　数字　→　カタカナ　・・・

文字種別 / テンキーボタン	カタカナ	英字 / 記号	数字
1	アイウエオァィゥェォ	@ . _ - & $ ¥ %+ = ^ `	1
2	カキクケコ	A B C a b c	2
3	サシスセソ	D E F d e f	3
4	タチツテトッ	G H I g h i	4
5	ナニヌネノ	J K L j k l	5
6	ハヒフヘホ	M N O m n o	6
7	マミムメモ	P Q R S p q r s	7
8	ヤユヨャュョ	T U V t u v	8
9	ラリルレロ	W X Y Z w x y z	9
0	ワヲンー！（ ）	! ? / - * # , ; : ¦ ' " ( ) [ ] { } < >	0
*	゛ ゜		

カタカナを入力する

例 :「ﾊﾟﾅ」を入力する

1 （他の文字種別が表示されている場合）
（「<ｶﾅ」が表示されるまで） # を何度か押す

```
<01> ﾅﾏｴ ﾄｳﾛｸ<ｶﾅ
_
```

2 6 を押す

```
<01> ﾅﾏｴ ﾄｳﾛｸ<ｶﾅ
ﾊ
```

3 * を 2 回押す

```
<01> ﾅﾏｴ ﾄｳﾛｸ<ｶﾅ
ﾊﾟ
```

4 5 を押す

```
<01> ﾅﾏｴ ﾄｳﾛｸ<ｶﾅ
ﾊﾟﾅ
```

アルファベットを入力する

例 :「Pa」を入力する

1 （他の文字種別が表示されている場合）
（「<A>」が表示されるまで） # を何度か押す

```
<01> ﾅﾏｴ ﾄｳﾛｸ <A>
_
```

2 7 を押す

```
<01> ﾅﾏｴ ﾄｳﾛｸ <A>
P
```

3 （「a」が表示されるまで） 2 を何度か押す

```
<01> ﾅﾏｴ ﾄｳﾛｸ <A>
Pa
```

数字を入力する

例 :「1」を入力する

1 （他の文字種別が表示されている場合）

（「<1>」が表示されるまで） **を何度か押す**

```
<01> ﾅﾏｴ ﾄｳﾛｸ <1>
_
```

2 **を押す**

```
<01> ﾅﾏｴ ﾄｳﾛｸ <1>
1
```

記号を入力する

- 記号によって手順 2 で使用するテンキーボタンが異なります。使用するテンキーボタンについては、☛ 文字種別を切り替えるには（p.251）を参照してください。

例 :「+」を入力する

1 （他の文字種別が表示されている場合）

（「<A>」が表示されるまで） **を何度か押す**

```
<01> ﾅﾏｴ ﾄｳﾛｸ <A>
_
```

2 （「+」が表示されるまで） **を何度か押す**

```
<01> ﾅﾏｴ ﾄｳﾛｸ <A>
+
```

誤って入力したとき

例 :「ﾊﾟﾝ」を「ﾊﾟﾅ」に修正する

1 **◀ または ▶ を押し、誤って入力した文字の右隣へカーソル移動する**

```
<01> ﾅﾏｴ ﾄｳﾛｸ<ｶﾅ
ﾊﾟﾝ_
```

2 クリアー **を押す**

```
<01> ﾅﾏｴ ﾄｳﾛｸ<ｶﾅ
ﾊﾟ
```

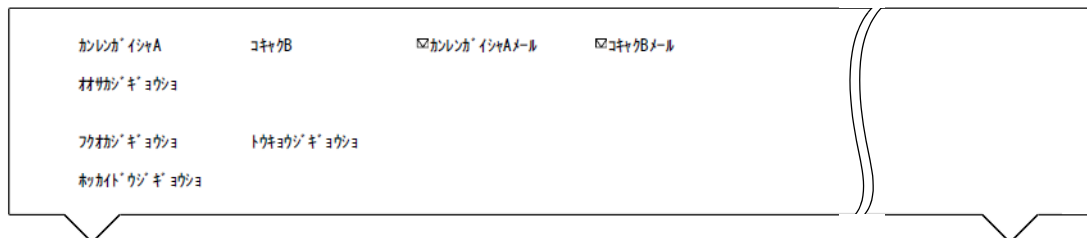
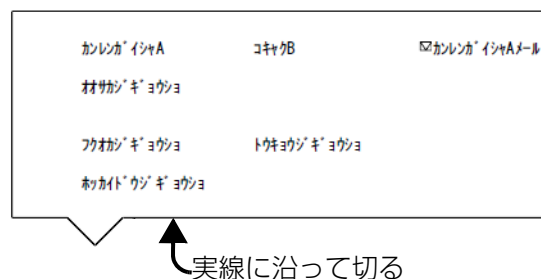
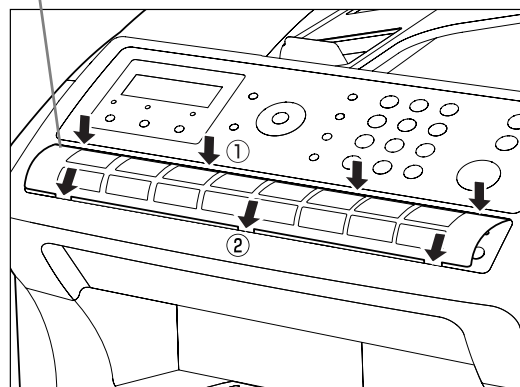
3 **正しい文字を入力する**

```
<01> ﾅﾏｴ ﾄｳﾛｸ<ｶﾅ
ﾊﾟﾅ
```

- 文字が未確定状態（カーソルがその文字の上で点滅している状態）の場合は、クリアー ◎ を押すと、点滅中の文字が消去されます。

宛先シートをプリントする

お使いのコンピューターに、付属の CD-ROM 内に格納されているソフトウェア『ネットワーク装置設定 / アドレス帳編集』をインストールすると、『アドレス帳編集』からワンタッチボタンの宛先シートをプリントできます。

宛先シート例

1 印刷された用紙を、実線に沿って切る

2 宛先シートカバーの下に、宛先シートをセットする

システム登録

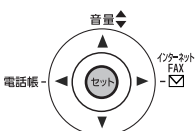
システム登録は、機能の設定状態や、有効 / 無効を設定するためのメニューです。
システム登録には、ファクス関連の項目を設定する「ファクス設定」、スキャナー関連の項目を設定する「スキャナ設定」があります。
お買い上げ時、システム登録の設定は調整されていますので、特に変更する必要はありません。
ご使用の形態に合わせ、本機をより便利に操作できるように設定を変更したい場合は、次の手順で操作します。

- システム登録リストを印刷すると、現在の設定状態をリストで確認できます。
  ☛ システム登録リスト（p.279）

システム登録の基本操作

システム登録を変更する場合は、次の手順で操作してください。

- ここでは、「001 濃度切り替え」を例に、手順を説明します。

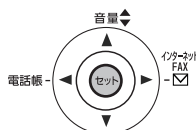
1 **システム登録の画面を表示する**

ファンクション

を押す

```
キーオペレーター コード
コード=▮
```

2 **キーオペレーターコードを入力する**

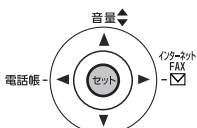
（キーオペレーターコードを入力して）

を押す

```
システム トウロク
NO.=▮    (01-177)
```

3 **設定画面を表示する**

例 :「001 濃度切り替え」を指定する

0 0 1 を押す

```
ノウド キリカエ?
          フツウ<>
```

- システム登録の番号は ☛ システム登録一覧（p.257）を参照してください。
- ▼または▲を押すと、設定項目をスクロールできます。

4 **①〜③のボタンを押し、設定を変更する**

1 「普通」のとき

2 「薄く」のとき

3 「濃く」のとき

- ◀または▶を押して設定を変更することもできます。

```
ノウド キリカエ?
          フツウ<>
```

または

```
ノウド キリカエ?
          ウスク<>
```

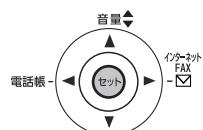
または

```
ノウド キリカエ?
           コク<>
```

＜次ページへつづく＞

5 設定を確定する

を押す

ﾓｼﾞ ｻｲｽﾞ ?
ﾌﾂｳ<>

- 続けて別のシステム登録の設定ができます。
  ▼または▲で設定する項目を選択し、手順 3 からの操作を繰り返します。

6 システム登録の設定を終了する

を押す

システム登録一覧

システム登録の設定項目は次表のとおりです。

* お買い上げ時の設定です。

No.	設定項目	選択肢		説明
01	濃度切り替え	1	普通 *	濃度 ◯ を押したときに、最初に表示される濃度を設定します。いつも送信する原稿の濃さに合わせます。 送信時に濃度を設定しないと、ここで設定した濃度で送信されます。 ☛ 濃度を設定する（p.74）
		2	薄く	
		3	濃く	
02	文字サイズ	1	普通 *	文字サイズ ◯ を押したときに、最初に表示される文字サイズを設定します。いつも送信する原稿の文字の大きさに合わせます。 送信時に文字サイズを設定しないと、ここで設定した文字サイズで送信されます。 ☛ 文字サイズを設定する（p.74）
		2	小さい	
		3	細密	
		4	ハーフトーン	
05	メモリー優先	1	オフ	「メモリー優先」（ファンクション ⑧ ⑨ ）の初期値を設定します。 ・オフ............ メモリーに蓄積せず、読み込みながら送信されます。（送信の場合はダイレクト送信） ・オン .... 読み込んだ原稿はメモリーに蓄積してから送信されます。（送信の場合はメモリー送信）。 ☛ メモリーを使わずに送る（ダイレクト送信）（p.79）
		2	オン *	
06	ダイヤル切替	1	10PPS	お使いの電話回線に合わせ、ダイヤル種別を設定します。 ☛ 回線種別を設定する（p.32）
		2	20PPS	
		3	プッシュ *（PB）	
07	発信元印字	1	画面内 *	受信側の用紙に印字される発信元の印字位置を設定します。 ・画面内........ 原稿の内側に印字されます。原稿内容が欠けることがあります。 ・画面外........ 原稿の外側に印字されます。 ・ナシ .... 発信元は記載されません。 ・ 発信元は、「自局登録」の「発信元」（ファンクション ⑦ ①）で登録します。☛発信元を登録する（p.35） ・ 印刷する発信元のフォーマットは、「08 発信元印字フォーマット」（☛p.257）で設定します。
		2	画面外	
		3	ナシ	
08	発信元印字フォーマット	1	発信元 ID	受信側の用紙に印刷する発信元のフォーマットを設定します。☛ 発信元を登録する（p.35） ・発信元 ID .... 日付、発信元、数字 ID、ページ数の形式で印刷されます。 ・FROM TO...... 日付、FROM 発信元、TO 宛先、ページ数の形式で印刷されます。
		2	FROM TO*	

<次ページへつづく>

No.	設定項目	選択肢		説明
09	受信時刻プリント	1	ナシ *	受信時刻を印刷する機能の有効 / 無効を設定します。「アリ」に設定すると、受信した時刻が用紙の下端に印刷されます。
		2	アリ	
10	ブザー音量	1	オフ	アラーム音 / ボタン押下音（操作パネルのボタンを押したときの音）の、音量を調節できます。「オフ」に設定すると、音は鳴りません。
		2	小さい *	
		3	大きい	
12	通信結果レポート	1	オフ	通信結果レポートを印刷するときの条件を設定します。 ・オフ............通信結果レポートは印刷されません。 ・すべて........通信ごとに通信結果レポートが印刷されます。 ・未通信........通信できなかったときだけ、通信結果レポートが印刷されます。
		2	すべて	
		3	未通信 *	
13	通信管理レポート	1	ナシ	通信管理レポートの自動印刷の有効 / 無効を設定します。 ・ナシ...........自動印刷されません。通信管理レポートを見たいときは、ディスプレイ上で確認するか、手動で印刷します。 ・アリ...........32 通信ごとに自動印刷されます。
		2	アリ *	
17	受信モード	1	手動	ファクス受信のしかたを設定します。 ・手動.......................手動受信をする場合に選択します。 ・FAX 専用 ....自動受信をする場合に選択します。 ・F/T 切り替え........電話とファクスを自動で切り替切り替えて使う場合に選択します。 ・留守録接続............外部電話機として留守番電話を接続する場合に選択します。 ☛ 受信モードについて（p.89） ☛ 受信モードを設定する（p.90） ・ システム登録の「176 ダイヤルインルーティング」が「アリ」に設定されている場合は、自動的に「FAX 専用」に設定されます。
		2	FAX 専用 *	
		3	F/T 切り替え	
		4	留守録接続	
18	F/T ベル回数	1	3 回	「17 受信モード」を「F/T 切り替え」に設定している場合に、最初の音声応答のあとに鳴らすベル回数を設定できます。 ☛F/T 切り替えに設定しているとき（p.93）
		2	6 回	
		3	9 回 *	
		4	12 回	
19	応答メッセージ時間	1 ～ 60	1 ～ 60 秒（*20 秒）	外部電話機として接続している留守番電話の応答メッセージの長さ（秒数）を設定します。 ☛ 留守録接続に設定しているとき（p.94）
20	無音検知	1	ナシ *	接続している留守番電話で用件を録音中に、約 6 秒の無音状態を検知すると、自動的にファクス受信を開始するように設定できます。 ・ナシ...........無音状態の検知を行いません。 ・アリ...........無音状態（約 6 秒間）を検知すると、自動的にファクス受信が開始されます。
		2	アリ	

No.	設定項目	選択肢		説明
21	着信ベル回数	0～9	0～9回 (*1回)	「17 受信モード」を「FAX専用」、「F/T切り替え」に設定している場合に、着信したときに鳴らすベル回数を設定できます。 ☛F/T切り替えに設定しているとき（p.93）
22	代行受信	1	ナシ	メモリー代行受信の有効 / 無効を設定します。 「アリ」に設定すると、用紙がなくなったり、つまったりして印刷できない場合に、受信文書をメモリーに蓄積できます。 ☛ メモリー代行受信について（p.97）
		2	アリ *	
23	用紙サイズ	1	A4 *	用紙カセットにセットした用紙のサイズを設定します。
		2	レター	
24	縮小受信	1	固定	受信文書を印刷する倍率を設定します。 ・固定 ....「25　固定縮小率」(☛p.259）で設定した縮小率でプリントされます。 ・自動 .... 受信文書の 1 ページの長さを基に、適切な縮小率（72～100%）で1ページにプリントされます。 ☛ 縮小受信について（p.95）
		2	自動 *	
25	固定縮小率	72～100	72～100% (*100%)	「24 縮小受信」(☛p.259）が「固定」に設定されている場合の縮小率を設定します。 ☛ 縮小受信について（p.95）
26	ポーリング パスワード	(---)	(---)	ポーリング通信をするときに使う4桁のパスワードを設定します。
27	ポーリング ファイル保存	1	ナシ *	ポーリング送信したあと、原稿をメモリーに保存するかどうかを設定します。 ・ナシ .... ポーリング送信したあと、原稿はメモリーから消去されます。 ・アリ .... ポーリング送信したあとも、原稿はメモリーに蓄積されています。
		2	アリ	
31	未通信ファイル保存	1	ナシ *	エラーなどで、未通信になったファイルをメモリーに保存し、再通信するかどうかを設定します。 ・ナシ .... 未通信になったファイルは保存されません。 ・アリ .... 未通信になったファイルがメモリーに保存され、必要に応じて、再送信できます。
		2	アリ	
32	縮小コピー	1	手動	コピーするときの縮小設定を選択します。 ・手動 .... 縮小率を指定します（72～100%）。 ・自動 .... 原稿の 1 ページの長さを基に、適切な縮小率（72～100%）で1ページにプリントされます。
		2	自動 *	
34	節電モード	1	5分 *	本機には、機械を使用しないときに機械内部の消費電力を抑える節電機能が備わっています。 ここでは、節電モードに移行するまでの時間を設定します。設定した時間内に操作をしないと、自動的に節電モードに移行します。 お買い上げ時の設定では、本機を約 5 分間使用しないと、節電モードに移行するように設定されています。
		2	15分	
		3	30分	
		4	1時間	

<次ページへつづく>

No.	設定項目	選択肢		説明
37	メモリー受信	(----)	(----)	「メモリー受信」（ファンクション ⑧⑤）を設定している場合に、受信した原稿を印刷するときのパスワードを設定します。 「メモリー受信」（ファンクション ⑧⑤）を設定すると、この設定は画面上に表示されません。 ☛ メモリーに受信する（メモリー受信）（p.128）
38	アクセスコード	(----)	(----)	本機を操作するためのアクセスコード（パスワード、8 桁）を設定し、第三者の使用を制限できます。 ☛ 利用者を制限する（アクセスコード）（p.126）
42	親展ファイル保存	1	ナシ *	親展文書がポーリングされたあと、原稿を親展ボックスに保存するかどうかを設定します。 ・ナシ............ポーリングされたあと、原稿は親展ボックスから消去されます。 ・アリ ....ポーリングされたあとも、原稿は親展ボックスに蓄積されています。
		2	アリ	
43	パスワード送信	(----)	パスワード登録後に、「1：オフ」、「2：オン」の選択肢が表示されます。	送信パスワードを使って、相手とパスワード通信する場合に、4 桁のパスワードを登録し、「オン」または「オフ」を設定します。 パスワード送信とは、送信時に受信側との間でパスワード照合し、一致した場合だけ送信をする機能です。 ☛ パスワード送信を設定する（p.139） ・オフ............送信時にパスワードはチェックされません。パスワード送信の必要がある場合は、「パスワード送信」（ファンクション ⑧④）を設定すると、一時的にパスワード送信できます。 ・オン............送信時にパスワードがチェックされます。常時パスワード送信をしたいときに選択します。
44	パスワード受信	(----)	パスワード登録後に、「1：オフ」、「2：オン」の選択肢が表示されます。	受信パスワードを使って、相手とパスワード通信する場合に、4 桁のパスワードを登録し「オン」または「オフ」を設定します。 パスワード受信とは、受信時に送信側との間でパスワード照合し、一致した場合だけ通信をする機能です。 ☛ パスワード受信を設定する（p.140） ・オフ............受信時にパスワードはチェックされません。 ・オン............受信時にパスワードがチェックされます。
46	セレクト受信	1	ナシ *	セレクト受信の有効 / 無効を設定します。 セレクト受信とは、ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルに電話番号が登録されている相手からだけ受信する機能です。ダイレクトメールなどの迷惑ファクスを防止できます。 ☛ 迷惑ファクスを防止する（セレクト受信）（p.136）
		2	アリ	
47	リモート受信	1	ナシ	リモート受信の有効 / 無効を設定します。 リモート受信とは、外部電話機から受信を指示する機能です。 ☛ 外部電話機で受信する（リモート受信）（p.92）
		2	アリ *	
51	遠隔診断	1	ナシ *	遠隔診断の有効 / 無効を設定します。 遠隔診断とは、遠隔地からの操作などで各種の診断を行う機能です。詳しくはサービス実施会社にご連絡ください。
		2	アリ	
53	サブアドレスパスワード	(----)	(----)	サブアドレス通信をするときのパスワードを設定します（最大 20 桁）。

No.	設定項目	選択肢		説明
54	メモリー転送	1	ナシ *	メモリー転送の有効 / 無効を設定します。 メモリー転送とは、受信した原稿を、すべて指定した宛先へ転送する機能です。 ☛ 受信文書を転送する（メモリー転送）（p.134） 「アリ」に設定した場合は、メモリー転送する宛先を設定します。
		2	アリ	
56	カバーシート	1	オフ *	「カバーシート」（ファンクション ⑧ ③ ）のオン / オフを設定します。 ☛ 表紙をつけて送る（カバーシート）（p.131） 「オン」に設定にすると、カバーシートを設定しなくても、通常の操作でカバーシート付きで送信されます。
		2	オン	
63	PC-FAX 受信モード	1	プリント *	コンピューターから受信した文書の出力方法を設定します。 ・プリント..................................受信文書が印刷されます。 ・アップロード＆プリント........受信文書がアップロードされ、さらに印刷されます。 ・アップロード...........................受信文書がアップロードされます。
		2	アップロード＆プリント	
		3	アップロード	
68	ダイヤルトーン検知	1	ナシ	ダイヤルトーン検知機能の有効 / 無効を設定します。 NTT の交換機から送られてくるダイヤルトーン（受話器を取り上げた時に聞こえるツー音）を検知してから送信するかどうかを設定します。 ☛ 回線種別を見分ける（p.33） ・ナシ .... ダイヤルをして送信されます。 ・アリ .... ダイヤルトーンを検知してからダイヤルをして送信されます。 詳しくは、サービス実施会社にお問い合わせください。
		2	アリ *	
72	音声応答	1	ナシ *	「17 受信モード」を「F/T 切り替え」に設定している場合に、音声応答メッセージを流すかどうかを設定します。 ☛F/T 切り替えに設定しているとき（p.93） ・ナシ .... 相手には、呼び出し音だけが聞こえます。 ・アリ .... 相手には、音声応答メッセージが聞こえます。
		2	アリ	
82	クイックメモリー送信	1	ナシ	クイックメモリー送信の有効 / 無効を設定します。 ・ナシ .... 原稿をすべて読み取ってから送信が開始されます。 ・アリ .... 1 ページ目の原稿をメモリーに読み取った時点で送信が開始されます。ただし、複数宛先の場合は、クイックメモリー送信となりません。 ☛ メモリー送信について（p.75）
		2	アリ *	
90	発番号契約	1	ナシ *	発信者番号（ナンバーディスプレイ）を契約しているかどうかを設定します。
		2	アリ	
91	宛先確定操作	1	ナシ *	誤送信防止のため、ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤルの宛先を連続して指定できないようにする機能です。「アリ」に設定すると、宛先を指定するたびに セット を押す必要があります。
		2	アリ	

＜次ページへつづく＞

No.	設定項目	選択肢		説明
99	**メモリーサイズ**	-	8MB	メモリー容量を確認できます。 （設定はありません。）
101	**マルチ受信プリント**	1	オフ *	受信文書を複数部数プリントするかどうかを設定します。「オン」に設定した場合は、プリントする部数を設定します。
		2	オン	
117	**複数宛先指定**	1	ナシ *	宛先を複数指定するかどうかを設定します。 「ナシ」に設定すると、複数宛先を指定できません。
		2	アリ	
123	**リルート機能**	1	ナシ *	IP 電話を使う場合に、リルート機能の有効 / 無効を設定します。 ☛ リルート機能 / プレフィクス機能を設定する（p.156）
		2	アリ	
124	**プレフィクス機能**	1	ナシ *	電話番号に付与するプレフィクス番号（最大 20 桁）を登録し、「ナシ」または「アリ」を設定します。 プレフィクス機能とは、ダイヤルした番号の頭にプレフィクス番号を自動的に付与することにより、IP 電話回線ではなく一般電話回線で通信する機能です。 ☛ リルート機能 / プレフィクス機能を設定する（p.156） ・ナシ............ダイヤル時に、登録した番号は付与されません。 ・アリ............登録した番号を付与してダイヤルされます。 ・ プレフィクス機能を「アリ」に設定すると、「123 リルート機能」の設定にかかわらず、常にプレフィクス番号をつけて発信されます。
		2	アリ	
125	**宛先確認**	1	ナシ	宛先確認の有効 / 無効を設定します。送信を開始する前に、常に宛先確認画面を表示するときは「アリ」に設定します。 ☛ 宛先を確認してから送る（宛先確認）（p.77）
		2	アリ *	
133	**SADF デフォルト**	1	オフ *	原稿の読み取りが終了してから５秒以内に原稿が自動原稿送り装置（ADF）に追加された場合に、原稿の読み取り継続するかどうかを設定します。 １回の最大読み取り枚数は 255 ページです。原稿や文字サイズの設定により、最大読み取り枚数は減ることがあります。 ・オフ............送信する原稿の枚数が自動原稿送り装置（ADF）の最大読み取り枚数を超える場合や、一枚ずつ原稿を読み取りをしたいときに設定します。 ・オン............原稿が追加された場合に、原稿の読み取りが継続されます。この場合、「082 クイックメモリー送信」（☛p.261）は動作しません。
		2	オン	
134	**宛先名敬称付加**	1	ナシ	宛先名に敬称をつけるかどうかを設定します。 「アリ」に設定すると、受信側で印刷される文書の発信元の宛先に、敬称（○○サマ）が付きます。 ・「08 発信元フォーマット」（☛p.257）が「発信元 ID」に設定されている場合は、適用されません。 ・ カバーシートを設定している場合は、カバーシートの宛先に、敬称（○○サマ）が付きます。
		2	アリ *	

No.	設定項目	選択肢		説明
135	**迷惑ファクス防止**	1. 数字 ID 拒否		受信したくない相手から着信した場合に、受信を拒否する場合に設定します。 迷惑ファクス防止には、数字 ID を利用する方法、発信者番号を利用する方法の 2 種類があります。 迷惑ファクス防止については、次を参照してください。 ☛ 数字 ID を利用した迷惑ファクス防止（p.98） ☛ 発信者番号を利用した迷惑ファクス防止（p.102）
		1 数字 ID 拒否		
		1	ナシ *	
		2	アリ	
		2 ID なし時受信		
		1	ナシ	
		2	アリ *	
		3 ID 受信時刻印字		
		1	ナシ	
		2	アリ *	
		4 ID 番号登録		
		2. 発番号拒否		
		1 非通知拒否		
		1	ナシ *	
		2	アリ	
		2 公衆電話拒否		
		1	ナシ *	
		2	アリ	
		3 通知不可能拒否		
		1	ナシ *	
		2	アリ	
		4 指定番号拒否		
		1	ナシ *	
		2	アリ	
		5 指定 番号登録		
136	**直接ダイヤル制限**	1	ナシ *	宛先入力時の直接ダイヤル機能の有効 / 無効を設定します。「アリ」に設定すると、直接ダイヤルによる宛先の指定、キーボード画面でのメールアドレスの入力はできません（手動送信を含む）。 ・「アリ」に設定した場合、再ダイヤルは使用できません。
		2	アリ	
137	**直ダ再入力**	1	ナシ	直接ダイヤルによる電話番号やメールアドレスの入力時、再ダイヤル時に、宛先の再入力画面を表示するかどうかを設定します。 「アリ」に設定すると、宛先の再入力画面が表示され、1 回目と 2 回目の宛先が一致した場合にだけ通信が開始されます。 ・「アリ」に設定した場合も、手動送信のときは、再入力画面が表示されません。 ・「136 直接ダイヤル制限」(☛p.263)が「アリ」に設定されている場合、本機能で「アリ」を設定しても、宛先の再入力画面は表示されません。
		2	アリ *	

<次ページへつづく>

No.	設定項目	選択肢		説明
140	LAN 中継指示	1	ナシ *	LAN 中継送信機能の有効 / 無効を設定します。
		2	アリ	
142	LAN 中継	1	ナシ	LAN 中継機能の有効 / 無効を設定します。「ナシ」にすると、LAN 中継動作を行いません。
		2	アリ *	
143	中継結果返送	1	オフ	LAN 中継送信の結果が記載された通信結果レポートを指示局に返送するときの条件を選びます。 ・オフ............通信結果レポートは送信されません。 ・すべて........送信できた場合、送信できなかった場合、どちらの場合も通信結果レポートが送信されます。 ・未通信........送信できなかった場合にだけ、通信結果レポートが送信されます。
		2	スベテ *	
		3	ミツウシン	
145	From 欄選択機能	1	ナシ *	発信元やメールのFrom 欄の内容を選べるようにするときに、「アリ」にします。24 個のユーザー名称（最大 25 文字）とメールアドレス（最大 60 桁）を登録できます。
		2	アリ	
146	POP 取得間隔	0 ～ 60	0 ～ 60 分（*3 分）	POP サーバーへメールの到着を確認する間隔を設定します。 ・ 0 ～ 60 分で設定します。 ・「0 分」に設定すると、確認されません。
147	POP 自動受信	1	ナシ	POP サーバーへメールの到着を確認し、自動的にメールを受信するかどうかを設定します。「ナシ」にすると、自動受信されません。 ・ナシ............自動受信されません。ディスプレイに受信メールの件数だけが表示されます。この場合は、手動で E メールを受信する必要があります。☛POP サーバーから手動で受信する（p.185） ・アリ............POP サーバーに E メールがあれば、自動的に受信し、本機でプリントされます。
		2	アリ *	
148	POP 後メール削除	1	ナシ	本機が POP 受信サーバーからメールを受信したあとに、POP 受信サーバー上のメールを削除するかどうかを設定します。 「ナシ」にすると、POP 受信後、メールが削除されません。
		2	アリ *	
149	POP エラーメール削除	1	ナシ *	印刷できない形式の添付ファイルを受信した場合に、POP 受信サーバーからメールを削除するかどうかを設定します。 ・ナシ............エラーのメールを受信しても削除されません。 ・アリ............エラーのメールを受信すると、自動的に削除されます。
		2	アリ	
150	送達確認返送	1	ナシ *	インターネット FAX 受信時の通信結果を送信側に返送するかどうかを設定します。
		2	アリ	

No.	設定項目	選択肢		説明
151	メールヘッダ表示	1	全て	メールを受信したときに印刷するヘッダーの項目を設定します。 ・全て .... ヘッダーの内容がすべて印刷されます。 ・編集 .... 差出人（From）、件名（Subject）、宛先（To) だけが印刷されます。 ・オフ .... ヘッダーの内容は印刷されません。
		2	編集 *	
		3	オフ	
152	SUB ルーティング	1	ナシ *	サブアドレスによるルーティングの有効 / 無効を設定します。 ルーティングを行うときに「アリ」にします。
		2	アリ	
153	数字 ID ルーティング	1	ナシ *	数字 ID によるルーティングの有効 / 無効を設定します。 ルーティングを行うときに「アリ」にします。
		2	アリ	
154	ルーティング時 FROM	1	指示局 *	ルーティングにより、ネットワーク上のコンピューターやインターネット FAX へメールを転送するときの、From 欄の内容を選択します。 ・指示局........ 送信元の内容が記載されます。 ・中継局........ 中継局の内容が記載されます。
		2	中継局	
155	ルーティング時プリント	1	未通信 *	ルーティング時に、受信した原稿を自局で印刷するときの条件を設定します。 ・未通信........ ルーティングして送信できなかった場合にだけ、原稿が印刷されます。 ・全て .... ルーティングして送信できた場合、送信できなかった場合、どちらの場合も原稿が印刷されます。
		2	全て	
156	メモリー転送時プリント	1	未通信 *	メモリー転送した文書を、自局で印刷するときの条件を設定します。 ・未通信........ 転送できなかった場合にだけ、原稿が印刷されます。 ・全て .... 転送できた場合、できなかった場合、どちらの場合も原稿が印刷されます。
		2	全て	
157	管理レポート送信	1	ナシ *	「アリ」にすると、管理レポートが登録された宛先へ送信されます。 ・「アリ」に設定した場合は、通信管理レポートの送信先を設定します。
		2	アリ	
158	メールリモート登録	1	ナシ *	コンピューターから、メールを利用して登録などをするとき「アリ」に設定します。
		2	アリ	
159	サブジェクト登録	1	ナシ *	送信のたびに、件名（Subject）を設定するかどうかを設定します。「アリ」に設定すると、送信のたびに件名（Subject）を設定できます。
		2	アリ	
160	デフォルトドメイン名	1	ナシ	ドメイン名の自動付加の有効 / 無効を設定します。 ドメイン名を省略してメールアドレスを入力し、自動的にドメイン名を付加したいときは、「アリ」に設定します。
		2	アリ *	
161	DNS サーバー	1	ナシ	インターネット通信で DNS サーバーを使うときに「アリ」にします。
		2	アリ *	

<次ページへつづく>

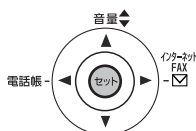
No.	設定項目	選択肢		説明
163	ルーティングヘッダー	1	ナシ *	ルーティング時、ルート局のヘッダー情報を付けるかどうかを設定します。 ルート局のヘッダー情報を付けるときは、「アリ」に設定します。 ・「07 発信元印字」(☛p.257)が「ナシ」に設定されている場合、ヘッダー情報は付加されません。
		2	アリ	
164	LAN 送信ヘッダー	1	付加 *	デフォルトドメインに登録されているドメイン宛に送信する場合、ヘッダーを付加するかどうかを選択します。 ・この機能は、スキャナーとして使う場合に便利です。 ・デフォルトドメイン以外のドメインへ送信する場合は、設定が「ナシ」になっていてもヘッダーが付加されます。
		2	ナシ	
169	DHCP クライアント	1	ナシ *	起動時に、自動的に DHCP サーバーが IP アドレスなどを割り当てる設定をするかどうかを選択します。この設定を変更すると、自動的に再起動されます。
		2	アリ	
170	SMTP 認証	1	ナシ *	SMTP 認証が必要かどうかを選択します。 設定を「アリ」にした場合は、ユーザー名とパスワードを入力します。 ・この設定は、SMTP サーバーまたは POP サーバーが機能をサポートしている場合に、「アリ」を選択できます。
		2	アリ	
171	SMTP 時 POP 確認	1	ナシ *	POP での SMTP 認証が必要かどうかを選択します。 ・ネットワーク管理者にご相談ください。
		2	アリ	
172	ダイレクト SMTP 送信	1	ナシ *	ワンタッチダイヤル／短縮ダイヤルを登録する場合に、インターネット通信でダイレクト SMTP 送信をするかどうかを選択します。
		2	アリ	
173	送達確認要求	1	オフ	インターネット FAX で送信するときに、送達確認要求（MDN）をするかどうかの初期値を選択します。 ・送達確認要求の設定は、送信のたびに個別に設定できます。 ・送達確認が受信側から返信されると、通信管理レポートに通信結果が記録されます。
		2	オン *	
174	APOP 認証	1	ナシ *	APOP による認証の有効 / 無効を選択します。 （この設定はサーバーに依存するものです。ネットワーク管理者にご相談ください。）
		2	アリ	
175	発番号ルーティング	1	ナシ *	発信者番号を利用したルーティングの有効 / 無効を設定します。ルーティングを行うときに「アリ」にします。
		2	アリ	
176	ダイヤルインルーティング	1	ナシ *	ダイヤルイン番号によるルーティングの有効 / 無効を設定します。 ルーティングを行うときに「アリ」に設定し、ダイヤルイン番号を登録します（最大 20 桁、50 件まで登録できます）。 ・登録したダイヤルイン番号は、システム登録リストでプリントできます。 ☛システム登録リスト(p.279)
		2	アリ	
177	送信ファイルタイプ	1	TIFF*	インターネット FAX 送信時のファイル形式の初期値を設定します。 ・送信ファイルタイプは、送信のたびに個別に設定できます。
		2	PDF	

通信管理レポート

通信管理レポートは、最新の 32 通信分の通信結果（送信・受信）が記録されたレポートで、32 通信ごとに、自動的にプリントされます。また、必要に応じて、手動で通信管理レポートをプリントしたり、ディスプレイ上で通信結果を確認することもできます。
ここでは、通信管理レポートを手動でプリントする操作、通信管理レポートの見かた、およびディスプレイで通信結果を確認する操作を説明します。

- システム登録の「13 通信管理レポート」（☛p.258）が「アリ」に設定されている場合は、自動的にプリントされます。自動的にプリントしたくない場合は、「ナシ」に変更してください。お買い上げ時は「アリ」に設定されています。

通信管理レポートを手動でプリントする

通信管理の内容をリストにして、手動でプリントできます。

通信管理レポートの見かた

予約レポートには次ページの項目が記載されます。

【レポート例】

*************** - ﾂｳｼﾝ ｶﾝﾘ ﾚﾎﾟｰﾄ - ***************************** 2012-12-15 ***** 15:00 *****

NO.	ｹｯｶ	ﾏｲｽｳ	ﾌｧｲﾙ	ﾂｳｼﾝｼﾞｶﾝ	ﾓｰﾄﾞ	ｱｲﾃｻｷ(ID/TEL NO.)	ﾋﾂﾞｹ	ｼﾞｺｸ	ﾂｳｼﾝｺｰﾄﾞ
01	OK	001/001	149	00:00:52	ﾂｳｼﾝ	☎215	12-15	20:04	C8444B0577000
02	--	001/001	151	00:00:02	ﾂｳｼﾝ	TEST	12-15	20:07	001 ｷｮｸ LAN
03	--	003/003	153	00:00:20	ﾂｳｼﾝ	fax@nwfax10	12-15	20:09	001 ｷｮｸ LAN
04	OK	003	154	00:00:21	ｼﾞｭｼﾝ	fax@nwfax1.rdmg.mgc	12-15	20:10	LAN
05	OK	001	155	00:00:19	ｼﾞｭｼﾝ	☎215	12-15	20:11	C0542B0577000
06	0634	000/003	156	00:00:00	ﾂｳｼﾝ	☎216	12-15	20:14	0800420000000
07	0408	* 003		00:02:14	ﾂｳｼﾝ	☎217	12-15	21:17	0040440A30080
39	OK	000/001	159	00:00:07	ﾂｳｼﾝ	TEL XMT	12-15	20:18	CA40462000000
40	OK	001/001	160	00:00:16	ﾂｳｼﾝ	TEL XMT	12-15	20:19	C8444B0577000

-PANASONIC -

************************************ -HEAD OFFICE - ***** - 201 555 1212- *********

No.	項目名	説明
(1)	NO.	レポート上の番号です。
(2)	結果	送信や受信の結果です。次のいずれかが記載されます。 ·OK : 通信が正常に終了しました。 ·OK1 : IP回線を使って正常に終了しました。 ·OK2 : IP-PSTN(一般電話回線)を使って正常に終了しました。 ·OK3 : PSTN-PSTNを使って正常に終了しました。 ·ビジー : 回線が使用中でした。 ·テイシ : 通信中に ストップ が押されました 。 ·P－OK : 原稿を読み込み中にメモリーがオーバーフローしたか、または原稿がつまりました。読み込み済み原稿の送信は終了しています。 ·R－OK : LAN中継または親展通信が終了しました。 ·－－ : LAN送信(＊) ·4桁エラーコード : 通信エラーが発生しました。 ☛エラーコードが表示されたら(p.291)。 ＊ 送達確認要求を付加して送信した場合、送達確認が返送されてくるまでは通信結果欄には「－－」が、送達確認を受け取ると「OK」が表示されます。ダイレクトSMTP送信時は通信が完了したときは「OK」が記載されます。
(3)	枚数	送信や受信をした枚数です。 · 3 桁の数字 .... ダイレクト送信、クイックメモリー送信で送信できたページ、および受信できたページ数です。 · 3 桁の数字 /3 桁の数字 .... メモリー送信の場合に、送信できたページ数 / メモリーに蓄積したページ数の形式で記載されます。 ＊が記載されている場合は、相手機が異常のときです。

＜次ページへつづく＞

No.	項目名	説明
(4)	ファイル	通信を受け付けたときに自動的に付く番号です（001 ～ 999）。
(5)	通信時間	送信や受信にかかった時間です。
(6)	モード	次のいずれかが記載されます。 ・ソウシン　：　送信 ・ジュシン　：　受信 ・PTX　：　ポーリング送信 ・PRX　：　ポーリング受信 ・テンソウ　：　メモリー転送
(7)	相手先 (ID/TEL No.)	次のいずれかが記載されます。 ・宛先名　：　ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルの宛先名、相手の文字IDです。 ・番号のみ　：　相手の数字IDです。 ・☎電話番号　：　ダイヤルした電話番号です。 ・メールアドレス　：　指定したメールアドレスです。
(8)	日付	通信をした日付です。
(9)	時刻	通信をした時刻です。
(10)	通信コード	サービスマン用のコードです。
(11)	日付、時刻	レポートをプリントした日付と時刻です。
(12)	文字 ID	文字 ID として登録した会社名や自分の名前です（16 文字まで）。
(13)	発信元	発信元として登録した会社名や自分の名前です（25 文字まで）。
(14)	数字 ID	数字 ID として登録したファクスの電話番号です（20 桁まで）。

お知らせ

1. システム登録の「173 送達確認要求」(☛p.266) が「オフ」に設定されている場合、メールによる同報送信は 1 回の送信として記録されます。

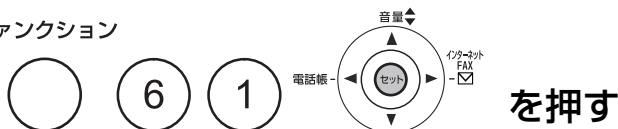
ディスプレイ上で通信結果を確認する

通信結果を、ディスプレイ上で確認できます。

1 通信管理レポートの画面を表示する

ファンクション

を押す

```
ﾂｳｼﾝ ｶﾝﾘ ｶｸﾆﾝ
1:ﾌﾟﾘﾝﾄ 2:ﾋｮｳｼﾞ
```

2 画面表示を選択する

2 を押す

```
ﾂｳｼﾝ ｶﾝﾘ ﾋｮｳｼﾞ
1:ｿｳｼﾝ ﾉﾐ 2:ｽﾍﾞﾃ
```

3 画面表示を選択する

1 送信分だけを確認するとき

2 送信、受信分を確認するとき

```
ﾅｲﾖｳﾊ V Λ ﾎﾞﾀﾝﾃﾞ
ｶｸﾆﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ
```

4 通信管理を選択する

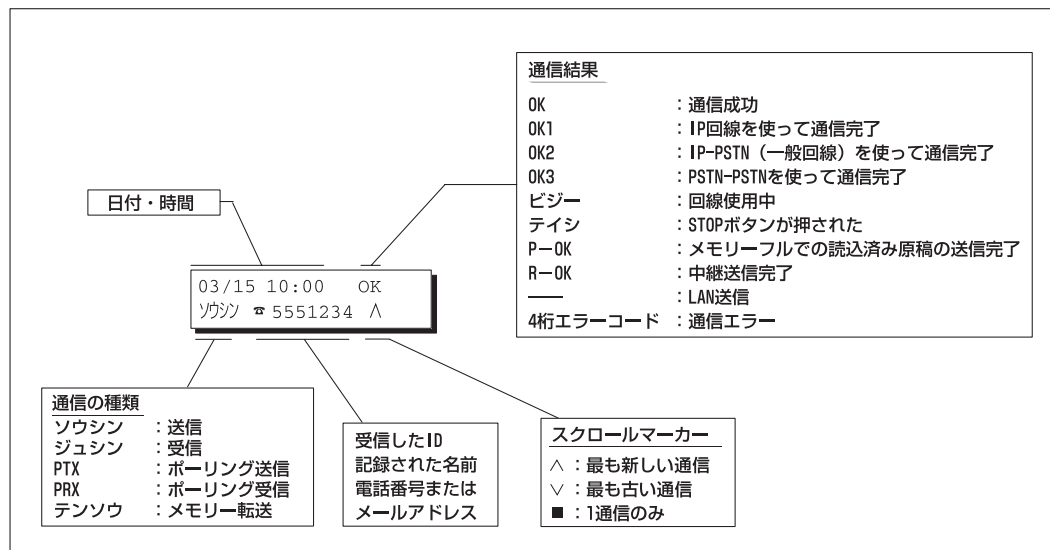
確認したい通信管理が表示されるまで

または

を押す

5 表示を終了する

ストップ

を押す

送信レポート

送信レポートには最新の通信結果が記載されます。

送信レポートをプリントする

送信レポートの見かた

No.	項目名	説明
(1)	日付、時刻	レポートをプリントした日付と時刻です。
(2)	日付、時刻	通信をした日付と時刻です。
(3)	通信管理 NO.	通信管理レポート上の番号です。
(4)	結果	送信の結果です。次のいずれかが記載されます。 ·OK ： 通信が正常に終了しました。 ·OK1 ： IP回線を使って正常に終了しました。 ·OK2 ： IP-PSTN(一般電話回線)を使って正常に終了しました。 ·OK3 ： PSTN-PSTNを使って正常に終了しました。 ·ビジー ： 回線が使用中でした。 ·テイシ ： 通信中に ストップ が押されました 。 ·P－OK ： 原稿を読み込み中にメモリーがオーバーフローしたか、または原稿がつまりました。読み込み済み原稿の送信は終了しています。 ·R－OK ： LAN中継または親展通信が終了しました。 ·－－ ： LAN送信(＊) ·4桁エラーコード ： 通信エラーが発生しました。 ☛エラーコードが表示されたら(p.291)。 ＊ 送達確認要求を付加して送信した場合、送達確認が返送されてくるまでは通信結果欄には「－－」が、送達確認を受け取ると「OK」が表示されます。ダイレクト SMTP 送信時は通信が完了したときは「OK」が記載されます。
(5)	枚数	送信や受信をした枚数です。 · 3 桁の数字 .... ダイレクト送信、クイックメモリー送信で送信できたページ、および受信できたページ数です。 · 3 桁の数字 /3 桁の数字 .... メモリー送信の場合に、送信できたページ数 / メモリーに蓄積したページ数の形式で記載されます。 ＊が記載されている場合は、相手機が異常のときです。
(6)	通信時間	送信や受信にかかった時間です。
(7)	ファイル No.	通信を受け付けたときに自動的に付く番号です（001 ～ 999)。
(8)	モード	次のいずれかが記載されます。 ·ソウシン ： 送信 ·メモリーソウシン ： メモリー送信 ·メモリーテンソウ ： メモリー転送 ·メモリーポーリングソウシン ： メモリーポーリング送信
(9)	相手先	次のいずれかが記載されます。 ·宛先名 ： ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルの宛先名、相手の文字IDです。 ·☎電話番号 ： ダイヤルした電話番号です。 ·メールアドレス ： 指定したメールアドレスです。
(10)	相手先 ID	受信側の相手の ID です。
(11)	文字サイズ	設定した文字サイズが記載されます。
(12)	文字 ID	文字 ID として登録した会社名や自分の名前です（16 文字まで)。
(13)	発信元	発信元として登録した会社名や自分の名前です（25 文字まで)。
(14)	数字 ID	数字 ID として登録したファクスの電話番号です（20 桁まで)。

お知らせ

1. システム登録の「173 送達確認要求」(☛p.266）が「オフ」に設定されている場合、メールによる同報送信は 1 回の送信として記録されます。

通信結果レポート

通信結果レポートは、通信の終了時にプリントされる通信結果が記録されたレポートです。
システム登録の「12 通信結果レポート」(☛p.258)が、「全て」または「未通信」に設定されている場合にプリントされます。ここでは、通信結果レポートの見かたを説明します。

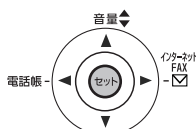
- お買い上げ時、システム登録の「12 通信結果レポート」は「未通信」に設定されています。
  送信できた場合 / できなかった場合、どちらの場合にも通信結果レポートをプリントするように変更できます。
- メモリー送信をした場合、通信エラーなどで未通信になったときは、通信結果レポートに、送信した文書の 1 ページ目の画像が記載されます。ダイレクト送信の場合は、記載されません。

通信結果レポートの見かた

No.	項目名	説明
(1)	通信 NO.	レポート上の番号です。
(2)	結果	送信や受信の結果です。次のいずれかが記載されます。 ・OK : 通信が正常に終了しました。 ・OK1 : IP回線を使って正常に終了しました。 ・OK2 : IP-PSTN(一般電話回線)を使って正常に終了しました。 ・OK3 : PSTN-PSTNを使って正常に終了しました。 ・ビジー : 回線が使用中でした。 ・テイシ : 通信中に [ストップ] が押されました 。 ・P－OK : 原稿を読み込み中にメモリーがオーバーフローしたか、または原稿がつまりました。読み込み済み原稿の送信は終了しています。 ・R－OK : LAN中継または親展通信が終了しました。 ・－－ : LAN送信(＊) ・4桁エラーコード : 通信エラーが発生しました。 ☛エラーコードが表示されたら(p.291)。 ＊ 送達確認要求を付加して送信した場合、送達確認が返送されてくるまでは通信結果欄には「－－」が、送達確認を受け取ると「OK」が表示されます。ダイレクト SMTP 送信時は通信が完了したときは「OK」が記載されます。
(3)	ワンタッチ / 短縮 No.	ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルの番号です。 直接ダイヤルで指定した場合は、☎ が記載されます。
(4)	宛先名 / メールアドレス / 電話番号	次のいずれかが記載されます。 ・宛先名：ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルの宛先名です。 ・メールアドレス：指定したメールアドレスです。 ・電話番号：ダイヤルした電話番号です。
(5)	枚数	送信や受信をした枚数です。 ・3 桁の数字..........ダイレクト送信、クイックメモリー送信で送信できたページ、およびポーリング受信できたページ数です。 ・3 桁の数字 /3 桁の数字..........メモリー送信の場合に、送信できたページ数 / メモリーに蓄積したページ数の形式で記載されます。 ＊が記載されている場合は、相手機が異常のときです。
(6)	通信時間	送信や受信にかかった時間です。 複数の通信予約ファイルが同じ宛先に一括送信された場合、「バッチ」と表示されます。
(7)	スタート エンド	スタート：通信を開始した時刻です。 エンド：通信が終了した時刻です。
(8)	モード	次のいずれかが記載されます。 ・ソウシン : ダイレクト送信 ・メモリー ソウシン : メモリー送信 ・メモリー タイマー ソウシン : タイマー送信 ・ポーリング : ポーリング受信 ・タイマー ポーリング ジュシン : タイマーポーリング受信 ・ジュンジ ポーリング ジュシン : 同報ポーリング受信 ・ジュンジ タイマー ポーリング ジュシン : 同報タイマーポーリング受信 ・シンテン ソウシン : ダイレクト親展送信 ・メモリー シンテン ソウシン : メモリー親展送信 ・シンテン ポーリング ジュシン : 親展ポーリング受信 ・メモリー テンソウ : メモリー転送 ・ルーティング : ルーティング転送
(9)	ファイル No.	通信を受け付けたときに自動的に付く番号です（001 ～ 999）。
(10)	日付、時刻	レポートをプリントした日付と時刻です。
(11)	文字 ID	文字 ID として登録した会社名や自分の名前です（16 文字まで）。
(12)	発信元	発信元として登録した会社名や自分の名前です（25 文字まで）。
(13)	数字 ID	数字 ID として登録したファクスの電話番号です（20 桁まで）。

ダイヤルリスト

ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤルの登録内容を記載したリストをプリントできます。
また、ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤルに登録した内容を、宛先名で並べ替えた電話帳リストをプリントすることもできます。

ダイヤルリストをプリントする

ダイヤルリストの見かた

ワンタッチダイヤルリスト、短縮ダイヤルリスト、電話帳リストには、次の項目が表示されます。

● ワンタッチダイヤルリスト

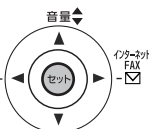
● 短縮ダイヤルリスト

● 電話帳リスト

No.	項目名	説明
(1)	ワンタッチ No. 短縮 No.	<2 桁の番号> ：ワンタッチダイヤル番号です。 [3 桁の番号] ：短縮ダイヤル番号です。
(2)	宛先名	宛先名です（15 文字まで）。
(3)	メールアドレス / 電話番号	メールアドレス（60 文字まで）、または電話番号（36 桁まで）です。
(4)	ルーティングサブアドレス ～ ルーティングダイヤルイン	ルーティング情報です。
(5)	日付、時刻、ページ番号	レポートをプリントした日付と時刻です。 レポートが複数枚ある場合は、右側にページ番号が記載されます。
(6)	登録数	登録済みの宛先数です。
(7)	文字 ID	文字 ID として登録した会社名や自分の名前です（16 文字まで）。
(8)	発信元	発信元として登録した会社名や自分の名前です（25 文字まで）。
(9)	数字 ID	数字 ID として登録したファクスの電話番号です（20 桁まで）。
(10)	見出し文字	宛先名の見出し文字です。アルファベット、カタカナの順に記載されます。

プログラムリスト

プログラムダイヤルの登録内容を記載したリストをプリントできます。

プログラムリストをプリントする

プログラムリストの見かた

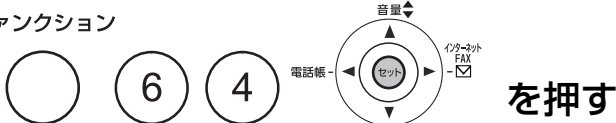
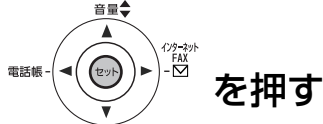
プログラムリストには、次の項目が表示されます。

No.	項目名	説明
(1)	プログラム	プログラムボタンの番号です。
(2)	プログラム名	プログラム名です（15 文字まで）。
(3)	タイプ	プログラムの登録内容です。 ・ソウシン　：　送信 ・ポーリング　：　ポーリング ・グループ　：　グループダイヤルとして登録した場合
(4)	予約時刻	通信の予約時刻です。
(5)	登録ワンタッチ短縮 No.	通信の宛先です。 ＜2桁の番号＞　：　ワンタッチダイヤル番号です。 ［3桁の番号］　：　短縮ダイヤル番号です。
(6)	日付、時刻	レポートをプリントした日付と時刻です。 レポートが複数枚ある場合は、右側にページ番号が記載されます。
(7)	文字 ID	文字 ID として登録した会社名や自分の名前です（16 文字まで）。
(8)	発信元	発信元として登録した会社名や自分の名前です（25 文字まで）。
(9)	数字 ID	数字 ID として登録したファクスの電話番号です（20 桁まで）。

システム登録リスト

システム登録の登録内容を記載したリストをプリントできます。

システム登録リストをプリントする

- システム登録の「145 From 選択機能」(☛p.264) が「アリ」に設定されている場合は、FROM 欄選択リスト (☛p.190) がプリントされます。
- システム登録リストのあとに、インターネットパラメーターがプリントされます。
- システム登録の「176 ダイヤルインルーティング」(☛p.266) が「アリ」に設定されている場合は、ルーティングモデムダイヤルインリストがプリントされます。

システム登録リストの見かた

システム登録リストには、次の項目が記載されます。

＜次ページへつづく＞

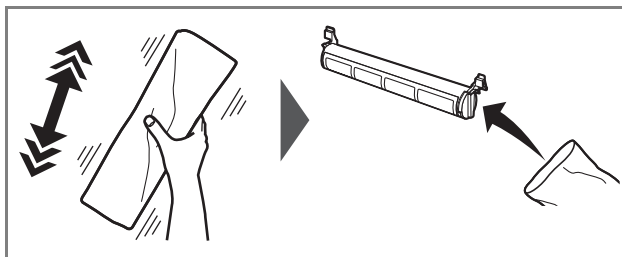
No.	項目名	説明
(1)	設定の変更	標準設定が変更されている項目に＊が付きます。
(2)	項目番号	システム登録の番号です。
(3)	設定項目	システム登録の項目名です。
(4)	選択肢	各項目の選択肢です。
(5)	日付、時刻	レポートをプリントした日付と時刻です。
(6)	現在の設定	現在の設定値です。「----」は、パスワードが設定されていないことを表します。 パスワードが設定されている場合は、パスワードが記載されます。
(7)	標準設定	お買い上げ時の標準設定です。
(8)	文字 ID	文字 ID として登録した会社名や自分の名前です（16 文字まで）。
(9)	発信元	発信元として登録した会社名や自分の名前です（25 文字まで）。
(10)	数字 ID	数字 ID として登録したファクスの電話番号です（20 桁まで）。
(11)	インターネット情報	IP アドレスやサーバー名など、インターネットで使われる各種設定が記載されます。

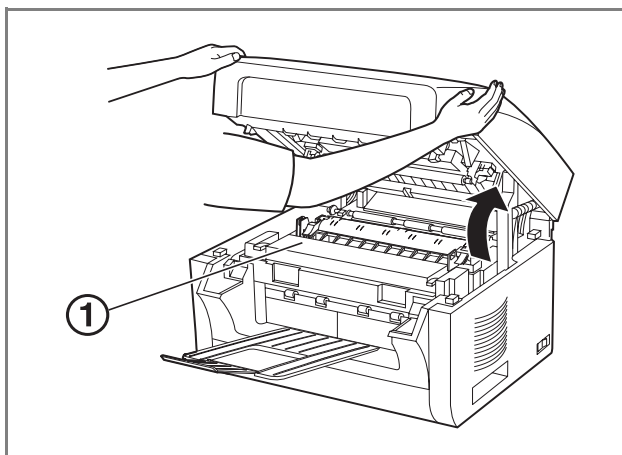
トナーカートリッジを交換する

トナーがなくなると、ディスプレイにエラーコード 0041 が表示されます。
トナーカートリッジを交換する場合は、次の手順で操作します。

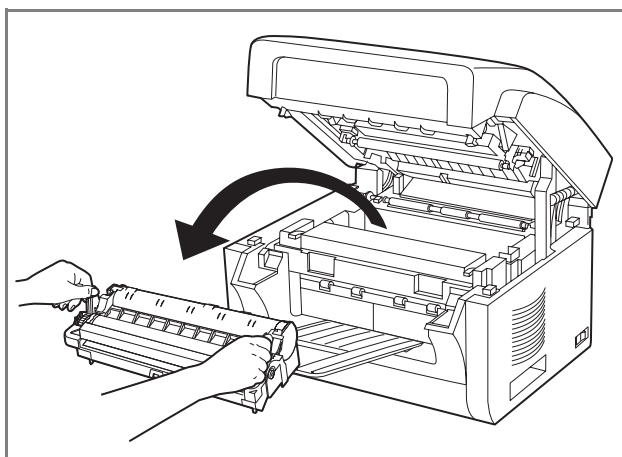
- トナーの残量が一定以下になると、「マモナク トナーガ ナクナリマス」のメッセージが表示されます。
  必要に応じて、新しいトナーを準備しておいてください。

お願い　「トナーギレジニ　ドラムモ　コウカンシテクダサイ」のメッセージが表示された場合は、トナーカートリッジおよびドラムカートリッジを交換してください。

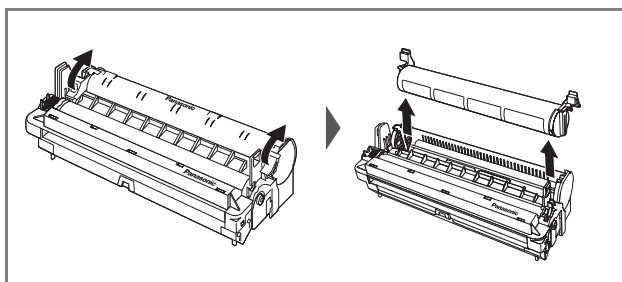
1

トナーカートリッジを袋に入れた状態で、内部のトナーが均一になるように縦に 5 回以上振ります。

2

受信開閉部を開きます。

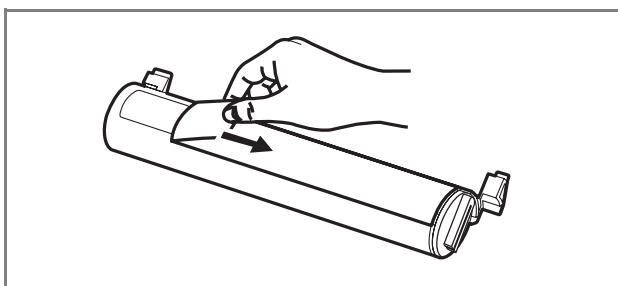
- 定着ユニット（①）は高温になります。
  定着ユニットに手を触れないでください。

3

ドラムカートリッジを取り出します。

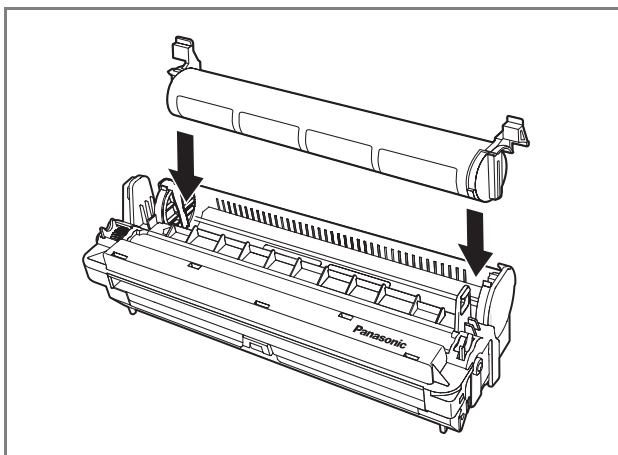
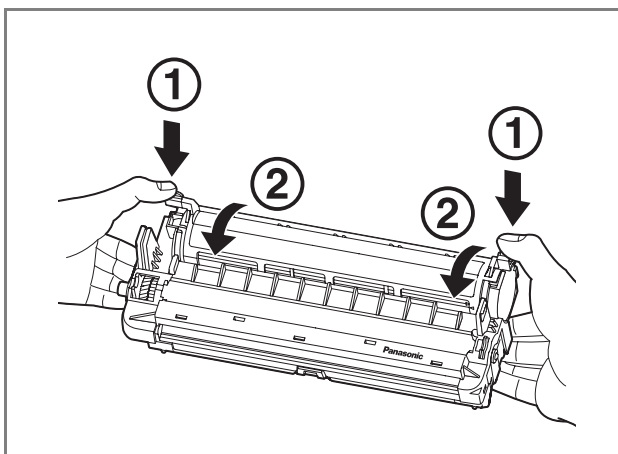
- 使用済みのトナーカートリッジを数回たたき、残ったトナーをドラムカートリッジの中に落としてください。

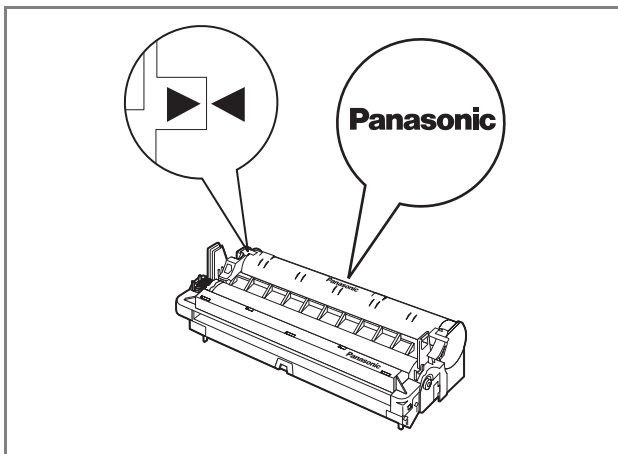
4

ドラムカートリッジから、古いトナーカートリッジを取り外します。

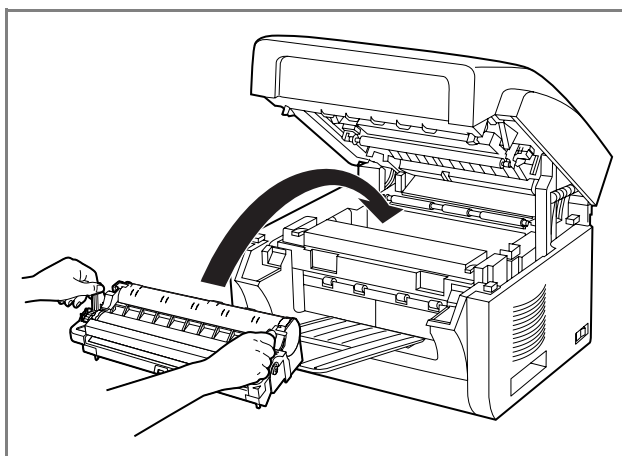
<次ページへつづく>

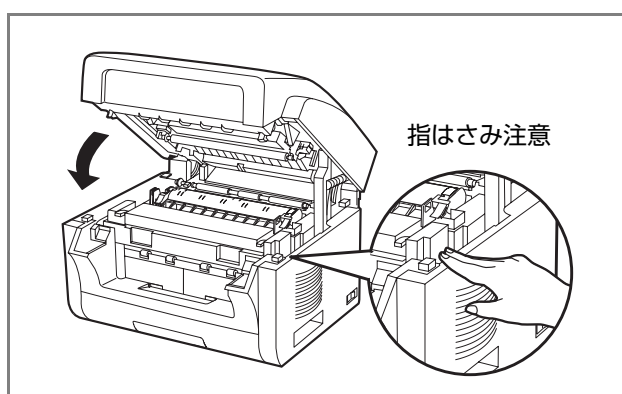
5

新しいトナーカートリッジの保護用のシールを引き抜きます。

- 保護用のシールをはがすときは、ゆっくりとシールを引っぱり、矢印方向にはがします。

6

新しいトナーカートリッジをドラムカートリッジにセットします。

トナーカートリッジ（①）を押し込みます。トナーカートリッジの両端に付いている緑色のレバーを押さえながら手前に回します（②）。

7

▲マークを合わせます。

8

ドラムカートリッジを本体に入れます。

9

受信開閉部を確実に閉じます。

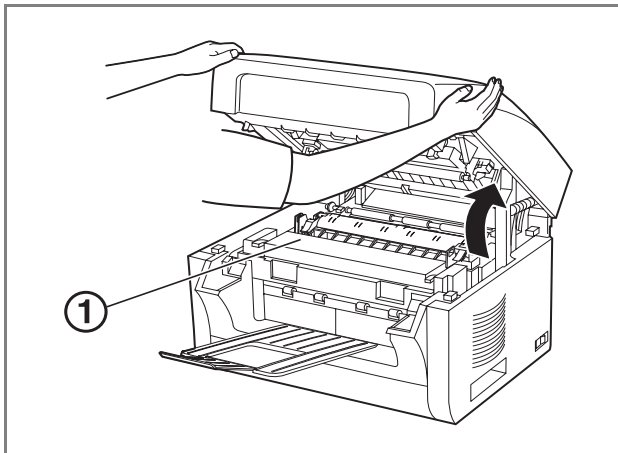
- 受信開閉部を閉じるとき指のはさみこみに注意してください。けがの原因になることがあります。

お願い

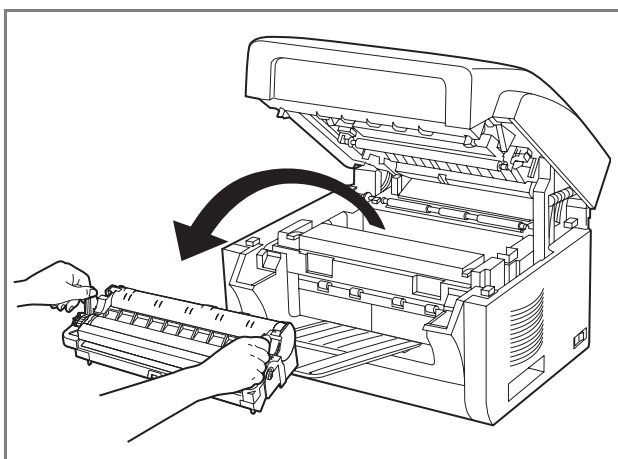
1. ドラムカートリッジのドラム表面には手を触れないでください。ドラムの表面に手の油や汚れが付着すると、きれいな印字ができなくなります。
2. 受信開閉部を閉めるときは、確実にしまっていることを確認してください。完全に閉まっていないと、通信やコピーができません。

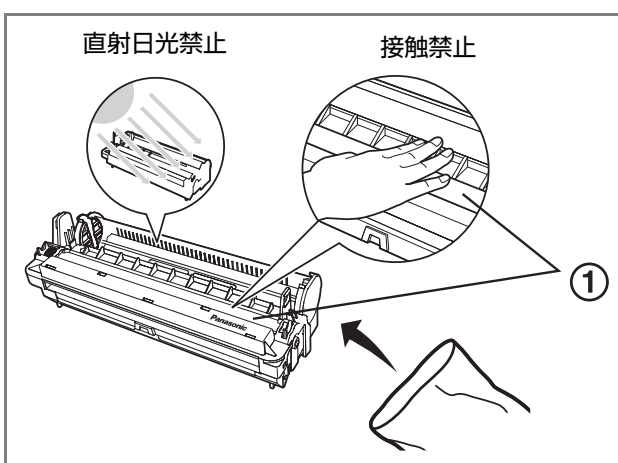
ドラムカートリッジを交換する

ドラムカートリッジの交換時期が近づくと、「トナーギレレジニ　ドラムモ　コウカンシテクダサイ」のメッセージが表示されます。必要に応じて、新しいドラムカートリッジを準備しておいてください。
また交換時期になると、エラーコード 0094 が表示されます。
ドラムカートリッジを交換する場合は、次の手順で操作します。

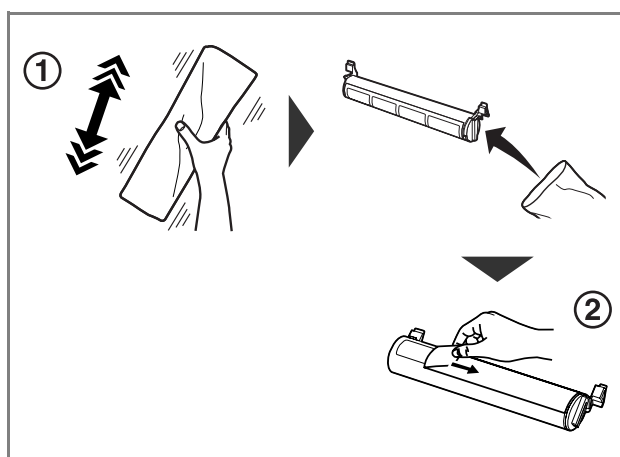
1

受信開閉部を開きます。

- 定着ユニット（①）は高温になります。定着ユニットに手を触れないでください。

2

ドラムカートリッジを取り出します。

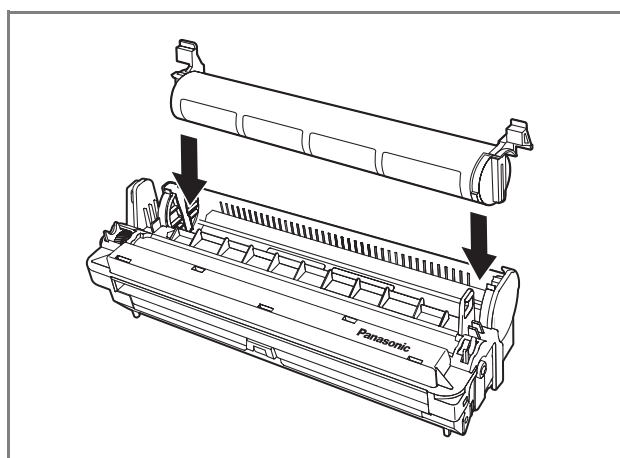
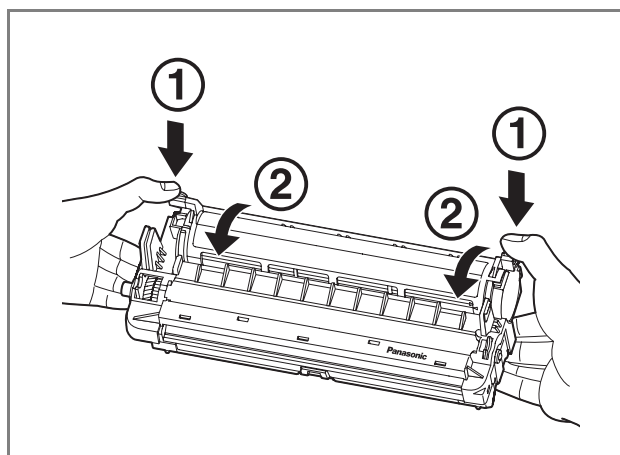
3

新しいドラムカートリッジを袋から取り出します。

- ドラムカートリッジを光に 5 分以上当てないでください。
- ドラムカートリッジ内側のドラム表面（①）に触れたり、傷つけたりしないでください。

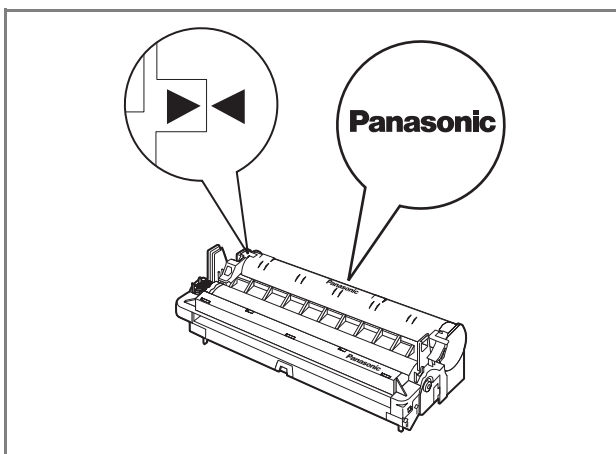
4

トナーカートリッジを袋に入れた状態で、内部のトナーが均一になるように縦に 5 回以上振ります（①）。トナーカートリッジを袋から取り出し、保護用のシールをはがします（②）。

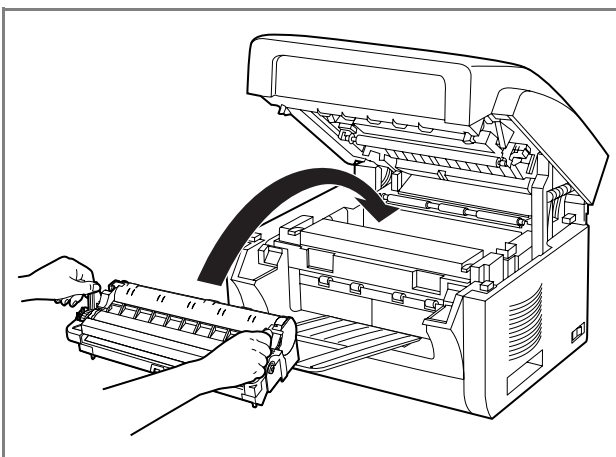
- 保護用のシールをはがすときは、ゆっくりとシールを引っぱり、矢印方向にはがします。

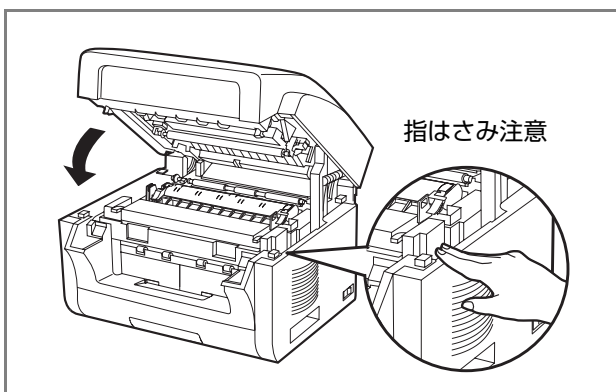
＊ ドラムカートリッジを交換する場合は、同時に新しいトナーカートリッジが必要になります。

5

新しいドラムカートリッジに、新しいトナーカートリッジをセットします。

トナーカートリッジ（①）を押し込みます。トナーカートリッジの両端に付いている緑色のレバーを押さえながら手前に回します（②）。

<次ページへつづく>

6

▲マークを合わせます。

7

ドラムカートリッジを本体に入れます。

8

受信開閉部を確実に閉じます。

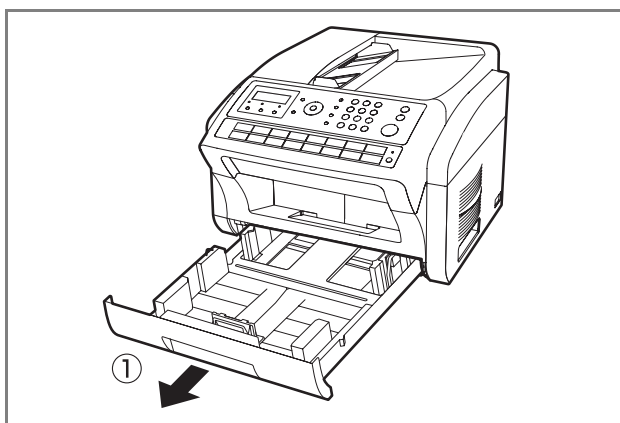
- 受信開閉部を閉じるとき指のはさみこみに注意してください。けがの原因になることがあります。

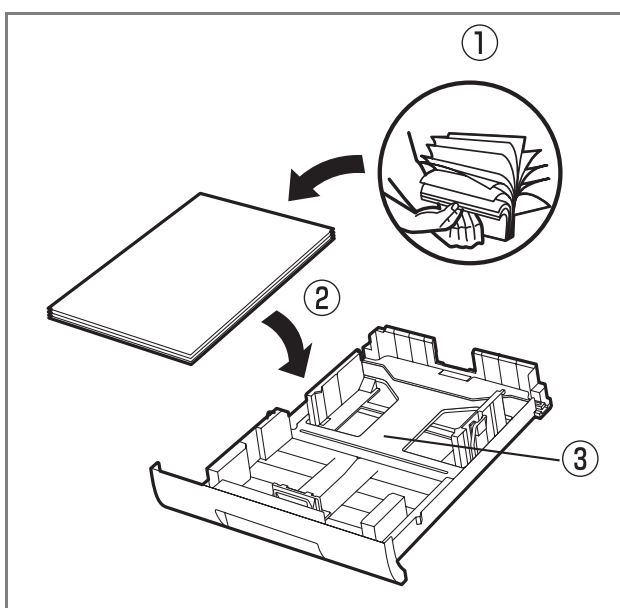
お願い

1. ドラムカートリッジのドラム表面には手を触れないでください。ドラムの表面に手の油や汚れが付着すると、きれいな印字ができなくなります。
2. 受信開閉部を閉めるときは、確実にしまっていることを確認してください。完全に閉まっていないと、通信やコピーができません。

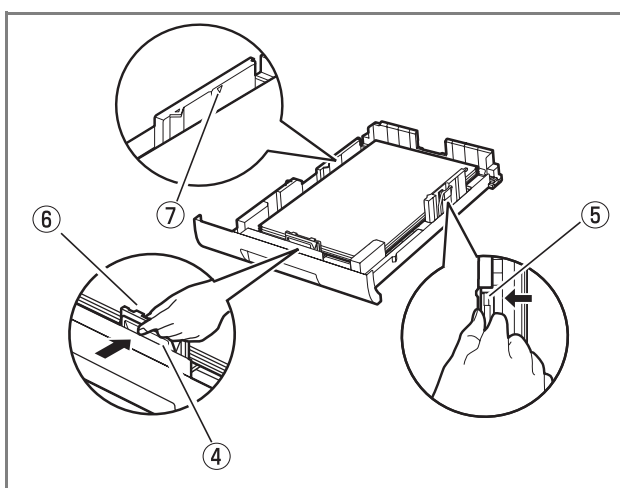
用紙を補給する

用紙を補給する場合は、次の手順で操作します。

1

用紙カセット（①）を止まるまで引き出します。前部を少し持ち上げ、本体から引き出します。

2

用紙をセットする前に、紙づまり防止のため、用紙をよくさばきます（①)。

印刷する面を上にして（②）用紙をセットします。

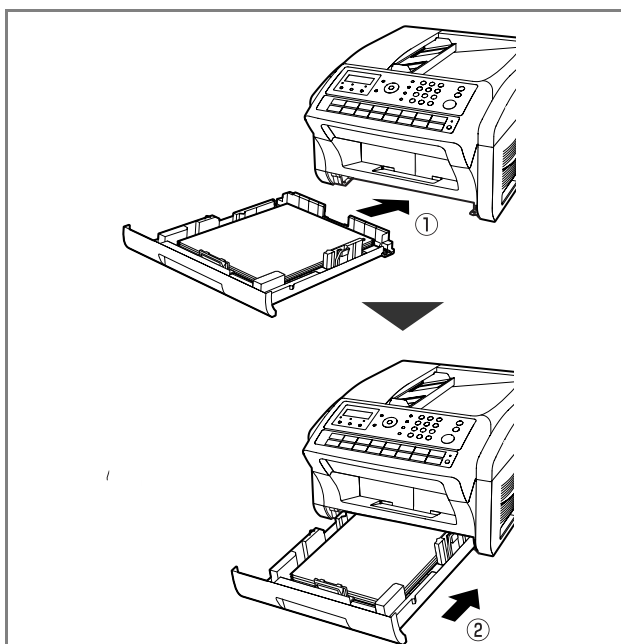
- 必要に応じて、用紙カセットのプレートを押し下げてロックしてください（③)。

用紙ガイドを用紙に合わせます。

- 用紙ガイドの前部のつまみ（④）をつまんでスライドさせ、用紙サイズマークに合わせます。
- 用紙ガイド右側にあるつまみ（⑤）をつまんで、用紙の側面に軽く触れるようにします。このとき、用紙がたるまないようにしてください。
- 用紙が、用紙ガイドの間にぴったり収まっていることを確認してください。正しくセットされていない場合は、紙づまりの原因になります。

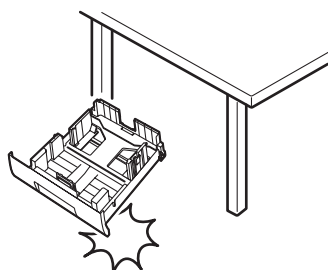
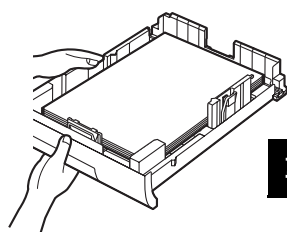
お願い：

用紙がツメ（⑥）の下にセットされていることを確認してください。また、用紙厚が用紙上限マーク（⑦）を越えないように注意してください。セットできる枚数は約 250 枚です。

<次ページへつづく>

3

用紙カセットを本体に挿入し（①)、奥まで押し込みます（②)。

用紙カセットの取り扱いに関する注意

- 用紙カセットを落とさないでください。

- 取り外しまたは取り付けのときには、用紙カセットを両手で持ってください。
  用紙を最大枚数までセットした場合、用紙カセットの重量は約 2 kg になります。

お知らせ

1. 用紙カセットには、適応サイズ以外の用紙はセットしないでください。
2. しわ、折れのある紙、湿っている紙、一度記録した紙の裏面などは使用しないでください。紙づまりの原因となります。
3. 用紙を追加するときは、残っている用紙を上にしてセットし直してください。いつまでも古い用紙が残っていると、紙づまりの原因となることがあります。
4. プリント中には、用紙カセットを引き出さないでください。紙づまりの原因となります。
5. 新しい用紙が残ったときは、包装紙に包み、湿気が少ない直射日光の当たらないところに保管してください。
6. 用紙は当社推奨品をご使用ください。推奨品以外の用紙を使用されますと、記録品質への悪影響や、故障の原因となることがあります。

こんなときには

故障かな？と思ったら

故障かな？と思ったときは、次の項目をチェックしてください。

モード	症状	原因と処置	参照先
送信中	原稿が送り込まれない 複数枚同時に送り込まれる	1. 原稿にホッチキスの針やクリップがついていないこと、また汚れや破れのないことを確認してください。 2.「セットできない原稿」に一覧表示されている原稿でないことを確認してください。リストに記載してある種類の原稿である場合は、そのコピーをとって原稿の代わりに送信してください。 3. 原稿が正しくセットされていることを確認してください。	☛ セットできない原稿（p.46） ☛ 原稿のセットのしかた（p.47）
	原稿づまり	原稿がつまった場合は、エラーコード 0030、0031 がディスプレイに表示されます。	☛ 原稿がつまった（p.300）
	送信した原稿に受信側で縦線が入る	本機でコピーをし、画質を確認してください。コピーに問題がない場合、本機は正常です。異常が発生している受信側に報告をしてください。 コピーに問題がある場合は、原稿読み取り部を清掃してください。	☛ 読み取り部のお手入れ（p.301）
	送信した原稿が、受信側で白紙として出てくる	1. 原稿が表向きにセットしてあることを確認してください。 2. 本機でコピーをし、画質を確認してください。コピーに問題がない場合、本機は正常です。異常が発生している受信側に報告をしてください。 コピーに問題がある場合は、原稿読み取り部を清掃してください。	☛ 原稿のセットのしかた（p.47） ☛ 読み取り部のお手入れ（p.301）
受信中	用紙切れ	用紙がなくなった場合は、エラーコード 0001 がディスプレイに表示されます。用紙を補給してください。	☛ 用紙を補給する（p.287）
	用紙づまり	用紙がつまった場合は、エラーコード 0007 がディスプレイに表示されます。つまった用紙を取り除いてください。	☛ 用紙がつまった（p.299）
	用紙が送り込まれない	用紙が送り込まれない場合は、エラーコード 0001 がディスプレイに表示されます。 用紙カセットに用紙がセットされていることを確認してください。 用紙のセット方法が正しいことを確認してください。	☛ 用紙を補給する（p.287）
	受信できない	迷惑ファクス防止機能が設定されているか確認してください。	☛ 迷惑ファクスを防止する（p.98）
	プリント終了時に用紙が排出されない	用紙が本機内部でつまっていないか確認してください。	☛ 用紙がつまった（p.299）
	原稿の自動縮小機能がはたらかない	縮小受信の設定値を確認してください。	☛ 縮小受信について（p.95）
	トナー切れ	トナーがなくなった場合は、エラーコード 0041 がディスプレイに表示されます。 トナーカートリッジを交換してください。	☛ トナーカートリッジを交換する（p.281）

<次ページへつづく>

モード	症状	原因と処置	参照先
受信中 コピー中	受信した原稿に縦線が入る	レポートをプリントして、画質をチェックをし、本機に異常がないか確認してください。 レポートの画質に問題がない場合、本機は正常です。異常が発生している送信側に報告してください。 コピーに問題がある場合は、ドラムカートリッジを交換してください。 （例：通信管理レポートのプリント） ファンクション 6 1 1	☛ 通信管理レポート（p.268） ☛ ドラムカートリッジを交換する（p.284）
	プリントが不鮮明	1. 推奨の用紙を使用しているか確認してください。 2. 用紙を裏返しにしてみてください。	――
	プリント領域内に、点状や線状に抜けている箇所、濃度が不均一な箇所がある	1. 推奨されている用紙を使用しているかを確認してください。 2. ドラムカートリッジを交換してください。	☛ ドラムカートリッジを交換する（p.284）
	プリントが薄い	トナーがなくなりかけている可能性があります。トナーカートリッジを交換してください。	☛ トナーカートリッジを交換する（p.281）
通信中	発信音が聞こえない	1. 電話回線の接続を確認してください。 2. 電話回線を確認してください。	☛ 接続状態を確認する（p.302）
	自動受信できない	1. 電話回線の接続を確認してください。 2. 受信モードの設定値を確認してください。 3. メモリー容量が一杯になっていないか確認してください。予約ファイルの消去や受信データをプリントしてメモリー容量を空けてください。	☛ 接続状態を確認する（p.302） ☛ 受信モードについて（p.89）
	送信できない 受信できない	ディスプレイにエラーコードが表示されます。エラーコード一覧を参照して、原因を特定してください。	☛ エラーコードが表示されたら（p.291）

エラーコードが表示されたら

本機に異常が発生したときは、ディスプレイにエラーコードが表示されます。次の表に従って原因を特定し、処置をしてください。

- 次の表に従って処置を実施しても、エラーコードが表示されたままになったり、エラーコード一覧に記載されていないエラーコードが表示された場合は、お買い上げの販売店、またはサービス実施会社にお問い合わせください。

エラーコード一覧

エラーコード	内容	処置	参照ページ
0001	用紙カセットの用紙がなくなりました。 給紙するときに用紙がつまりました。	用紙カセットを引き抜いて用紙を確認してください。	☛ 用紙を補給する（p.287） ☛ 用紙がつまった（p.299）
0007	用紙が完全に排出されません。	受信開閉部または背面カバーを開けて、つまった用紙を取り除いてください。	☛ 用紙がつまった（p.299）
0012	用紙の長さが最大サイズのデータを受信し、オーバーフローしました。	送信側に確認してください。	☛ 原稿について（p.45）
0021	内部に異常が発生しています。	お買い上げの販売店、またはサービス実施会社にお問い合わせください。	――
0030	原稿がつまりました。	1. 原稿を正しくセットし直してください。 2. つまった原稿を取り除いてください。	☛ 原稿のセットのしかた（p.47） ☛ 原稿がつまった（p.300）
0031	原稿が長すぎるか、つまっています。 原稿の長さが 60cm を超えています。	1. 原稿を正しくセットし直してください。 2. つまった原稿を取り除いてください。	☛ 原稿のセットのしかた（p.47） ☛ 原稿がつまった（p.300）
0041	トナーがなくなりました。	トナーカートリッジを交換してください。	☛ トナーカートリッジを交換する（p.281）
――	トナーの残量が少なくなりました。	トナーカートリッジの交換時期が近づきました。新しいトナーカートリッジを準備してください。	――
0045	ドラムカートリッジが取り付けられていません。	ドラムカートリッジを取り付けてください。	☛ ドラムカートリッジを交換する（p.284）
0051	内部に異常が発生しています。	お買い上げの販売店、またはサービス実施会社にお問い合わせください。	――

＜次ページへつづく＞

エラーコード	内容	処置	参照ページ
0054	内部に異常が発生しています。	お買い上げの販売店、またはサービス実施会社にお問い合わせください。	―――
0060	受信開閉部が開いています。	受信開閉部を閉じてください。	―――
0061	自動原稿送り装置（ADF）の開閉部が開いています。	自動原稿送り装置（ADF）の開閉部を閉じてください。	―――
0068	背面カバーが開いています。 用紙が完全に排出されません。	背面カバーを閉じてください。 背面カバーを開けて、つまった用紙を取り除いてください。	―――
0090	内部に異常が発生しています。	お買い上げの販売店、またはサービス実施会社にお問い合わせください。	―――
0091	定着部の温度が低くなっています。	しばらくお待ちください。	―――
―――	ドラムカートリッジの交換時期が近づいています。	ドラムカートリッジの交換時期が近づきました。新しいドラムカートリッジを準備してください。	―――
0093	温度の低い環境で使用したため、内部に異常が発生しています。	使用環境を確認し、適切な環境で使用してください。	☛ 使用環境（p.306）
0094	ドラムカートリッジに異常が発生しています（寿命を含む）。 （☛p.296 の お知らせ 2、3）	ドラムカートリッジを交換してください。 お買い上げの販売店、またはサービス実施会社にお問い合わせください。	☛ ドラムカートリッジを交換する（p.284）
0400	通信中に、受信局が応答しなかったか、または通信エラーが発生しました。	1. 相手先を替えて確認してください。 2. 原稿をセットし直し、再送してください。	―――
0401	中継局に受信用パスワードが必要なため、原稿を受信できません。 中継局にメールボックスがありません。 中継局が送信側機器の ID 番号（ファクス番号）を要求しています。	中継局に確認してください。 本機の ID 番号（ファクス番号）を登録してください。	―――
0402	通信中に、通信エラーが発生しました。	原稿をセットし直し、再送してください。	―――
0403	中継局側にポーリング機能がありません。	「ポーリング＝アリ」を設定するように中継局側に連絡してください。	―――
0404/0405	通信中に、通信エラーが発生しました。	原稿をセットし直し、再送してください。	―――

エラーコード	内容	処置	参照ページ
0406	送信用パスワードが一致しません。 受信用パスワードが一致しません。 不正な相手局からセレクト受信モードで受信しました。	ワンタッチまたは短縮ダイヤルのパスワード、電話番号を確認してください。	☛ パスワード通信を利用する（パスワード送信 / パスワード受信）（p.137） ☛ 迷惑ファクスを防止する（セレクト受信）（p.136）
0407	受信局からのページ送信済み確認信号が得られません。	数分後に再送してください。	――
0408/0409	遠隔側からのページ送信済み確認信号が判読できません。	数分後に再送してください。	――
0410	送信側で通信が打切られました。	相手先を替えて確認してください。	――
0411	ポーリング用パスワードが一致しません。	ポーリング用パスワードを確認してください。	☛ ポーリングする（p.111）
0412	送信側からのデータが得られません。	相手先を替えて確認してください。	――
0414	ポーリング用パスワードが一致しません。	ポーリング用パスワードを確認してください。	☛ ポーリングする（p.111）
0415	ポーリング送信でエラーが発生しました。	ポーリング用パスワードを確認してください。	――
0416/0417 0418/0419	受信データに含まれるエラーが多すぎます。	相手先を替えて確認してください。	――
0420/0421	送信側からの信号を受信できません。	1. 相手先が誤った相手にダイヤルしています。 2. 相手先を替えて確認してください。	――
0422/0427	インタフェースに互換性がありません。	相手先を替えて確認してください。	――
0430/0434	受信中に通信エラーが発生しました。	相手先を替えて確認してください。	――
0436/0490	受信データに含まれるエラーが多すぎます。	相手先を替えて確認してください。	――
0456	本機が以下のいずれかの条件のもとで、親展原稿を受信したか、または親展原稿のポーリングを要求しました。 1. 親展原稿の受信に必要な空きメモリーがない 2. 親展メールボックスが一杯になっている 3. 受信した原稿のプリント中 本機が原稿の中継を要求されています。	1. 通信予約レポートをプリントし、その内容を確認してください。 2. 本機がプリントを完了するまで待ってください。	☛ 通信予約レポートをプリントする（p.117）
0492/ 0493/0494	受信中に通信エラーが発生しました。	相手先を替えて確認してください。	――
0495	電話回線が切断されました。	相手先を替えて確認してください。	――

<次ページへつづく>

エラーコード	内容	処置	参照ページ
0501/0502	内蔵V.34モデムで通信エラーが発生しました。	相手先を替えて確認してください。	――
0540/ 0541/ 0542/ 0543/0544	送信中に通信エラーが発生しました。	1. 原稿をセットし直し、再送してください。 2. 相手先を替えて確認してください。	――
0550	電話回線が切断されました。	相手先を替えて確認してください。	――
0552/ 0553/ 0554/0555	受信中に通信エラーが発生しました。	相手先を替えて確認してください。	――
0580	サブアドレス機能をもたない機器へサブアドレスを送信しました。	相手先に確認してください。	――
0581	パスワードサブアドレス機能をもたない機器へサブアドレスパスワードを送信しました。	相手先に確認してください。	――
0601	ダイレクト送信中に送信開閉部が開けられました。	送信開閉部を閉じ、再送してください。	――
0623	自動原稿送り装置に原稿がセットされていません。	原稿をセットし直し、再送してください。	――
0630	回線使用中のため、再ダイヤルに失敗しました。	原稿をセットし直し、再送してください。	――
0631	ダイヤル中に ストップ が押されました。	原稿をセットし直し、再送してください。	――
0634	相手先が応答しない、誤った相手にダイヤルしているなどで、再ダイヤルが失敗しました。	電話番号を確認し、再送してください。	――
0638	通信中に停電が発生しました。	電源コードと、電源プラグを確認してください。	☛ ファンクション番号一覧（p.30）
0712	メールアドレスに誤りがあります。	登録されたメールアドレスを確認してください。 SMTP サーバーの IP アドレスをネットワーク管理者にお問い合わせください。	――
0714	LAN にログオンできません。	10Base-T/100Base-TX ケーブルの接続を確認してください。 予期できない問題が発生しました。ネットワーク管理者にお問い合わせください。	――
0715	TCP/IP 接続がタイムアウトしました。	インターネット FAX のパラメーター設定を確認してください。 IP アドレス、ゲートウェイ IP アドレスの設定、SMTP サーバーの IP アドレスを確認してください。	――

エラーコード	内容	処置	参照ページ
0716	指定した SMTP サーバーにログオンできません。	SMTP サーバーの IP アドレスの設定を確認してください。ネットワーク管理者にお問い合わせください。	――――
0717	SMTP プロトコル伝送が不完全です。SMTP サーバーのハードディスクが一杯の可能性があります。	SMTP サーバーに障害があります。ネットワーク管理者にお問い合わせください。	――――
0718	プリントデータ受信時にページメモリーにオーバフローが発生しました。 用紙カセットの用紙サイズよりも大きいサイズをアプリケーションで選択しました。	原稿サイズと文字サイズを確認してください。受信側（本機）で対応しているサイズと文字サイズで再送してもらうように送信側に連絡してください。	――――
0719	LAN 経由で受信したデータ形式が受信側に対応していません。	以下に示すような、対応するファイル添付形式で再送してもらうように送信側に連絡してください。 ・TIFF-F形式 ・用紙のサイズに合った画像データ	――――
0720	POP サーバーと接続できません（POP サーバー IP アドレスの誤り）。 POP サーバーがダウンしています。	POP サーバーの IP アドレスを確認してください。ネットワーク管理者にお問い合わせください。	――――
0721	POP サーバーに接続できません（ユーザー名またはパスワードのエラー）。	POP ユーザー名とパスワード、または APOP 設定値を確認してください。ネットワーク管理者にお問い合わせください。	――――
0722	DHCP サーバーからのネットワークパラメーター（例：IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトのゲートウェイ IP アドレス）の取得に失敗しました。	1. LAN ケーブルの接続を確認してください。 2. ネットワーク管理者に問い合わせて、お手元のネットワークでDHCPが使用できるか確認してください。 使用できない場合は、システム登録の「169 DHCP クライアント」を「ナシ」に変更し、ほかのネットワークパラメーターを手動で設定してください。	――――
0725	DNS サーバー接続がタイムアウトしました。DNS サーバーがダウンしています。	DNS サーバーの IP アドレスを確認してください。ネットワーク管理者にお問い合わせください。	――――
0726	DNS サーバーからエラー応答を受信しました。	POP サーバー名を確認してください。SMTP サーバー名を確認してください。	――――
0728	送信したデータ（PDF）形式が受信側に対応していません。 （PDF 形式での送信は、インターネット FAX からコンピューターへの送信時のみ利用できます。）	システム登録の「177 送信ファイル タイプ」（☛p.266）を「TIFF」に設定して送信してください。	☛ システム登録一覧（p.257）

＜次ページへつづく＞

エラーコード	内容	処置	参照ページ
0729	SMTP　サーバーとの接続時に、認証（SMTP AUTHENTICATION）に失敗しました。	SMTP AUTHENTユーザー名とパスワードを確認してください。ネットワーク管理者にお問い合わせください。	―――
0730	メール経由でコンピューターから遠隔操作で、ジャーナルを取り出せません。また、インターネットパラメーターやワンタッチ／短縮ダイヤルも登録できません。	システム登録の「158　メールリモート登録」（☛p.265）が「アリ」に設定されているか確認してください。	☛ システム登録一覧（p.257）
0731	中継送信要求を受けたときに、手動ダイヤル用ダイアラーバッファが一杯（70局）になりました。	予約通信終了後に中継送信要求を送信し直してもらうように送信元に連絡してください。	―――
0800	原稿または親展通信の中継機能をもたない機器へ中継要求が出されました。	相手先を替えて確認してください。	―――
0815	メールボックスが一杯です。	メールボックスを確認してください。メールボックスファイルは10 個まで保存できます。	☛ 親展ボックスを利用する（親展通信）（p.143）
0816/0825	原稿または親展通信の中継機能をもたない機器へ中継要求が出されました。	相手先を替えて確認してください。	―――
0870	送信する原稿をメモリーに記憶しているときにメモリーオーバーフローが発生しました。	メモリーを使用しないで原稿を送信してください。	☛ メモリーを使わずに送る（ダイレクト送信）（p.79）

お知らせ

1. システム登録の「123 リルート機能」（☛p.262）が「アリ」の場合は、エラーコード先頭の番号が 3 ～ 5（例：3xxx）になります。「IP 電話 - IP 電話発呼」、「IP 電話 - 一般電話発呼」または「一般電話 - 一般電話発呼」の通信形態によって、付与される数字が異なります。
2. ドラムカートリッジの交換時期が近づくと、「トナーギレジニ　ドラムモ　コウカンヲ　オススメシマス」のメッセージが表示されます。必要に応じて、新しいドラムカートリッジを準備しておいてください。現在お使いのドラムカートリッジの回転数が高品質を保てる回転数を越えました。ご使用の環境やお使いの用紙、ご使用の状況により、写真原稿など中間調の画像をプリントされた場合に、高品質なプリント画像が得られない場合があります。プリント画像を確認していただき、ご満足いただける画質の場合はドラムカートリッジの交換を直ちに行う必要はございませんが、時々プリント画像をご確認いただき画質に応じて交換いただくか、トナーカートリッジ交換の際、同時にドラムカートリッジを交換することをお勧めします。
3. また交換時期になると、エラーコード 0094 が表示されます。ドラムカートリッジの寿命が来ました。トナーカートリッジ交換の際に、ドラムカートリッジを交換してください。ご使用の環境やお使いの用紙、ご使用の状況により、程度は異なりますが画質に影響があります。プリント画像の状態をご確認していただき、必要に応じて早めの交換をお願いいたします。

   ※　ドラムカートリッジを交換せずにご使用を続けた場合、急に画像が劣化したり、機器が故障する原因になることがあります。

リモート登録時のエラーメッセージ

送信元へ送られるエラーメッセージ

ワンタッチダイヤル / 短縮ダイヤルのリモート登録時にエラーとなった場合は、本機から送信元へエラーメッセージがメールで送付されます。

No.	エラーメッセージ	原因と処置
1	554 Data transfer error (broken header)	ヘッダーまたはサブヘッダーの解析中にエラーが発生したため処理できませんでした。再送してください。
2	554 Data transfer error (broken data)	データ解析中にエラーが発生したため処理できませんでした。再送してください。
3	554 Data transfer error (FAX module)	LAM モジュールとの通信中に FAX モジュールでデータ転送エラーが発生しました。再送してください。
4	554 MIME attachment not supported (message/file)	サポートしていない MIME の添付ファイルが送られました。テキストデータだけの添付ファイルで再送してください。
5	554 MIME format not supported	サポートしていない MIME タイプが送られました。テキストデータだけで再送してください。
6	554 FAX relay permission denied	中継要求のあったドメイン名は登録されていません。
7	554 Relay address unknown	中継要求のあった最終受信局の電話番号が不明です。
8	554 Memory fully (FAX module)	FAX メモリーが一杯です。あとで再送してください。
9	554 Data transfer error	リストに記載されていないエラーです。あとで再送してください。

リモート登録失敗時のエラーメッセージ

ワンタッチダイヤル / 短縮ダイヤルのリモート登録が失敗した場合は、本機から送信元へエラーメッセージがメールで送信されます。

No.	エラーメッセージ	原因と処置
1	@command ブロックにエラーがあります。	ブロック終了コマンド「@end」が「@command」ブロックで記述されていません。「@end」コマンドを加えて再送してください。
2	@begin コマンドがありません。	ブロック開始コマンド「@begin」が「@begin」ブロックで記述されていません。「@begin」コマンドを加えて再送してください
3	@begin ブロックにエラーがあります。	ブロック終了コマンド「@end」が「@begin」ブロックで記述されていません。「@end」コマンドを加えて再送してください。
4	@system ブロックにエラーがあります。	ブロック終了コマンド「@end」が「@system」ブロックで記述されていません。「@end」コマンドを加えて再送してください。
5	@sender ブロックにエラーがあります。	ブロック終了コマンド「@end」が「@sender」ブロックで記述されていません。「@end」コマンドを加えて再送してください。

<次ページへつづく>

No.	エラーメッセージ	原因と処置
6	@domain ブロックにエラーがあります。	ブロック終了コマンド「@end」が「@domain」ブロックで記述されていません。「@end」コマンドを加えて再送してください。
7	@program ブロックにエラーがあります。	ブロック終了コマンド「@end」が「@program」ブロックで記述されていません。「@end」コマンドを加えて再送してください。
8	@system コマンドがありません。	システム開始コマンド「@system」が「@system」ブロックで記述されていません。「@system」コマンドを加えて再送してください。
9	ＦＡＸ 動作中のためリモート登録できません。	• ファクス通信が予約されている場合、ファクス動作終了後に再送してください。 • 予約レポートを確認し、予約がない状態にして再送してください。
10	リモート登録パスワードチェックエラー。	パスワードを修正して再送してください。
11	リモート登録が許可されていません。	システム登録の「158 メールリモート登録」(☛p.265)を「アリ」に設定してください。
12	Format Error:＜ エラー行 ＞	入力したフォーマットが正しくないか、または各宛先選択用の記述データが一行で完結していないため不完全となっています。修正して再送してください。
13	Warning:＜ エラー行 ＞	入力したフォーマットが正しくないか、または入力した文字数が最大桁数を超えています。修正して再送してください。
14	データが長すぎます。	宛先名、ドメイン名、送信元名、プログラム名などの文字数が最大桁数を超えています。
15	@list ブロックにエラーがあります。	ブロック終了コマンド「@end」が「@list」ブロックで記述されていません。「@end」コマンドを加えて再送してください。
16	@select-domain ブロックにエラーがあります。	ブロック終了コマンド「@end」が「@select-domain」ブロックで記述されていません。「@end」コマンドを加えて再送してください。
17	以下のデータに上書きされました。:＜(上書きされたデータ)＞	データが上書きされた場合に返送されます。
18	ダイヤルインデータの登録がありません。：＜エラー行＞	設定しようとしたダイヤルイン番号に該当するダイヤルが登録されていません。装置のダイヤル設定を確認してください。

用紙がつまった

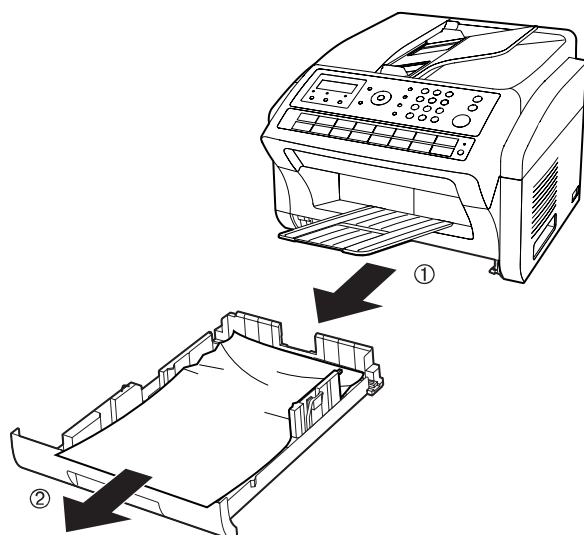
用紙がつまったときは、ディスプレイにエラーコード（0001、0007）が表示されます。用紙づまりを取り除く場合は、次の手順で操作してください。

エラーコード 0001 が表示されている場合

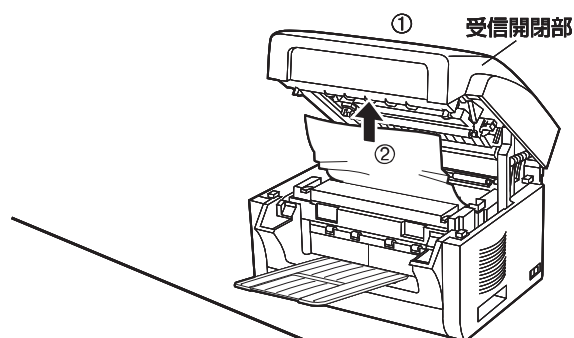
(1) 用紙カセットを止まるまで引き出します。前部を少し持ち上げ、本体から引き出します。

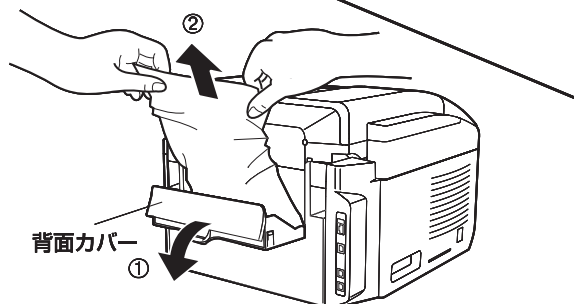
(2) つまった用紙、しわのついた用紙を取り除きます。

(3) 用紙カセットに用紙をセットし直します。

(4) 受信開閉部をいったん開き、閉じます。

エラーコード 0007 が表示されている場合

・つまった用紙が本体内部にある場合（上の図を参照してください）

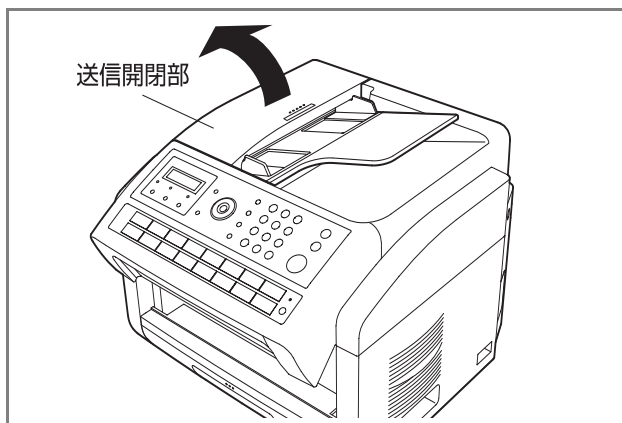
(1) 受信開閉部を開きます。
(2) つまった用紙を取り除きます。
(3) 受信開閉部を閉じます。

・つまった用紙が本体背面にある場合（下の図を参照してください）

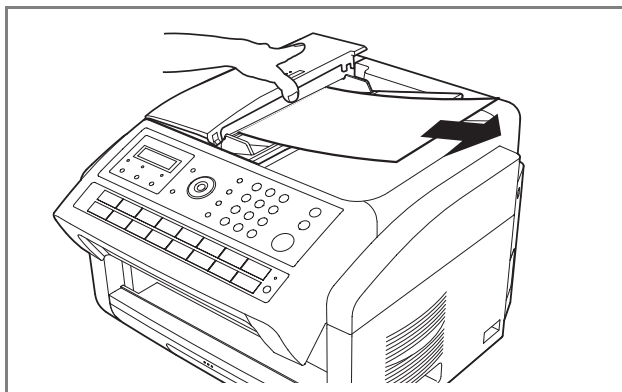
(1) 背面カバーを開きます。
(2) 破れないよう注意しながら、つまった用紙をゆっくりとまっすぐに引き出します。
(3) 背面カバーを閉じます。

お知らせ

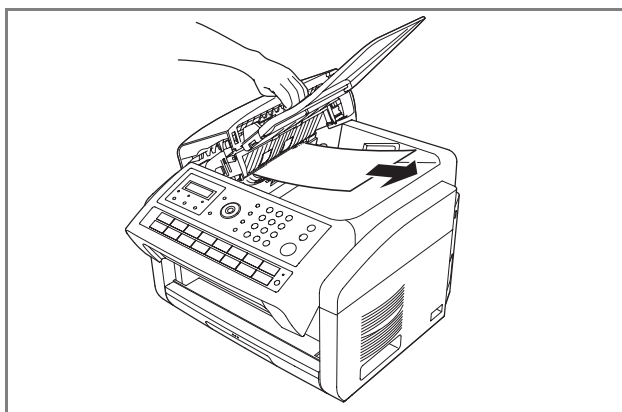
1. 用紙づまりの処置をしても、なおエラーコードが表示される場合は、受信開閉部をいったん開き、閉じてみてください。

原稿がつまった

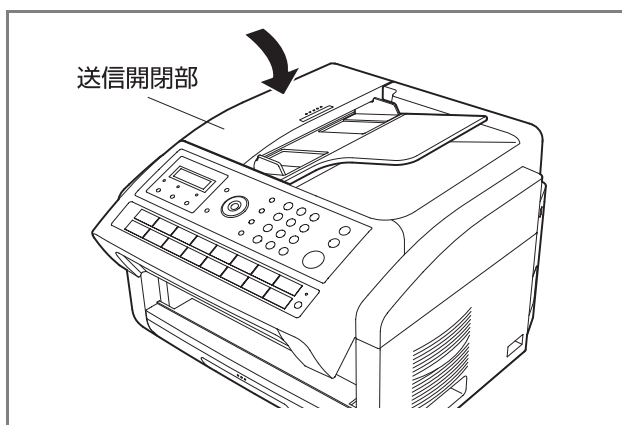
原稿がつまったときは、ディスプレイにエラーコード（0030、0031）が表示されます。
原稿づまりを取り除く場合は、次の手順で操作してください。

1

送信開閉部を開きます。

2

エラーコード 0030 が表示されている場合

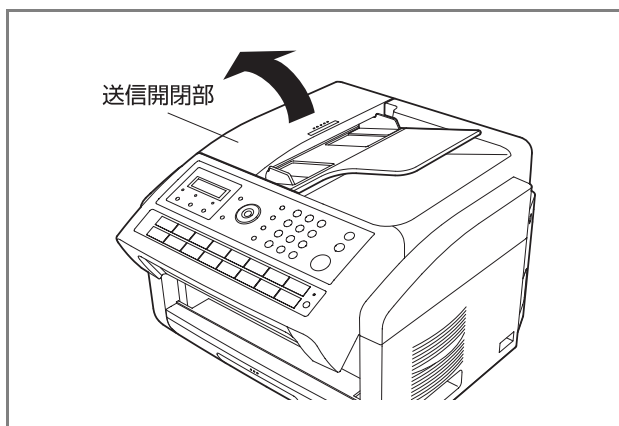
つまっている原稿を引き出し、取り除きます。

エラーコード 0031 が表示されている場合

送信開閉部を持ち上げ、つまっている原稿を取り除きます。

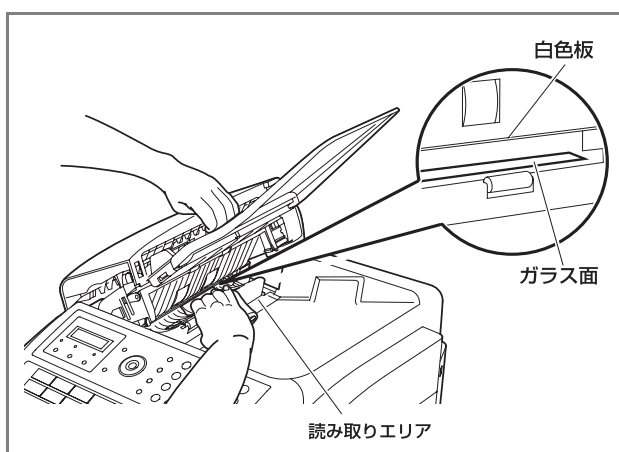
3

送信開閉部を確実に閉じます。

読み取り部のお手入れ

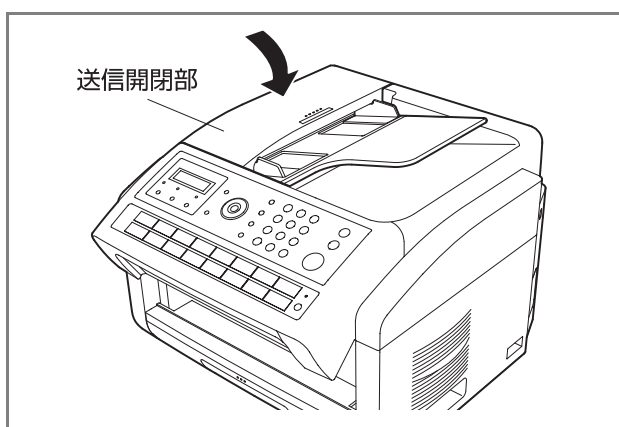
受信側から白紙の原稿、黒い筋の入った原稿、または白い筋の入った原稿を受信したと報告されたときは、本機でコピーをとって確認してください。コピーが同じような症状の場合は、読み取り部が汚れている可能性があるためクリーニングしてください。

1

送信開閉部

送信開閉部を開きます。

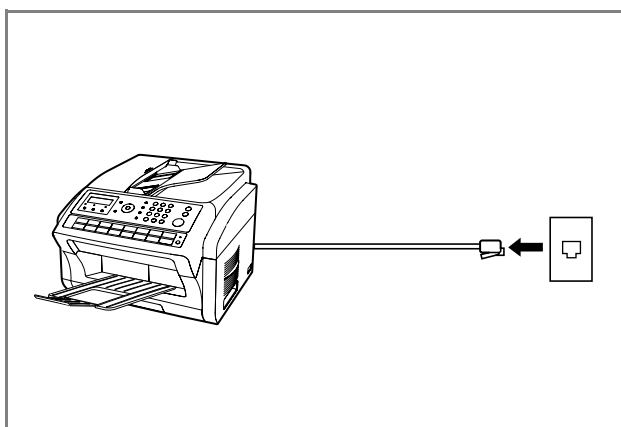
2

やわらかい乾いた布で、読み取り部（下側にあるガラス面）、および上側にある白色板の表面をやさしく拭きます。

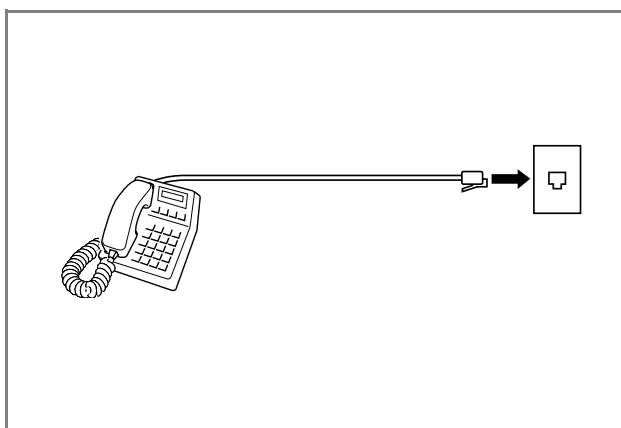
- 読み取り部は傷つきやすいので、必ず清潔な布またはガーゼを使用してください。
- 清掃にはペーパータオルやティッシュペーパーなどの紙用品を使用しないでください。

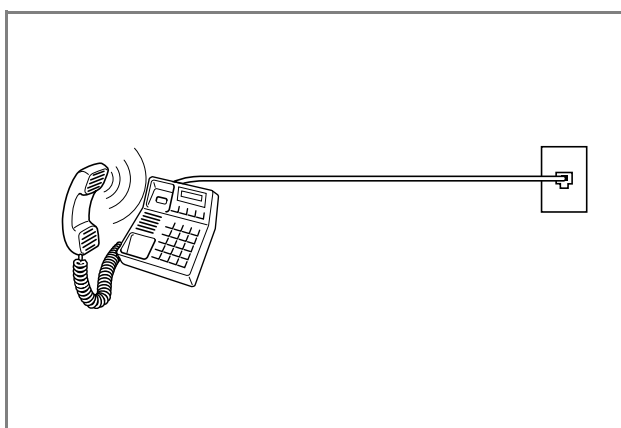
3

送信開閉部を確実に閉じます。

接続状態を確認する

受信できない、モニター◯を押しても「ツー」という電話回線上の音（ダイヤルトーンと呼びます）が聞こえない、接続している外部電話機の呼び出し音が鳴らない場合は、次の手順で電話回線を確認してください。

1

電話コンセントから、本機の回線コードを抜きます。

2

電話コンセントに、本機以外の電話機の回線コードを接続します。

3

方法 1

電話機の受話器を上げ、受話器を上げ、ダイヤルトーンが聞こえるかどうかを確認を確認します。
ダイヤルトーンを確認できない場合は、お使いの電話会社にお問い合わせください。

方法 2

別の電話から、この電話回線に電話をかけます。外部電話機の呼び出し音が鳴らない場合は、お使いの電話会社にお問い合わせください。

お知らせ

1. モニターを利用するには、システム登録の「137 直ダ再入力」（☛p.263）が「ナシ」に設定されている必要があります（お買い上げ時は、「アリ」に設定されています）。

停電が発生したら

停電中は、ファクスのディスプレイは消えています。ファクスの送受信はできません。

項目			本機の状態
ファクス	・送受信中に停電したとき ・停電中	ファクス送信	ファクス送信は中止されます。停電復旧後、もう一度送信してください。 停電中は送信できません。
		ファクス受信	ファクス受信は中止されます。停電復旧後、相手の方にもう一度送信を依頼してください。 停電中は受信できません。
	停電から復旧したとき	ファクス送信	未通信のデータがある場合は、すぐに再送されます。
		メモリーの内容	メモリーに蓄積されている送信および受信データは保持されています。
		ファクスに登録 / 設定した内容	ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルなどの登録内容、その他各種登録は、停電中も消えることなく保持されています。
外部電話機を接続している場合	・通話中に停電したとき	相手の方と電話中	お使いの電話機の仕様をご確認ください。
	・停電中	電話をかける 電話を受ける	

お知らせ

1. 原稿の読み取り中に停電した場合は、読み取りが中断されます。停電復旧後、もう一度読み取ってファクス送信してください。ファクス送信時、原稿読み取り後のメモリー送信中に停電した場合は、停電復旧後、直ちに再送信されます。
2. 上記の内容は一般電話回線（公衆回線）に接続されている場合です。電話交換機（PBX）などに接続されている場合は、お使いの機器の仕様をご確認ください。

アフターサービスについて

保証とアフターサービス　よくお読みください

使いかた・お手入れ・修理などは
まず、お買い求め先へご相談ください。

▼お買い上げの際に記入されると便利です

販売店名	
電　話	(　　　)　　　ー
お買い上げ日	年　　月　　日

修理を依頼されるときは

「こんなときには」(☛p.289)でご確認のあと、直らないときはまず電源プラグを抜いて、お買い上げ日と右の内容をご連絡ください。

●製品名	ファクシミリ
●品　番	UF-5500
●故障の状況	できるだけ具体的に

● **保証期間中は、保証書の規定に従って出張修理いたします。**
保証期間：お買い上げ日から本体 1 年間　(ただし、消耗品は除く)

● **保証期間終了後は、診断をして修理できる場合はご要望により修理させていただきます。**
※修理料金は次の内容で構成されています。

技術料	診断・修理・調整・点検などの費用
部品代	部品および補助材料代
出張料	技術者を派遣する費用

※補修用性能部品の保有期間　5 年
当社は、本製品の補修用性能部品(製品の機能を維持するための部品)を、製造打ち切り後 5 年保有しています。

● **アフターサービスについて、おわかりにならないとき**
お買い上げの販売会社・販売店・サービス実施会社または保証書表面に記載されています連絡先へお問合わせください。

● **使用誤り、静電気、電波の干渉、使用中に電源が切れたときなど記憶内容が変化・消失する場合があります。**
(発生した損害について、当社が責任を負えない場合があります)

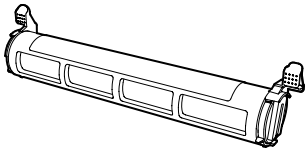
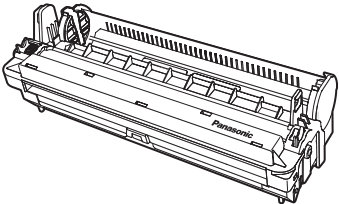
● **本製品は日本国内用に設計されています。国外での使用に対するサービスはいたしかねます。**
This product is designed for use in Japan.
Panasonic cannot provide service for this product if used outside Japan.

● **本製品は、外国為替及び外国貿易法に定める規制対象貨物(または技術)に該当します。本製品を日本国外へ輸出する(技術の提供を含む)場合は、同法に基づく輸出許可など必要な手続きをおとりください。**
Exporting this product and/or its technology from Japan is restricted by the Japanese Foreign Exchange and Foreign Trade Law. When this product and/or its technology are exported or brought out from Japan, you are required to take the necessary procedures, such as obtaining an export license from the Japanese government, in accordance with the Law.

仕様

項目	仕様
品番	UF-5500
認証機器名	UF-5500 ・認証番号は、本体背面に記載されています。
帯域圧縮方式	MH、MR、MMR （ITU-T 勧告準拠）
適合回線 (G3 FAX)	ITU-T T.30 PBX（F 網、F ネットの 1300Hz 無鳴動受信には対応していません。）
適合規格 (LAN)	IETF RFC 3965、ITU-T T.37
適合回線 (LAN)	10Base-T Ethernet (IEEE 802.3)、 100Base-TX Fast Ethernet (IEEE802.3u)
通信可能機種（G3 FAX）	G3 （国際規格）
出力可能文字（LAN）	JIS 第１ 、第２ 水準
通信プロトコル (LAN)	TCP/IP、SMTP、POP3、MIME
データ形式 (LAN)	RFC3949、TIFF-FX ミニマルセット Profile ：TIFF-F 符号化方式 ：MH/MMR、原稿サイズ：A4
通信速度 (G3 FAX)	2400 ～ 33600 bps
原稿サイズ	A4 ～ A5 最大：幅 216 × 長さ 600 mm 最小：幅 148 × 長さ 128 mm
読み取り方式	密着イメージセンサーによる平面走査
自動原稿送り装置（ADF） セット可能枚数	30 枚
有効読み取り幅	・コピー 208 mm ・ファクス 208 mm ・スキャナー 210 mm（A4）、216mm（レター）
読み取り解像度	・コピー 水平方向 垂直方向 小さい 8 dot/mm x 7.7 lines/mm 細密 8 dot/mm x 15.4 lines/mm ・ファクス 水平方向 垂直方向 ふつう 8 dot/mm x 3.85 lines/mm 小さい 8 dot/mm x 7.7 lines/mm 細密 8 dot/mm x 15.4 lines/mm ・スキャナー 水平方向 垂直方向 100 dpi x 100 dpi 200 dpi x 200 dpi 300 dpi x 300 dpi 600 dpi x 600 dpi
記録方式	電子写真記録方式
記録用紙	普通紙
用紙サイズ	A4、レター

＜次ページへつづく＞

項目	仕様
記録解像度	・コピー 水平方向　垂直方向 小さい　203 dpi　x　196 dpi　＊1 細密　203 dpi　x　391 dpi　＊1 ・ファクス 水平方向　垂直方向 ふつう　203 dpi　x　98 dpi　＊1 小さい　203 dpi　x　196 dpi　＊1 細密　203 dpi　x　391 dpi　＊1 ・プリンタ 水平方向　垂直方向 300 dpi　x　300 dpi　＊1 600 dpi　x　600 dpi
有効記録サイズ	A4　202 x 289 mm レター　208 x 271 mm
有効記録範囲	(4 mm) (4 mm) (4 mm)　(4 mm) ・印刷マージンは 4mm です。
電源	AC 100V ± 10V, 50/60 Hz
消費電力	待機時（節電モード）　約 5.5 W 予熱時　約 65 W 受信時　約 500 W コピー時　約 500 W 最大　約 950 W
外形寸法	約 420（幅）x 457（奥行き）x 297（高さ）mm （突起部を除く）
質量	約 11.5 kg （消耗品を除く）
使用環境	温度　：10 ～ 32.5 ℃ 相対湿度：20 ～ 70 % RH
直流抵抗値	323Ω　＊2

＊ 1　記録時の解像度は 600 dpi x 600 dpi に拡大されます。

＊ 2　直流抵抗値が 300 Ω を超えているため、電話をかける、またはファクス送信ができない場合は、サービス実施会社へご相談ください。

消耗品について

お買い求めになるときは、お買い上げの販売店、またはサービス実施会社にご相談ください。

トナーカートリッジ、ドラムカートリッジ

品番	図	説明
DE-3391		トナーカートリッジ (約 2,000 枚)
DE-3390		ドラムカートリッジ (約 6,000 枚)

- ドラムカートリッジを交換する場合は、同時にトナーカートリッジも交換する必要があります。

トナーの寿命

ISO/IEC 19752 で規定されたページを約 2,000 ページ印刷できます。

- ISO/IEC 19752 の規定は下記のとおりです。
  環境：23 ± 2 ℃ / 50 ± 10 % RH（相対湿度）
- プリントモード：連続印刷
- トナー消費量は、文字の濃さ、太さ、およびサイズに応じて変化します。

ドラムの寿命

ドラムカートリッジは定期的に交換する必要があります。ドラムの寿命は最長で約 6,000 枚です。

- 実際のドラムカートリッジの寿命は、温度、湿度、用紙のタイプ、1 回の印刷ジョブあたりの印刷枚数に使用するトナーの量など、さまざまな要因によって左右されます。1 回あたりの印刷枚数が少ないジョブで本機を頻繁に使用すると、ドラムカートリッジが印刷できる実際の枚数はこの推定値を大幅に下回る場合があります。
  実際のドラムカートリッジの寿命に影響を及ぼす要因は制御できないものが多いため、弊社ではドラムカートリッジで印刷できる最小枚数を保証することができません。
- 特に高品質を保てる印刷ページ数は、お客様の使用条件、使用環境によっては 3,000 枚以下になる場合があります。

用紙

良好な記録をしていただくため、できるだけ当社の推奨品をご使用ください。
（詳細は、お買い上げの販売店、またはサービス実施会社にお問い合わせください。）
市販の用紙を使用する場合は、下表の仕様に合った用紙をご使用ください。

項目	仕様
用紙厚	60 ～ 80 g/m^2
用紙端条件	鋭い刃で切断され、用紙の端にほつれがないこと
パッケージ	ポリラミネート防湿加工されたパッケージ
用紙サイズ	•A4 サイズ　：210 x 297 mm（8.3 x 11.7”） • レターサイズ　：216 x 279 mm（8.5 x 11”）
用紙タイプ	カット紙

用語集

10Base-T/100Base-TX	イーサーネットケーブル規格の一種です。 「10/100」はバンド幅が 10/100 Mbps の意味で、このバンド幅は単一チャンネル・ベースバンドのベースとなっています。「T」は撚り（Twisted）対の意味で、この規格のケーブルは２対の非シールド撚り線からなります。
ADF （自動原稿送り装置）	複数枚の原稿をセットして、1 枚ずつ読み取り部へ送る装置です。
BPS (Bits Per Second)	電話回線経由で送信されるデータ量の単位です。本機は常に最大伝送速度で動作開始しますが、電話回線の状況や受信側機器の能力に応じて伝送速度を自動的に落とします。
DTMF (Dual Tone Multifrequency)	電話機のボタンの各数字を表わすさまざまな組み合わせの周波数を送り出すダイヤル呼び出し方式です。一般に、プッシュホン式ダイヤル呼び出しを指します。
ECM (Error Correction Mode)	G3 ファクス通信を行なっているときに、通信エラーを訂正する機能です。
FAX/TEL 自動切替	1 つの電話回線でファクスと電話を自動で切替えて使用できます。
FROM 選択	あらかじめシステム登録してある 24 の送信者名、メールアドレス、または電話番号のうちの１つを送信前に選択することができます。
G3 モード (Group 3)	現在最も普及している、G3 規格に準拠したアナログ電話回線用のファクシミリです。
IP アドレス	インターネット上に存在するコンピューターなどの住所にあたる数列です。
ISP (Internet Service Provider)	インターネットへの接続サービスを提供する組織のことです。
ITU-T	国際電気通信連合電気通信標準化部門。国際電信電話諮問委員会（旧 C.C.I.T.T)。
ITU-T (C.C.I.T.T.)	国際電信電話諮問委員会の略称。この機構は現在、ファクシミリ互換性を保証する４グループの業界標準を推進しています。
ITU-T No.1 テストチャート	送信速度と機器能力との比較を可能にする業界標準原稿のことです。
LAN (Local Area Network)	オフィス、工場、大学などといった隣接エリアに限定された、データの統合および交換のためのコンピューターネットワークシステムです。
LAN 中継パスワード	LAN 中継通信を行う際に、パスワードとして用いるメールアドレスです。LAN 中継通信の宛先をあらわすメールアドレスの、ユーザー名（@ の左側）の部分と比較して、一致した場合に LAN 中継通信を行います。
LCD	本機の表示をする液晶ディスプレイのことです。
MAPI (Messaging Application Program Interface)	メッセージ送信のための Windows 標準インタフェースです。ワープロ・ソフトや表計算ソフトなどのメニューから、編集中の文書を直接メールで送信するようなことが可能です。
MDN (Message Disposition Notifications)	メールが読まれたかどうかを確認するために送信側から MDN 要求を付加して送付します。
MIME (Multipurpose Internet Mail Extension)	インターネット上で、テキストデータ以外のマルチメディア情報も扱えるように拡張した、メールの通信手順です。
POP (Post Office Protocol)	メールサーバーにアクセスして自分宛のメールを取り出すための通信手順です。
PSTN (Public Switched Telephone Network)	公衆電話交換ネットワークを指します。相互に接続された交換機と送信施設からなるネットワークです。
SMTP (Simple Mail Transfer Protocol)	インターネット上でメールを送受信するための主な通信プロトコルです。
TCP/IP (Transmission Control Protocol/Internet Protocol)	インターネットで使用されているプロトコルの最も基本的な集合体（プロトコルスイート）であり、あるインターネット端末と別の端末との間のデータ転送を可能にします。
TIFF (Tagged Image File Format)	異機種間でのグラフィックデータの交換ができるようデータの前のタグと呼ばれる部分を設け、データの記述形式を記載したデータファイルです。本製品の TIFF ファイルは、MH 方式によりデータを圧縮しています。
TIFF イメージビューワー	TIFF ファイルの中身を閲覧するための機能を持ったプログラムです。市販の TIFF ビューアーでは、本製品から送られた TIFF ファイルを表示できない場合があります。
アクセスコード	第三者の不正使用を防止するため、8 桁のアクセスコードを設定できます。

宛先シート	本機のワンタッチに登録してある宛先名をプリントし、ワンタッチボタンシートの下に入れて使います。
宛先名	各ワンタッチダイヤル / 短縮ダイヤル番号の登録名です。
イーサーネット	LAN 上のコンピューターおよび装置をネットワーク化する最も一般的な手段。最大 100 Mbps まで処理が可能で、ほとんどのすべてのタイプのコンピューターが対応しています。
インターネット	相互に接続された、TCP/IP プロトコルを使用するさまざまなネットワークの巨大な集合体。個々のネットワークは接続されて全世界をつなぐ巨大なインターネットを形成します。
イントラネット	会社内部または組織内部にある非公開のネットワーク。イントラネットでは、公開されているインターネット上同じ種類のソフトウェアを使用しますが、その用途は内部的なものに限定されます。
エラーコード	通信エラー、トラブルなど発生時に表示するコードです。
オフフックダイヤル	受話器を受話器台から外して、電話番号をダイヤルする方法です。
オンフックダイヤル	受話器を受話器台に置いたまま、またはモニターボタンを押して電話番号をダイヤルする方法です。
カバーシート	送信する原稿に添付される FAX カバーシート。受信者名、発信者名、添付した原稿のページ数が記載されます。
キーオペレーターコード	第三者が管理者専用モードに入ることを防止するため、8 桁の管理者パスワードを設定します。
クライアント	クライアント（端末）コンピューターの意味で、LAN 上でデータベース共用、グループ作業や通信を行うときに使用します。
グループダイヤル	１つのプログラムボタンへ複数宛先を登録できます。１回の操作で順次同報送信ができます。
固定縮小プリント	すべての着信原稿を一定の縮小率（例：75%）でプリントします。
最終宛先	LAN 中継通信時の最終送信宛先です。
サーバー	クライアント（端末）コンピューターに対してデータ資源、通信接続、データ保存空間その他のサービスを提供する、ネットワークに接続されたコンピューターまたは装置をさします。メールサーバーソフトウェアーはネットワーククライアントがメールアカウントを保有してメールの送受信を行なうことを可能にしています。
サブアドレス	着信ファクスのルーティング、転送または中継を実行するための ITU-T 勧告です。
サブアドレスパスワード	サブアドレスに対応する追加機密保護のための ITU-T 勧告です。
サブネットマスク	ネットワークIDで定義されたネットワークのサブセグメントを管理するためのマスクビット列です。
自局登録	自局登録をすることで、通信のときに相手機に自局の情報を表示できます。たとえば、ロゴ、文字 ID、日時などがあります。
システム登録リスト	本機のシステム登録の設定値をリストにしてプリントできます。
自動縮小プリント	標準サイズの普通紙にプリントできるように、受信した原稿を自動的に縮小する方式。たとえば、A4 サイズより長い着信原稿を縮小して A4 サイズの用紙にプリントします。
自動受信	ファクスが自動的に原稿を受信します。
受信側パスワード	原稿受信前に照合される 4 桁のパスワードのことです。
手動受信	着信原稿を受信するのに使用者の操作が必要なモードです。
初期送信側端末局	LAN 中継通信時の発信局です。
数字 ID	相手のディスプレイに表示させる電話番号などの情報を登録します。
セレクト受信	ダイヤルに登録してある電話番号の下 4 桁を照合し、一致したファクスからのみ本機が受信する機能です。
送信側パスワード	原稿送信時に照合される 4 桁のパスワードのことです。
送信予約	本機が別の機能を実行しているときに送信予約ができます。

<次ページへつづく>

送達通知	送信側インターネットFAXから受信側インターネットFAXへ出されるメッセージで送達通知 (MDN) 要求のことです。受信側インターネット FAX は、メッセージ（メール）を読むと送達確認メッセージを返送します。
タイマー送信	指定時刻に原稿の送信ができます。
タイマーポーリング	指定時刻にポーリング通信ができます。
ダイレクト SMTP	インターネット FAX 同士がメールサーバーを経由せずにファイアーウォール（イントラネット）内で互いに直接通信を行なう機能です。
短縮ダイヤル	電話番号またはメールアドレスを短縮ダイヤルに登録できます。簡単なボタン操作を行なうだけで、その電話番号をすばやくダイヤルすることができます。
蓄積原稿	本機で読込み済でメモリーに記憶されている原稿です。
中継アドレス	LAN 中継通信時に中継局を登録している 3 桁の短縮ダイヤルの番号です。
中継局	中継局では、受信した原稿を指示された宛先へ、順次同報で転送することができます。
中継送信	発信局から原稿を LAN 中継局へ送信すると、中継局はさらにその原稿を最終受信側端末局へ送信します。
中継ネットワーク	中継局経由で通信する機器のネットワークのことです。
重複プリント	縮小できないくらい大きな原稿は、約 10 mm 重ね合わせて２つのページに分割して自動的に出力されます。
直接ダイヤル	電話番号またはメールアドレスをテンキーボタンまたは文字ボタンで入力して直接ダイヤルする方法です。
通信管理レポート	最新の 32 通信の結果を一覧にしてプリントできます。
低電力モード	指定時間経過後に定着器を OFF にして、待機モードにあるときよりも消費電力を抑えてエネルギーを節約します。
デフォルトルーター IP アドレス	ルーターのアドレスで、インターネット FAX との通信時に他のネットワークがどのルートをとったらよいか判断するときに使用します。
テンキーボタン	コントロールパネルにある数字ボタンです。
電話帳機能	ワンタッチまたは短縮ダイヤルに登録した宛先名を検索して、電話番号またはメールアドレスをダイヤルできます。
同報送信	複数の宛先に同じ原稿を同報通信する機能。
ドメイン名	インターネットに接続された個々のコンピューターを一意に識別する名称です。ドメイン名は DNS サーバーによって IP アドレスから翻訳されます。これは、IP アドレスが変更された場合でも、ユーザーに親しみやすい（記憶されやすい）名称を保持することが目的です。
ネットワーク	2 台以上のコンピューターを相互に接続してリソースを共有すると、コンピューターネットワークになります。さらに 2 つ以上のコンピューターネットワークをつなぐと、インターネットが形成されます。
ネットワークアドレス	ワンタッチ / 短縮番号に登録される 4 桁の固有アドレス番号で、中継ネットワーク上にある特定の端末局を識別するのに使います。
濃度	送信する原稿に合わせて読み取り明暗感度を設定できます。
ハーフトーン	黒から白への最大 64 階調のグレーレベルで表現できます。
ハンドシェーキング	送信側と受信側が通信するため、実際にデータを転送する前に、双方の通信方法や条件、プロトコルなどをあらかじめやり取りしておく手順のことです。
ビューモード−通信管理	通信管理レポートを出力することなく通信管理の簡単な内容を LCD ディスプレイに表示することができます。
ビューモード−通信予約ファイル	通信予約レポートを出力することなく通信予約ファイルの簡単な内容を LCD ディスプレイに表示することができます。
ファイル	メモリーを使っての送受信を行なったとき作成されます。たとえば、タイマー送信などがあります。
ファンクションボタン	各機能を使うときに押します。

符号化方式	各種機器が使用するデータ圧縮方式。本機は、Modified Huffman (MH)、Modified Read (MR)、Modified Modified Read (MMR) 符号化方式を採用しています。
プリント縮小モード	本機にセットされた用紙に収まるように縮小してプリントする方法です。
プログラムボタン	複雑な機能の操作をプログラムボタンに登録したり、複数の宛先を登録して、簡単なボタン操作で機能を使えます。
プロトコル	装置間通信のための標準または言語。業界には多くの種類のプロトコルが存在し、IC やコンピューターを内蔵している製品はどれもある種のプロトコルを利用しています。インターネットでは、100 を越える標準が共同して TCP/IP プロトコルを校正し、インターネット通信を滑らかで信頼できるものにしています。
ヘッダー	送信側ファクスが送信する、また受信側ファクスが各ページの先頭にプリントする部分です。ヘッダーは、送信側ファクスの情報（日時など）を提供します。
ホスト	ネットワーク上の他のコンピューターを集中管理するコンピューターです。ホストはドメイン内で唯一のホスト名を持ちます。ホストは全ドメイン名（FQDN）の最初（左端）の部分となります。 例： 本機のメールアドレスが Fax@fax01.panasonic.com であるとすると、「fax01」はホストに、「panasonic.com」はドメインに相当します。
ホームページ	ブラウザー起動時に最初に表示されるページ、または会社、組織などの主要なウェブページ。
ポーリング	別のファクスから原稿を取り出す機能です。
ポーリングパスワード	登録された 4 桁の暗証番号で、ポーリングが行なわれている原稿に対する機密保護を有効にするのに使います。
メモリー送信	原稿をメモリーに読込んでから送信します。
メモリー代行受信	用紙またはトナーがなくなったときに着信原稿をメモリーに蓄積する機能です。
メモリー転送	指定した短縮ダイヤルの宛先へ、すべての着信ファクスを転送する機能です。
メールアドレス	メールでデータを送受信するためのアドレスです。ユーザー名、サブドメイン名、ドメイン名で構成されています。
メールゲートウェイ IP アドレス	メールサーバーのアドレス。本製品はあらかじめ設定されたメールサーバーとだけ通信を行ないます。
メーリングリスト	あるアドレスにメールを送り、自動的にメーリングリストに登録されている複数の人にメールのコピーを送るためのメールアドレスです。
文字 ID	相手のディスプレイに表示させる会社名などの情報を登録します。
文字サイズ	送信する原稿の文字の大きさに合わせ、変更できます。
文字ボタン	各種登録をするときに文字または記号を入力するためのボタン。
モデム	本機から出された信号を電話回線経由で伝送できる信号に変換する装置です。
ルーター （ゲートウェイ）	複数の LAN 間の通信を可能にするネットワーク装置です。インターネットでは、それぞれの LAN のルーターが、インターネットを経由して転送すべきデータの経路を管理しています。
留守録接続	本機に留守番電話機を接続してご使用できるように設定できます。
ロゴ	会社名または名前などを登録します。
ワンタッチボタン	電話番号またはメールアドレスをワンタッチに登録できます。1 つのボタン操作を行なうだけで、その電話番号をすばやくダイヤルすることができます。

著作権及びライセンスに関する情報

・この製品は下記のソフトウェアとライセンス条件に基づいて使用しています。

This product uses a part of NetBSD kernel.
The use of a part of NetBSD kernel is based on the typical BSD style license below.

Copyright (c)
The Regents of the University of California. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:
   This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors.
4. Neither the name of the University nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE REGENTS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

However, parts of the NetBSD Kernel are provided with the following copyright notices.

Copyright (c) 1980, 1983, 1988, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1980, 1986, 1989, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1980, 1986, 1991, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1980, 1986, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1982, 1985, 1986, 1988, 1993, 1994 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1982, 1986, 1988, 1990, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1982, 1986, 1988, 1990, 1993, 1994, 1995 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1982, 1986, 1988, 1990, 1993, 1995 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1982, 1986, 1988, 1991, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1982, 1986, 1988, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1982, 1986, 1988, 1993, 1995 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1982, 1986, 1989, 1991, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1982, 1986, 1989, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1982, 1986, 1990, 1991, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1982, 1986, 1990, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1982, 1986, 1990, 1993, 1994 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1982, 1986, 1991, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1982, 1986, 1991, 1993, 1994 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1982, 1986, 1991, 1993, 1995 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1982, 1986, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1982, 1986, 1993, 1994 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1982, 1986, 1993, 1994, 1995 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1982, 1986, 1993, 1995 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1982, 1988, 1991, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1983, 1990, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1983, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1985, 1986, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.

Copyright (c) 1985, 1986, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1986, 1989, 1991, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1986, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1987, 1991, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1987, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1987, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1988 Regents of the University of California. All rights reserved
Copyright (c) 1988 Stephen Deering.
Copyright (c) 1988 University of Utah.
Copyright (c) 1988, 1989, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1988, 1991, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1988, 1992, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1988, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1989 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1989, 1991, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1989, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1989, 1993, 1994 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1990, 1991, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1990, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1991, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1991, 1993, 1994 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1992 Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1992, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1993 Adam Glass
Copyright (C) 1993 by Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
Copyright (c) 1994 Gordon W. Ross
Copyright (c) 1994 Winning Strategies, Inc. All rights reserved.
Copyright (c) 1995 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (C) 1995, 1996, 1997, and 1998 WIDE Project. All rights reserved.
Copyright (c) 1996 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1996 John S. Dyson All rights reserved.
Copyright (c) 1996 Matt Thomas. All rights reserved.
Copyright (c) 1996 Matthew R. Green. All rights reserved.
Copyright (c) 1996 Paul Kranenburg
Copyright (c) 1996, 1997, 1999, 2001 The NetBSD Foundation, Inc. All rights reserved.
Copyright (c) 1996, 2000 Christopher G. Demetriou. All rights reserved.
Copyright (c) 1996,1999 by Internet Software Consortium.
Copyright (c) 1996-1999 by Internet Software Consortium.
Copyright (c) 1997 Jonathan Stone and Jason R. Thorpe. All rights reserved.
Copyright (c) 1997 Christos Zoulas. All rights reserved.
Copyright (c) 1997 Manuel Bouyer. All rights reserved.
Copyright (c) 1997, 1998 The NetBSD Foundation, Inc. All rights reserved.
Copyright (c) 1997, 1998, 1999, 2000 The NetBSD Foundation, Inc. All rights reserved.
Copyright (c) 1997, 1998, 1999, 2001 The NetBSD Foundation, Inc. All rights reserved.
Copyright (c) 1997, 1998, 1999, 2002 The NetBSD Foundation, Inc. All rights reserved.
Copyright (c) 1997, 1998, 2000, 2001 The NetBSD Foundation, Inc. All rights reserved.
Copyright (c) 1997, 1998, 2001 The NetBSD Foundation, Inc. All rights reserved.
Copyright (c) 1997,98 The NetBSD Foundation, Inc. All rights reserved.
Copyright (C) 1997-2000 Sony Computer Science Laboratories Inc. All rights reserved.
Copyright (c) 1997-2002 The NetBSD Foundation, Inc. All rights reserved.
Copyright (c) 1998 The NetBSD Foundation, Inc. All rights reserved.
Copyright (c) 1998 Todd C. Miller <Todd.Miller@courtesan.com> All rights reserved.
Copyright (c) 1998, 1999 The NetBSD Foundation, Inc. All rights reserved.
Copyright (c) 1998, 1999, 2000 The NetBSD Foundation, Inc. All rights reserved.
Copyright (c) 1998, 1999, 2000, 2001 The NetBSD Foundation, Inc. All rights reserved.
Copyright (c) 1998, 2000 The NetBSD Foundation, Inc. All rights reserved.
Copyright (c) 1998, 2000, 2001 The NetBSD Foundation, Inc. All rights reserved.
Copyright (c) 1999 The NetBSD Foundation, Inc. All rights reserved.
Copyright (C) 1999 WIDE Project. All rights reserved.
Copyright (c) 1999, 2000 Jason L. Wright (jason@thought.net) All rights reserved.

Parts of the NetBSD Kernel are provided with the licenses that are slightly different from the above Berkeley-formed license. Please refer the source code of the NetBSD Kernel about the details. The source code of the NetBSD Kernel is provided by the NetBSD CVS Repositories (http://cvsweb.netbsd.org/bsdweb.cgi/), and this product includes parts of the source code in the following directories.
http://cvsweb.netbsd.org/bsdweb.cgi/src/sys/kern/
http://cvsweb.netbsd.org/bsdweb.cgi/src/sys/net/
http://cvsweb.netbsd.org/bsdweb.cgi/src/sys/netinet/

This product contains thttpd software that ACMELabs developed and is using it based on the following licence conditions.

This product contains The OpenLDAP software and is using it based on the following license conditions.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted only as authorized by the OpenLDAP Public License.

A copy of this license is available in the file LICENSE in the top-level directory of the distribution or, alternatively, at <http://www.OpenLDAP.org/license.html>.

OpenLDAP is a registered trademark of the OpenLDAP Foundation.

Individual files and/or contributed packages may be copyright by other parties and subject to additional restrictions.

This work is derived from the University of Michigan LDAP v3.3 distribution. Information concerning this software is available at <http://www.umich.edu/~dirsvcs/ldap/>.

This work also contains materials derived from public sources.

Additional information about OpenLDAP can be obtained at <http://www.openldap.org/>.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted only as authorized by the OpenLDAP Public License.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that this notice is preserved.
The names of the copyright holders may not be used to endorse or promote products derived from this software without their specific prior written permission.　This software is provided ``as is'' without express or implied warranty.

Redistribution and use in source and binary forms are permitted provided that this notice is preserved and that due credit is given to the University of Michigan at Ann Arbor.　The name of the University may not be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.　This software is provided ``as is'' without express or implied warranty.

The OpenLDAP Public License
　Version 2.8, 17 August 2003

Redistribution and use of this software and associated documentation ("Software"), with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions in source form must retain copyright statements and notices,

2. Redistributions in binary form must reproduce applicable copyright statements and notices, this list of conditions, and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution, and

3. Redistributions must contain a verbatim copy of this document.

The OpenLDAP Foundation may revise this license from time to time.
Each revision is distinguished by a version number.　You may use this Software under terms of this license revision or under the terms of any subsequent revision of the license.

ITU-T No.1 テストチャート

ITU-T No.1 テストチャートに準拠している標準原稿のサンプルです（以下のサンプルでは、縮尺が実際のものと異なっています）。

THE SLEREXE COMPANY LIMITED

SAPORS LANE - BOOLE - DORSET - BH 25 8 ER

TELEPHONE BOOLE (945 13) 51617 - TELEX 123456

Our Ref. 350/PJC/EAC　　　　18th January, 1972.

Dr. P.N. Cundall,
Mining Surveys Ltd.,
Holroyd Road,
Reading,
Berks.

Dear Pete,

Permit me to introduce you to the facility of facsimile transmission.

In facsimile a photocell is caused to perform a raster scan over the subject copy. The variations of print density on the document cause the photocell to generate an analogous electrical video signal. This signal is used to modulate a carrier, which is transmitted to a remote destination over a radio or cable communications link.

At the remote terminal, demodulation reconstructs the video signal, which is used to modulate the density of print produced by a printing device. This device is scanning in a raster scan synchronised with that at the transmitting terminal. As a result, a facsimile copy of the subject document is produced.

Probably you have uses for this facility in your organisation.

Yours sincerely,

Phil.

P.J. CROSS
Group Leader - Facsimile Research

Registered in England: No. 2038
Registered Office: 60 Vicara Lane, Ilford, Essex.

お知らせ

1. 設計および仕様は予告なく変更されることがあります。
2. この説明で使用されている図およびイラストは、実際の製品と多少異なる場合があります。

索引

英数字

CD-ROM........26
DHCP........62
DNS サーバー IP アドレス........40, 52
F/T 切り替え........93
FAX 専用........89, 91
FROM 選択........187
FROM 選択リスト........190
FROM 選択を設定する........187
FROM を選択して送信する........188
F コード........29
ID 受信時刻印字........99
ID なし時受信........99
IP アドレス........38, 40, 52
IP 電話サービスを使って送る........152
ITU-T No.1 テストチャート........319
LAN ケーブル........31
LAN 中継局........205
LAN 中継指示........206
LAN 中継送信........208
LAN 中継同報........61, 200
LAN 中継同報の通信結果........213
MDN........54, 176
MIME 形式........54
PDF........178
POP クライアント........50
POP 後エラーメール削除........184
POP 後メール削除........183
POP サーバー........182
POP サーバー IP アドレス........40, 52
POP サーバーから手動で受信する........185
POP サーバーからの自動受信........185
POP サーバー名........40, 52
POP 自動受信........183
POP 受信........182
POP 手動受信を登録する........248
POP 取得間隔........182
POP パスワード........40, 52
POP ユーザー名........40, 52
SMTP 転送........49
SMTP 認証........62
SMTP 認証パスワード........40, 52
SMTP 認証名........40, 52
SUB ルーティング........195
TIFF........178
USB ケーブル........31

あ

アース（接地）端子........31
アース線........31
相手を確認してから送る........81
アクセスコード
　アクセスコード........126
　解除する........127
　設定する........126
　入力する........127
　変更する........127
アクティブランプ........28
宛先確認........77, 170
宛先シートをプリントする........254
宛先名敬称付加........87
宛先を確認してから送る........77, 170
アフターサービス........304
誤って入力したとき........253
アラームランプ........28
アルファベットを入力する........252
安全上のご注意........12
インターネット FAX........29
インターネット FAX 通信について........54
インターネット FAX 通信に必要な設定........38
インターネット FAX 通信の注意点........63
インターネット FAX を受ける........181
インターネット FAX を送る........21, 160
インターネットからのメール受信........56
インターネットに接続するには........48
インターネットパラメーター........38, 40
エラーコード........76
エラーコード一覧........291
エラーコードが表示されたら........291
エラーメール........180
同じ相手にもう一度送る........84, 173
音量........29
音量を設定する........43

か

外形寸法……306
回線コード……26, 31
回線種別を設定する……32
回線種別を見分ける……33
解像度……74
外部電話機……31
外部電話機で受信する……92
カタカナを入力する……252
カバーシート……131
管理者宛メール……214
管理者パスワード……42
管理責任者へのお願い……16
キーオペレーターコード……42
記号を使ったダイヤル方法……67
規定サイズ以外の原稿を受信した……96
クリアー……28
グループダイヤル
　消去する……250
　登録する……240
　変更する……250
敬称を付ける……87
原稿ガイド……27
原稿がつまった……300
原稿トレイ……26～27
原稿の厚さ……45
原稿のサイズ……45
原稿のセット……47
件名欄を設定する……191
件名を設定して送信する……192
公衆電話拒否……103
故障かな？と思ったら……289
誤送信防止……77, 170
固定縮小……95
コピー……29
コピーする……22
コミュニティー名……41, 52
コントロールパネル……28
コンピューターから
　LAN 中継同報を指示する……212

さ

再ダイヤル……29, 84, 173
サブジェクト……40, 52, 191
サブネットマスク……38, 40, 52
「サマ」を印字する……87
自局登録……34, 38
自局登録の項目一覧……40
自局メールアドレス……40, 52
時刻を指定して送る……107
時刻を指定してポーリング受信する……109
システム登録
　基本操作……255
　システム登録一覧……257
　システム登録リストの見かた……279
指定番号拒否……103
自動原稿送り装置（ADF）……27
自動再ダイヤル……84
自動縮小……95
シフト……29
縮小受信……95
受信確認メール……176
受信確認メールを送る……199
受信した原稿を転送する……194
受信文書を複数部数プリント……97
受信モード……89
受信モードを設定する……90
受信ルーティング……194
手動……89
手動再ダイヤル……84
手動受信……91
手動送信……81
順次同報送信……72
仕様……305
消耗品……307
親展通信……143
　親展受付レポート……147
　親展番号……143
　親展文書を受信すると……147
　親展文書を消去する……150
　親展文書を蓄積する……148
　親展文書をプリントする……149
親展ボックスを利用する……143

数字 ID 37
数字 ID 拒否 99
数字 ID ルーティング 195
数字を入力する 253
スキャナー..28
スキャンする..23, 218
スタート..29
ストップ..29
スペース..29
接続状態を確認する 302
セットできない原稿 46
セットできる原稿 45
セレクト受信..136
セレクトドメイン 174
セレクトモード..30
操作パネル..27
送信エラーが発生した 180
送信ファイルタイプ 178
送信元へ送られるエラーメッセージ 297
送信レポート..272
送信を停止したい 76
送達確認..54, 176, 199

た

タイマー送信..107
タイマー送信を登録する..242
タイマー通信..30
タイマーポーリング受信..109
タイマーポーリング受信を登録する 244
ダイヤルインルーティング..195
ダイヤルリスト 276
ダイヤルリストの見かた..276
ダイヤルリストをプリントする 276
ダイレクト SMTP..55
ダイレクト送信 79
短縮 29
短縮ダイヤル..69, 164
　消去する..239
　登録する..233
　変更する..236
短縮ダイヤルリスト 277
蓄積できるファイル数 76
中継許可ドメイン名 41, 52
中継局を利用する 200
中継ネットワーク 202
直接ダイヤル..66
直接ダイヤル再入力 78, 171
直接ダイヤル制限..78, 171
直接メールアドレスを指定..160
通信管理レポート
　手動でプリントする 268
　見かた 268
通信結果レポート..76, 88, 213, 274
通信結果レポートをプリントする 88
通信ごとにパスワード送信を設定する 141
通信予約 30
通信予約ファイルをプリントする..123
通信予約レポート 117
通知不可能拒否..103
次の送信を予約する 82, 172
ディスプレイ上で通信結果を確認する 271
ディスプレイ上で
　通信予約ファイルを確認する 119
停電が発生したら 303
デバイス名..41, 52
デバイスロケーション 41, 52
デフォルトゲートウェイ 38, 40, 52
テンキー 29
電源コード..26, 31
電源スイッチ..27
転送先を登録する 196
添付品 26
電話帳 29, 70, 166
電話帳リスト..277
登録モード..30
トーン 29
特殊通信 30
トナーカートリッジを交換する..281
ドメイン名..174
ドメインリスト 174
ドラムカートリッジを交換する..284
取り扱い上のお願い 17

な

ネットワークスキャナー....59
ネットワークプリンター....60
濃度....28, 74, 219

は

パスワード受信....138, 140
パスワード送信....137, 139
パスワード通信....137
発信者番号....102
発信元....35
発番号拒否....102
発番号契約....102
発番号ルーティング....195
非通知拒否....102
日付と時刻....34
表紙をつけて送る....131
ファイルタイプ....178
ファイル番号....75
ファクス通信に必要な設定....34
ファクスを受ける....89
ファクスを送る....20, 66
ファンクション....28
ファンクション番号一覧....30
複数宛先....72
複数宛先指定....77, 170
複数宛先指定を禁止する....77, 170
付属品....26
フック....29
プリントする....24, 228
プレフィクス機能....154
プログラムダイヤル....116
　消去する....250
　登録する....240, 242
　変更する....250
プログラムリストの見かた....278
プログラムリストをプリントする....278
ポーズ....29
ポーリング....30
ポーリング受信を登録する....246
ポーリング通信とは....111
ポーリングパスワード....112
ホスト名....40, 52
本体....26

ま

マルチ受信プリント....97
迷惑ファクス防止を設定する....100, 104
迷惑ファクスを防止する....98, 136
メーリングリスト....180
メールアドレス....38, 40, 52
メールサーバー IP アドレス....38, 40, 52
メールサーバー名....38, 40, 52
メモリーオーバー時の動作....75
メモリー受信....128
メモリー送信....75
メモリー送信予約....82, 172
メモリー代行受信....97
メモリー転送....58
メモリーに受信する....128
メモリー割合....75
メモリーを使わずに送る....79
文字 ID....36
文字サイズ....28, 74, 219
文字種別を切り替える....251
文字入力のしかた....251
モニター....29
モニター音量....43

や

用紙ガイド....287
用紙カセット....27, 287
用紙がつまった....299
用紙サイズマーク....287
用紙上限マーク....287
用紙トレイ....26 ～ 27
用紙を補給する....287
呼び出し音量....44
読み取り部のお手入れ....301
予約レポートの見かた....118

ら

リストプリント 30
リモート受信 92
リモート登録時のエラーメッセージ 297
リモート登録失敗時のエラーメッセージ 297
リモートパスワード 40, 52
利用者を制限する 126
リルート機能 154
ルーティング 57, 194
　SUB ルーティング 195
　数字 ID ルーティング 195
　ダイヤルインルーティング 195
　発番号ルーティング 195
　ルーティング時 From 欄 195
　ルーティング時プリント 195
留守録接続 89, 94

わ

ワンタッチダイヤル 68, 162
　消去する 239
　登録する 230
　変更する 236
ワンタッチダイヤルリスト 276
ワンタッチボタン 29
ワンタッチボタンで
　　POP サーバーから手動で受信する ... 186

■使いかた・お手入れ・修理などは、まず、お買い求め先へご相談ください。

■その他ご不明な点は下記へご相談ください。

パナソニック　システムお客様ご相談センター

電話 フリーダイヤル 携帯・PHS OK 0120-878-410（パナハ ヨイワ） 受付：9時～17時30分 （土・日・祝祭日は受付のみ）
※携帯電話・PHSからもご利用になれます。

ホームページからのお問い合わせは　https://sec.panasonic.biz/solution/info/

ご使用の回線（IP 電話やひかり電話など）によっては、回線の混雑時に数分で切れる場合があります。
本書の「保証とアフターサービス」もご覧ください。

【ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて】

・ パナソニック株式会社およびグループ関係会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただき、ご相談内容は録音させていただきます。また、折り返し電話をさせていただくときのために発信番号を通知いただいております。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

便利メモ（おぼえのため、記入されると便利です）

お買い上げ日	年　　月　　日	品番　UF-5500
販売店名	電話（　　　）　-	
サービス実施会社名	電話（　　　）　-	

パナソニック システムネットワークス株式会社

〒812-8531 福岡市博多区美野島四丁目1番62号

＊PNQX3487YB＊

XX1211AN2013
PNQX3487YB
January 2013
Published in Japan